

平成 27 年 7 月
東京万引き防止官民合同会議



万引きに関する調査研究報告書
～高齢者の万引きに着目して～

平成 27 年 7 月
東京万引き防止官民合同会議



平成 27 年 7 月

平成 27 年 7 月
東京万引き防止官民合同会議



万引きに関する調査研究報告書
～高齢者の万引きに着目して～

平成 27 年 7 月
東京万引き防止官民合同会議



平成 27 年 7 月

目 次

■ 本 編

1. 調査研究の概要

1.1 背景と目的

(1) 万引きの実態.....	1
(2) 現代の問題性.....	1

1.2 調査研究の概要

(1) 本研究における調査の概要	2
(2) 調査結果の概要	3

2. 万引きに関する一般市民対象の意識調査

2.1 調査概要

(1) 調査の目的	6
(2) 調査の経緯と概要.....	6

2.2 調査結果

(1) 「万引き」という犯罪への認識	15
(2) 店舗や対策への認識、意見	17
(3) 「青少年の万引き」と「高齢者の万引き」の比較	19
(4) 年齢による意識差（インターネット調査）	22
(5) 経済的なゆとり等の違いによる意識差	26
(6) 地域による差（郵送調査）	31
(7) 店舗関係者と一般市民との意識差	32

2.3 まとめ・考察

(1) 本調査の成果	36
(2) 今後の課題	38

3. 店舗ごとの意識・実態調査

3.1 調査の概要と各調査の結果概要

(1) 調査の目的と概要.....	40
(2) 店舗責任者に対するアンケート調査と調査員による店舗実態調査	42
(3) 店舗従業員に対する意識調査、店舗顧客に対する意識調査	48

3.2 調査分析結果

(1) 分析方針	52
(2) 店舗業種による年間確保人数の違い	56

(3) 高齢者の年間確保人数に影響する要因	56
(4) 少年の年間確保人数に影響する要因	59
3.3 まとめ・考察	
(1) 本調査の成果	62
(2) 今後の課題	62
4. 万引き犯の犯行移動距離	
4.1 万引きはどこで行われているか	63
4.2 万引き被疑者の犯行移動距離	65
5. 実験プロジェクト「買い物コンシェルジュ」	
5.1 実験プロジェクトの概要	
(1) 本プロジェクトの背景と目的	66
(2) 本プロジェクトの概要	66
5.2 実験の効果について	
(1) 実験前後の比較	69
(2) 「買い物コンシェルジュ」を経験して（拓殖大学政経学部 小林彩香）	71
5.3 まとめ・考察	
(1) 本プロジェクトの意義	72
(2) 今後の課題	72
6. 今後に向けて	73

■ 参考資料

【本調査研究関連資料】

資料 1) 「万引きに関する意識調査」調査票	資 1-1
資料 2) 各調査結果一覧	資 2-1

【警視庁資料】

資料 3) 全刑法犯認知件数と万引きの認知・検挙件数の推移等について	資 3-1
資料 4) 「万引き被疑者に関する実態調査」平成 24 年度結果	資 4-1
資料 5) 「万引き被疑者に関する実態調査」平成 25 年度結果	資 5-1

執筆担当者一覧

守山 正 (拓殖大学 政経学部 教授)

- 1. 調査研究の概要 1.1 背景と目的
- 4. 万引き犯の犯行移動距離
- 5. 実験プロジェクト「買い物コンシェルジュ」
- 6. 今後に向けて

小島 隆矢 (早稲田大学 人間科学学術院 准教授)

- 3. 店舗ごとの意識・実態調査 3.2 調査分析結果 ／ 3.3 まとめ・考察

若林 直子 (株式会社 生活環境工房あくと 代表取締役)

- 1. 調査研究の概要 1.2 調査研究の概要
- 2. 万引きに関する一般市民対象の意識調査
- 3. 店舗ごとの意識・実態調査 3.1 調査の概要と各調査の結果概要

1. 調査研究の概要

1.1 背景と目的

(1) 万引きの実態

万引きは、商品を「間引く」ことから、それがなまって現在の用語として定着したという説がみられるように、わが国において古くから存在するといわれる。しかも諸外国でも広くみられることから、万引きは伝統的で普遍的な手口と言える。わが国では平成25年において、窃盗手口としては自転車盗に次いで多く、約12万6千件が認知されており、全国で1日約350件が発生していることになる。当然ながら、その被害額も膨大であり、一説によると、年間4600億円とも言われ、これは近年社会問題化している振り込め詐欺の10倍に近い。しかも、万引きはそもそも発覚しなかったり、発覚した場合でも店舗でインフォーマルに処理されたりする場合も少なくなく、いわゆる暗数の多い犯罪の典型である。したがって、社会的実態として万引きはかなり広範に行われていると考えるべきである。

従来、万引きの個々の被害額が僅少であることから、警察など刑事司法機関でも寛容に扱われ、窃盗罪の法定刑の上限が10年と高いこともあって、実刑が科されることはない。しかし、これは犯行者の万引きに対する規範意識を低下させる結果にもなりかねず、そこで平成16年に刑法改正が行われ、罰金刑（最高50万円）が追加されて、裁判官にとって量刑の面でも選択肢が広がり、適正な刑罰を言い渡し易くなっている。それでも、今日、犯罪減少期にありながら、万引きは他の犯罪ほど急激に減少していない点からみると、万引き問題に対しては抜本的な対応、対策が必要と思われる。

(2) 現代の問題性

万引きの認知件数は近年減少か横ばい傾向にあるとされるが、暗数が多い点を考えるとその実態は不明である。その中で、注目されるのは万引き検挙者における65歳以上の高齢者が占める割合が上昇し、20歳未満の少年検挙者数を上回り、かつて少年非行の典型とされた万引きは、現在高齢者の社会問題として認識されるよう変化していることである（資料3参照）。一般に高齢者は晩年を迎え行動の是非弁別をわきまえていると考えられがちであり、他の年齢層よりも規範意識は高いとみられるが、それでは、なぜ万引きに走るのか。晩節を汚す行為をなぜ行うのか。そもそも一般の人々は高齢者の万引きをどう考えているのか。高齢者万引きに横たわる社会的背景とは何か。種々の疑問が生じる。

これらを明らかにするために、本調査を企画した。

1.2 調査研究の概要

(1) 本研究における調査の概要

本調査の目的は、深刻な状況にある「高齢者の万引き」問題の対策検討に寄与する基礎的知見を得ることである。

行った調査は、表1のとおり、①と②の大きく2種に分けられる。

表1 本研究における主要な調査

	①万引きに関する意識調査	②店舗ごとの意識・実態調査
調査対象と方法	一般市民に対するアンケート調査 ※ 店舗関係者（防犯責任者・従業員）も比較のため実施 ※ うち従業員は、「店舗ごとの意識・実態調査」と共通	スーパー・コンビニ・洋品店・書店などの責任者、従業員、顧客に対するアンケート調査、および調査員による実態調査
目的	万引き（とくに高齢者の万引き）に対する一般市民の意識の把握	万引き（とくに高齢者の万引き）被害の多さの認識に影響する店舗の特徴の把握
主な調査仮説	<ul style="list-style-type: none">● 万引きは、他の犯罪に比べて、また被害額等によっては軽い犯罪だと思われている。● 高齢者の万引きに対して、一般市民は同情的である。● 経済的にゆとりがない人、社会的に孤立している人は、万引きに対する敷居が低い。	<ul style="list-style-type: none">● 万引き被害が多い店舗は顧客満足度が低い（店舗への不満が万引きの引き金となる）。● レジの台数や位置など、店舗の物理的な状況が万引き被害の多少に影響する。
調査方法、時期等	<ul style="list-style-type: none">● パイロット調査（H26.01、戸別訪問）● 第一次調査（H26.02-05、会場・街頭・郵送・戸別訪問）● 第二次調査（H26.09 郵送調査、H26.10 インターネット調査）	<ul style="list-style-type: none">● 第一次調査（H26.04）● 第二次調査（H26.08-9） <p>※ 方法は両調査共通。調査員が対象店舗にて実態調査と顧客への調査票記入依頼を行うとともに、店舗責任者用および従業員用調査の調査票記入を店舗に依頼（回収は郵送など）。</p>

本研究では、さらに、万引き犯の犯行移動距離に関する検討（「万引き被疑者に関する実態調査（警視庁）」結果より）、および経験的に万引き防止効果が認められている「挨拶や声掛け」の実験プロジェクト「買い物コンシェルジュ」実施の試みも行った。

(2) 調査結果の概要

次章より、万引きに関する一般市民の意識調査(2.)、店舗ごとの意識・実態調査(3.)、万引き犯の犯行移動距離の検討結果(4.)、および実験プロジェクト「買い物コンシェルジュ」(5.)について記した。

各々の結果は各章の最終節に記したが、相互に一致するものも少なくない。また、参考資料として卷末に示した警視庁による「万引き被疑者に関する実態調査」結果の多くもこれらの結果と符合する。そこで、本節では、「高齢者の万引き」に関する知見を中心に、本研究全体の主な結果をまとめて示す。

a 「高齢者の万引き」の実態について

- 高齢の万引き犯は、自宅近くのスーパーなどの日常的によく行く店舗で、店舗への不満などがきっかけとなり、比較的少額の商品を盗むケースが多い。(3.、4.、資料4・5参照)
※ 高齢者と少年では、万引きに至るメカニズムが異なると考えられる。
少年の万引き犯は、万引きをする目的で、総合満足度の高い、魅力的な店舗に出かけるケースが多い。
- 高齢の万引き犯は、店舗に入る前から犯行を決意しているケースは少ない。少年に比べ、監視の目などには無頓着であり、場当たり的な犯行が多いと考えられる。(3.、資料4・5参照)
- 高齢の万引き犯は、確保された時点でその商品の代金を支払う能力がある場合が多く、「弁済すれば済む」「少額は処罰されない」「高齢者だから許される」などと考えるケースが他の世代より多い。(2.、資料4・5参照)。
※ ただし、万引きの刑罰などを知らないわけではない（各認知率は比較的高い）。もっとも知識がないのは少年の万引き犯である。

b 一般市民の「高齢者の万引き」に対する認識

- 高齢者の万引きの実態は一般にあまり知られていない。「万引きで検挙されている人数は少年より高齢者の方が多い」ということを知らない人は、一般市民で約半数、店舗従業員でも約4割と多い。(2. 参照)

- 一般市民は「万引きする青少年」に対しては一律に厳しいが、「万引きする高齢者」に対しては比較的同情的である。(2. 参照)

※ この傾向は、とくに高齢者層で顕著である。

※ 「万引きする高齢者」には、経済的困難や孤独、認知症などの事情があると思っている人が多い。

c 「声掛け」の万引き防止効果について

- 「声掛け」は、万引き被疑者が「犯行をあきらめる原因」の第一位である。とくに高齢の被疑者や初犯において顕著である。(2.、5.、資料4・5参照)
- 「挨拶や声掛け」の万引き防止効果は、「警察への通報」と並んで、店舗関係者はもちろん、一般市民にも広く認識されている。(2. 参照)
- 実験プロジェクト「買い物コンシェルジュ」として、顧客に高齢者が多い都内スーパーの食品売り場にて、大学生による買い物支援（声掛け含む）、各種案内を行ったところ、高齢者向け商品の品減数値が実験前に比べて減少するという効果が確認された。また、売上額の上昇、事故発生件数の減少などの副次的効果も表れた (5. 参照)
- 「挨拶や声掛け」は、今回実態調査を行った店舗の98%で万引き防止対策として実施されている。ただし、調査対象店舗の「従業員による挨拶や声掛け」への顧客満足度はかならずしも高くはなく（他の項目の満足度と同程度）、店舗によって数値にばらつきがあった。(3. 参照)

※ 「挨拶・声掛け」の満足度が低い店舗、しかも満足度のばらつきも小さい店舗（常に「挨拶・声掛けがなされていない」と客から感じられている店舗）では、少年の万引き犯年間確保人数が多い。

※ 顧客満足度が低い店舗ほど、顧客が万引きの誘因を店側・環境側に求める傾向がある。とくに「挨拶・声掛け」の満足度では有意な関連がある。

d 一般市民の万引きに関する認識

- 万引きは、ひったくりや振り込め詐欺、自転車泥棒などの罪種と比較してとくに軽んじられているということはない。万引きが悪質な犯罪であること、警察へ通報すべきであることは、一般市民に十分に認知されている。(2. 参照)
- ただし、多くの一般市民は、「つい出来心で」計画性なく行われた万引き、被害額が小さい万引き、その後商品の買い取った場合などは、万引きの罪はそう重くないと考えている。「罪の重さに関わらず万引きしたら逮捕されるべきだ」とする人は6割前後と多いが、1~2割の人は、罪が軽い場合は「逮捕までは

しなくてよい」と考えている。(2. 参照)

- 万引きの刑罰などはあまり知られていない。量刑や古物買取のルールについては6割弱が、全件届け出については4割程度が「知らない」と回答している。(2. 参照)
※ 万引きに関する知識がない人ほど、万引き犯に対して「困っているなら仕方がない」等と考える傾向がある。
- 経済的なゆとり、生活の中で感じる充実度などは、「生活に困って万引きするのは、ある程度は仕方ない」という意識とは関連しない。(2. 参照)

e その他

- 「レジの位置が入口にない」店舗で、万引き犯の年齢確保人数が多い。万引き犯が高齢者でも少年でも同じことがいえる。(3. 参照)

2. 万引きに関する一般市民対象の意識調査

2.1 調査概要

(1) 調査の目的

本調査の目的は、「高齢者の万引き」問題の対策検討に寄与する基礎的知見を得るために、万引きに対する「社会の目（一般市民の意識）」を把握することにある。

調査を行うにあたって、「万引き被疑者に関する実態調査」（資料 4, 5 参照）の結果、および同調査担当者や店舗関係者の意見等を参考に、以下のような仮説を立てた。

- 万引きは、他の犯罪に比べて軽く見られている。
- 「つい出来心で」計画性なく行われた万引き、被害額が小さい万引き、その後商品の買い取りをした場合などは、万引きの罪は軽いと思われている。
- 万引きは青少年の犯罪というイメージが強く、高齢者の犯罪としては認識されていない。
- 高齢者の万引きに対して、一般市民は同情的である。
 - ※ 高齢者が万引きするのは、青少年と違って、社会的孤立や貧困など、それなりの事情があると思われている。
 - ※ 高齢になるほど、このような傾向がある。
- 万引き被害に遭う店舗にもそれなりの問題があると思われている。
 - ※ 万引きをされる店舗には、レジの位置が分からない、混雑している、どこに商品があるか分かりにくいなどの問題があると思われている。
- 孤独な人、経済的にゆとりがない人は、万引きに寛容である。

これらの仮説を一般市民への意識調査の結果から検証することで、「社会の目」を万引きの抑止力にするにはどのような啓発・広報が望ましいかを検討する。

(2) 調査の経緯と概要

a パイロット調査（平成 26 年 1 月）

同調査は、本調査の設計の参考として、中野・野方警察署が訪問活動の際に行ったものである。

回答者は 20 歳～80 歳までの一般市民 92 名であり、平均年齢は 53.2 歳、男女はほぼ同数、会社員 40%・無職 23%・主婦 15% であった。

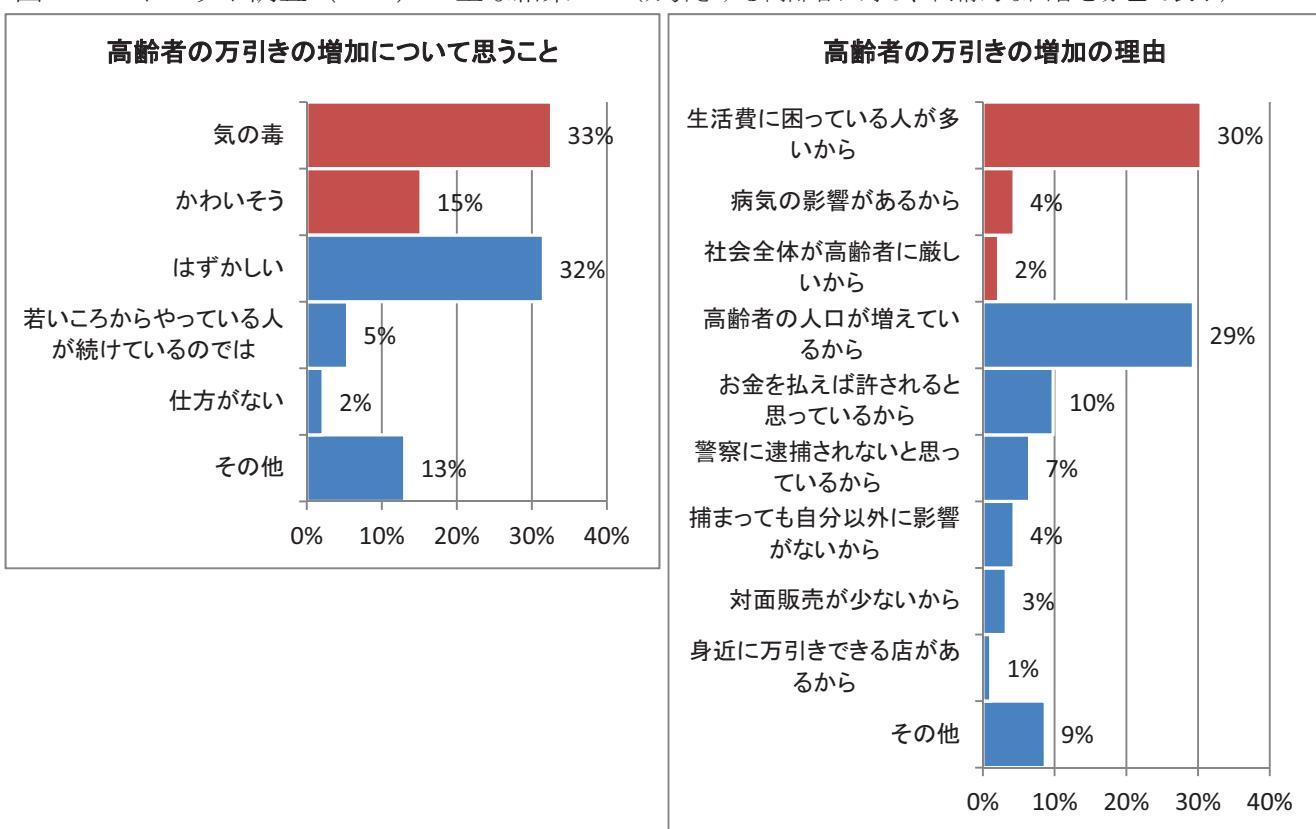
主な結果は以下のとおりである。

- 万引きは、99% の人が「やってはいけない」と答えており、「やってはいけな

いことだが大した問題ではない」とした人は 1%である。やってはいけない理由は「人のものを盗んではいけないから」が 9 割以上である。

- 万引きをしてしまう人がいる理由としては、「くせになっている」 30%、「重大な犯罪ではない」 24%、「お金を払いたくない」 20%という回答が多い。
- 万引き防止対策としては、「声掛け」 45%、「カメラ、ミラー」 32%、「巡回」 16%などが効果的と考えられている。
- 高齢者の万引きの増加については、同情的な態度がもっとも多い(図 1 参照)。
 - ※ 高齢者の万引き増加をどう思うかを聞いた設問では、「はずかしい」 32%と並んで、「気の毒」 33%が多い。「かわいそう」も 15%であった。
 - ※ その理由としては、「高齢者の人口が増えているから」と並んで、「生活費に困っている人が多いから」が最も多かった(両方とも 30%)。
- ほぼすべての人が、地域社会全体で高齢者に対する万引き防止に向けた取組みを行う必要があると回答している。
 - ※ 「必要」 91%、「どちらともいえない」 9%、「不要」 0%。

図 1 パイロット調査 (N=92) の主な結果 (万引きする高齢者に対し、同情的な回答を赤色で表示)



自由記述意見では、「店員の声掛けが必要。顧客とのコミュニケーション」「一人暮らしのお年寄りが集える場所や商店街を作る」等、声掛けやコミュニケーションの必要性に関する意見が目立った。

b 第一次調査（平成 26 年 2～5 月）

調査の概要を表 2 に示す。

このうち、防犯責任者は「万引き防止のための防犯責任者養成講座」の会場にて実施したもので、一般市民とまったく同じ調査票を用いている。店舗従業員（スーパー・コンビニ・洋品店・書店などの店舗に郵送）については、個人属性に関する項目のみ異なる調査票を用いている。

配布・回収方法、調査者、および対象地域が異なるのは、調査実施上の制約によるものである。なお、中学生を除く対象者は、高齢者層に偏りがちだったため、通行人への街頭調査では主に 10 代等の若い世代を対象とした。

表 2 第一次調査の概要

	対象者	回答者数	配布・回収方法	調査者	時期
一般市民	防犯キャンペーン参加者	18	568	会場	平成 26 年 2～3 月
	防犯ボランティア	10		会場	
	通行人（渋谷 109 人、光が丘 86 人、武蔵野 54 人）	249		街頭調査	
	公立中学校・中学生保護者（A 区）	85		会合で配布、郵送等で回収	
	公立中学校・中学生（B 区）	84		会場	
	地域住民（C 区）	122		戸別訪問	
店舗関係者	防犯責任者	190	641	会場	平成 26 年 4～5 月
	店舗従業員（モデル店舗 50 人、一般店舗 401 人）	451		店舗に配布、責任者に依頼、郵送回収	

調査項目を表 3 に示す。

各設問の選択肢は、万引きの知識については「知っている」「だいたい知っている」「知らない」の 3 件法、その他は「そう思う」～「そう思わない」の 5 件法とした。パイロット調査では選択肢が非常に多い設問もあったが、選択肢が多いと回答者によっては読み飛ばしてしまい、その結果、最初にある選択肢が選ばれやすいなど、選択肢の順序の効果等が表れることが分かっている。第一次調査では、このような点等を改善している。

表3 第一次調査の調査項目一覧

カテゴリー		細項目
認識	犯罪の悪質性	罪種別（振り込め詐欺、ひったくり、自転車泥棒、無賃飲食、万引き）
	万引きの罪の重さ	被害額の多寡、常習性、計画性、安価な品物で買い取った場合、初犯で反省している場合、逮捕の必要性（逮捕されるべき）
	万引きの誘因	店舗側の問題、マイバッグ等、買い物中の不便さ、レジの混雑、店の対応の悪さ
	効果的な万引き防止対策	挨拶や声掛け、通報
	青少年の万引き	罪の意識が希薄、万引き犯は気の毒、通報までしなくてよい、万引き防止の役割を担う主体（家族、店舗、地域・学校、警察、自治体）
	高齢者の万引き	※ 同じ項目で、青少年の万引きと高齢者の万引きを比較できるよう設計
経験	参加経験、万引き見聞き経験など	防犯ボランティア参加経験、万引き見聞き経験、スーパー・コンビニ等の勤務経験（現在含む）※、商店経営経験（現在含む）※ ※ 一般市民への調査の場合のみ。店舗経験者は「店舗定員として万引き犯人に対応したことがあるか」を聞いた。
個人属性	基本的な属性	性別、年齢、職業※、家族構成、家族の年齢※、居住年数※、住居の建て方・所有形態※、近所づきあいの程度※ ※ 一般市民への調査の場合のみ。店舗経験者は「店舗での勤務期間」「店舗内での立場（役職）」を聞いた。
	経済・生活の充実度	世帯合計年収※、経済的ゆとり、話し相手の有無、趣味や生きがいの有無 ※ 一般市民への調査の場合のみ。
	その他	自治会加入、平日日中の居場所、日常の買い物の交通手段、インターネット利用
自由記述意見		青少年の万引き防止対策、高齢者の万引き防止対策、その他万引き防止対策

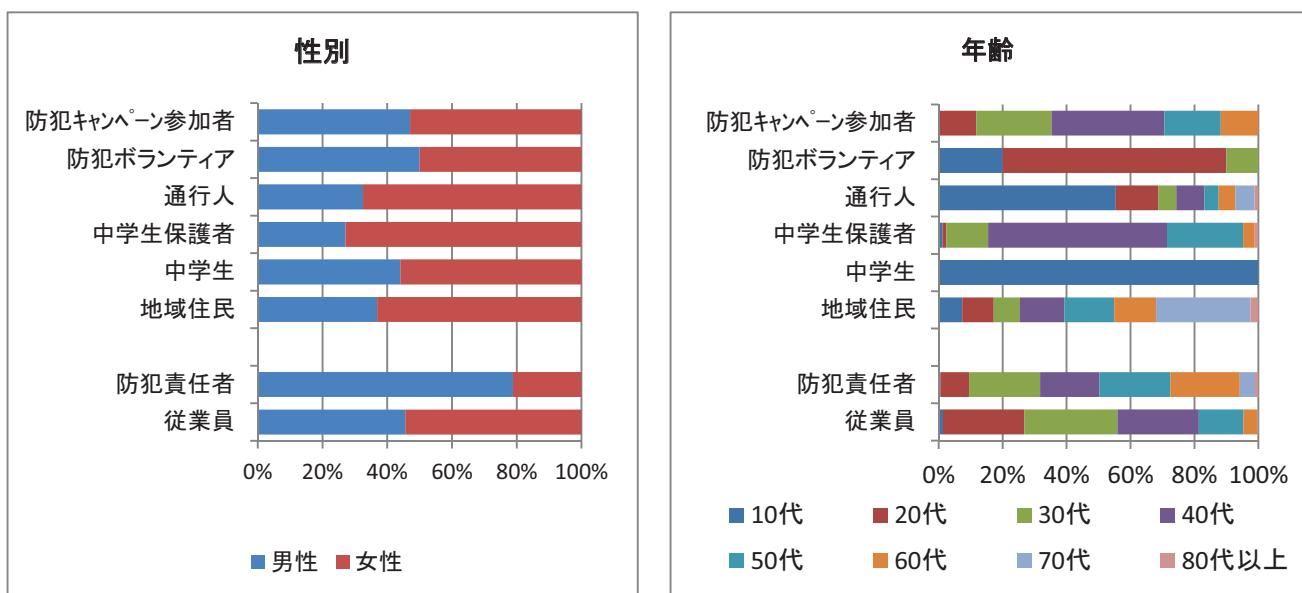
回答者の主な属性は図2のとおりで、対象者層・調査方法による違いもみられる（調査結果は p. 15 より示す）。第一次調査の結果から一般市民意識を大まかに検討したが、たとえば年齢による意識差があったとしても、それは実は年齢に起因する差ではなく、対象者層・調査方法の違いによるという可能性もあるなどの課題も残った。

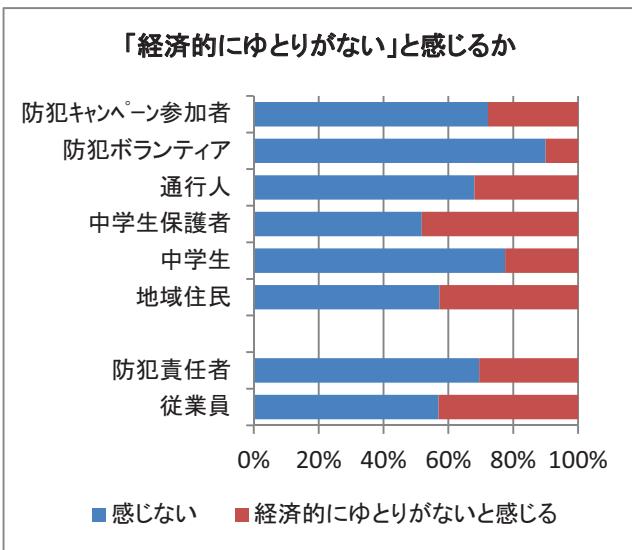
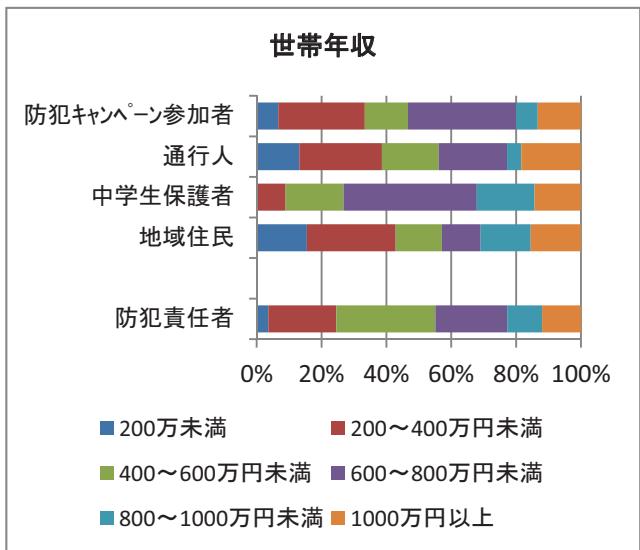
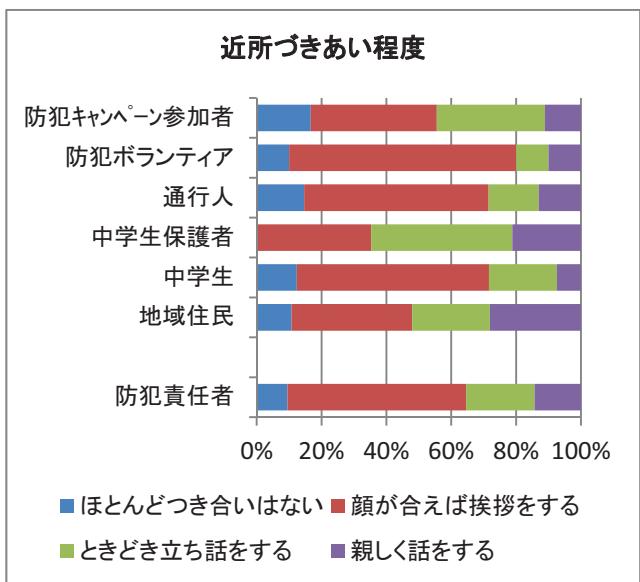
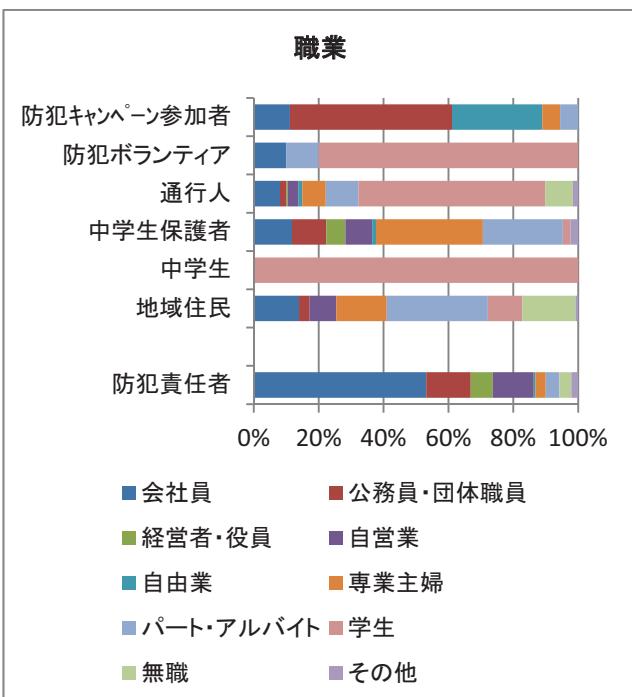
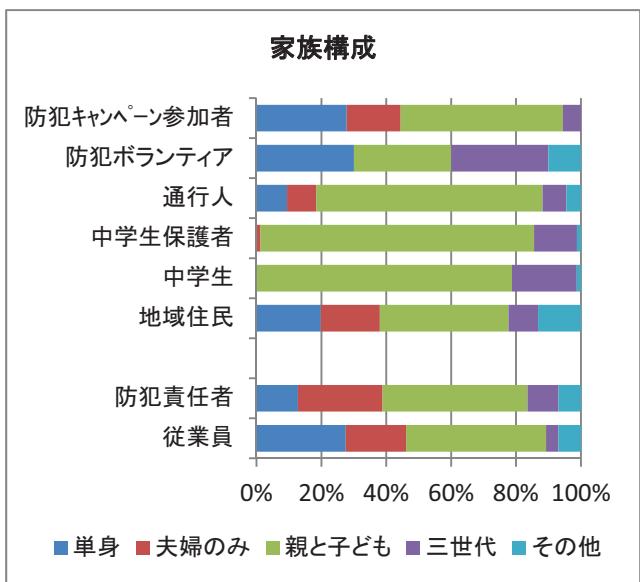
- 性別：女性は一般市民では比較的多く（65%）、店舗関係者では少ない（45%）。
- 年齢：対象者層ごとに大きく異なる。中学生・通行人は10代、防犯ボランティアは20代、防犯キャンペーン参加者・中学校保護者は40代、地域住民は70代が各々の最大ボリューム層となっている。
- 近所づきあい程度：一般市民では「ほとんどつき合いはない」11%、「顔が合えば挨拶する」49%、「ときどき立ち話をする」23%、「親しく話をする」17%。中学校保護者がもっとも近所づきあいをしている。
- 日常で気兼ねなく話ができる人がいる：9割以上が「いる」（一般市民では92%、店舗関係者では94%）

※ 「孤独」等の尺度としては、「はい」「いいえ」で答える設問より、「そう思う」～「そう思わない」などの段階尺度が適する。

- 経済的ゆとりがない：そう感じない人が6割以上（一般市民65%、店舗関係者61%）
- 万引き体験あり：一般市民では39%、店舗関係者では78%
- 趣味や生きがいあり：約9割が「あり」（一般市民では87%、店舗関係者92%）
- 店舗従業員の業種は、スーパー45%、コンビニ20%、洋品店10%、書店9%など

図2 第一次調査の回答者属性（対象者別）





c 第二次調査（平成 26 年 10 月）

前述のように、第一次調査の一般市民へのアンケートは、調査実施上の制約により、調査方法も調査対象者層も異なる複数の調査からなっており、詳細な検討は困難な状況であった（一般に、異なる調査方法による異なる対象者への意識調査の結果は、たとえ同じ時期に同じ調査票を使って行った調査であっても、一つの調査として扱うことはできない）。

そこで、第一次調査とほぼ同じ調査項目を用いた第二次調査を企画実施することとなった。調査の概要を表 4 に示す。調査方法は、Web 上で回答するインターネット調査と、都内 3 地域を対象とした郵送調査の 2 種類である。

インターネット調査は、主に性別・年齢による差を検討することを目的に実施した。対象者は都内在住の調査モニター登録者 500 人で、性別（男女 2 属性）、年齢層（20 代～70 代、6 属性）が均等になるよう抽出した。

郵送調査は、インターネット調査の対象者がモニター登録者であることの回答の偏りを補正すること（とくにモニター登録者数が少ない高齢者層では一般に回答の偏りが想定される）、および居住地域による意識差を検討することを主な目的として実施した。対象とした地域は、特徴の異なる都内の住宅街 3 町丁目であり、指定した地域の全戸に郵便物を配布するサービスを活用して行った。調査票は個人あてではなく世帯あてであり、世帯内の 20 歳以上の方一名に答えていただくようにした。

なお、第二次調査でも、第一次調査と同様に店舗従業員に対する意識調査を継続し、115 人の回答を得た。

表 4 第二次調査の概要

対象者		調査方法	配布数	有効回答数	内訳
一般市民	都内在住の調査モニター登録者 20 代～70 代（性年代均等割り付け）	インターネット	—	500	男女×20～70 代均等 割り付け：各 41～42 人
	D 区、E 区、F 市（各特定一町丁目） 在住者 20 代以上	郵送（各世帯一通）	2,000	363 (有効回答率：18.2%)	D 区：119 (14.0%) E 区：102 (17.9%) F 市：142 (24.4%)
店舗関係者	店舗従業員	店舗に配布、責任者に依頼、郵送回収	—	115	—

調査項目は第一次調査と同様だが、個人属性の一部の項目を、第一次調査の結果を受けて修正した。追加した項目、削除した項目を表 5 に示す。

表5 第二次調査にて追加・削除した項目

カテゴリー		追加した項目	削除した項目
個人属性	基本的な属性	東京 23 区内居住	家族の年齢、居住年数、近所づきあいの程度
	経済・生活の充実度	所得・収入の満足感、資産・貯蓄の満足感、生活の中で感じる充実感、世間一般からみた生活の程度	—
	その他	万引きに関するニュース等への関心度※、よく利用するメディア※ ※ インターネット調査のみ。	日常の買い物の交通手段、インターネット利用

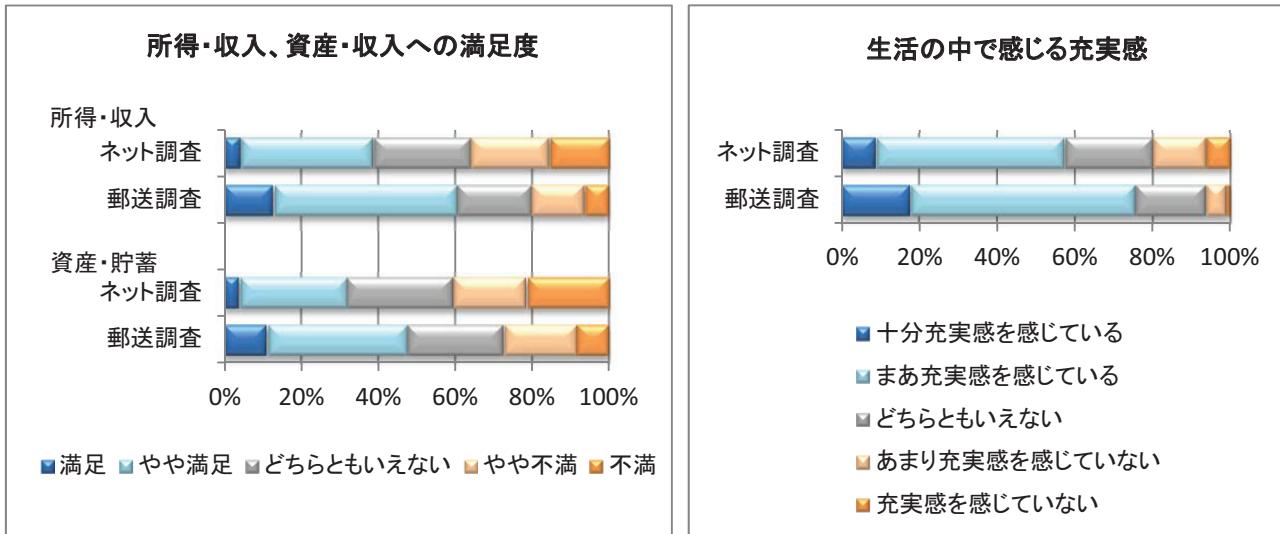
調査はいずれも平成 26 年 10 月に実施した。

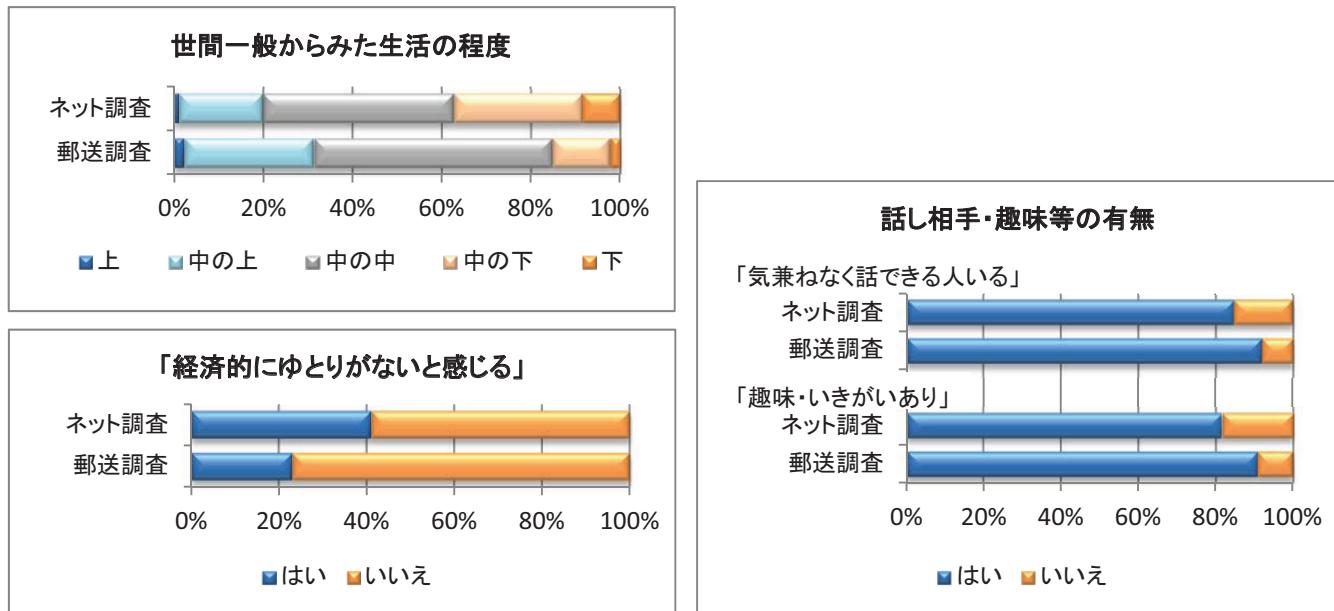
通常、郵送調査の回答者は高齢者層が多いが、今回は違った。20 代と 80 代以上が若干少ないものの、30~70 代は 16~20% とほぼ均等という結果であった。性別も、男性 45% 女性 55% とほぼ均等であり、性別・年齢共にバランスのよい回答となった。

インターネット調査と郵送調査の回答者層でもっとも違いが大きかったのは、所得・収入、貯蓄・資産、生活等への満足度等である。インターネット調査の回答者層の方が、郵送調査に比べ、いずれも満足度等が低い（図3に示した項目すべてで有意差あり）。

インターネット調査の回答者は、アンケートに回答することで謝礼を受け取る調査モニター登録者であることから、所得が高い層ではないと推測される。

図3 第二次調査の回答者属性 インターネット調査と郵送調査の比較（差が大きかった項目）

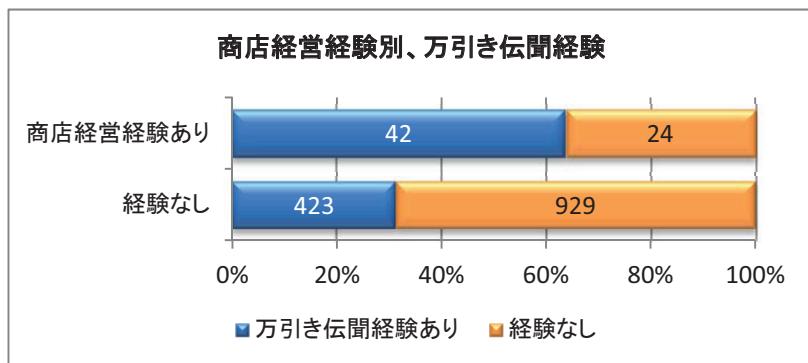




両調査では住宅の違いもあり、インターネット調査の回答者は集合住宅が多く(61%)、郵送調査では戸建て住宅が多かった(42%)。自治会加入率は戸建住宅で高いので、郵送調査では自治会加入率は53%、インターネット調査では42%と差があった。ただし、持ち家率はいずれも約6割、「平日の日中は自宅近くにいることが多い」率も約5割で違いはなかった。

もう一点、インターネット調査と郵送調査の回答者層で違っていたのは「万引きを見聞きした経験（現場を見た、被害者や加害者が身近にいたなど）」であり、郵送調査の回答者に経験者が多いという傾向が見られた（郵送36%、インターネット24%）。これは郵送調査の回答者に商店経営経験者が若干多いことの影響もあるが、商店経営経験者はもともとごく少数である（郵送5%、インターネット2%）。郵送調査の回収率は2割弱と低いことから、郵送調査の回答者には、万引きを見聞きした経験があるなど、万引きに关心が高い人がより多く含まれると推測することができる。

図4 第二次調査（インターネット調査+郵送調査 N=863）
の回答者属性



2.2 調査結果

一般市民対象の調査結果として、主に第二次調査のインターネット調査（N=500）と郵送調査（N=363）の結果を中心に示す。第一次調査の結果は、参考値として、調査方法ごとに分けずにまとめて示す（調査方法ごとの集計結果は資料2参照）。

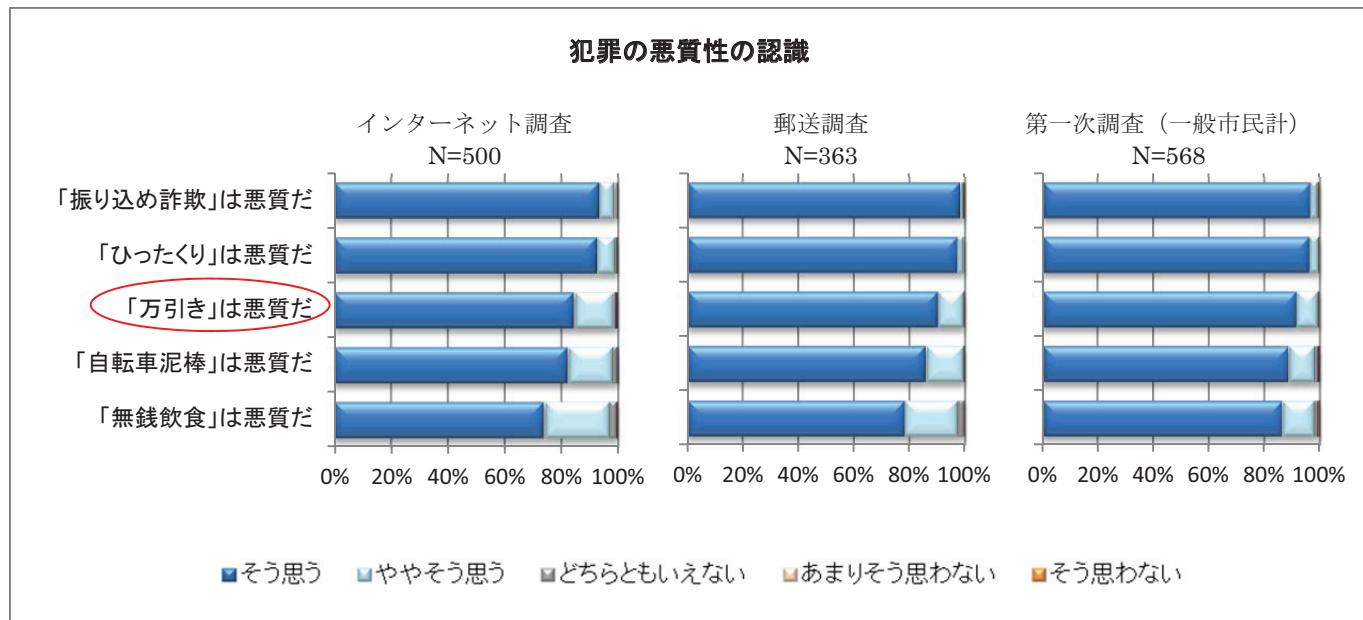
(1) 「万引き」という犯罪への認識

a 犯罪の悪質性の認識

「万引きは、他の犯罪に比べて軽く見られている」という仮説であったが、結果は、調査方法を問わず「万引きは悪質な犯罪だ」との回答がほとんどという結果であった。比較のため、万引きだけでなく、他の罪種に関する同様の認識を聞く設問を設けたが、「振り込め詐欺」「ひったくり」の方がより悪質とされる傾向があるものの、大きな差ではないことがわかる。

「万引き」という犯罪の悪質性は、一般市民にも十分に認識されているということができる。

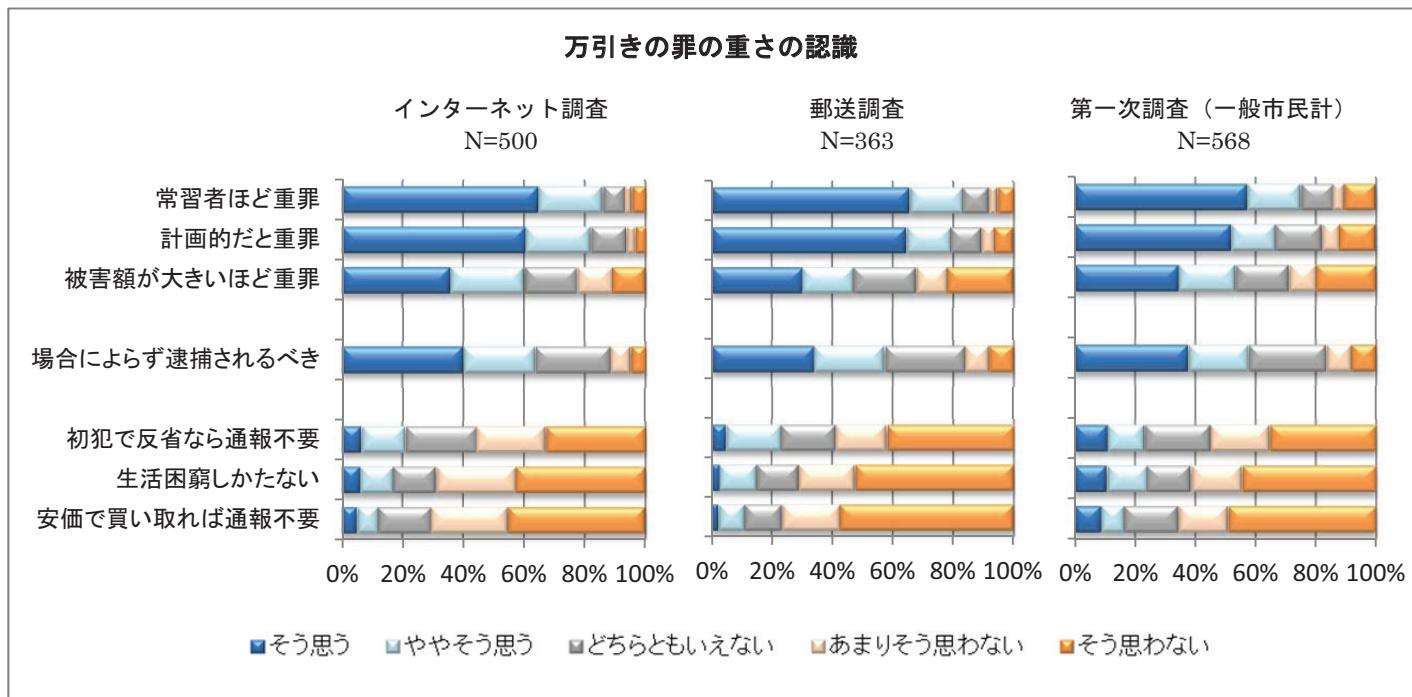
図5 一般市民の意識調査結果1



b 万引きの罪の重さの認識

ただし、万引きは、どのような場合にも大きな罪になると誰もが認識しているわけではない。図6に示す通り、万引きの罪は「常習者ほど」「計画性があるほど」重いと考えている人は7~8割である。「被害額が大きいほど」重いと考えている人はそれより少なくなるが(5~6割)、「そう思わない」側の回答よりはずっと多い。

図6 一般市民の意識調査結果2



一方、「被害額や計画性などに関わらず、万引きしたら逮捕されるべきだ」と回答した人はどの調査でも6割前後であり、「そう思わない」側の回答1~2割を大きく上回る。罪の重さに関わらず、万引き犯は逮捕されるべきと考える人が多いことが分かる。

ただし、1~2割の人は、警察への通報は「初めての万引きで反省していれば」「安価な品物の万引きの場合、買い取れば」しなくてよい、また「生活に困って万引きするのには、ある程度は仕方ない」と思っている。この1~2割の人の多くが「万引きしたらどのような理由でも逮捕されるべきだ」とは思っていない。

以上により、多くの市民は、万引きは悪質な犯罪で逮捕されるべきではあるが、“つい出来心で”計画性なく行われた万引き、被害額が小さい万引き、その後商品の買取をした場合などの罪はそう重くないと考えているといえる。さらに、全体の1~2割の人は、罪が軽い場合などは「逮捕まではしなくてよい」と考えている。

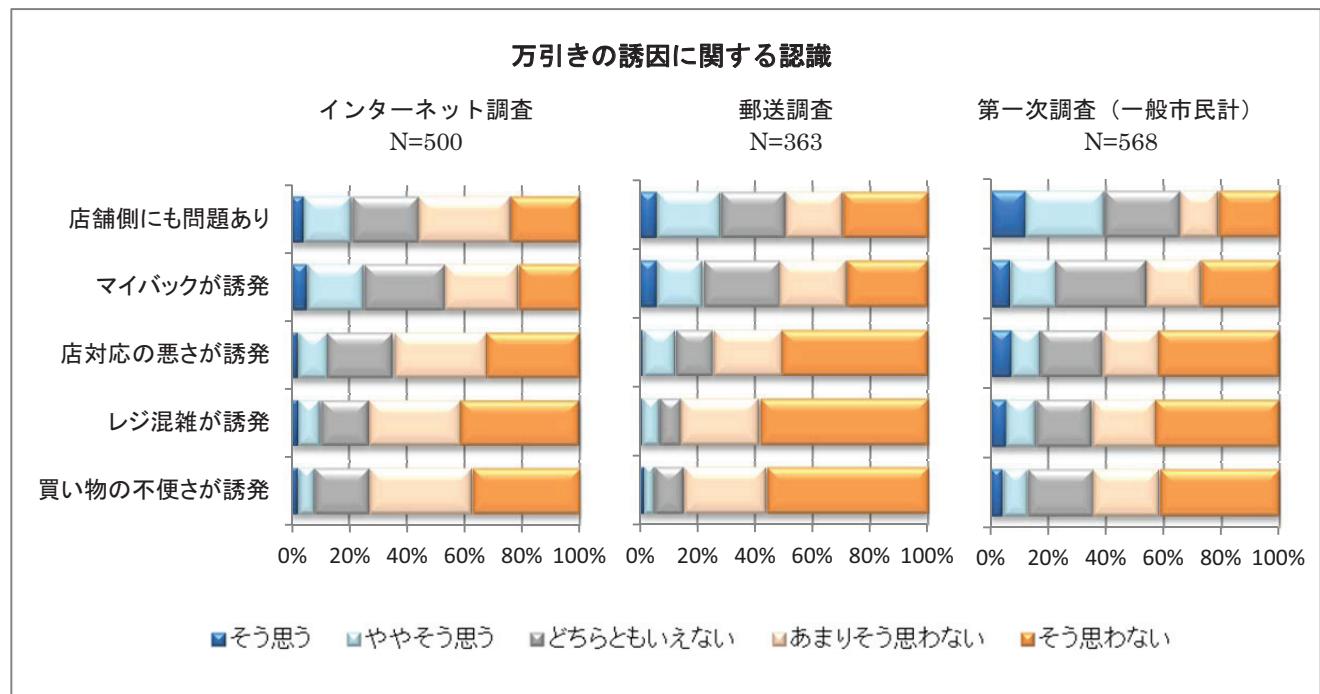
(2) 店舗や対策への認識、意見

a 万引きの誘因に関する認識

「万引きをされる店側にも問題がある」に対し「そう思う」と答える人はどの調査でもごく少数だが、「ややそう思う」は比較的多く、両者を合わせると2~4割程度という結果であった。万引きを引き起こす誘因として認識されているのは、どの調査でも、店舗側の要因（「店の対応の悪さ」「レジの混雑」「買い物中の不便さ」）より、「マイバッグやエコバッグ」である。

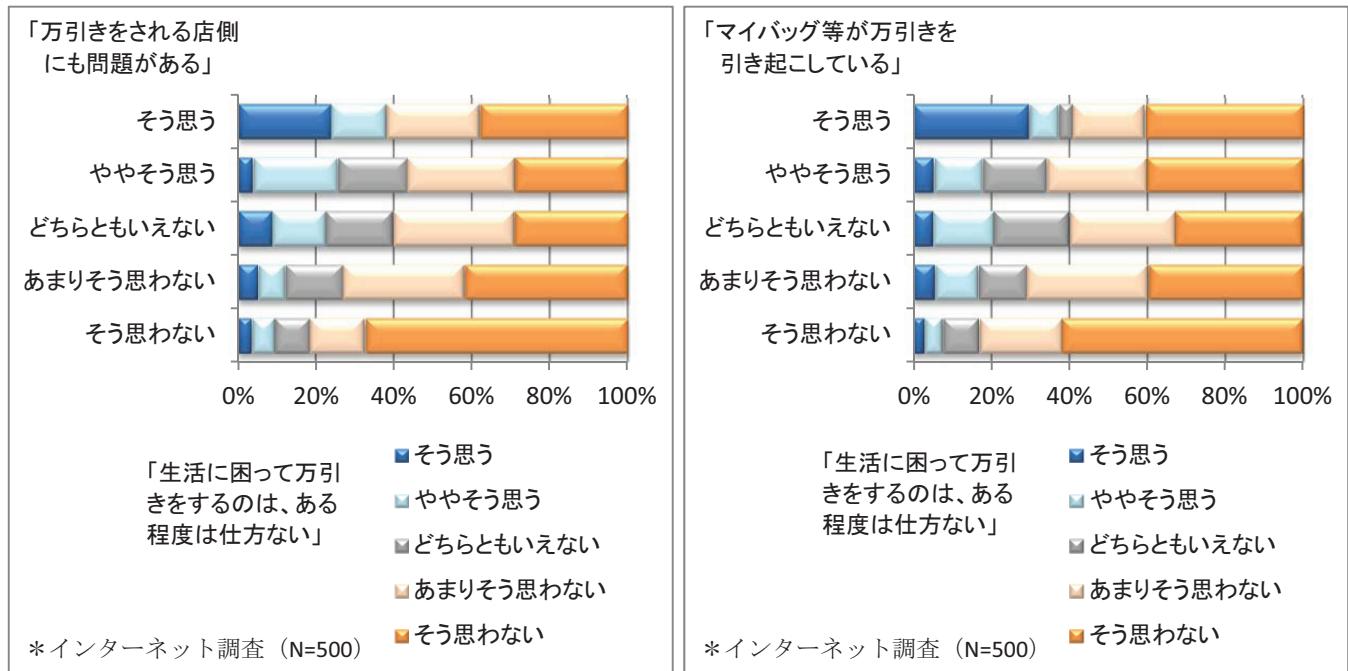
ただし、万引き防止対策について聞いた自由記述意見では、店側の環境に関する意見も少なくなかった。たとえば「店側に責任はないと思うが、万引きできない、させない工夫をすることも必要」「店舗内の見通しをよくし、商品を整理整頓することが大事」「売り手側の品物の置き方等、これでは万引きもたやすく出来るような状態が多い」「日本は性善説に基づいていて、お店の管理が甘いように思う」「マイバッグはレジを通るまで外に出さないルールを作る」などである。

図7 一般市民の意識調査結果3



万引きをされる店舗やその環境に万引きの誘因があると考える人は、「生活に困って万引きをするのはある程度は仕方ない」「初犯で買い取れば通報不要」等と考える傾向があった。図8 (p. 18) はインターネット調査の結果だが、郵送調査でも、第一次調査でも同傾向である。

図8 一般市民の意識調査結果4～「生活困窮なら仕方ない」とのクロス集計～

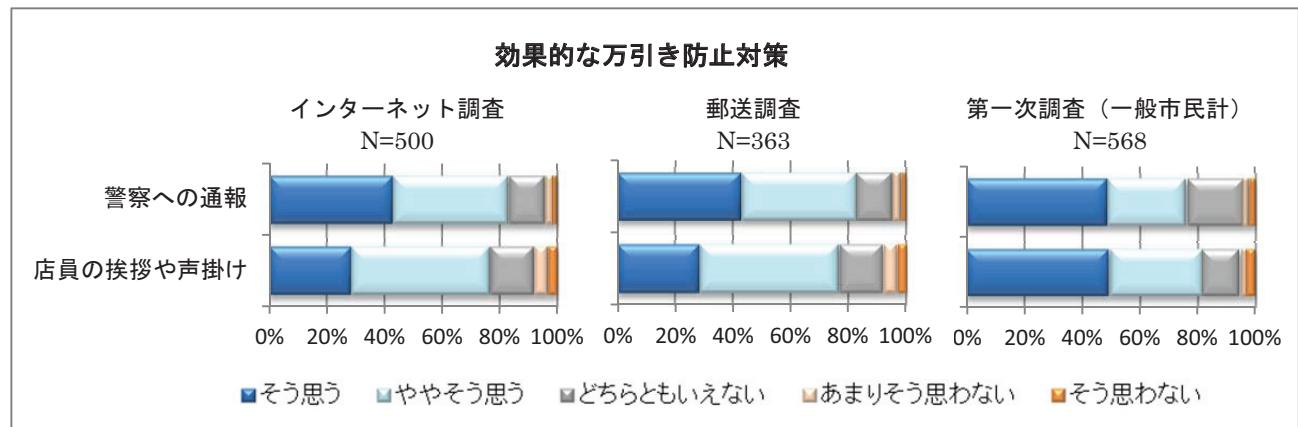


b 効果的な万引き防止対策への意見

8割前後の人人が、「警察への通報」や「店員の客に対する積極的な挨拶や声掛け」が万引き防止に効果があるとしている。

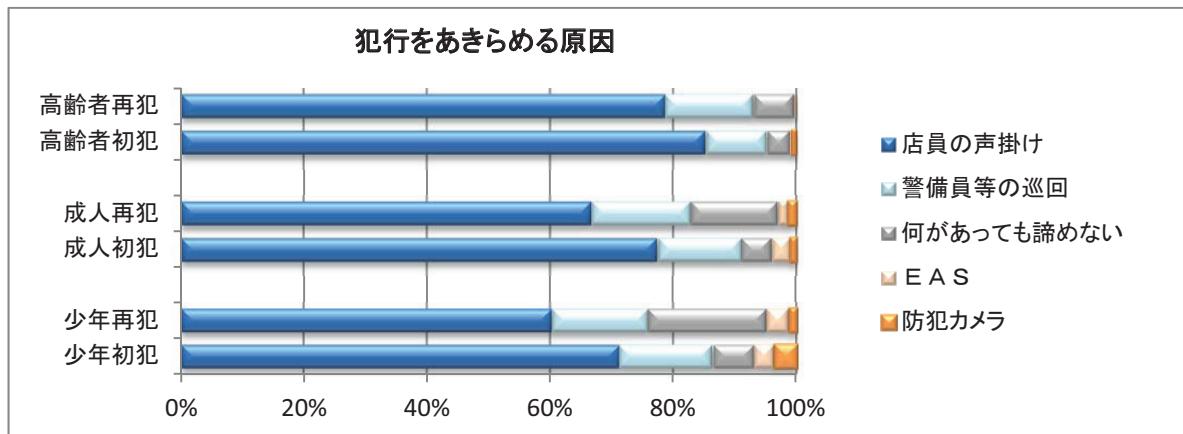
自由記述意見でも、警察への通報や処罰すべきという意見は非常に多かった。また、防犯カメラやミラーの設置、店内の環境改善（陳列、見通し、明るさなど）と並んで、店員の目や声掛けの効果をあげる人が多かった。

図9 一般市民の意識調査結果5



なお、「店員の声掛け」は、「万引き被疑者に関する実態調査」でも多くの被疑者が「犯行をあきらめる原因」として挙げており、実際に効果が高いと考えられる（図10、資料3,4参照）。図10から、とくに高齢者、また、とくに初犯への効果が高いと推測できる。

図10 「万引き被疑者実態調査」（平成25年度、N=2,365）の結果 犯行をあきらめる原因



(3) 「青少年の万引き」と「高齢者の万引き」の比較

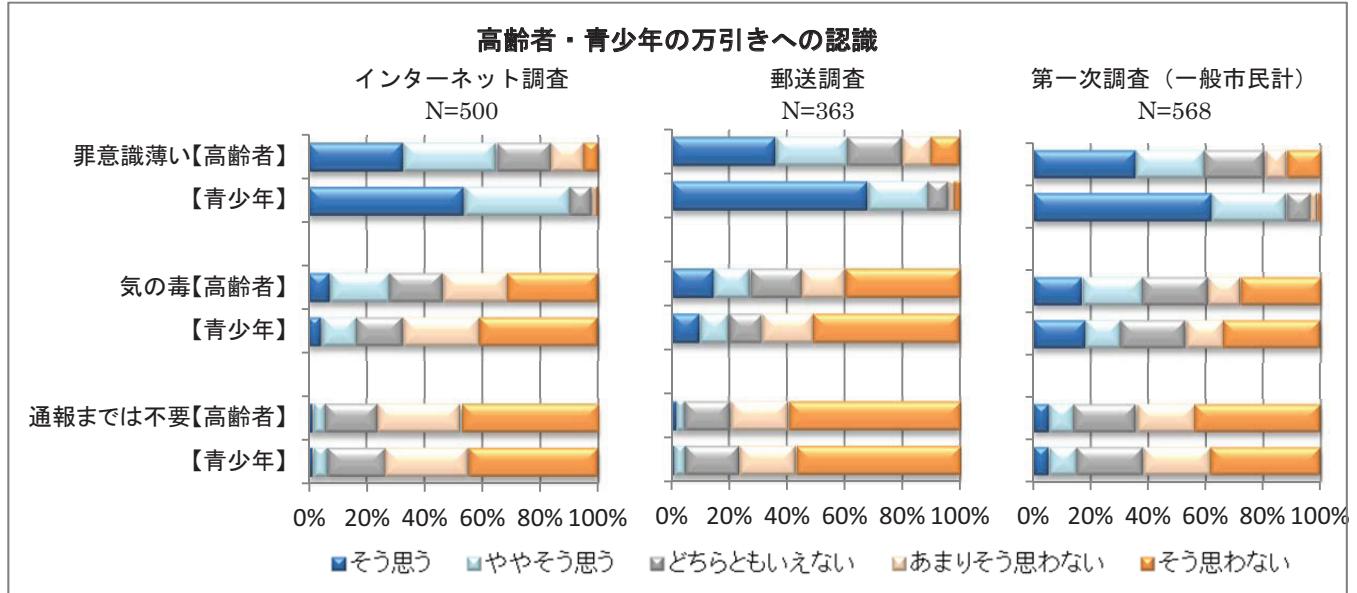
a 万引き犯に対する認識と知識

図11(p.20)に示す通り、「青少年の万引き」と「高齢者の万引き」とでは異なるイメージが持たれていることが明らかになった。万引きする青少年については、9割前後の人人が「万引きに対する罪の意識が薄い」と考えている。しかし、万引きする高齢者についてはこの割合が6割前後と大きく下がる。また、「万引きする高齢者は、気の毒だ」と思う人の割合は、万引きする青少年の場合に比べ、どの調査でも多くなっている。

自由記述意見でも同じ傾向がみられる。青少年の万引きについては、「罪の意識なしにゲーム感覚でやっているのではないか」との指摘が多く、防止対策としては、家庭や学校における教育・指導・しつけ、さらには家庭環境や家族のコミュニケーションなどをあげる人が圧倒的に多かった。二番目に多かった防止対策は、厳しく罰する、警察へ通報するなどである。

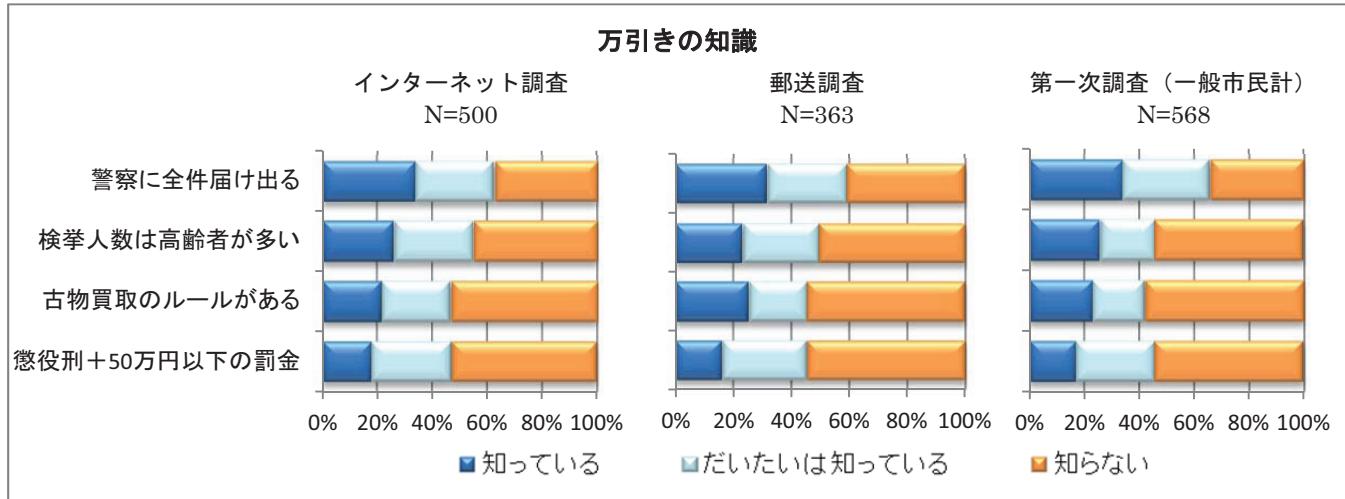
高齢者の万引きについては、その原因として、経済的困難、孤立や孤独、認知症などを考える人が非常に多く、単なる犯罪者として断罪するのではなく、医療面でのケア、家族のケア、社会的ケア、政治・行政によるサポート等が必要だという意見が多く見られた。なかには「少年以上に厳しく取り締るべき。少年たちの見本になるべき分別のある人が言語道断」「高齢者でも遠慮せずに厳しい姿勢で対応してほしい」「高齢者の万引きは常習者が多いのではないか。高齢者とはいえ容赦ない態度で臨むべき」といった意見もあったが、青少年の万引きに対する意見のように、一様に厳しい態度というわけではない。

図 11 一般市民の意識調査結果 6



そもそも「万引きで検挙されている人数は少年より高齢者の方が多い」ということを知らない人は多い。「知っている」人はどの調査でも2割強しかおらず、「だいたいは知っている」を合わせても半数程度である。

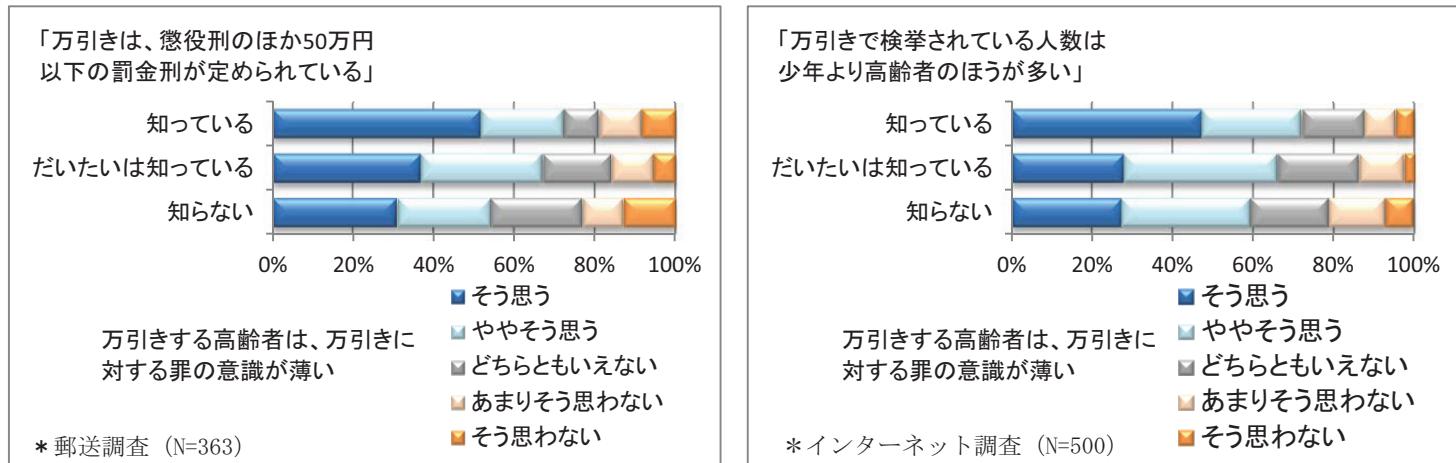
図 12 一般市民の意識調査結果 7



自由記述意見でも「高齢者の万引きが多いことは知らなかった」「高齢者の万引きは考えられない」「万引きは若気の至り」「検挙率は高齢者が多いようだが、検挙されていない部分を含めれば青少年の万引き率が高いはず」といった意見もあり、全体的に「万引きは青少年の犯罪」というイメージが強いことがうかがえる。

なお、どの調査においても、知識がある人の方が、万引き犯人に対する同情的な意見が少ない傾向がある。同情的な人は「困っているなら仕方がない」等と考える傾向があるので、正しい知識を普及することが、社会の万引きへの目を厳しくすることにつながると考えることができる。

図 13 一般市民の意識調査結果 8 ~「万引きする高齢者は罪の意識が薄い」とのクロス集計~



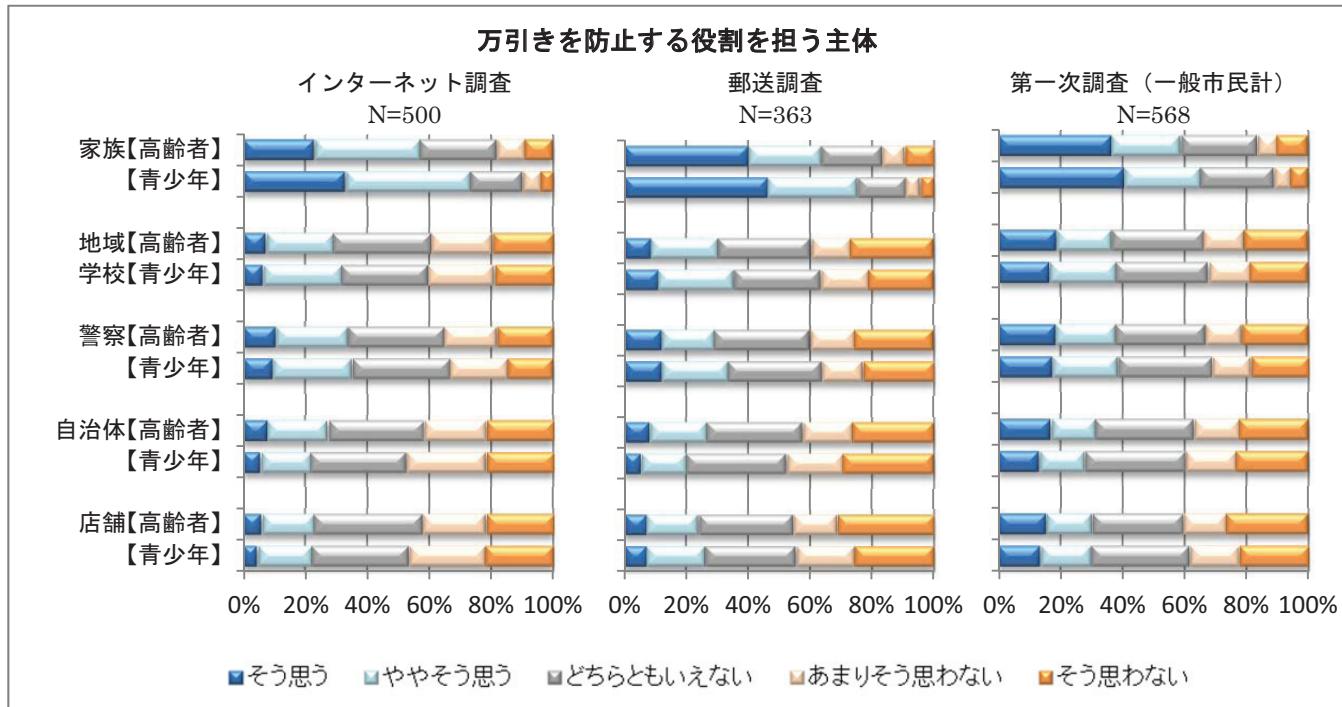
b 万引き防止の役割を担う主体に関する意見

万引き防止の役割を担う主体としてもっとも期待されているのは、青少年の万引きであっても、高齢者の万引きであっても「家族」という結果だった。とくに、青少年の万引きの場合は顕著で、「ややそう思う」も合わせると、どの調査でも7割前後の人人が「万引きを防止する役割は家族が担うべきだ」としている。

この割合は、高齢者の万引きの場合は6割前後と少なくなる。自由記述意見でも、「高齢者は一人暮らしもいるし難しい」「なすすべがない」といった記述も見られる。

なお、「家族」に比べると、地域（高齢者）や学校（青少年）、警察、自治体、店舗に万引き防止の役割を期待する人は少ないという結果であった。

図 14 一般市民の意識調査結果 9



(4) 年齢による意識差（インターネット調査）

ここでは、20代～70代までの各年代をインターネット調査の結果から（各年代82～84人）、参考として10代を第一次調査の結果から（中学生と通行人222人）を抽出して比較した結果を記す。

万引き等の悪質性の認識については、年代による差はほとんどなかった。

万引きの罪の重さの認識では、高齢者ほど「被害額が大きいほど」「常習者ほど」「計画性があるほど」万引きの罪は重いと思うという顕著な傾向が見られた。その他の認識では年代による有意な差はない（図15参照）。

「万引きされる店側、環境にも問題がある」という認識には、年齢差はほとんど見られなかった。万引きの誘因を「買い物の不便さ」と認識している割合には年代差があつたが（図16）、高齢になるほどこのような傾向があるといった一元的な関連は見られない。

図15 年齢による意識差 各調査項目の平均点1

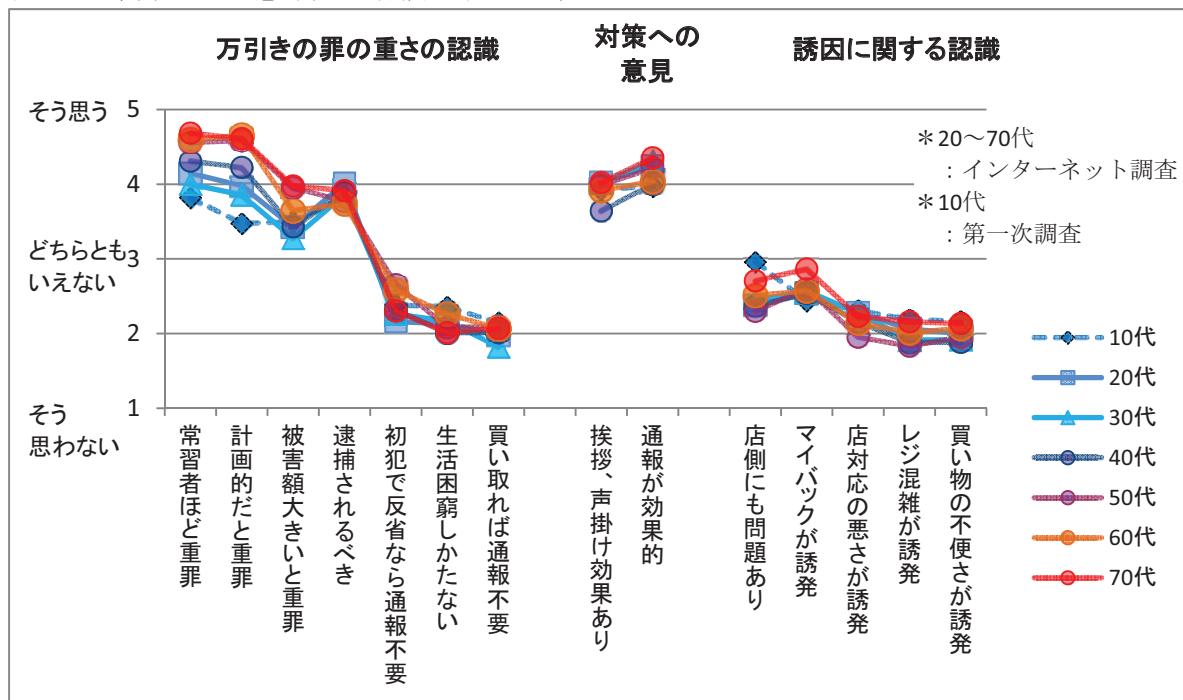
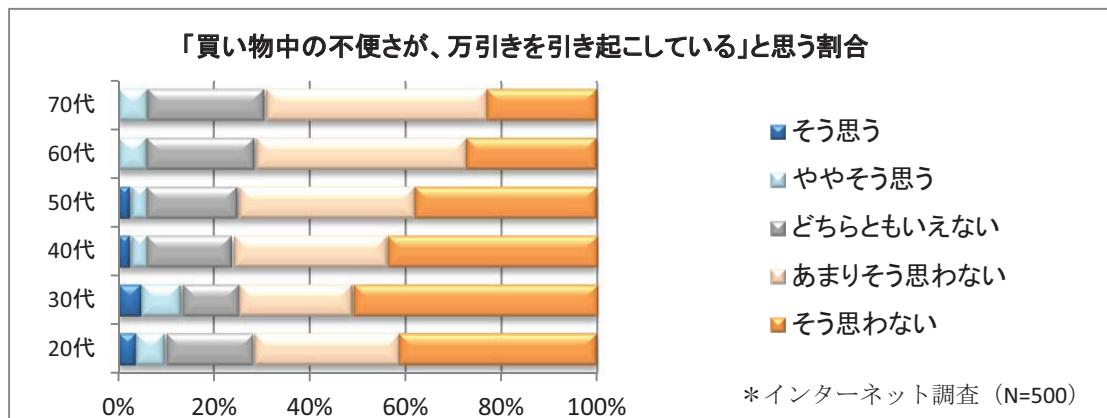


図16 年齢による意識差～万引きの誘因を「買い物中の不便さ」とする割合～



「青少年の万引き」と「高齢者の万引き」への認識については、年齢が高い回答者ほどとくに「青少年の万引き」に厳しい傾向が見られた。逆に言えば、「青少年の万引き」より「高齢者の万引き」に対してやさしい（甘い）という傾向といえる。

万引き犯を「気の毒」と思う人は他の年代に比べ10代、20代で有意に多いが、この年代には「高齢者の万引き」と「青少年の万引き」に対する認識に差はない。しかし、30代以上ではこの認識差は大きくなり、とくに「青少年の万引き」に対してより厳しくなる（「気の毒」と思う人が減る）。また、60～70代では「高齢者の万引きは罪の意識が薄い」と考える人が他の年代に比べて少ない。

図 17 年齢による意識差 各調査項目の平均点 2

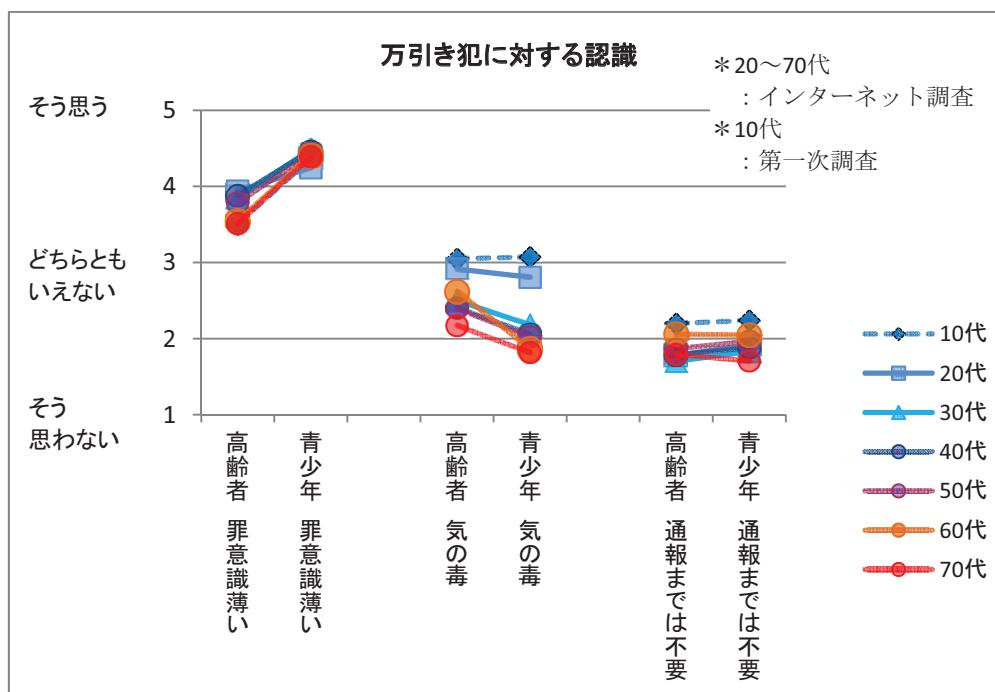
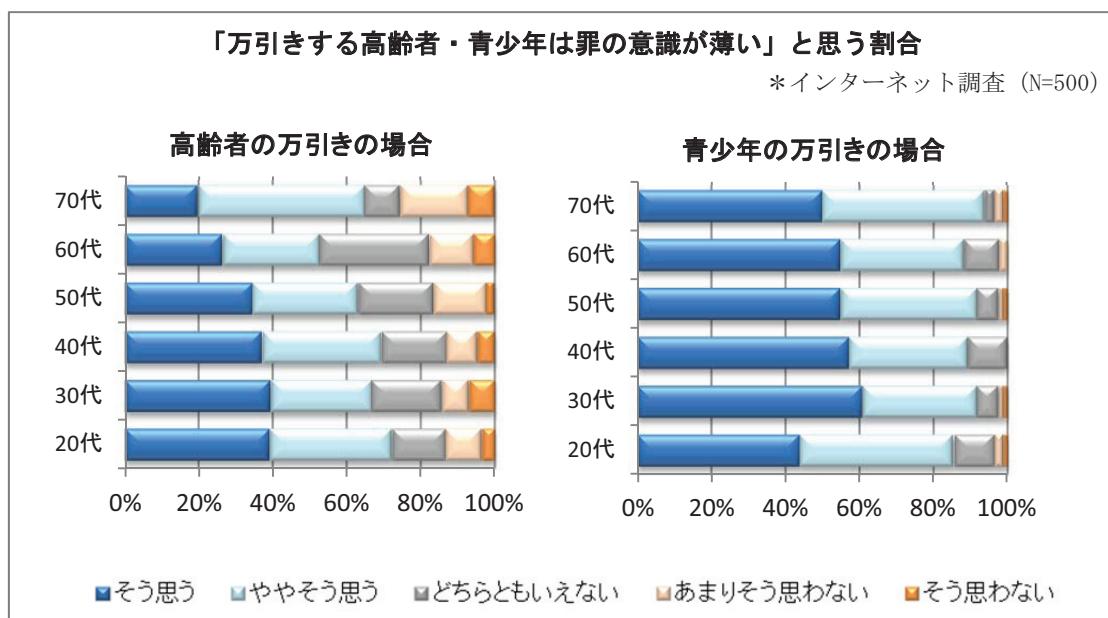


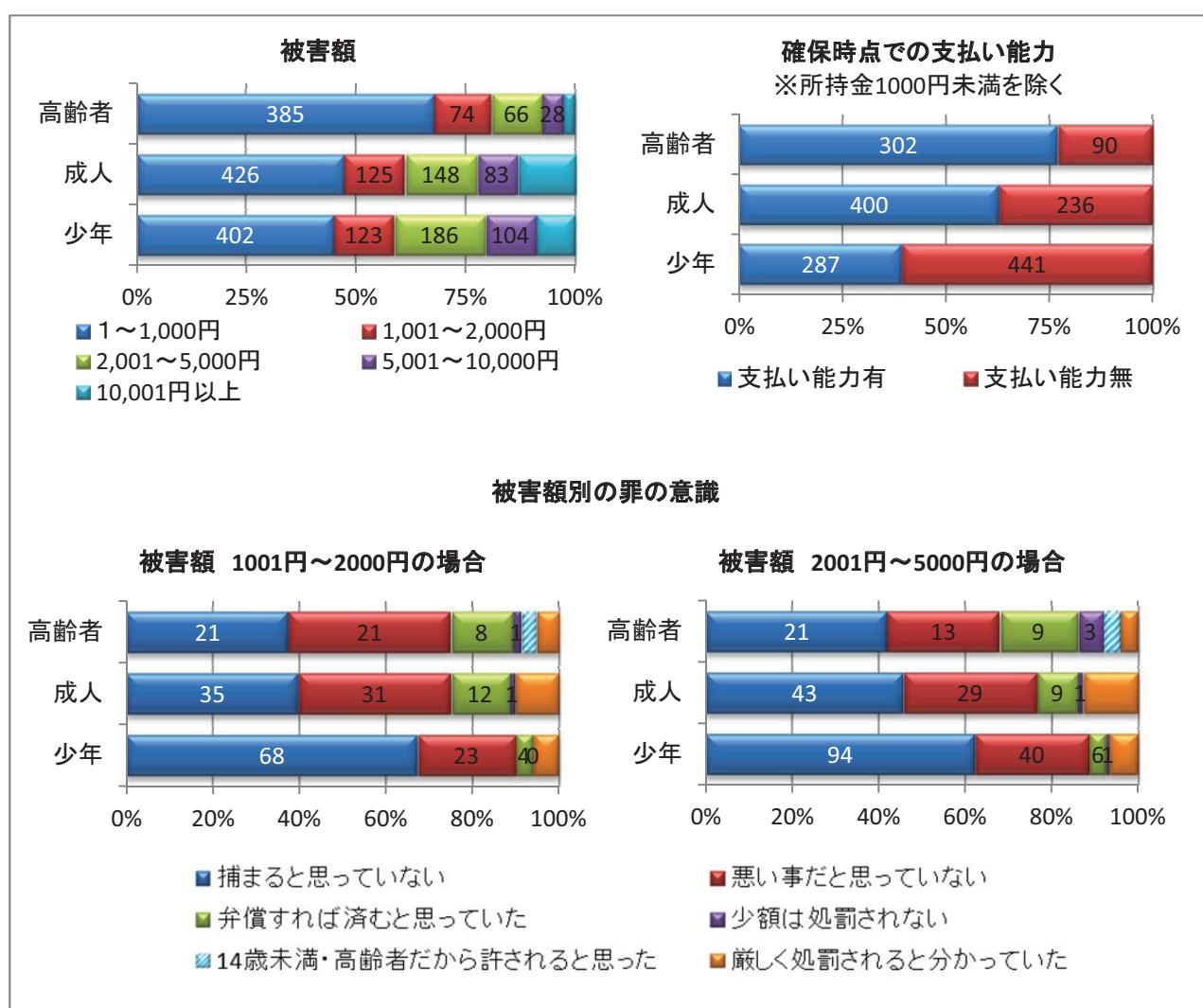
図 18 年齢による意識差 ～万引き犯の罪の意識に対する認識～



以上により、一般市民は、年齢が高い方が、少しくらいなら万引きの罪は重くないと考える傾向、および「高齢者の万引き」に同情的な傾向があるといえる。

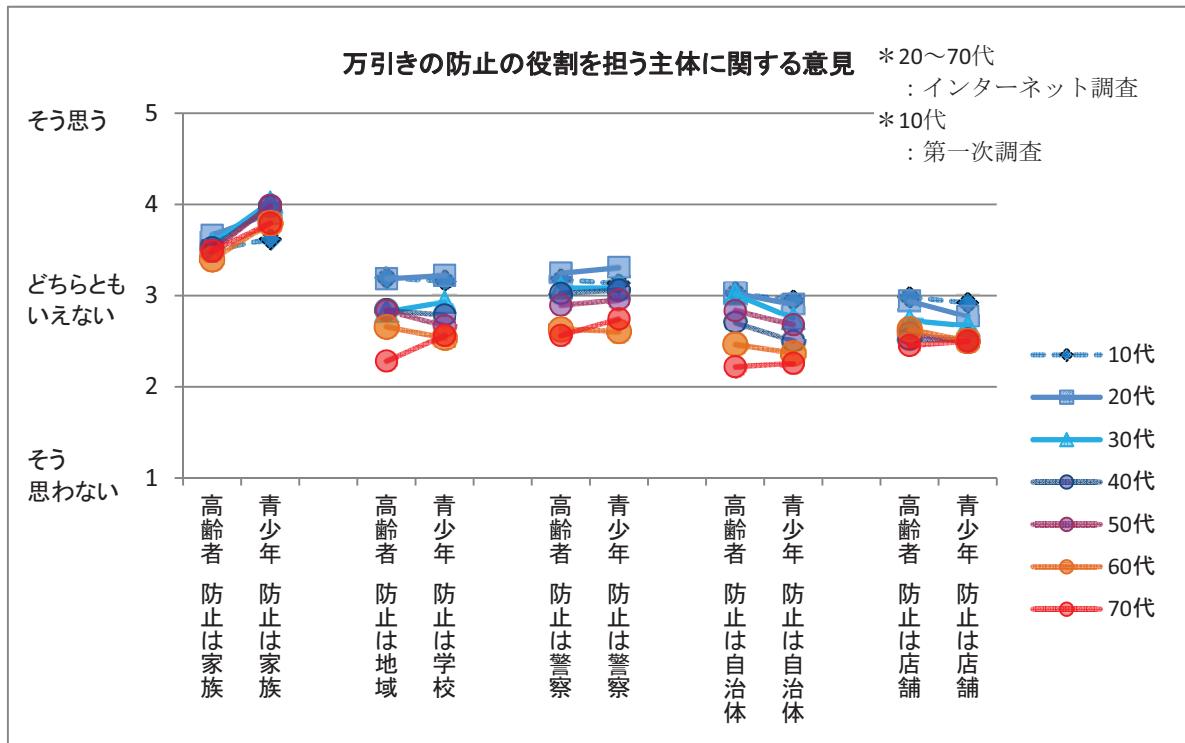
この結果は、警視庁による「万引き被疑者に関する実態調査」にも通じる（資料5参照）。図19に示す通り、高齢の万引き犯は、他の世代に比べて、万引きした商品の金額は少額であり、確保された時点でその商品の代金を支払う能力があった人が多い。また、高齢の万引き犯は「厳しく処分されるとわかっていた」人が成人より少なく、その分は「弁済すれば済むと思っていた」「少額は処罰されない」「高齢者だから許されると思った」といった回答となっている。一般市民の意識と同様に、万引きをした高齢者にも「少しくらいなら」「高齢者だから」といった気持ちがあることが分かる。

図19 警視庁「万引き被疑者実態調査」における主な結果（平成25年度、N=2,367）



万引き防止の役割を担う主体については、どの年代も「家族が担うべき」と答えており、年齢による差は見られない。しかし、家族以外の主体についてはすべて、若年層ほど「(どの主体も) 万引き防止の役割を担うべきだ」という意見が多く、高齢者層ほど少ないという同じ傾向が見られた。「高齢者の万引き」にも「青少年の万引き」にもみられる傾向だが、どの項目でも「高齢者の万引き」の方が年齢による認識の差が顕著であることがわかる。

図 20 年齢による意識差 各調査項目の平均点 3



万引きに関する知識では、年齢差はなかった。

むしろ性差があり、インターネット調査では「万引きで検挙されている人数は少年より高齢者の方が多い」以外の項目すべてで、男性の方が女性よりも知識があるという結果であった。郵送調査でも同じように性差が見られたが、「万引きで検挙されている人数は少年より高齢者の方が多い」では有意差がなかった。

(5) 経済的なゆとり等による意識差

「孤独な人、経済的にゆとりがない人は、万引きに寛容である」という仮説を検証するために用いた調査項目（第二次調査）は表6の7項目である。これらの項目は互いに非常に相関が高く、また、年齢、性別とも次のような有意な関連があった。

- 「経済的にゆとりがない」：男性で多い。
- 「資産・貯蓄満足度」：高齢ほど高い。
- 「生活充実度」：女性の方が高い。また40代がもっとも低く、若年になるほどまた高齢になるほど高くなる。

表6 経済的なゆとりや生活充実度等に関する調査項目間の相関係数※（第二次調査）

インターネット調査(N=500)		生活			経済的				度み世た間生一般のから程ら
		い趣が味ある生きが	いが気るで兼きねるな人くが話	じ生る活充の実中感で感	じり経るが済な的いにとゆ感と	満所足得感・収入の	満資產感・貯蓄の		
生活	趣味や生きがいがある *1	1.00							
	日常で気兼ねなく話ができる人がいる *1	0.24	1.00						
	生活の中で感じる充実感(十分感じる-ない) *2	0.25	0.34	1.00					
経済	経済的にゆとりないと感じる *1	-0.10	-0.20	-0.45	1.00				
	所得・収入の満足感(満足-不満) *2	0.22	0.25	0.65	-0.60	1.00			
	資産・貯蓄の満足感(満足-不満) *2	0.19	0.20	0.59	-0.54	0.78	1.00		
世間一般からみた生活の程度(上-下) *2		0.19	0.18	0.50	-0.49	0.63	0.60	1.00	

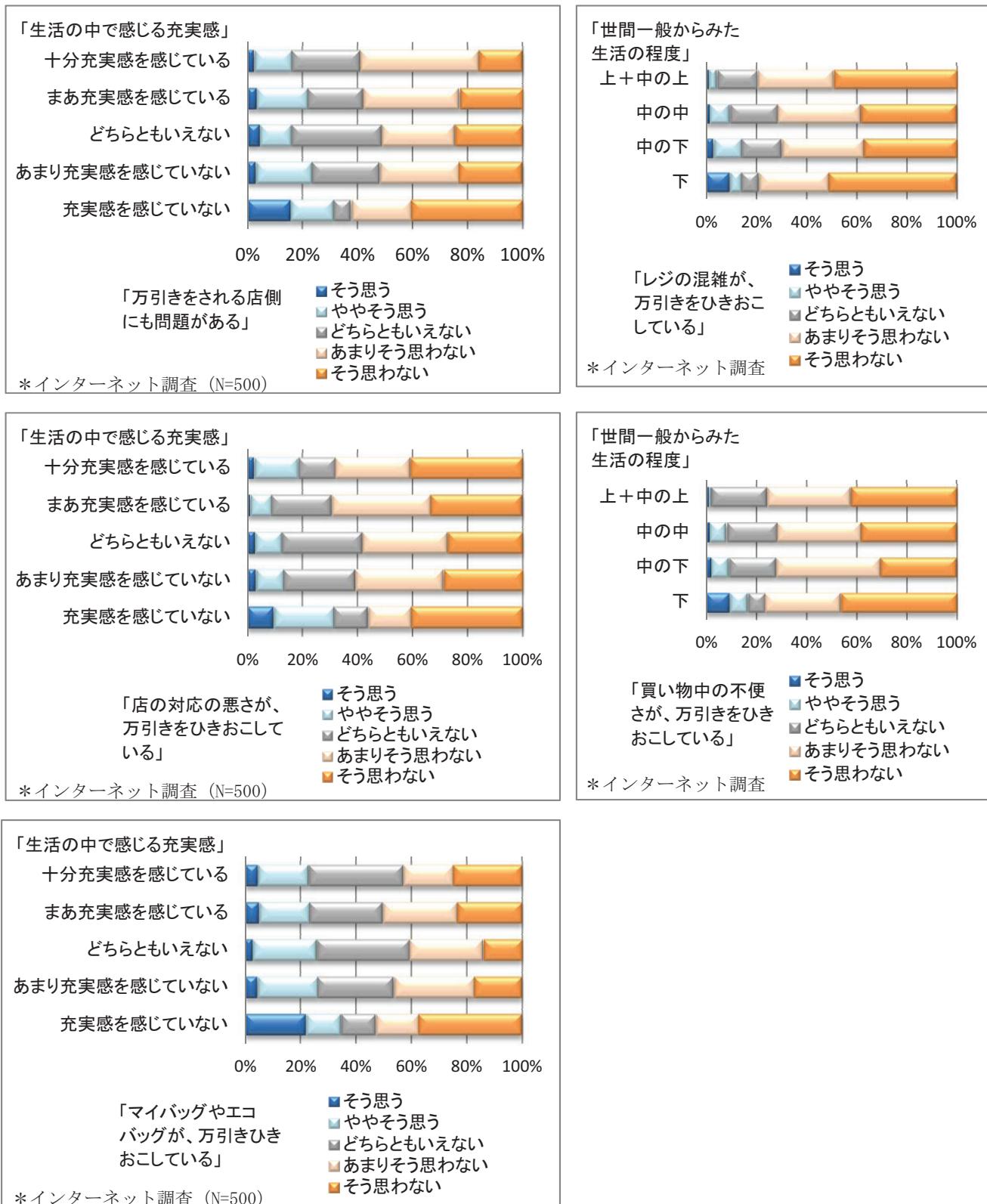
郵送調査(N=363)		生活			経済				世帯年収
		い趣が味ある生きが	いが気るで兼きねるな人くが話	じ生る活充の実中感で感	じり経るが済な的いにとゆ感と	満所足得感・収入の	満資產感・貯蓄の		
生活	趣味や生きがいがある *1	1.00							
	日常で気兼ねなく話ができる人がいる *1	0.30	1.00						
	生活の中で感じる充実感(十分感じる-ない) *2	0.31	0.28	1.00					
経済	経済的にゆとりないと感じる *1	-0.06	-0.15	-0.37	1.00				
	所得・収入の満足感(満足-不満) *2	0.13	0.13	0.47	-0.49	1.00			
	資産・貯蓄の満足感(満足-不満) *2	0.10	0.14	0.47	-0.52	0.76	1.00		
	世間一般からみた生活の程度(上-下) *2	0.16	0.18	0.40	-0.42	0.55	0.45	1.00	
	世帯年収(200万未満～1000万以上) *3	0.03	0.04	0.23	-0.19	0.35	0.21	0.50	1.00

※ 「相関係数」とは、2つの変数（この場合2つの各調査項目の結果の値）間の相関（類似性の度合い）を示す指標であり、-1から1の間の実数値で示される。相関は0に近いときにもっとも弱く、1または-1に近いと高い。なお、完全に一致する場合（表6の対角線上。同じ調査項目の結果間の相関係数）は1となる。

万引き等の悪質性、および罪の重さの認識は、どの項目でもほとんど差はなかった。

「万引きされる店側、環境にも問題がある」という認識は、経済的に豊かでない人ほど、または生活が充実していない人ほど「そう思う」側が若干増えるという傾向がみられたが、調査方法によっては有意差がなく、顕著な傾向とはいえない。

図21 経済的なゆとり等の違いによる意識差～万引きされる店舗・環境への認識～



「生活に困って万引きをするのは、ある程度は仕方ない」という項目は、一見、経済的な状況等と関連がありそうだが、今回の調査結果ではまったく関連がみられなかった(図22、図23)。インターネット調査でも郵送調査でも、生活充実度などを含む7項目すべてにおいて、この項目と有意な関連が見られたものは一つもなかった。

図22 経済的なゆとり等の違いによる意識差

～「生活困窮なら仕方がない」とのクロス集計～

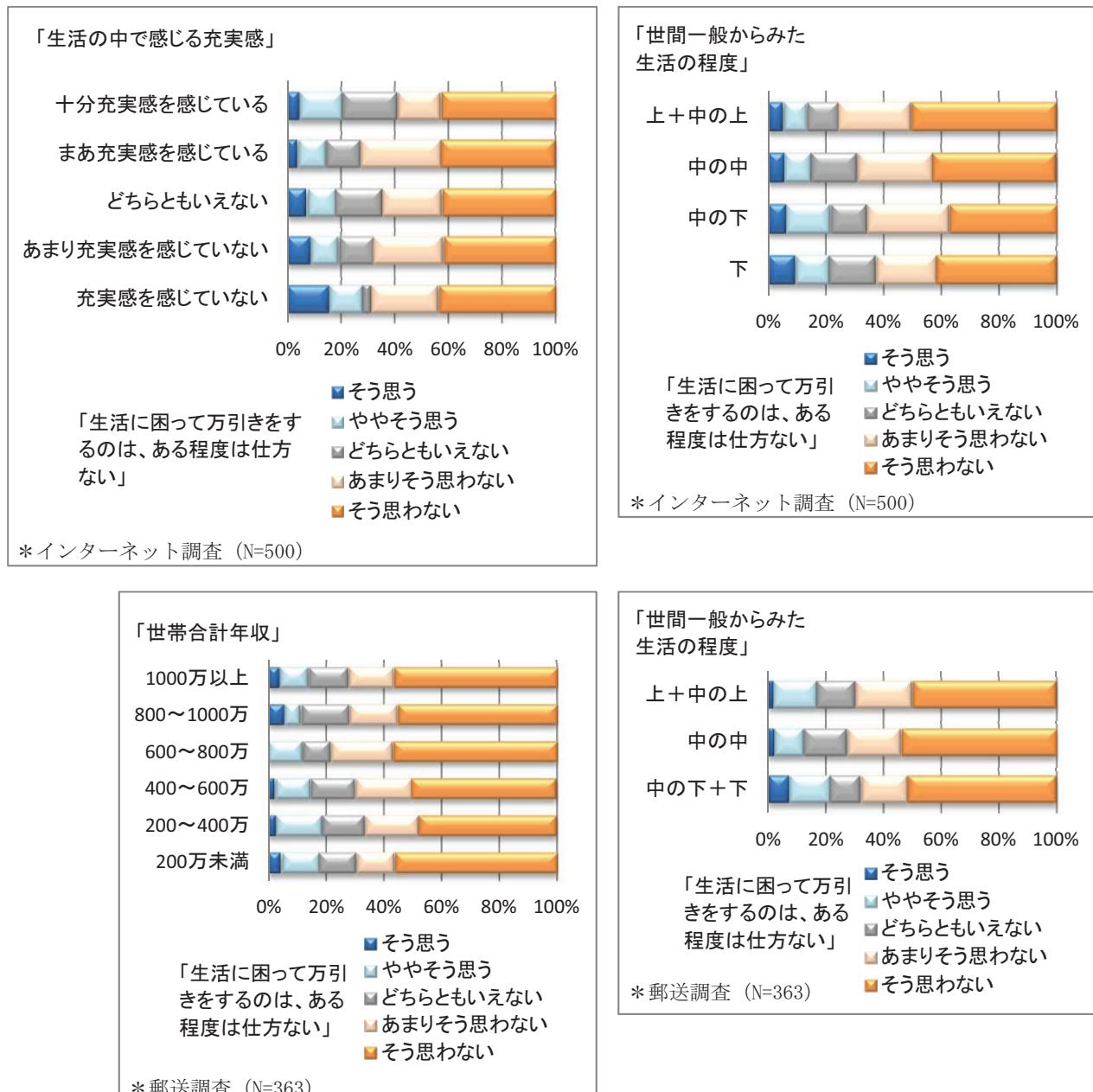
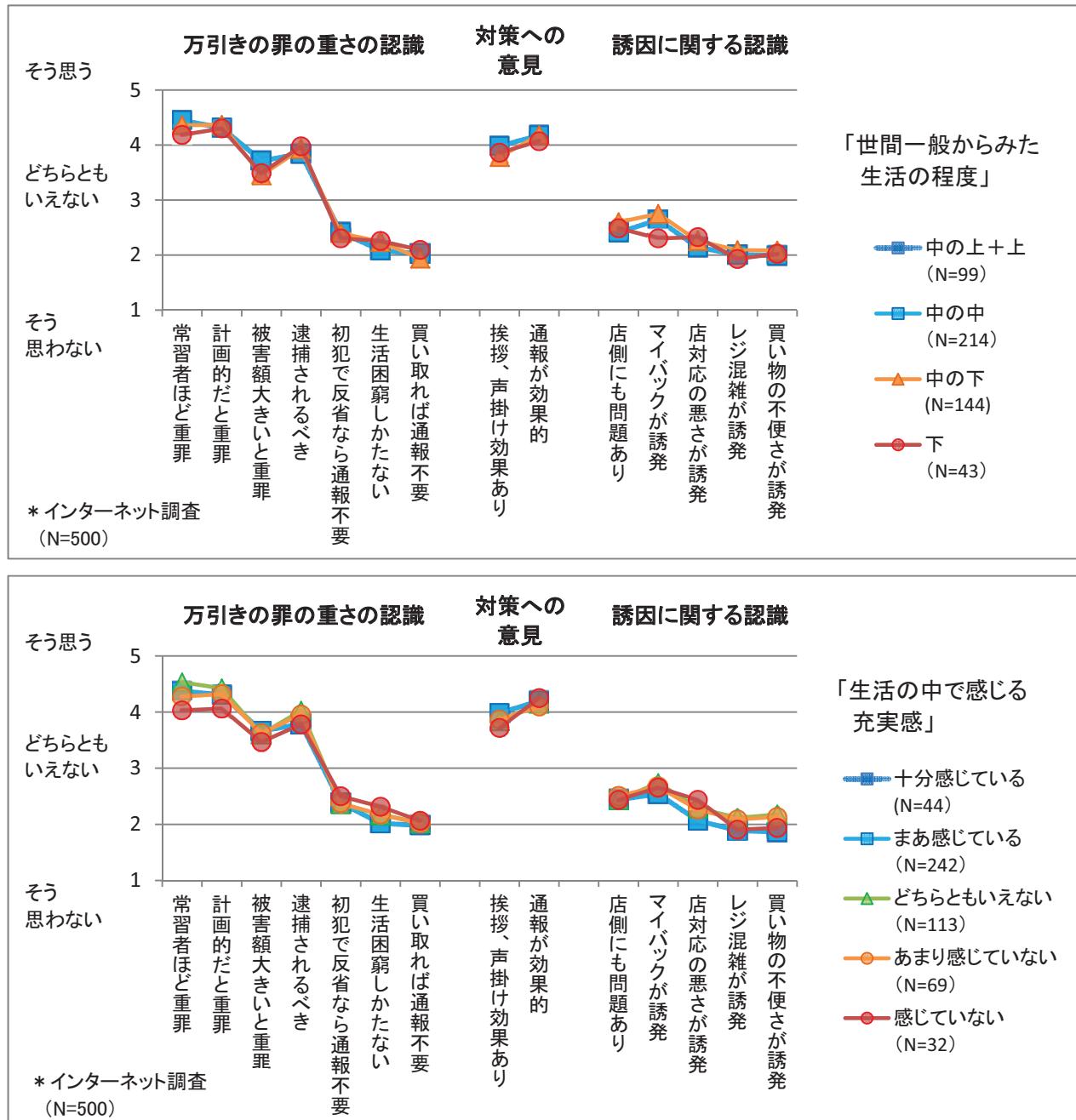


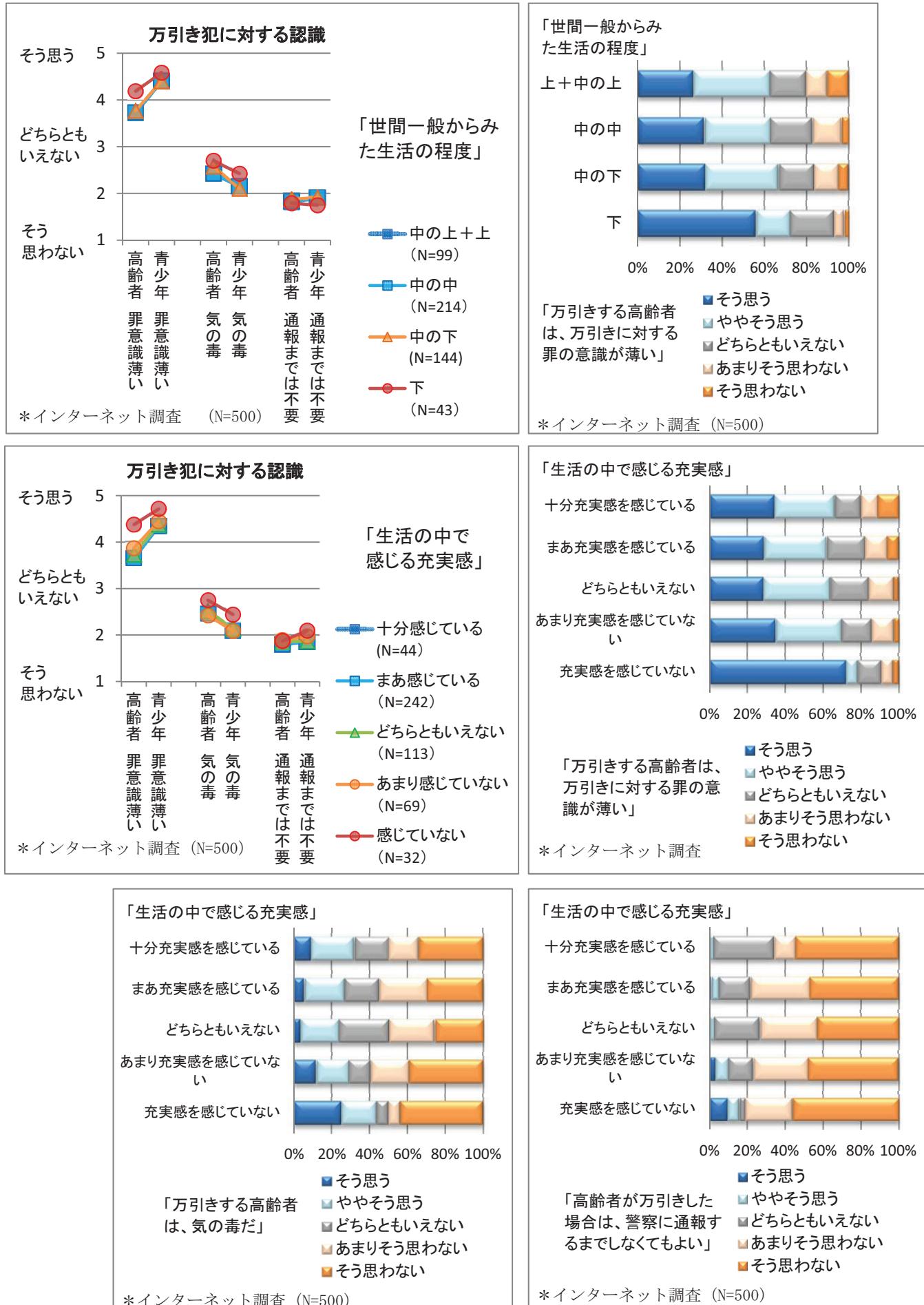
図 23 経済的なゆとり等による意識差 各調査項目の平均点



「青少年の万引き」と「高齢者の万引き」への認識は、若干の違いがあった。

とくに「高齢者の万引き」については、生活の充実度を感じていない人の方が、また生活の程度を低いと感じている人の方が「罪の意識が薄い」と考える傾向があった。この結果は、生活等にゆとりがない人の方が高齢者の万引きに対して厳しい態度であることを示しているが、「万引きする高齢者は気の毒だ」という高齢者に同情的な意見もまた生活等にゆとりのない人に若干多いといった傾向もあり、一様な解釈は難しい。

図24 経済的なゆとり等による意識差～万引き犯に対する認識との関連～

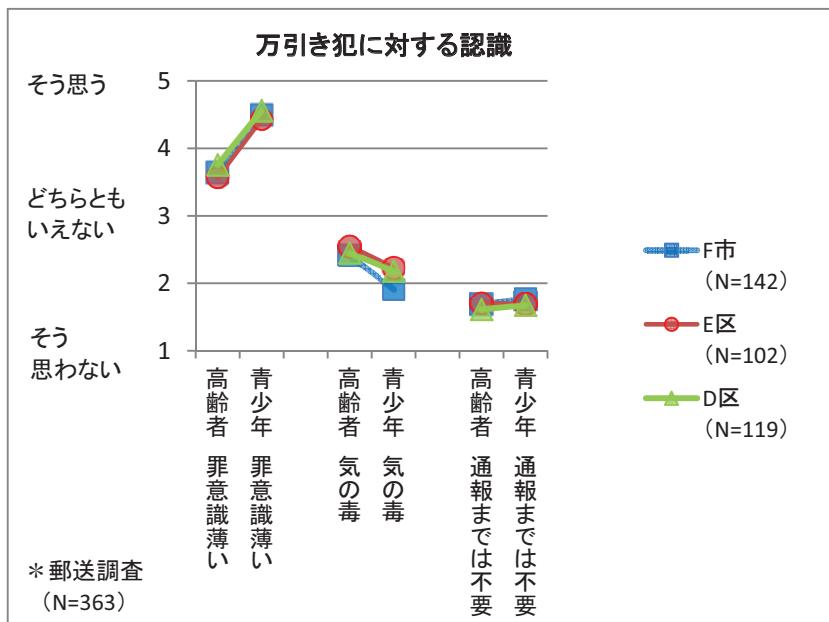
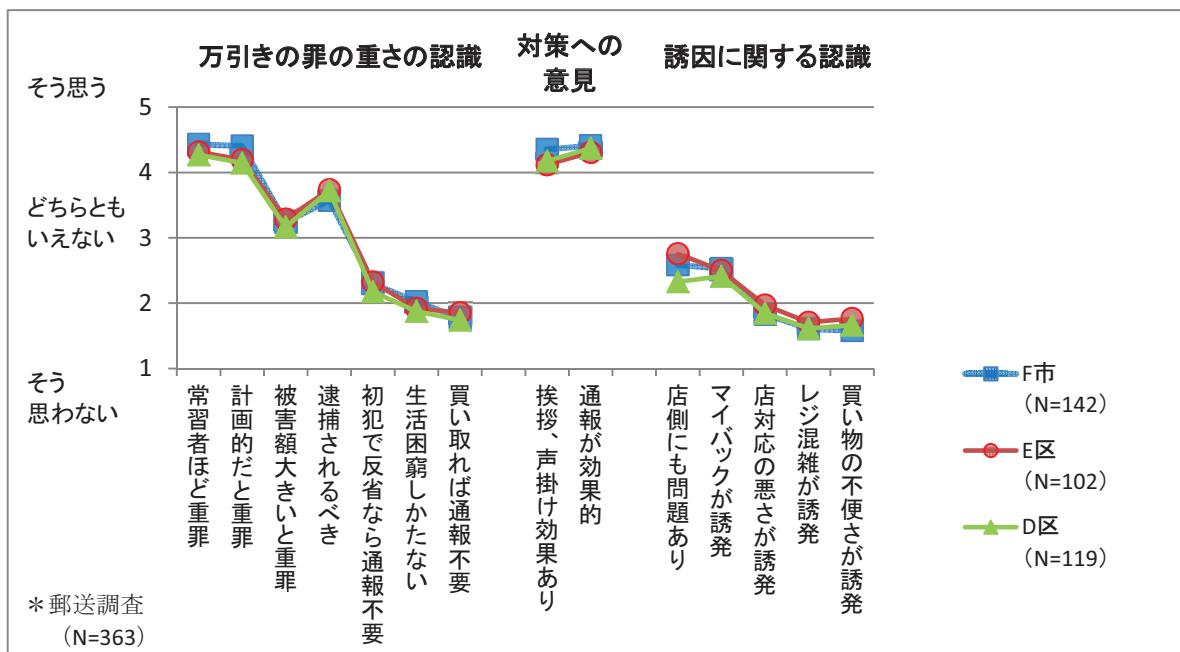


(6) 地域による差（郵送調査）

郵送調査で対象とした3地域（D区、E区、F市）の結果を比較した。この3地域では回答者属性に主に年齢層の違いによる以下のような違いがあったが、万引きに関する認識や意見の違いはまったく見られなかった（図25）。

- D区が一番若く、E区が中間、F市は高齢者層が多い。会社員が多く無職が少ない率、単身者が多い率、集合住宅率、持ち家率ともに、高い順から、D区、E区、F市。自治会加入率、平日日在宅率はこの逆で、F市、E区、D区の順。

図25 居住地域による意識差 各調査項目の平均点

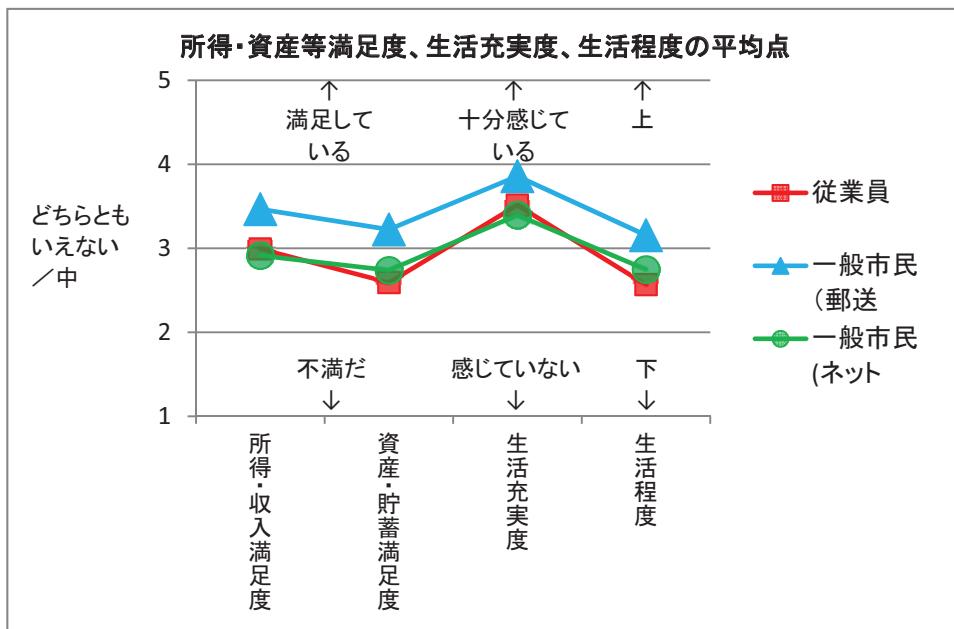


(7) 店舗関係者と一般市民との意識差

防犯責任者（第一次調査 190 人）、店舗従業員（第一次調査 451 人と第二次調査の 115 人の合計 566 人）と一般市民（インターネット調査 500 人、郵送調査 363 人）の調査結果を比較した。

回答者属性には、防犯責任者は男性が多い、従業員は若い人が多いといった違いの他、所属・収入等の満足度や生活充実度等はすべて郵送調査の一般市民が高いという違いがある（図 26）。なお、防犯責任者は、「万引き防止のための防犯責任者養成講座」の会場にて実施した調査であり、その影響による意識の差も考えられる。

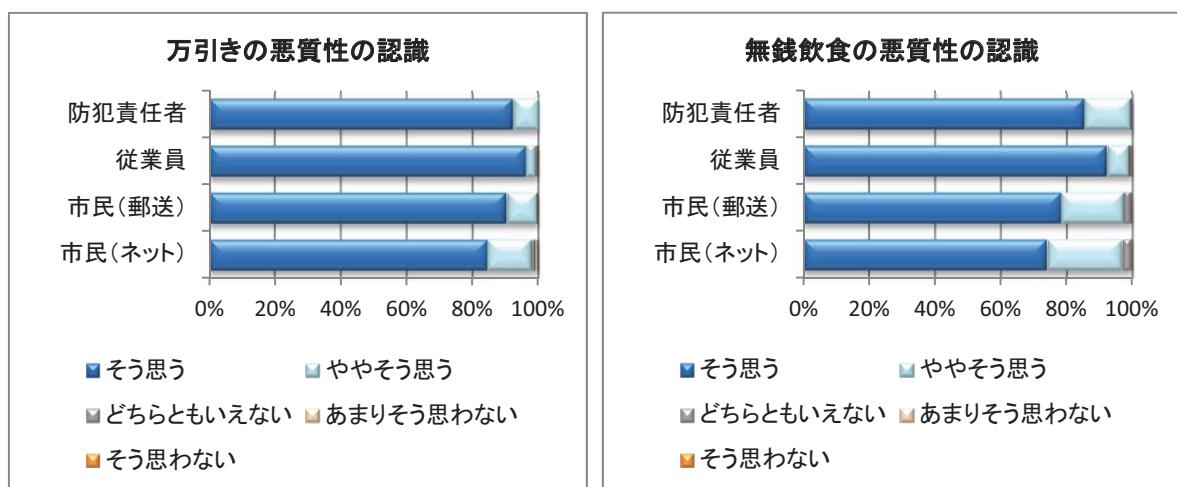
図 26 店舗関係者、一般市民の回答者属性の違い（第二次調査結果）



結果は、すべての項目において有意差があるというものだった。

万引きや無銭飲食の悪質性は、一般市民より店舗関係者の方がさらに高く認識している。

図 27 店舗関係者、一般市民の意識差～犯罪の悪質性の認識～



万引きの罪の重さは、店舗関係者（とくに従業員）が一般市民より強く認識しており、どのような状況であっても万引きの罪の大きさは変わらず逮捕されるべきと考える傾向があった。対策では、一般市民が「挨拶や声掛け」より「通報」が効果的と思っている人が多いのに対し、店舗関係者では逆転している。また、「万引きされる店舗、環境にも問題がある」という認識は、店舗関係者の方が強い。

図 28 店舗関係者、一般市民の意識差 各調査項目の平均点

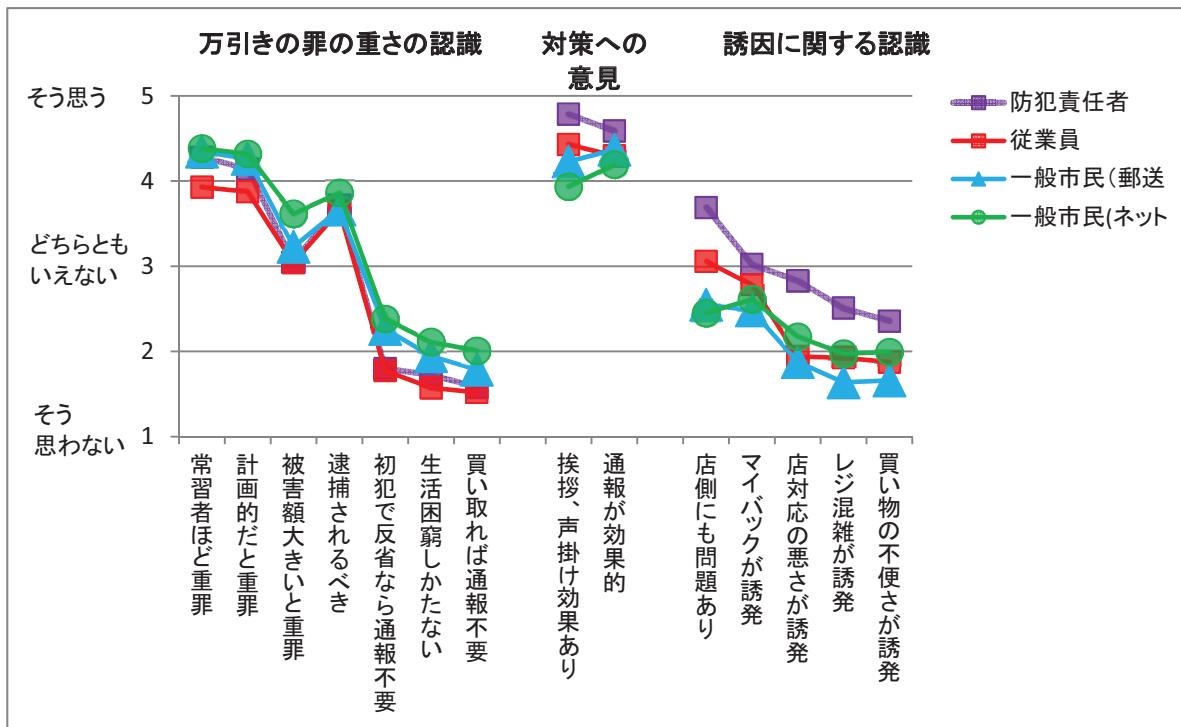
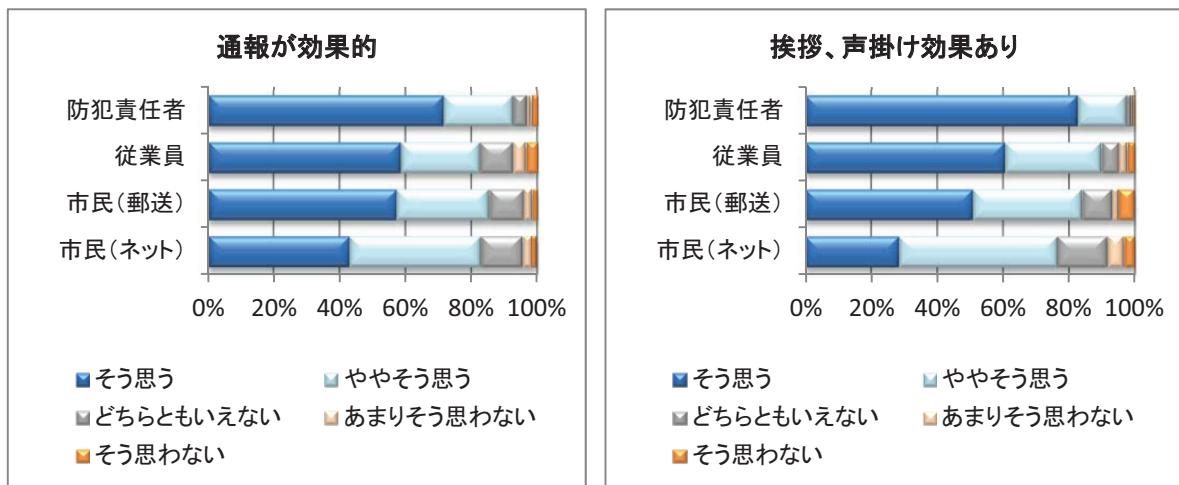
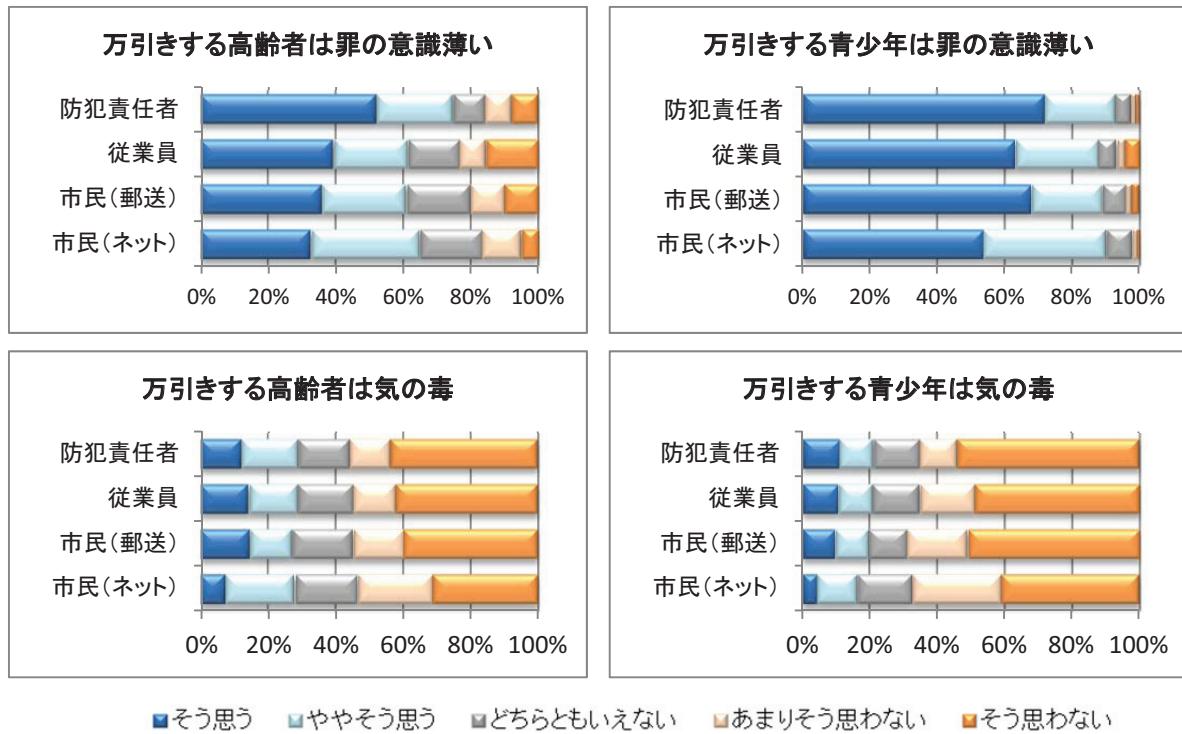


図 29 店舗関係者、一般市民の意識差 ～効果的な万引き防止対策への意見～



万引きする人は「罪の意識が薄い」と思うかは、店舗関係者の方が若干「そう思う」が多い上、あいまい回答が減る傾向があった。「気の毒」と思うかは、平均点としてはほぼ変わらないが、同じように、店舗関係者の方があいまい回答が減る傾向があった。「通報まではしなくてよい」は、店舗関係者の方が「そう思わない」人が顕著に多かった。

図 30 店舗関係者、一般市民の意識差 ~青少年と高齢者の万引きへの意識~



店舗関係者と一般市民でもっとも違っていたのは、当然ながら、万引きに関する知識である。店舗関係者、とくに講習を受けた防犯責任者がもっとも知識があるという結果であった（図 32 上）。ただし、従業員では、「万引きで検挙されている人数は少年より高齢者の方が多い」を「知らない」人は4割で、一般市民とあまり変わらない（図 31 左）。

なお、万引き防止の役割を担う主体については、防犯責任者が地域や学校、警察、自治体、店舗の役割を重視している傾向があった（図 31 右、図 32 下）。

図 31 店舗関係者、一般市民の意識差

～万引きに関する知識（左）、万引き防止の役割を担う主体への意見（右）～

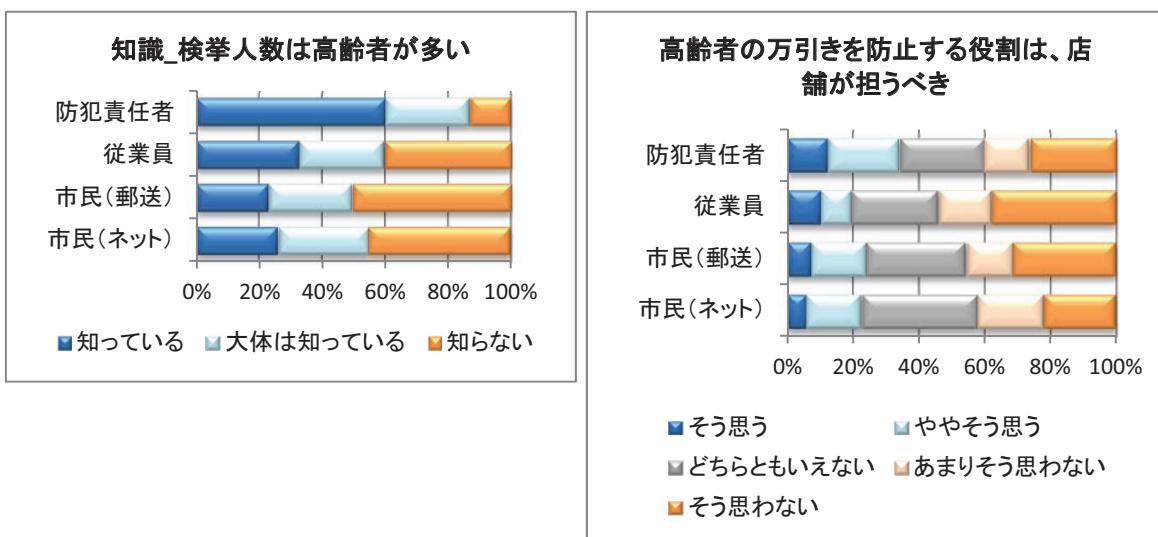
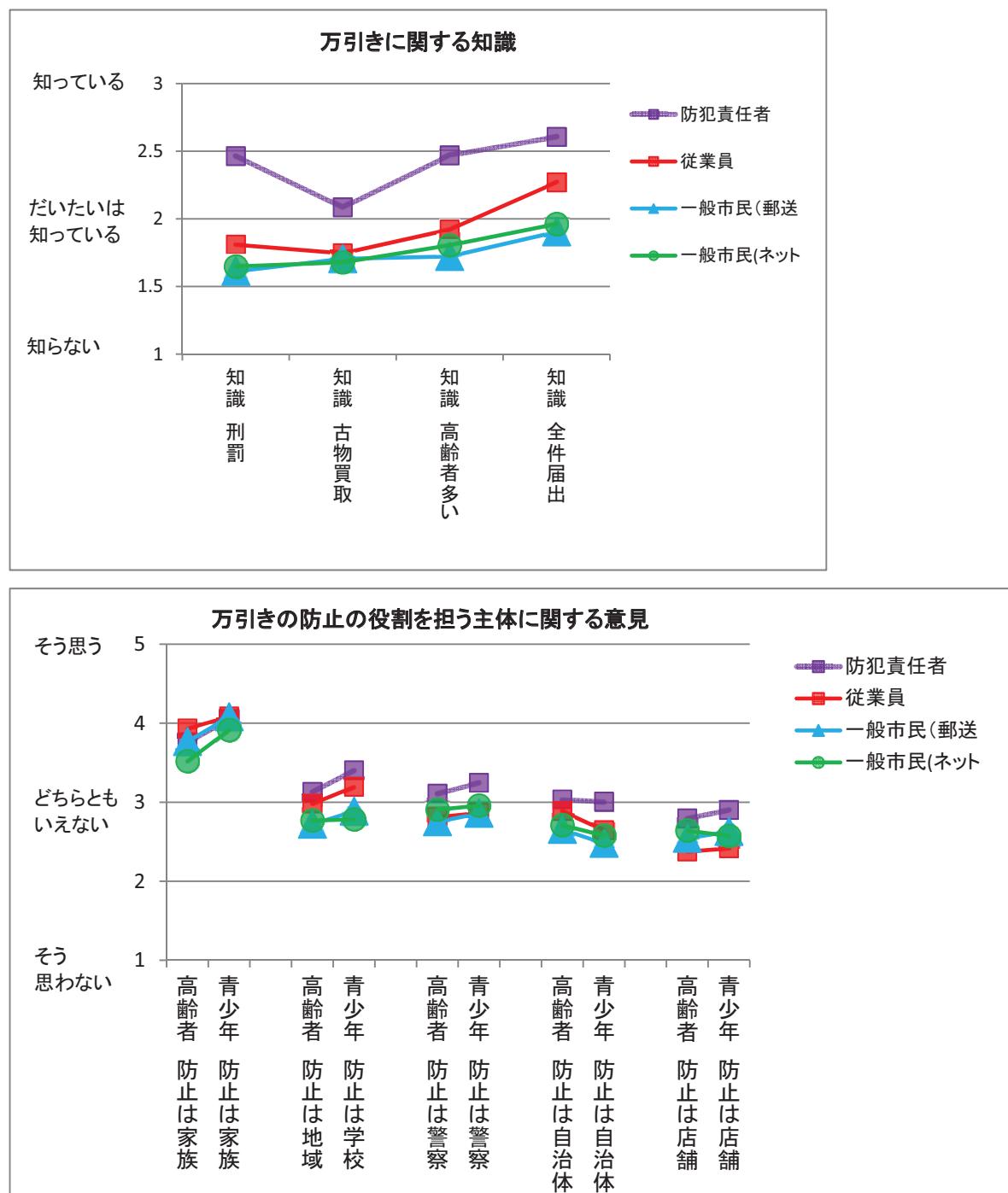


図 32 店舗関係者、一般市民の意識差 各調査項目の平均点



2.3 まとめ・考察

(1) 本調査の成果

万引きに関する市民への意識調査研究はこれまで数多く行われているが、「高齢者の万引き」をテーマにした研究事例は少ない。また、全年代の市民を対象として一定の調査方法によって行った意識調査の報告事例自体も少ないとと思われる。万引きに関する認識や意見などは何によって異なるのか、年齢、経済的困窮や生活の充実度などはどう関わっているか等を検証するにはこのような調査が必要であり、本調査は、この意味でも意義あるものと思われる。

本調査は、結果的に、ほぼ同じ調査票を用いた意識調査を、異なる調査方法にて異なる対象者に対して複数回行うことになった。つまり、複数回の追試を行うことができたわけで、その成果は大きいといえる。

今回行った複数の調査は、以下の同じ結果を示唆している。

- 万引きは悪質な犯罪であること、警察へ通報すべきであることは、性別・年齢、居住地域、調査方法による属性の違いなどに関わらず、一般市民に十分に認知されている。
 - ※ 「万引き」の犯罪としての悪質性は、ひったくりや振り込め詐欺、自転車泥棒などと比較してとくに軽んじられているということはない。
- ただし、万引きの刑罰などの認知度は低く、警察への通報は「初めての万引きで反省していれば」「安価な品物の万引きの場合、買い取れば」しなくてよいと思う人、「生活に困って万引きするのは、ある程度は仕方ない」と思う人も1~2割程度はいる。
 - ※ 言い換えれば、万引きという犯罪をおかすリスクが低く見積もられているといえる。
 - ※ 知識がない人ほど、万引きに甘い傾向がある。
- 一般市民は「万引きする青少年」には一律に厳しいが、「万引きする高齢者」には比較的同情的である。また、「万引きで検挙されている人数は少年より高齢者の方が多い」という事実は、万引きの刑罰などと合わせてあまり知られていない。
 - ※ 青少年については、罪の意識がなくいわば「ゲーム感覚」で万引きしていると思っている人が多く、高齢者については、経済的困難や孤独、認知症などが背景にあると思っている人が多い。
- 高齢者層は、「少しくらいなら万引きの罪は重くない」と考える傾向、および「万引きする高齢者」に同情的な傾向がある。
 - ※ 高齢者は「被害額が大きいほど」「常習者ほど」「計画性があるほど」

万引きの罪は重いと考える傾向がある。なお、「万引き被疑者実態調査」結果でも、高齢の万引き犯は、成人・少年に比べて「弁済すれば済む」「少額は処罰されない」「高齢者だから許される」等と思っている率が高く、今回の一般市民の意識調査結果と一致する。

- ※ 万引き犯を「気の毒」と思う傾向があるのはむしろ10代、20代の若年層であり、高齢者層はそのように思っていない。しかし、高齢者層の「万引きする青少年」に対する態度・意見と「万引きする高齢者」に対するそれを比較すると、後者に対して明らかに同情的である。
- 経済的なゆとり、生活の中で感じる充実度などは、「生活に困って万引きするのは、ある程度は仕方ない」という意識とは関連しない。
- 店員の積極的な挨拶や声掛けの万引き防止効果は誰もが実感している。
 - ※ 店舗関係者では、一般市民よりも、さらに店員の積極的な挨拶や声掛けを効果的だとする傾向が強い。
 - ※ 店員の声掛けは、「万引き被疑者実態調査」では6~8割の被疑者が「犯行をあきらめる原因」として挙げている。とくに高齢被疑者でその割合が多く、高齢者の万引きへの対策として実際に効果が高いといえる。
- 万引き防止対策の役割を担う主体としてもっとも期待されているのは「家族」であり、性別・年齢、店舗関係者か否か等による違いはない。
 - ※ 「万引き防止の役割を店舗が担うべき」という意見を持つ人は少数である。店舗関係者は、一般市民よりそのように考える傾向がみられたが、一般市民は、より「万引きは本人（および家族）の問題」ととらえているようである。

「万引き」を誰もが行い得る犯罪だとすれば、本結果からは、今後の万引き防止対策に必要なのは、店員の声掛けや警察への通報などをさらに推進するとともに、「万引きに関する正しい知識」を普及することだということができる。知識がある人ほど万引きに関する規範意識が高いが、残念ながら知識がある人が少ないのが実態だからである。

ただし、万引きは犯罪として十分に認知されているので、今回の調査結果からは「万引きは犯罪である」といった総論的な広報を行う必要があるとはいえない。一般市民に知られていないのは、より具体的な刑罰の内容、万引きの実態などであり、そのような具体的な情報を正しく伝える努力が必要だといえよう。

とくに、高齢者の万引きについては実態があまり知られていないがために、過剰に同情的な態度が生まれていると考えられる。高齢の万引き犯の検挙人数が多いこと、高齢の万引き犯の多くは実は支払い能力があり、「高齢者だから許される」「弁済すれば済む」などと思っている人も少なくないことなどは知られておらず、多くの一般市民は、漠然と逆のイメージ（生活困窮、認知症などが原因）を持っている。店員の目、声掛けと合

わせて、一般市民の目を万引きの抑止力とするには、一般市民の「高齢者の万引き」に対する認識を実態に合ったものにしていくことも必要と考える。

(2) 今後の課題

a 調査研究結果を活かして広報・啓発等の目標設定を

本調査は、「高齢者の万引き」問題の対策検討に寄与する基礎的知見を得るために一般市民への意識調査であり、具体的な万引き防止対策の効果を検討したものではない。したがって、一般市民の万引きに対する認識・意識と万引きの実態等との乖離から、今後、正しい認識・知識の普及が必要ということはいえても、認識・知識の普及が実際に万引き防止に効果があるとは明言できない。「正しい認識・知識の普及が必要」というのは今回の調査結果からの一つの考察、推論に過ぎないのである。この観点から、今後は、これまでに行ってきた万引き防止に関する具体的な啓発活動の内容を「効果」という視点から見直すとともに、どのような手段でどのような内容の広報を行うのが望ましいか（たとえば、正しい認識・知識を与えることができるか）、またそれが実際に万引き防止にどのようにどの程度の効果を發揮するのか等を長く検討していくべきだと考える。

一般に、万引き防止に限らず、防犯等に関する広報や啓発活動は、活動すること自体が目的となってしまい、具体的な活動目標をたてるよりも、効果の検証等が行われることもない場合が少なくない。いわゆる「やりっぱなし」である。「やりっぱなし」は活動のマンネリ化、形骸化につながる。効果的な活動を行うためには、計画（具体的な目標）をたて（Plan）、実行し（Do）、評価して（Check）、改善に結びつけ（Action）、その結果を次の計画（Plan）に活かすというPDCAサイクルが必要不可欠であることは論を待たない。

この章で検討した一般市民に対する調査を含めた本調査研究の成果を、このPDCAサイクルにおける「具体的な目標（何をどう評価するかという指標）」を定めるためのエビデンスの一つと位置付けて、引き続き検討を続けることが望ましいと考える。

b 「万引き被疑者に関する実態調査」（資料4,5参照）について

同調査は、万引き被疑者を取り扱った警察官が当該被疑者から得られた結果をとりまとめたものである。今後の万引き防止対策を検討する上でなくてはならない貴重な調査であり、今後も継続すべき重要な位置づけにある。ただし、万引き被疑者の実態・意識をできる限り正確に把握するためには、現状の調査には、改善すべきいくつかの課題があると思われる。

一つ目は、対象者の選定方法という調査方法の課題である。一般に、社会調査では、調査員が対象者を恣意的に選定できないよう十分に留意し、対象者選定の客觀性を担保

する。同調査では、各警察署にて毎月決まった数のデータをとりまとめることになっているが、これでは、調査担当者が調査結果のとりまとめがしやすい被疑者を対象者として選択してしまう可能性が大いにあり、このことによる結果の偏りは否めない。また、検挙人数が多い警察署と少ない警察署に求められる対象者数が同じである点も課題といえる。対象者数はすでに十分であるが、データ数が多いからといって、偏りあるサンプリングでは、得られたデータの信頼性は向上しない。たとえデータ数が少なくなっていても、調査者の主観が入らない客観的な選定方法（たとえば全数調査）、または実際の万引き被疑者の数や内訳に応じた選定方法等とすることが望まれる。

もう一つは、設問の選択肢などの調査票設計の課題である。同調査は特殊な位置づけではあるが、一般的な意識調査に当てはめると、調査としての基本的な不備も見受けられる。たとえば、犯行場所の選定理由や犯行動機などの設問では、同時に選ぶことが充分に可能な選択肢が多数用意されているにもかかわらず、ただ一つの選択肢を選ぶようになっている。これでは、対象者は最初に示された選択肢や当たり障りのない選択肢を適当に選んでしまう可能性が高いし、調査者は自分の勘に頼る可能性が高く、回答の誤差は非常に大きくなる。このような場合、一般的には、選択肢各自を1問の単独回答設問とし、「あてはまる」～「あてはまらない」など段階尺度とすることが望ましい。ただし、調査項目数が多くなりすぎると、調査者だけでなく、対象者（被疑者）にとっても大きな負担になり、いい加減な回答が増えることも考えられる。これまでに蓄積された調査結果より、現状の不備を改善しつつ、できる限りボリュームを押さえた調査設計を行うことが必要といえる。

同調査は、調査対象者である被疑者が自由に自分の意志で回答できるわけではない。対象者の「本音」を収集することを目指す調査としては非常に難しい条件下にあるが、だからこそ、可能な範囲でできる限りの対策を検討し実施していく必要があろう。

3. 店舗ごとの意識・実態調査

3.1 調査の概要と各調査の結果概要

(1) 調査の目的と概要

c 本調査の目的

本調査の目的は、店舗における効果的な万引き防止対策の検討に資する基礎的知見を得るために、万引き被害の多さに影響する店舗の特徴を把握することである。

調査を行うにあたって、これまでの知見、経験則等を参考に、以下のような仮説を立てた。

- 万引き被害が多い店舗は、顧客満足度が低い。
 - ※ 店舗への満足度が高ければ、万引きは行わないのではないか（店舗への不満が万引きの引き金になるのではないか）。
 - ※ 高齢者ほど、このような傾向があるのではないか。
- 万引き被害が多い店舗は、レジが奥にある、レジの台数が少ないなどの物理的な特徴がある。

d 調査の概要

本調査では「万引き被害の多さ」を示す店舗ごとの数値が必要である。しかし、万引き被害は暗数が多くいため、被害の実数は正確には分からぬ場合が大半であり、また仮に被害数を把握している店舗があっても、店舗や会社ごとに把握の方法が異なるなどの問題があった。そこで、今回は、調査対象店舗の責任者に対してアンケート調査を行い、万引きの年間確保人数がどの程度なのかを回答してもらうことにした。

調査にあたっては、まず、調査対象となる店舗を都内全域から抽出した。都内全域はいくつかの所管区を組み合わせた 10 地域（ブロック）に分かれる。調査対象店舗は、各ブロックから 1 警察署を抽出し、その警察署管内から抽出するという手順とした。業種は、高齢者の万引きが多い業種およびそれらと比較できる業種を念頭に、スーパー、コンビニ、洋品店、書店などとした。なお、スーパーなどでは、基本的に同規模の店舗を抽出するようにした。

調査は、各々の対象店舗に調査員が赴き、実態調査と顧客（5 人／店舗）への意識調査を行うとともに、その店舗の責任者に、責任者用の調査票（1 人／店舗）と従業員用の調査票（5 人／店舗）を渡し、記入と返送を依頼するという方法で行った。

調査時期は、平成 26 年 4 月（第一次調査）と、同年 8～9 月（第二次調査）である。第二次調査では、第一次調査の結果を受けて若干の項目修正を行ったものもあるが、調

査方法は同じである。なお、店舗責任者対象の調査については、第一次調査の回答者にも、第二次調査で変更した項目については追加調査を依頼している。

以上、本調査で行った調査は次の4種類である。

- 調査員による店舗実態調査
 - ※ 調査対象店舗数：152 店舗
- 店舗責任者に対するアンケート調査（店舗の実態と責任者の意識）
 - ※ 調査対象店舗のうち有効回答が得られた店舗数：135 店舗
- 店舗従業員に対する意識調査
 - ※ 調査対象店舗のうち有効回答が得られた店舗数：124 店舗、N=566
- 店舗顧客に対する意識調査
 - ※ 調査対象店舗のうち有効回答が得られた店舗数：116 店舗、N=580

なお、第一次調査と第二次調査は調査方法が共通なので、一般市民意識調査のように第一次と第二次を分けず、一本の調査として扱う。従業員調査は、前章に記した一般市民対象の調査と共通である。

(2) 店舗責任者に対するアンケート調査と調査員による店舗実態調査

a 主な調査項目

各調査の主な項目は表7、表8のとおりである。

表7 「店舗責任者に対するアンケート調査」調査項目

カテゴリー	細項目
店舗における万引きの多さに関する認識	万引き犯人年間確保人数（全体・少年※・高齢者※）、万引きの多さの認識（全体件数・少年の万引き・高齢者の万引き・計画的万引き・転売目的万引き・万引き被害） ※ 第二次調査で追加した項目。全体の確保人数についても第二次調査でその段階を調整した。
店舗における万引き防止対策実施状況	挨拶・声掛け、イベント・キャンペーン、商店会加入、ボランティア巡回、警備員配置、ポスター貼付、POP等表示、防犯カメラ設置、EAS設置、防犯カメラを活用して犯人確保、従業員教育、店舗独自ルール、近隣と情報共有、盗難保険などで被害補填、損失の責任は店舗責任者
万引き犯人への対応	犯人が少年の場合の対応（家庭に連絡、学校に連絡、通報）、高齢者の場合の対応（家庭に連絡、通報）、警察への通報、被害届提出、被害届における金額の多寡の考慮、被害届における犯行常習性の考慮
店舗属性	主な客層（性別・年齢）、営業時間、バイトを含む就労人員数（段階評価）
個人属性	性別、年齢、役職、勤務年数

表8 「調査員による店舗実態調査」調査項目

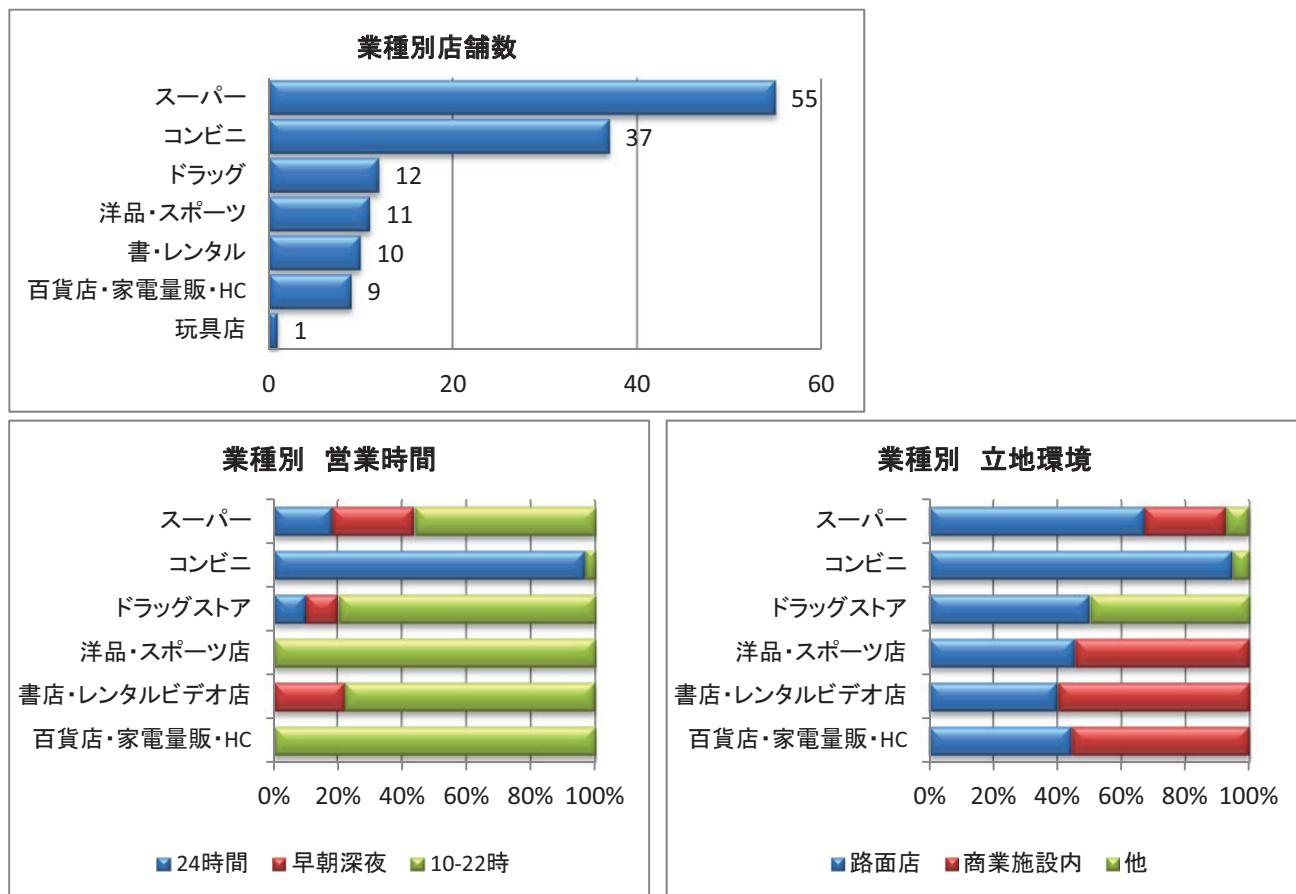
カテゴリー	細項目
店舗属性	店舗名、住所、店舗業種、立地環境、レジ位置、レジ台数
万引きに関する主観評価	（無・低・中・高・危険の5段階で評価）

b 調査対象店舗の概要

2つの調査を行うことができた計135店舗の概要は、以下のとおりである（図33、図34）。

- 業種はスーパー（41%）、コンビニ（27%）が多く、ドラッグストア（9%）、洋品店・スポーツ用品店（7%）、百貨店・家電量販・ホームセンター（7%、ホームセンターは図中では「HC」と略す）である。
- 店舗の営業時間は、概ね10時から22時までの間が半数以上（55%）で多く、次いで24時間営業（31%）、早朝から深夜までが14%である。営業時間は業種等と関連が高い。
- 店舗の立地は、独自に店舗構えている路面店が多い（67%）。テナントとしてショッピングモールなどにある店舗は24%、その他が9%である。店舗の立地も業種等と関連が高い。

図33 調査対象店舗の業種、業種別営業時間・立地（N=135）

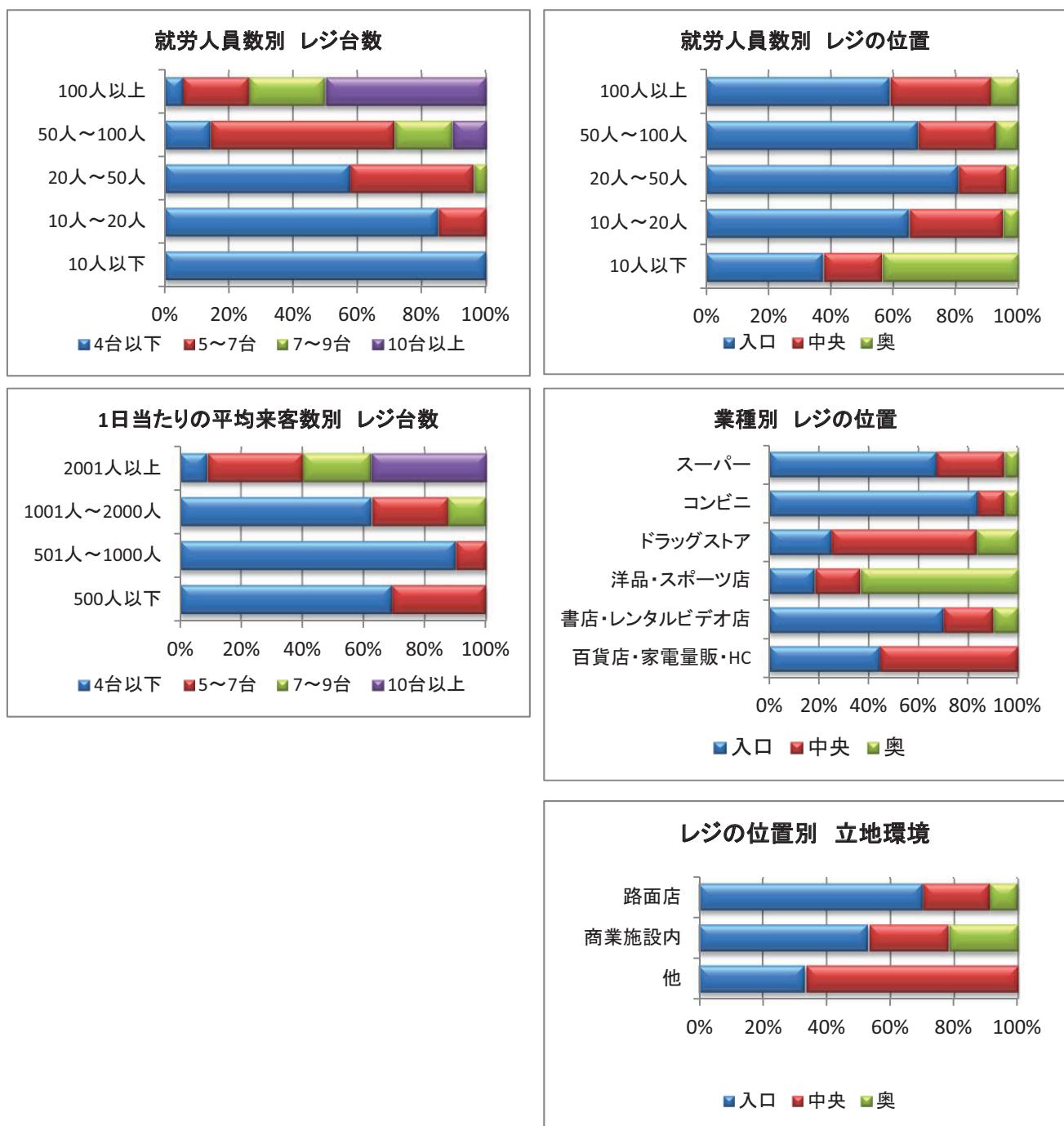


- レジの台数は、2~4台が最も多く（43%）、次いで5~7台（27%）、10台以上（15%）と続く。レジの台数は、1日当たりの平均来客数、およびアルバイトを含む店舗全体の就労人員と相関が高い。業種別でも差があり、百貨店・家電量販店・ホームセンター、スーパー等で多く、コンビニやドラッグストアで少ない。

※ 就労人員は、100人以上が25%、50～100人が21%、20～50人が19%、10～20人が15%、10人以下が12%である（無回答8%）。

- レジの位置は、入口が63%と多く、中央が26%、奥が11%である。レジの位置が奥にある店舗は、就労人員が少ない店舗、商業施設内にある店舗で多い。また、洋品店・スポーツ用品店で多い。
- ※ レジの位置は、1日当たりの平均来客数やレジの台数とは有意な関連はなかった。

図34 調査対象店舗のレジ台数、レジ位置との関連 (N=135)

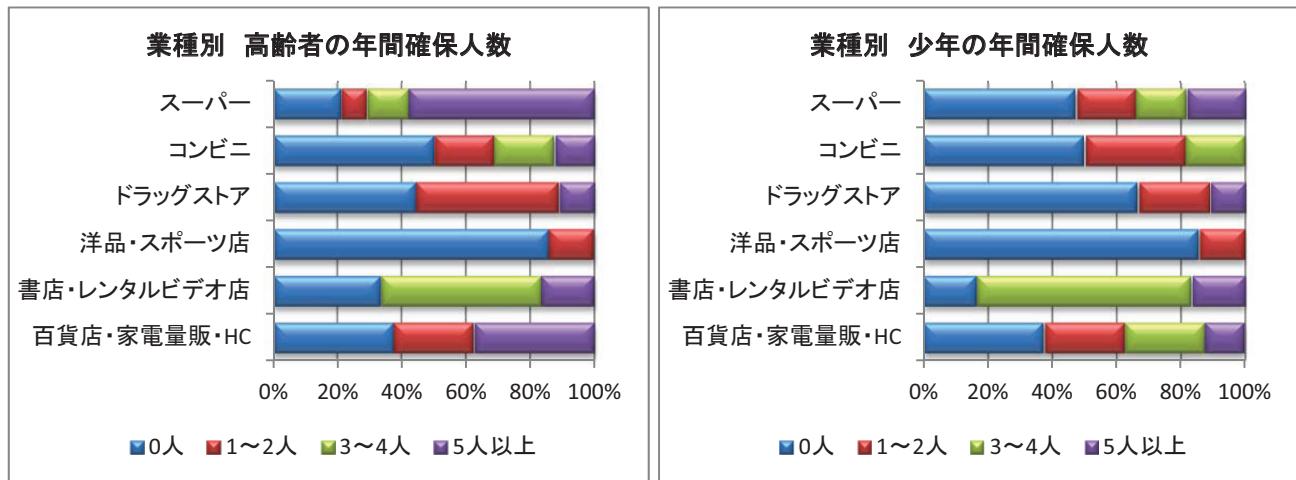


c 店舗における万引き件数等の実態、防止対策実施状況

「どのような店舗で万引きが多いか」に関する詳細な分析は3.2(p.52～)に記すが、ここでは、主要な項目の単純集計およびクロス集計結果より顕著であった傾向を大まかに述べる。

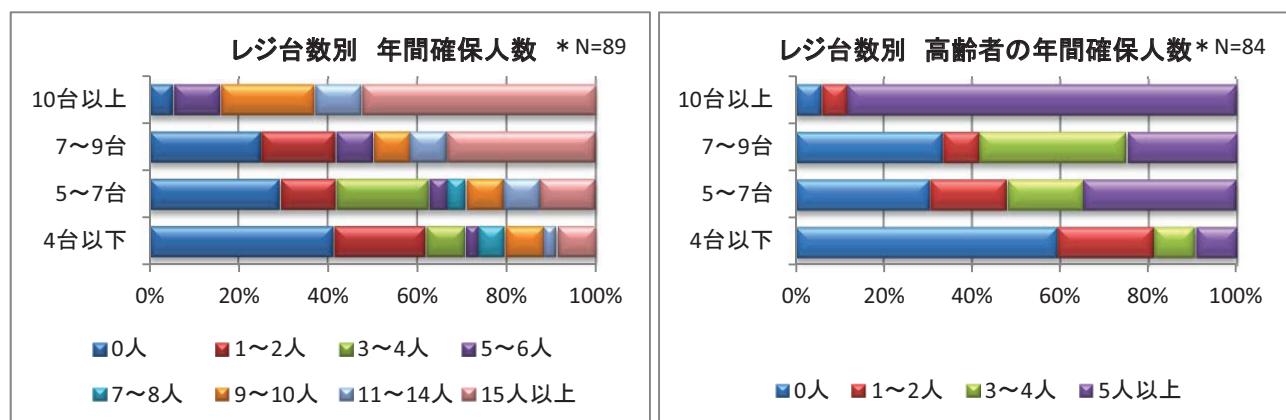
- 高齢者の万引きはスーパーで多い(図35)。

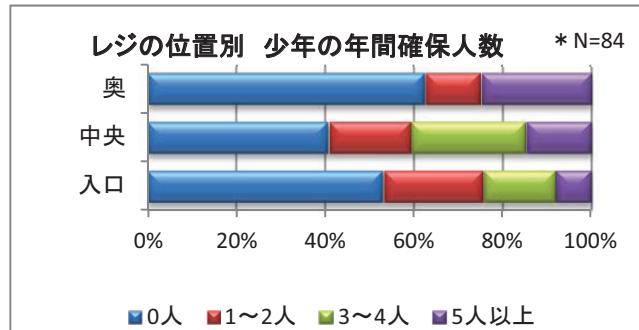
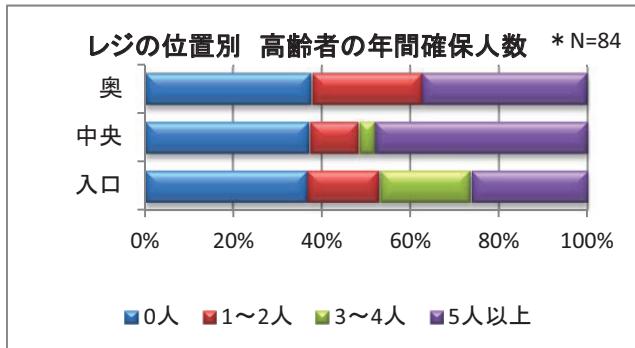
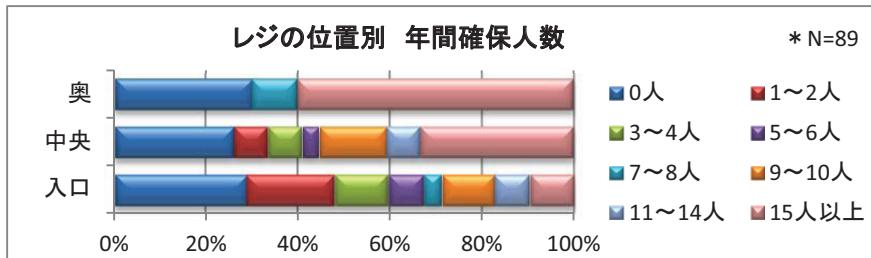
図35 業種別 年間確保人数 (回答が得られた店舗 N=84)



- 平均来客数、およびレジ台数が多い店舗で、万引き犯の年間確保人数が多い傾向があり、この傾向は高齢者の万引きが多い店舗でとくに顕著である。
 - レジ位置が、入口より中央、中央より奥の方が万引き犯の年間確保人数が多くなるが、この傾向は、少年の万引きが多い店舗で顕著である。
- ※ 少年の万引き犯はレジの位置等を気にするが、高齢者の万引き犯は気にしない傾向があると推測される。

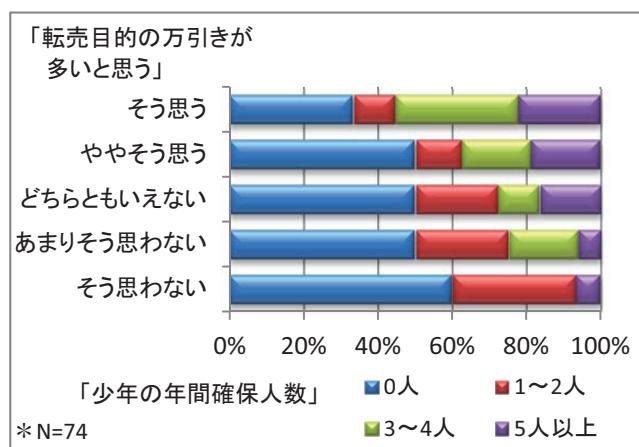
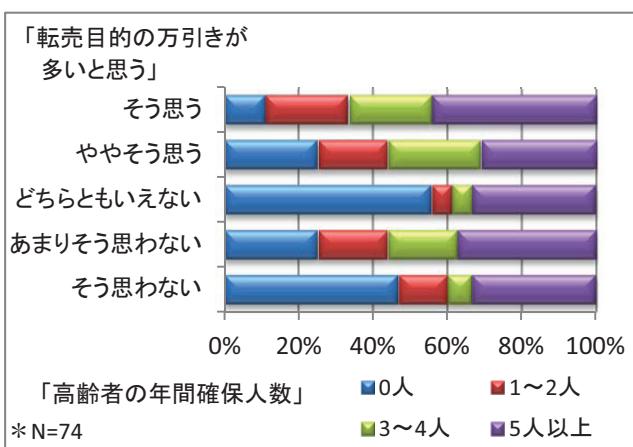
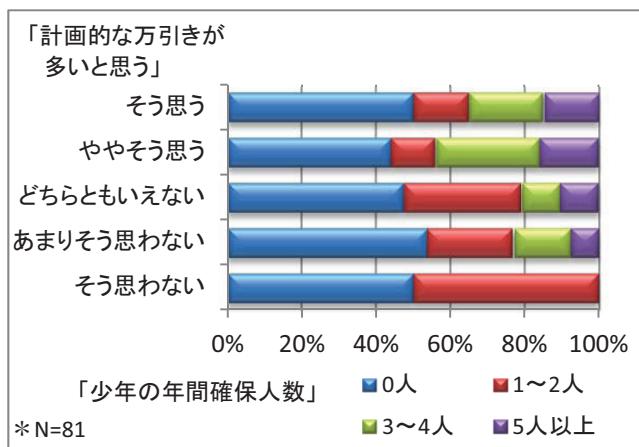
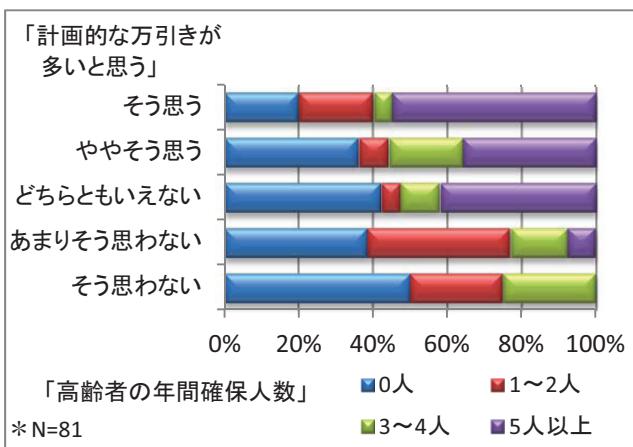
図36 レジ台数・レジ位置別 年間確保人数 (回答が得られた店舗 N=84、または89)





- 高齢者の年間確保人数は「計画的な万引きが多いと思う」との関連がみられ、少年の年間確保人数は「転売目的の万引きが多いと思う」との関連がみられる。
※ ただし、計画的な万引きが多い店舗と転売目的の万引きが多い店舗は互いに相関が高い。

図 37 「計画的万引き」の多さ・「転売目的の万引き」の多さ別 年間確保人数



対象店舗における万引き防止対策の実行状況を図38に示す。従業員による挨拶や声掛け、防犯カメラ、従業員教育などはほとんどの店舗で行われていることが分かる。なお、図39は、対象店舗の顧客に対するアンケート調査（次項(3)参照）における「従業員による挨拶や声掛け」への満足度の結果である。図38のとおり、対象店舗の責任者は「従業員による挨拶や声掛け」は行っているとしているが、図39を見ると、その顧客満足度は必ずしも高いとはいえないことがわかる。

その他、警備員を配置している店舗で万引きが多いなどの関連がみられたが、これは、警備員が意識的に万引き犯を発見・確保していることによる他、店舗の規模（平均来客数や就労人員数など）等による疑似相関とも考えられる。他には、一貫した関連は見られなかった。

図38 対象店舗の万引き防止対策実施状況（回答があった店舗：N=125）

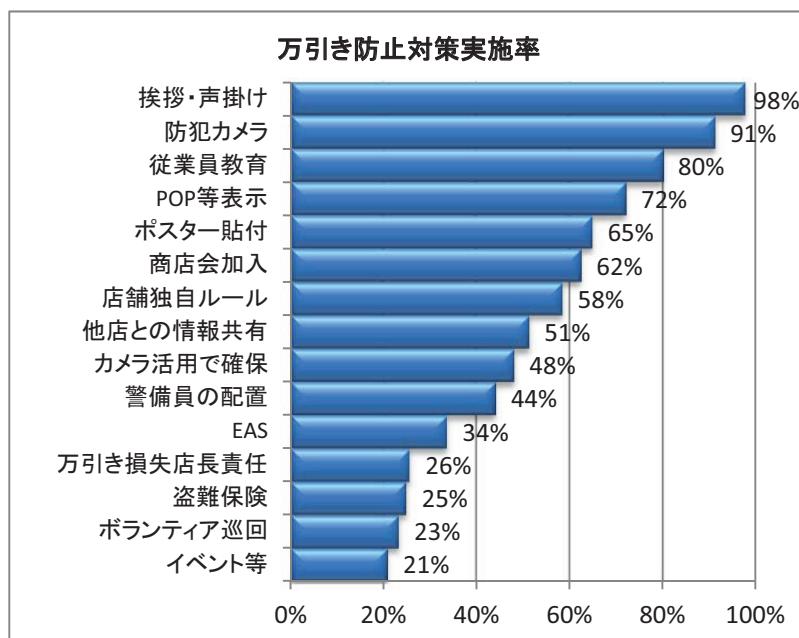
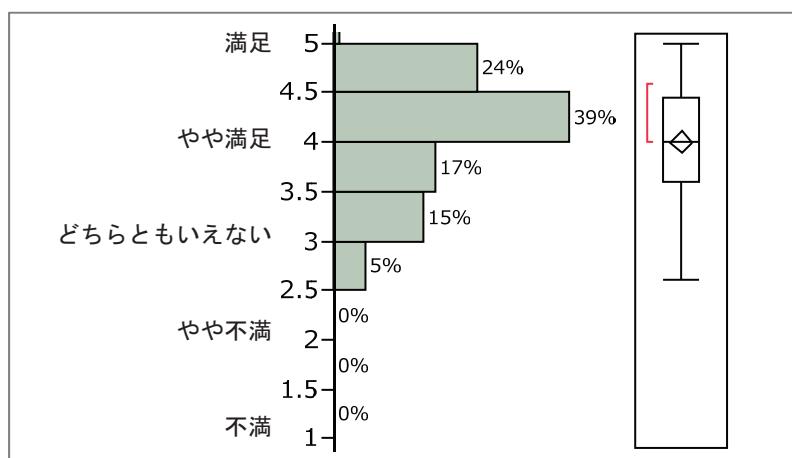


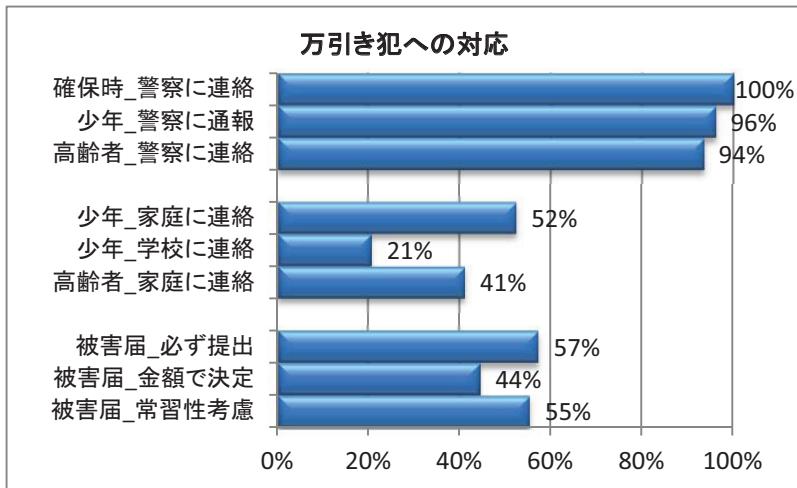
図39 対象店舗の「従業員による挨拶や声掛け」への顧客満足度

（回答があった店舗：N=114）



対象店舗における万引き犯への対応方法を図40に示す。確保時の警察への連絡はほぼすべての店舗で行われている。被害届提出の際は被害額よりも犯行の常習性の方が重視されている、「万引き犯の家庭への連絡」は少年の場合より高齢者の方が行われていない等の傾向がみえる。

図40 対象店舗の万引き犯への対応（回答があった店舗：N=102～110）



(3) 店舗従業員に対する意識調査、店舗顧客に対する意識調査

a 主な調査項目

調査項目は表9のとおりであり、第一次調査と第二次調査で同一の調査票を用いている。なお、従業員調査は、前章（2.）に記した一般市民対象の調査と共通である。

表9 「店舗顧客に対するアンケート調査」調査項目

カテゴリー	細項目
店舗に対する満足度	従業員の身だしなみ・態度、従業員の挨拶・声掛け、店内の歩きやすさ・分かりやすさ、商品の品揃え、商品の探しやすさ・分かりやすさ、混雑時の対応、会計の待ち時間、総合満足度
万引きに対する認識 (万引きの誘因)	店舗側に問題あり、マイバッグ等、買い物中の不便さ、レジの混雑、店の対応の悪さ ※ 一般市民対象の意識調査、従業員に対する調査と共に。一般論として聞いた。
個人属性	性別、年齢、店舗利用度

b 顧客、従業員による店舗の評価

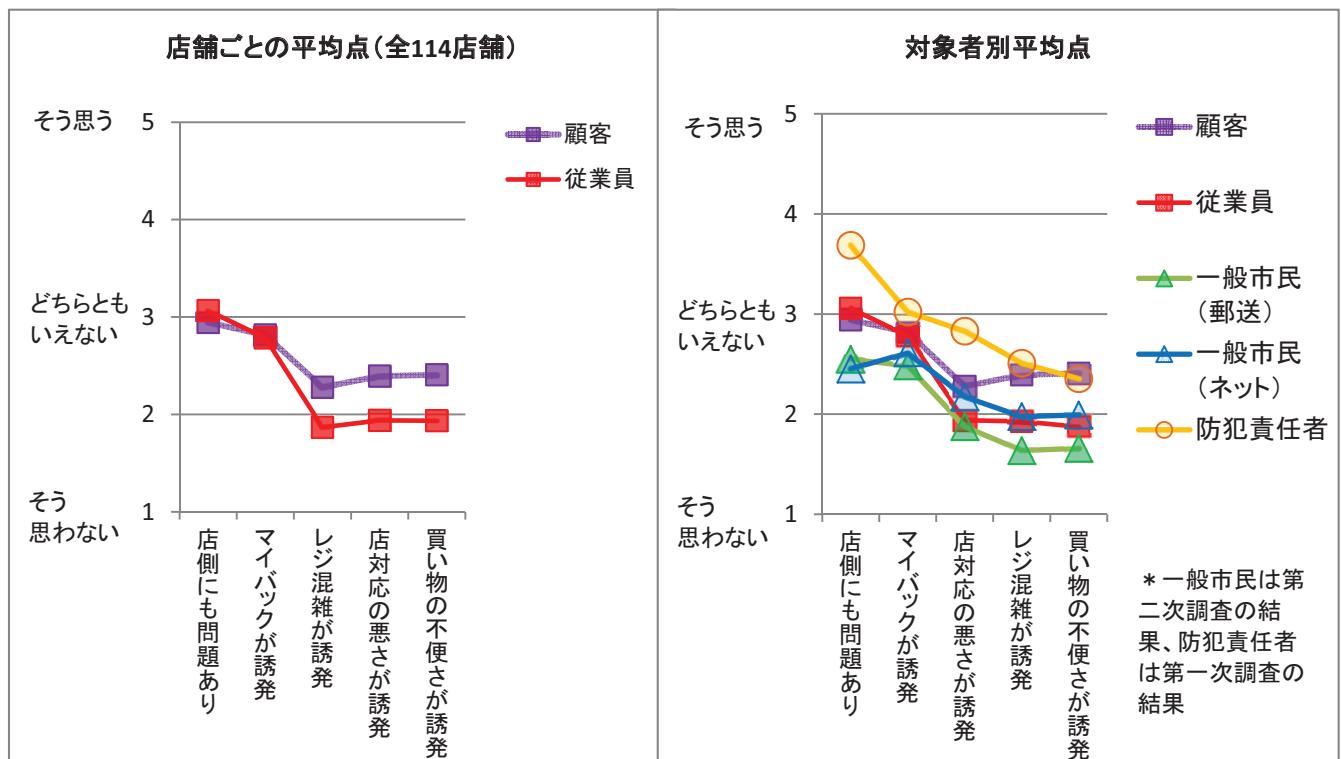
ここでは、単純集計結果等より顕著にみられた傾向を大まかに述べる。

(「どのような店舗で万引きが多いか」に関する分析は3.2に示す。)

- 顧客と従業員の「万引きに対する認識（万引きの誘因）」を店舗ごとの平均値で比較すると、同じ店舗であっても、従業員より顧客の方が「店舗側の要因（レジの混雑、店の対応の悪さ、買い物中の不便さ）が万引きを誘発している」と考える傾向が見られた（図41左）。

※ ただし、「万引きをされる店側にも問題がある」という認識には差がない。
- 店舗ごとではなく、全従業員566人の平均値と全顧客580人の平均値を比較しても同じことがいえる（図41右）。

図41 万引きに対する認識 項目ごとの平均点1



- 顧客の「店舗に対する満足度」の店舗ごとの平均値と「万引きに対する認識」の店舗ごとの平均値（「マイバッグが誘発」を除く）には、一定の関連があった。顧客満足度が低い店舗ほど、顧客が万引きの誘因を店側・環境側に求めるという関連である（表10）。

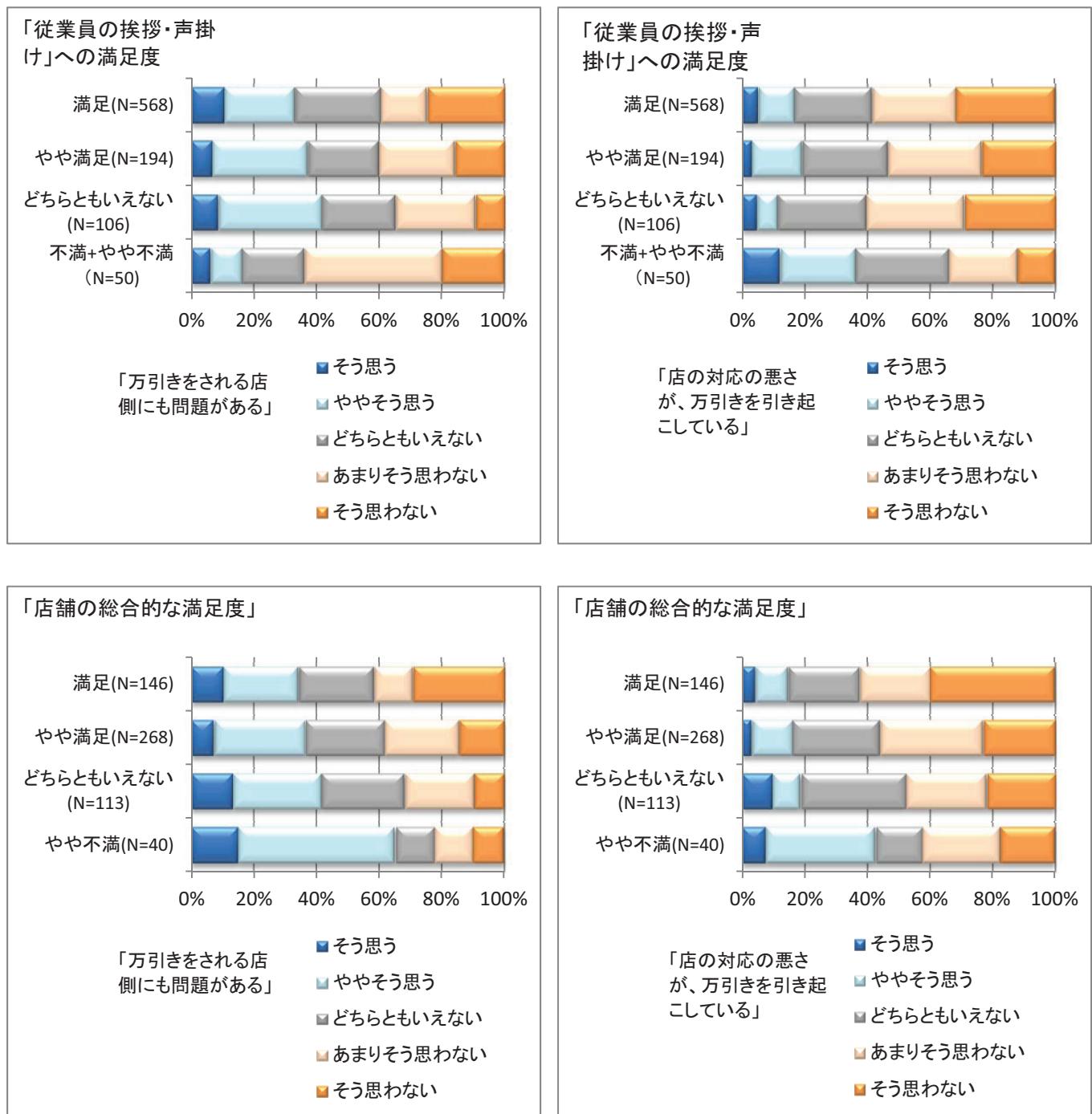
表 10 店舗ごとの顧客データの平均値の相関係数^{*} 店舗に対する満足度×万引きに対する認識

店舗ごとの顧客データ平均値の相関係数 *太字:有意差あり		店舗に対する満足度(満足度が高い方が+) 店舗別平均点							
		な従業員の身だしなみ・態度	つ従業員掛けあいさ	ささ店内分の歩きやすさ	商品の品揃え	ささ商品分の探しやすさ	混雑時の対応	会計の待ち時間	満足度の総合的な
(そ う 思 う 側 が 店 萬 舗 引 別 き 平 均 誘 因 +)	万引きをされる店側にも問題あり	-0.14	-0.24	-0.09	-0.10	-0.19	-0.18	-0.15	-0.21
	マイバック等が万引きを誘発	0.03	-0.08	0.16	0.03	0.13	0.06	0.09	0.06
	買い物中の不便さが万引きを誘発	-0.09	-0.18	-0.11	-0.06	-0.03	-0.06	0.01	-0.24
	レジ混雑が万引きを誘発	-0.14	-0.22	-0.12	-0.05	-0.04	0.01	0.02	-0.13
	店の対応の悪さが万引きを誘発	-0.20	-0.21	-0.16	-0.19	-0.18	-0.13	-0.10	-0.29

※ 「相関係数」の説明は p. 26 を参照のこと。表 6 の値はすべてマイナスなので、店舗に対する満足度と万引きの誘因の認識には負の相関があることが分かる。

- 表 10 に示したとおり、店舗ごとの顧客データ平均値で有意差があったものは以下のとおりである。
 - ※ 「従業員の身だしなみ・態度」または「商品の品揃え」への顧客満足度が低い店舗では、「店の対応の悪さが万引きを誘発している」と顧客に認識される傾向がある。
 - ※ 「従業員の挨拶・声掛け」への顧客満足度が低い店舗では、「万引きされる店側にも問題がある」「レジの混雑や店の対応の悪さが万引きを誘発している」と顧客に認識される傾向がある。
 - ※ 「商品の探しやすさ、分かりやすさ」への顧客満足度が低い店舗では、「万引きされる店側にも問題がある」と顧客に認識される傾向がある。
 - ※ 総合的に顧客満足度が低い店舗では「万引きされる店側にも問題がある」「買い物中の不便さや店の対応の悪さが万引きを誘発している」と顧客に認識される傾向がある。
- 以上は店舗ごとの平均値であるが、全顧客 580 人のデータとしてみても同じことがいえる（図 42）。店舗に不満を持っている顧客は、万引きの誘因をその店舗側に求める傾向があるといえる。

図42 顧客の万引きに対する認識 項目ごとの平均点



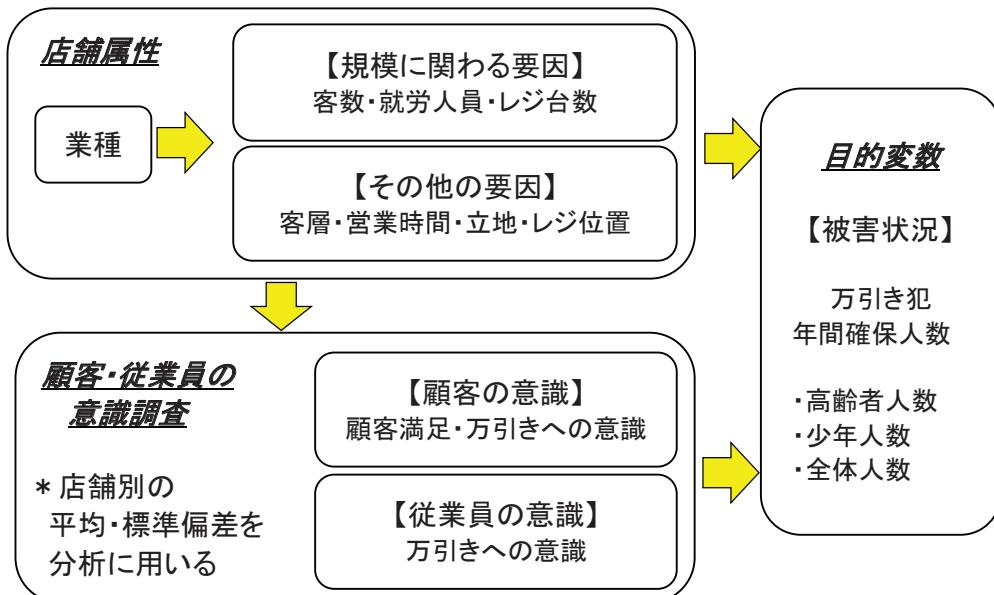
3.2 調査分析結果

(1) 分析方針

a 基本的枠組み：分析対象変数間の因果順序の設定

本章の分析における基本的な枠組みを図 43 に示す。矢印が意味する関係は、「原因 X → 結果 Y」という因果関係、ないしは、「X によって Y が違う」という条件付き分布を考えるときの自然な順序関係を表す。【被害状況】を表す変数として、店舗責任者調査にて把握した「万引き犯年間確保人数」を目的変数として、様々な要因の影響を把握するため、下図の枠組みに従って、次のように段階的に要因分析を進める。

図 43 分析の基本的枠組み



① 業種のみを説明変数とする分析

まず基本的な情報として、「どんな業種の店舗で万引きが多いか」を把握するため、業種のみを説明変数とした分析を行う。

② 店舗属性（業種を含む）を説明変数とする分析

次に、業種以外の様々な店舗属性を説明変数に追加した分析を行う。業種も説明変数に取り入れているため、「業種を揃えて比較した場合の、客数・レジ位置等の店舗属性による違い」が把握される。逆に、業種の要因効果は「業種以外の店舗属性を揃えて比較した場合の、業種による違い」を表す。

なお、図 43 では、店舗属性を「規模に関わる要因（客数・就労人員・レジ台数）」と「その他の要因」に分類している。本調査の目的変数は「年間確保人数」という生の発

生度数であるが、店舗の規模が大きければ確保人数が多くなるのは当然の関係と思われる。もしも度数ではなく「発生率」を考えるならば、何らかの規模を表す「分母」が必要である。発生率の分母となる要因のことを「スケール因子」と呼ぶことがある。図中の「規模に関わる要因」は、スケール因子の候補と考えている。

③ 顧客・従業員の意識を説明変数に追加した分析

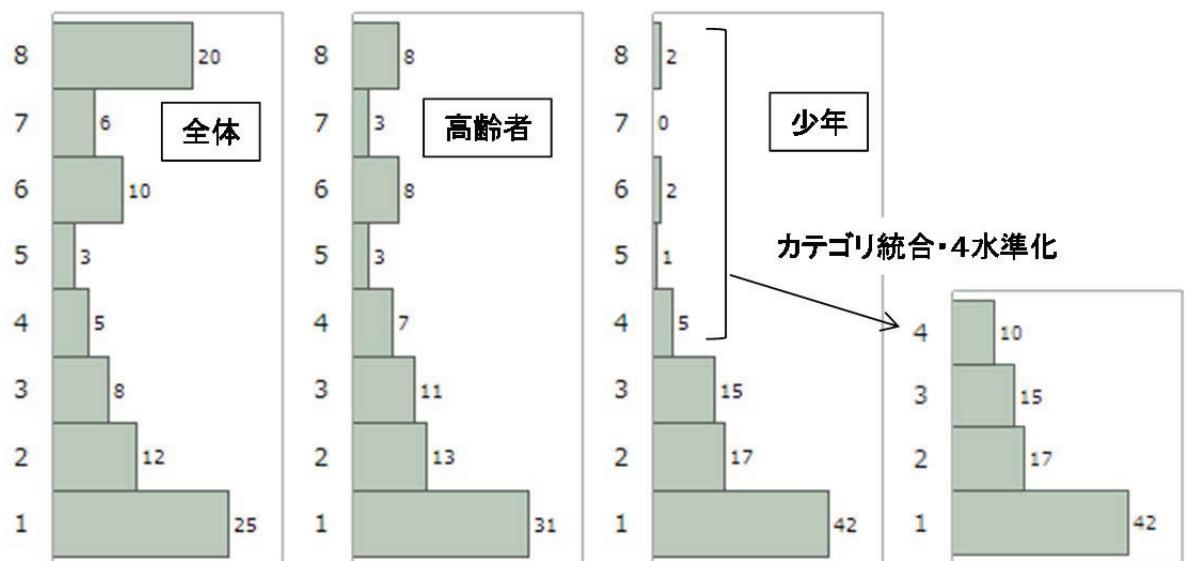
最後に、顧客・従業員への調査で把握した「顧客の意識（顧客満足・万引き意識）」「従業員の意識（万引き意識）」を、説明変数の候補として②の分析モデルに追加した分析を行う。これらはいずれも5段階評価（満足度（不満～満足）・万引き意識（そう思わない～そう思う））で測定している。1つの店舗につき複数名のデータがあるため、分析においては生データではなく、店舗別の平均値および標準偏差（ばらつき）を説明変数の候補として用いる。

なお、顧客・従業員とも、計画サンプルとしては1店舗あたり5名であるが、無効回答や該当者不足（主に従業員）のため、有効回答者数2～4という場合も若干生じている。そこで標準偏差の算出方法としては、標本サイズによらない母分散の不偏推定値とされる「不偏分散（平均からの偏差平方和を（標本サイズ-1）で除する）」の平方根を採用する。

b 要因分析の方法

目的変数である万引き犯の年間確保人数は、全体・高齢者・少年とも8水準（0人/1～2人/3～4人/5～6人/7～8人/9～10人/11～14人/15人以上）の順序カテゴリカル尺度として測定されている。その度数分布を図44に示す。

図44 万引き犯の年間確保人数 度数分布



ある程度の水準数（経験的には4ないし5以上）の順序カテゴリカル尺度を目的変数とする場合、素直な分布形状であれば各水準に等間隔な得点（1, 2, 3, …）を与えて量的変数として扱い、その期待値を説明変数の関数としてモデル化する「重回帰分析」を行うのが定石である（参考文献1, 2参照、p. 55記載）。ところが確保人数の分布は歪みが大きく、いわゆる「天井効果」「床効果」も生じている。そこで重回帰分析を適用するのは危険と判断し、分析方法としては「順序ロジスティック回帰分析」を採用する。これは順序カテゴリカル尺度における各水準の生起確率を説明変数の関数としてモデル化するものである。

なお、「少年」確保人数については、人数が多い側の水準（4～8）の度数が小さすぎるので、これら水準を統合して4水準化した上で分析に用いる。このような水準併合は説明変数においても適宜行う。

「②店舗属性を説明変数とする分析」及び「③顧客・従業員の意識を説明変数に追加した分析」においては説明変数の候補が多数あり、それらの中には効果のない変数も含まれているであろうから、モデルに取り入れる変数は「ステップワイズ式変数選択」により取捨選択し、探索的に分析を進めることとする。

c 順序ロジスティック回帰分析のしくみ

ここでの分析に用いる順序ロジスティック回帰分析のしくみを簡単に説明しておく（参考文献2参照、p. 55記載）。

まず、工業分野における「不良率」を例に、0～100%の間の値をとるデータ（収率）に対する要因効果の関数形を考えてみる。現在の不良率が10%として、不良率を10%から5%に減らす効果のある対策Aと、10%から3%に減らす効果のある対策Bを同時に行つたときの不良率はどれほどになるだろうか。

Aの効果を-5%、Bの効果を-7%と考えて効果を加算し、改善効果を-12%と見積もると、対策後の不良率は負の値となってしまって理屈にあわない。Aは不良率を1/2にする対策、Bは3/10にする対策と考えて、 $1/2 \times 3/10 = 0.15$ 倍と乗法的に効果を見積もり、対策後の不良率を1.5%と予測するのが合理的である。

しかし、現在の不良率が90%程度のときに数%程度の改善を行う場合は、100%に足らない分（つまり良品率）が何倍になるかを乗法的に考えるのが合理的である。さらに、不良率が50%前後の場合の数%の改善効果は、乗法的ではなく加法的に考えるのが合理的である。

ここで、収率 p ($0 \leq p \leq 1$) に対し、 $L(p) = \log\{p/(1-p)\}$ (\log は自然対数) で表される「ロジット変換」を施す。 $L(p)$ は p の単調増加関数であり、 p が0に近いとき $L(p) \doteq \log(p)$ 、1に近いとき $L(p) \doteq \log(1-p)$ と近似でき、0.5付近では直線的に動く ($L(p) \doteq 4(p-0.5)$ と近似できる)。従って、0～100%の全範囲にわたって、変換後のロジットに対しては、効果を加法的に扱える。

収率 p に対する要因 X_1, X_2, \dots の効果を、ロジット $L(p)$ に対する線形回帰式を用いて

$$L(p) = \text{定数項} + f_1(X_1) + f_2(X_2) + \dots \quad (\text{式 } 1)$$

と、モデル化する分析を「ロジスティック回帰分析」と呼ぶ。

各項 $f_i(X_i)$ を X_i の「要因効果」と呼ぶ。通常、量的変数の場合は（適当に変換した上で）1次式つまり $f_i(X_i) = \beta X_i$ という形の項、質的変数の場合は水準別の要因効果 ($L(p)$ をどれだけ上げ・下げするか) を表す値が入る。このあたりは量的変数に対する重回帰分析と同様である。

ここで、目的変数 Y が順序カテゴリカル尺度である場合の分析モデルを考える。それには、 Y が水準 k 以下の値をとる確率（つまり累積確率）を $p(k)$ として、 $p(k)$ のロジット $L[p(k)] = \log[p(k)/(1-p(k))]$ に対して、次のようなモデル化を行う。

$$L[p(k)] = \text{定数項}(k) + f_1(X_1) + f_2(X_2) + \dots \quad (\text{式 } 2)$$

Y の水準数を K として、累積確率 $p(k)$ は $p(1)$ から $p(K-1)$ まで考えられる。それらを目的変数として $(K-1)$ 本のロジスティック回帰分析を別々に行えば、定数項以外の部分も異なる $(K-1)$ 本の予測式が得られることになる。しかし式2は、定数項以外の部分は全く同じで定数項のみ異なる $(K-1)$ 本の予測式を表す。累積確率は k が大きいほど大きいはずであるから、要因 X_1, X_2, \dots がとりうる全ての値において、 $L[p(k)]$ は k に対して必ず単調増加でなければならない。 $y=a+bx$ という簡単な1次式が表す直線を考えても、係数 b が異なる複数の直線は必ず交点を持つ（つまり x により y の大小が逆転する）。下線部の性質を担保するためには、定数項以外の部分は同じという制約が必要となる。

なお、下線部と式2より、定数項 (k) は k に対して必ず単調増加となり、定数項 $(k-1)$ と定数項 (k) の差はロジット軸上における水準 k の「幅」を表す。

また、 $p(k)$ は水準 k 以下の値をとる確率であるから、順序ロジスティック回帰分析の要因効果は、「負側（小さい値）=目的変数 Y の水準を上げる」を意味する。この点は結果を読む際に注意を必要とする。

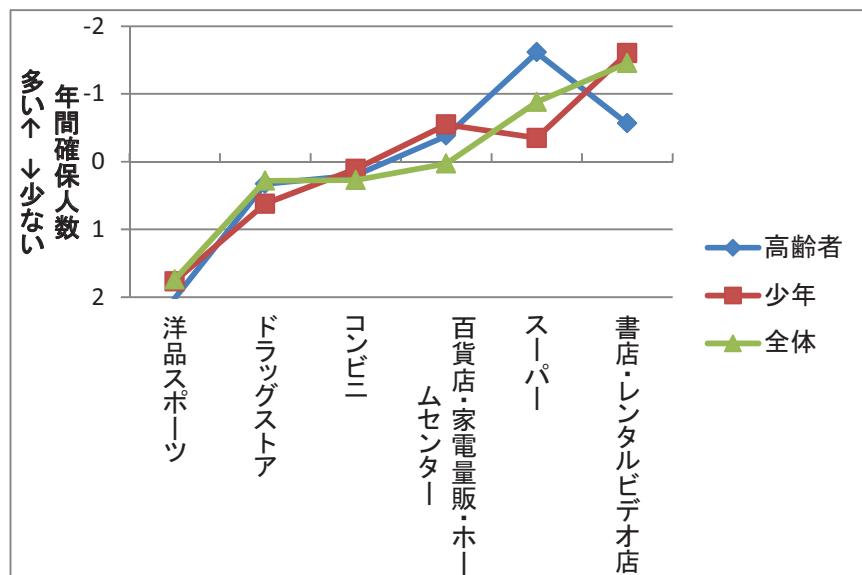
*参考文献 1：小島隆矢「Excel で学ぶ共分散構造分析とグラフィカルモデリング」オーム社、2003

*参考文献 2：日本建築学会編「住まいと街をつくるための 調査のデザイン－インタビュー／アンケート／心理実験の手引き－」オーム社、2011

(2) 店舗業種による年間確保人数の違い

業種を説明変数、年間確保人数（高齢者、少年、全体の3通り）を目的変数とした順序ロジスティック回帰分析を行った結果、得られた業種による要因効果をまとめ図45に示す。順序ロジスティック回帰分析の要因効果は、「負側（小さい値）＝目的変数の水準を上げる」を意味するので、わかりやすさのためグラフの縦軸を反転し、「上方に打点＝確保人数が多い」と読めるようにしている。

図45 業種による年間確保人数の要因効果



3通りの分析結果を比較すると、確保人数が少ない業種にはほとんど違いがみられず、確保人数が多い業種には違いがあるという結果である。確保人数が特に少ない業種は「洋品・スポーツ店」であり、次いで「ドラッグストア」「コンビニ」が少ない。確保人数が多い業種は「百貨店・家電量販・ホームセンター」「スーパー」「書店・レンタルビデオ店」である。その中でも、高齢者は「スーパー」、少年および全体では「店・レンタルビデオ店」が特に多いという違いがある。

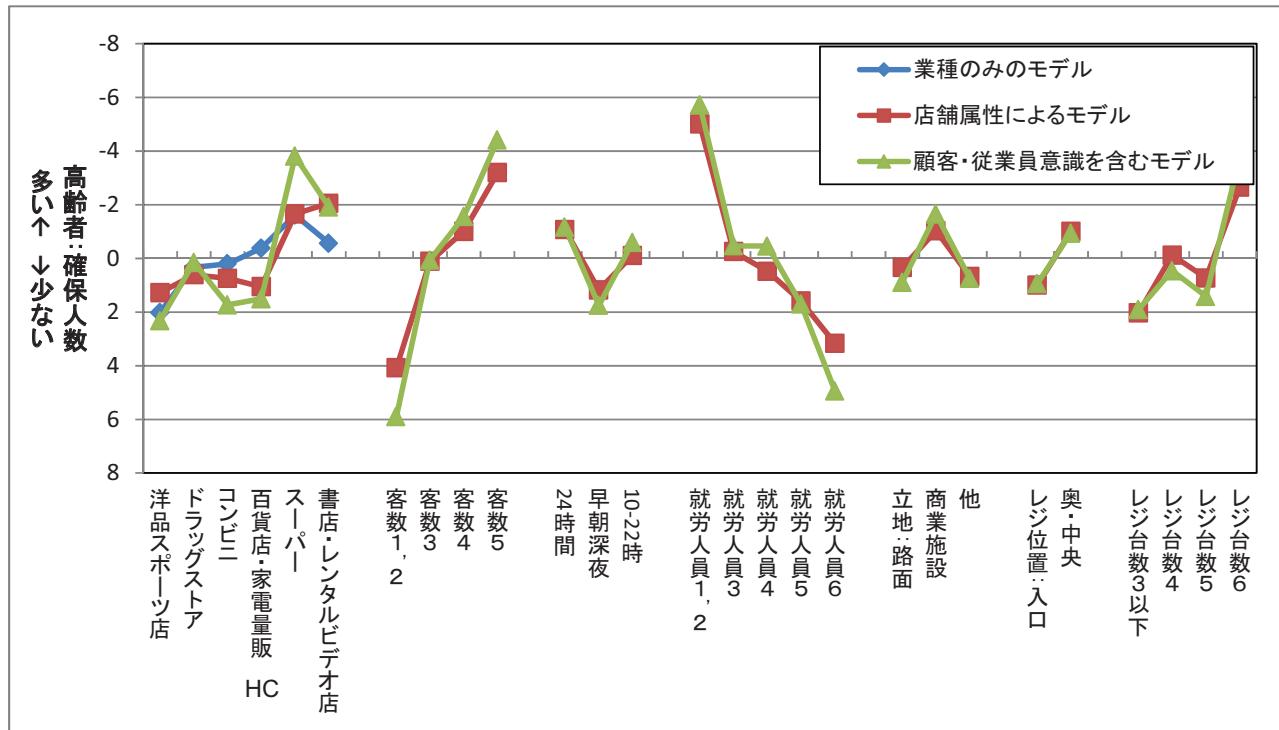
(3) 高齢者の年間確保人数に影響する要因

a 店舗属性による要因効果

高齢者の年間確保人数を目的変数とした順序ロジスティック回帰分析における、店舗属性の要因効果を図46に示す。

前節で説明したように「①業種のみを説明変数とする分析」、「②店舗属性を説明変数とする分析」、「③顧客・従業員の意識業種のみを説明変数とする分析を説明変数に追加した分析」という3通りの分析を行っているため、業種については3通り、その他の店舗属性については②および③の2通りの分析結果が得られているが、図46ではそれらをまとめて示している。

図46 店舗属性による「高齢者の確保人数」の要因効果



まず、業種について考察する。他の店舗属性や顧客・従業員の意識を取り入れることにより、業種の効果は、確保人数の多い「スーパー」「書店・レンタルビデオ店」と、確保人数が少ない他の業種というように2極化したようである。「他の業種」の間にはあまり差がなくなったように見えるが、これら業種間の差がここで取り入れられている他の店舗属性によって説明されているということを意味する。

次に、規模に関わる店舗属性について考察する。「客数」が多いほど確保人数も多くなっている。また、「レジ台数」についても概ねそのような傾向である。これらは「発生率」を考えるときの分母となりうる動きをしており、スケール因子と考えられる。

しかし「就労人員」は逆の動きをしており、スケール因子ではない。むしろ「客数の割には店員が少ない」 = 監視の目が届きにくい、という店舗が高齢者の確保人数が多い状況を作っているものと推察される。

その他の要因に関して、仮説通りの効果が得られたのは「レジの位置」である。レジが出入口にない店舗は、精算後に店内を通る際に万引きの機会があるため、確保人数が多くなるものと推察される。

その他、「立地」については路面店より商業施設内の店舗の確保人数が多く、「営業時間」については、確保人数が少ない順に、「早朝から深夜」 < 「10時～22時」 < 「24時間」となっている。

b 顧客・従業員の意識の要因効果

高齢者の年間確保人数を目的変数とした順序ロジスティック回帰分析で、「③顧客・従業員の意識を説明変数に追加した分析」において、最終的に採用された顧客・従業員の意識項目およびその要因効果を表11に示す。

採用された要因はいずれも店舗ごとの5段階評価平均値（不満・そう思わない(1)～満足・そう思う(5)）であり、これらは小数点以下の値をとる量的変数である。その要因効果は説明変数の値に回帰係数を乗じた1次式の項として目的変数のロジットに影響を与える関数形となる。前述のように、ロジットとは「ある水準以下の値をとる累積確率」であるので、結局、負の係数は「目的変数に対して正の影響（Xが大→Yが大）」、正の係数は「目的変数に対して負の影響（Xが小→Yが大）」を表している。

表11 顧客・従業員の意識の「高齢者の確保人数」の要因効果

分類	要因	係数	不満側が 万引き多い	↔	満足側が 万引き多い
顧客	品揃え満足	顧客平均	-2.04		
満足	総合満足	顧客平均	2.60		

分類	要因	係数	否定側が 万引き多い	↔	肯定側が 万引き多い
万引き 意識	店側にも問題	顧客平均	2.01		
	マイバックが誘発	顧客平均	-1.76		
	レジ混雑が誘発	顧客平均	1.86		
		従業員平均	-3.34		
	店対応悪さが誘発	顧客平均	-1.27		
		従業員平均	1.67		

以下、高齢者の確保人数が多い店舗の特徴を考察する。

- 「品揃え満足度」が高い店舗
 - ※ 品揃えが豊富であると万引きの機会が増える、のであろうか。
- 「総合満足度」が低い店舗
 - ※ 店舗への不満が万引きの引き金となる、という仮説を支持する。
- 「店側にも問題がある」と顧客には思われていない店舗
 - ※ 万引きは犯人側が悪い、と考えるような客層（良識派？）が多い店舗。高齢者が日常的によく使う店、ということであろうか。そうだとすると、この要因が増やすのは「高齢者の万引き発生率」ではなく「高齢者の客数」であり、スケール因子のような働きをする要因といえる。
- 「マイバッグが誘発する」と顧客が思う店舗
 - ※ マイバッグの使用者は高齢者が多いということを考えると、これも「高齢者の客数の多さ」に関与する要因であり、スケール因子である可能性がある。

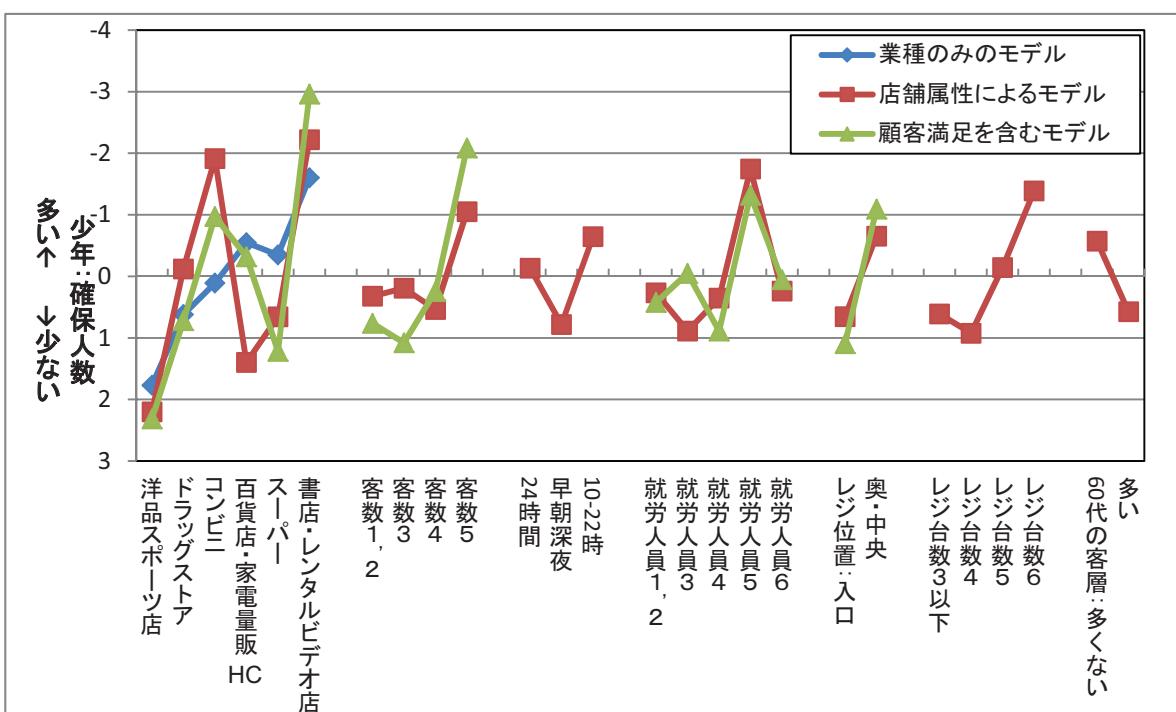
- 「レジ混雑が誘発する」と、顧客は思わないが、従業員は思っている店舗
 - ※ 従業員がそう思っている店舗というのは、実際にレジが混雑することが多いのであろう。そのような店で確保人数が多いということは、実際にレジ混雑が高齢者の万引きを誘発していると考えることができる。
- 一方、顧客はそう思わない店舗、というのは「店側にも問題」と同様、万引きは犯人側が悪いと考える客層が多い店＝高齢者の客数が多い店、という効果（スケール因子）である可能性がある。
- 「店の対応の悪さが誘発する」と顧客は思うが、従業員は思っていない店舗
 - ※ 顧客は対応の悪さを感じるが、従業員にはその自覚がない場合に確保人数が多くなる。「総合満足度」の考察同様に、不満が万引きの引き金となる、という仮説を支持する結果である。

(4) 少年の年間確保人数に影響する要因

a 店舗属性による要因効果

少年の年間確保人数を目的変数とした順序ロジスティック回帰分析における店舗属性の要因効果を図47に示す。なお、顧客・従業員の意識を説明変数の候補として追加した「③顧客・従業員の意識を説明変数に追加した分析」においては、最終的に採用されたのは顧客の満足度項目であった。

図47 店舗属性による「少年の確保人数」の要因効果



まず、業種について考察する。他の店舗属性や顧客満足を取り入れることにより、業種の要因効果は変化している。他の店舗属性や顧客満足が同じ状況の店舗を比較したときになお確保人数が多い業種は「コンビニ」「書店・レンタルビデオ店」であり、少ないのは「洋品・スポーツ店」「スーパー」である。「百貨店・家電量販・HC（ホームセンター）」は顧客満足を含むことにより要因効果が0に近くなることから、顧客満足の状況が他の業種に比べて「少年確保人数が多い側」であることが多い業種なのであろう。

次に、規模に関わる店舗属性について考察する。高齢者ほど明確な傾向ではないが「客数」が多いほど確保人数も多い傾向がみられる。「レジ台数」についても概ねそのような傾向である。これらは「発生率」を考えるときの分母となりうる動きをしており、スケール因子と考えられる。「就労人員」は高齢者との比較のためモデルに取り入れたが、この要因効果は有意ではなかった。高齢者同様、「客数の割には店員が少ない」＝監視の目が届きにくい、という効果と、就労人員多い＝規模が大きい、というスケール因子の効果が相殺しているのかもしれない。

その他の要因に関して、「レジの位置」「営業時間」については、高齢者と同様の効果が得られている。「60代の客層」が少ない店で確保人数が多いという効果がみられるが、これは少年が好んでいく店舗に高齢者の顧客は少ない、ということであろう。

b 顧客満足の要因効果

少年の年間確保人数を目的変数とした分析で、「③顧客・従業員の意識を説明変数に追加した分析」においては、結果的には採用した意識項目は、全て顧客調査における満足度項目となった。その要因効果を表12に示す。

表12 顧客・従業員の意識の「少年の確保人数」の要因効果

分類	要因	係数	不満側が 万引き多い		⇒ 満足側が 万引き多い
顧客満足	総合満足	顧客平均	-2.52		
	身だしなみ満足	顧客平均	1.38	■	
	混雑時対応満足	顧客平均	-1.33		■
	挨拶・声掛け満足	顧客平均	1.31	■	
		標準偏差	1.91	*ばらつき少ないほど万引き多い	
	店内歩きやすさ満足	顧客平均	1.89	■	
		標準偏差	2.08	*ばらつき少ないほど万引き多い	

以下、少年の確保人数が多い店舗の特徴を考察する。

- 「総合満足度」が高い店舗

※ 高齢者とは逆の結果である。少年は店舗への不満が引き金ではなく、総合的に満足度が高い、魅力的な店で万引きを行っているものと推察される。

- 「店員の身だしなみ満足度」が低い店舗
 - ※ 少年がよく行く店の特徴を表しているとも考えられるが、身だしなみの悪さは従業員教育や勤務態度の悪さの代替指標であり、監視の目が行き届かない状況を表している可能性もある。
- 「混雑時対応満足度」が高い店舗
 - ※ 混雑時の対応がよい店舗は、他の客への対応のために万引き企図者にとっては監視の目が届きにくい状況が出来、万引きの機会が増える効果がある、のであろうか。
- 「挨拶・声掛け満足度」が低い店舗
 - ※ 挨拶・声掛けがされない店舗、しかも満足度のばらつきも小さい店舗（＝常に挨拶・声掛けがなされない）で少年確保人数が多い。「挨拶・声掛けが万引き防止に有効」という経験則と一致する結果である。
- 「店内の歩きやすさ満足度」が低い店舗
 - ※ 歩きにくさ・わかりやすさの満足度が低い店舗というのは、店員からの監視の目が届きにくい状況を表していると推察される。さらに、ばらつきが小さいほど確保人数が多いことから、常に歩きにくい（監視されにくい）店舗は、より一層少年確保人数を増やす効果がある。

3.3 まとめ・考察

(1) 本調査の成果

高齢者・少年のそれぞれにおいて、万引き犯確保人数が多い状況が把握された。店舗業種に関して、高齢者は「スーパー」が多く、少年は「書店・レンタルビデオ店」「コンビニ」が多い。「レジの位置が入口にはない」「挨拶・声掛けが万引き防止に有効」など、経験的によく言われている仮説と一致する結果もいくつか得られた。

顧客・従業員の意識に関する結果からは、高齢者と少年では万引きに至る（正確にいえば万引きが行われ確保されるに至る）メカニズムが異なっていることが示唆される。高齢者は「店舗への不満が万引きの引き金となる」という仮説を支持する結果が得られたと言える。一方、少年は、総合満足が高い、魅力的な店舗で万引きを行っているようである。また、少年の確保人数に対する効果を「監視の目が届きにくい店舗」を表していると読める要因が多い。これらの状況を総合して考えると、次のような万引き犯の行動原理が見えてくる。

高齢者の万引き犯は、日常的によく行く店で、混雑対応などの店への不満などがきっかけとなり、出来心で万引きを行う。監視のリスクなどには比較的無頓着である。

少年の万引き犯は、魅力的な店に遊びに行って万引きをする。監視されにくい店舗を選んでいるふしがあるため、出来心ではなく最初から万引きを目的として来店している。

(2) 今後の課題

今後の課題としては、次のような点があげられる。

まず、今回の目的変数は「確保人数」であって「発生量」ではない点である。従って、本章の分析結果は、暗黙のうちに発生数が多ければ確保人数も多くなることを前提としている。しかし、確保件数の多さは「万引きが行われた場合の発見率の高さ」も関与するため、これを「万引きの多さ」と単純に解釈するのは問題がある。万引き被害の実数を把握することは意外に困難といわれるが、原因不明の品数減少など、発生量に対応する他の指標のデータも併用した分析を行うことを今後の課題として提案したい。

次に、「スケール因子」の、より正確な同定である。今回の調査分析においても、客数等のスケール因子を店舗責任者の主観回答によって測定しているが、まさに「量的」に機能する要因であるから、より量的に正確に測定された情報を用いることができれば、精度のよい分析が可能となる。この点についても今後の課題として提案したい。

4. 万引き犯の犯行移動距離

4.1 万引きはどこで行われているか

犯罪学では、近年、犯行場所（journey to crime）が問題とされている。とくに犯罪発生環境を問題とする環境犯罪学では、犯行場所つまり犯行者がどこで犯罪を行っているのか、自宅からどの程度移動しているかに焦点が当てられる。これが明らかになれば、犯行者がどこで標的（被害者）を見出しているか、その犯罪行動を分析することができ、犯罪予防などの犯罪対策を具体的に講じることができるからである。しかし、残念ながら、わが国では犯行移動距離について考察した調査は一部にとどまる。また、この研究を行うには、警察などが保有する被疑者・被告人などの個人情報データを使用しなければならず、一般にはなかなか困難である。

今回、警視庁の被疑者データを使用することができ、とりわけ万引き犯がどこで犯罪を行っているのか、自宅から近場なのか、それとも遠隔地なのか、などがある程度明らかになった。

a 使用した被疑者データ

警視庁が保有する万引き事件の統計データ（平成 25 年）より A 区と B 区の被疑者データを抽出し、各被疑者の居住地、および各被疑者が犯行におよんだ場所（被害店舗）の所在地を町丁別に整理した（表 13）。なお、住居不定者、住居のない外国人（観光者等）は除外したため、データ数は比較的少數にとどまっている。

表 13 A 区・B 区の万引き被疑者人数（本分析に使用したデータ数）

	被疑者の年齢層	A 区	B 区
① その区で検挙された万引き被疑者 (犯行場所が各区)	高齢者	63 人	50 人
	成人	99 人	127 人
	少年	19 人	38 人
	合 計	181 人	215 人
② 検挙時、その区に居住していた万引き被疑者	高齢者	62 人	46 人
	成人	148 人	84 人
	少年	28 人	34 人
	合 計	238 人	164 人

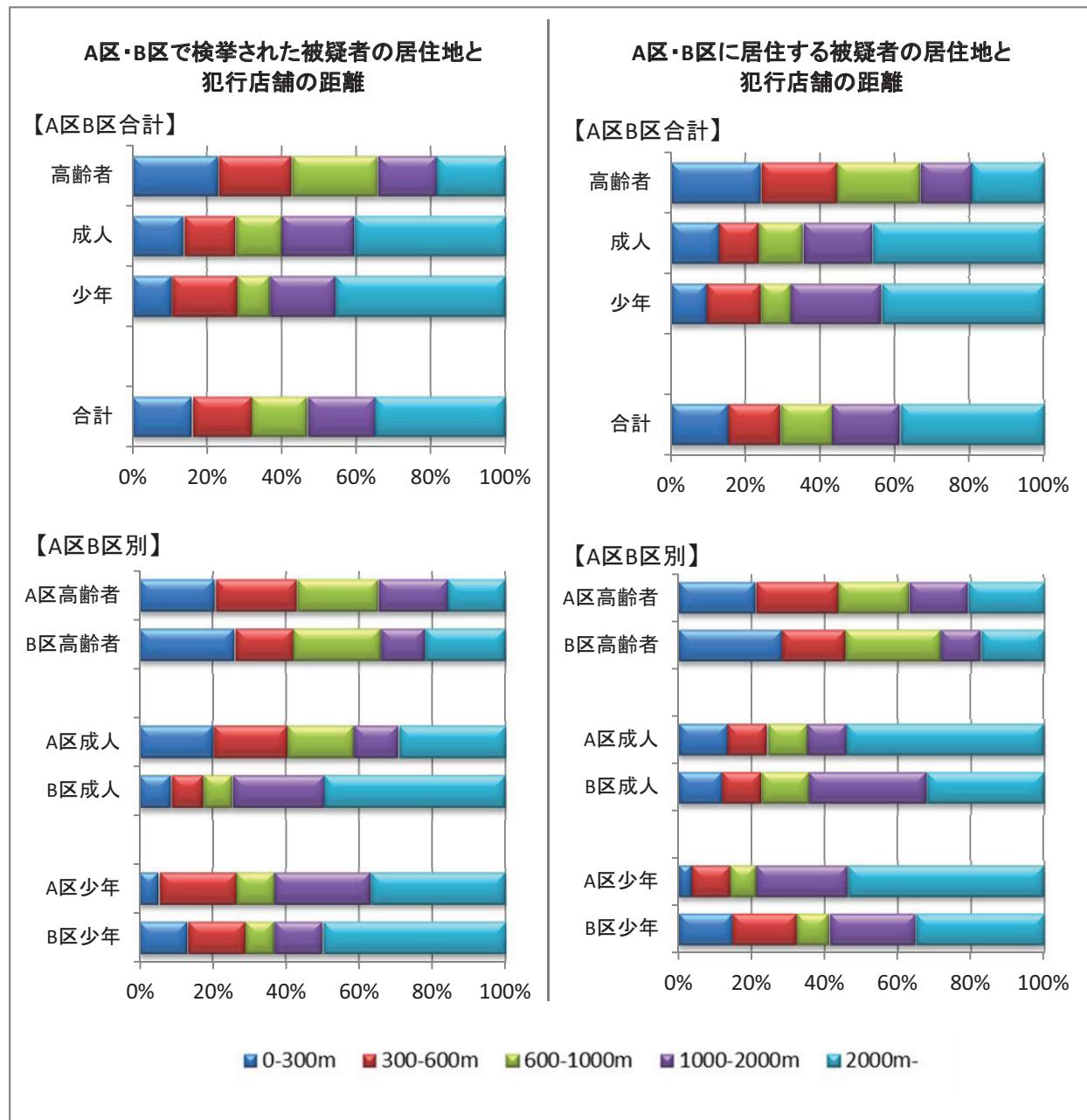
b 犯行移動距離の測定方法

被疑者の居住地と犯行場所である店舗の距離を、地図を使用して図測した。計測地点の基準は町丁別の中心地点であり、基準地点間の通行可能な道路を通行したと仮定して距離を測定した。町丁名が同一の場合は「0」とした。

c グラフの作成

a, b より図 48 を作成した。

図 48 万引き被疑者の犯行移動距離（平成 25 年警視庁万引き事件データより）



4.2 万引き被疑者の犯行移動距離

図48から、A区でもB区でも、少年は遠隔地で、高齢者は近場で犯行を行っていることが明らかであり、きわめて対比的である。これは通学などで少年はもともと日常的に遠隔地まで移動しているか、あるいは体力的にも自転車等を使用して遠隔地まで移動することが可能で、犯行場所を自宅から離れた地点で選択していることが分かる。その意味で、少年は犯行店舗の選択肢が広く、計画性が高いと言える。これに対して、高齢者は体力面や移動の交通費などの関係で機動性に乏しく、自宅近くの店舗を選択する傾向が強く、そのため、選択肢も小さく、場当たり的に同じ店で犯行を重ねる傾向が考えられる。警視庁による「万引き被疑者実態調査」(資料4,5参照)の他の事項から分かるように、少年は事前に犯行意図をもって店舗に入る傾向があり、高齢者は店舗に入った後に犯行意図が生じるとされ、少年と高齢者の犯行店舗の選択に関して、これらの点とも符号する。

なお、A区とB区を比較すると、A区在住被疑者の方がB区在住被疑者よりも犯行移動距離が長いことが分かる(図48右)。この傾向は成人と少年で顕著であり、A区の方が面積が狭く、交通の便が良いことが影響していると考えられる。他方、各区で検挙された被疑者の居住地と犯行店舗の距離をみると、成人と少年ではこの関係は逆転している。しかし、高齢者については店舗位置による差はほとんどなく(図48左)、高齢者の万引き犯は地元密着型であるといえる。

5. 実験プロジェクト「買い物コンシェルジュ」

5.1 実験プロジェクトの概要

(1) 本プロジェクトの背景と目的

本研究における一般市民への意識調査の結果（p. 18 参照）を含め、各種の万引き防止研究報告書に接すると、ほとんどが「声掛け」の有効性を指摘している。また、警視庁「万引き被疑者に関する実態調査結果」（平成 25 年度）でも、犯行をあきらめる理由として「店員の声掛け」が最も多く（70.0%）、なかでも高齢者の割合が高い（79.9%）。これは犯罪学でもしばしば指摘される「犯人は顔を見られることを最もいやがる」という仮説に合致する。しかしながら、万引き防止に有効な声掛けは果たして実証されているのか。報告書等では、店員などの体験に基づくものが多く、その成果がデータ等で実証されたものは少ないようと思われる。

他方、近年、犯罪学、刑事政策の分野では「エビデンスに基づく」対策が強調されている。言い換えれば、対策の有効性は机上の論理ではなく、現場の実態をもって明らかにせよということである。そこで、今回は実験的に「声掛け」の有効性を現場で試すことにした。これが「買い物コンシェルジュ」プロジェクトである。ただし、これを実現するためには、スーパーなどの店舗の協力や理解が不可欠であり、また一定のマンパワーも必要である。しかも、万引き防止を過度に掲げた活動では、そもそも客の不信を買い、ひいては店舗にもマイナスの影響を与える恐れがある。そのために、プロジェクト実施には調査者や店舗側にも相当の慎重さが求められた。今回「買い物コンシェルジュ」というプロジェクト名を使用した所以はそこにある。

科学的なエビデンスを求めるには、手法・手続においても科学的に承認されるものでなければならない。本来ならば、実験群と対照群を設定し、店舗の特性・設置箇所・客層・来客数の似た店舗において比較すべきであるが、今回では情報や時間的な制約の関係で対照群を発見することが困難であったため、同じ店舗の過去の状況と比較することにした。このため、季節的変動要素が混入する可能性があったが、実験的な意義としてはやむを得ないと判断した。

(2) 本プロジェクトの概要

a 場所・時期

東京都内の大型総合スーパー1 店舗における食品売り場において平成 26 年 9 月・10 月に実施した。

b 方法

活動参加者、活動状況については、表 14 に示す通り、拓殖大学政経学部守山ゼミ・渡邊ゼミの学生計 37 名（うち女子 10 名）が、対象期間において毎回 4 名が火曜・金曜午後 3 時から 6 時まで休憩を挟み対象売り場に現在し、基本的に店内巡回を行った。

表 14 活動日と活動内容（延べ回数）

活動日	買い物支援	各種案内	その他	計
9/2(火)	19	10	5	34
9/5(金)	26	16	0	42
9/9(火)	34	25	0	59
9/12(金)	13	18	0	31
9/16(火)	大学の都合で未実施			
9/19(金)	1	11	0	12
9/23(火)	31	9	0	40
9/26(金)	28	27	1	56
9/30(火)	18	13	0	31
9月計	170	129	6	305

活動日	買い物支援	各種案内	その他	計
10/3(金)	21	13	0	34
10/7(火)	17	7	1	25
10/10(金)	24	5	0	29
10/14(火)	19	12	0	31
10/17(金)	26	7	0	33
10/21(火)	23	11	1	35
10/24(金)	20	10	0	30
10/28(火)	43	19	0	62
10/31(金)	19	10	1	30
10月計	212	94	3	309

※単位は件数

合計	382 回	223 回	9 回	614 回
----	-------	-------	-----	-------

図 49 実験プロジェクトの様子



活動内容として、店内「声掛け」による買い物支援、とくに商品売り場への誘導・案内などの各種案内とくに購入商品の運搬補助などを行った。

具体的には以下のとおりである。

- ① 買い物支援（商品選別、重量物・手荷物の運搬補助、エスカレーター搭乗などへの安全上の配慮）
- ② 各種案内
 - 売場・商品・サービス・施設の問い合わせに対する案内
 - 商品の鮮度・品質・値段・表示・在庫の問い合わせに対する案内
- ③ セール・販促の問い合わせ（従業員への引き継ぎ含む）

c 評価の方法

前述のとおり、今回の実験では他店舗に対照群を設定できなかったので、同一店舗内で、特定時期における万引き（品減）状況を比較した。すなわち、実験対象店舗では半期ごとに棚卸しを行っており、実験直前の平成26年8月末と実験終了の同年10月末に対象売り場の棚卸しを実施した。そこで、平成26年3月～8月期と9月・10月における月平均万引き発生件数（品減数値）を比較した。

5.2 実験の効果について

(1) 実験前後の比較

a 対象売場における売上額の上昇

平成 26 年 9 月～10 月における期間売上は、同店舗全体では昨年比を割り込む結果となつたが、「買い物コンシェルジュ」活動を行つた実験対象食品売場では売上が大幅に増加するなどの成果がみられた。また、粗利の昨年比についても同店舗全体では割り込んだが、食品売場は 110% を超える伸びを示した。

表 15 実験対象売場と店舗全体の売上額の比較

	売上昨年比	上半期比	全社比	粗利昨年比
食品売場	105.1%	+1.3%	+8.4%	110.5%
店計	99.8%	△1.7%	+4.1%	98.6%

b 店内事故発生件数の減少

実験の副次効果として、店内の事故件数は 10 月に 0 件を記録した。これは、店内で「買い物コンシェルジュ」活動の情報を共有することにより、相乗的に店内事故に対する従業員の意識が高まったことが考えられる。同店舗全体では、万引き検挙予防件数は 3～8 月期の月平均 3 件から 9 月平均 3 件と横ばい、10 月は平均 4 件に上昇しているが、「買い物コンシェルジュ」を実施した食品売場における被害発生はみられなかつた。

表 16 店内事故発生件数等

	事故件数（転倒等）	万引検挙予防件数	金額	食品売場件数（全体）
上半期月平均	1.5 件	3 件	10,825 円	2.8 件
9 月	1 件	4 件	14,040 円	3 件
10 月	0 件	4 件	19,923 円	4 件

c 品減数値件数の変化（加工食品高齢者向け売れ筋商品）

ここでは、万引きが疑われる商品のうち、とくに高齢者向けの売れ筋商品の品減数値の比較を行い、実質的な万引き発生件数の変化をみた。下半期が買い物コンシェルジュの活動時期である。

月平均で比較した結果を表 17 (p. 70) に示す。表 17 から明らかなことは、一部の商品を除いて、大半の商品における実験期間の月平均の品減数値が減少していることである。これによって、さらに精査が必要ではあるものの、買い物コンシェルジュ活動による「声掛け」が万引き防止に一定程度効果があったものと推定することができる。

表 17 高齢者向けの売れ筋商品の品減数値の比較

品目	上半期（3-8月）月平均		下半期（9-10月）月平均	
	品減数量	品減金額	品減数量	品減金額
だしの素	2.8 個	600 円	7 個	1,498 円
すき焼きたれ	5 個	2,820 円	0 個	0 円
割下	2.8 個	1,627 円	0.5 個	291 円
お吸い物（素）	1.7 個	359 円	0 個	0 円
ごまドレッシング	4.3 個	1,630 円	1.5 個	569 円
スパゲッティ（乾麺）	2.8 個	944 円	2.5 個	843 円
帆立貝柱（珍味）	5.8 個	5,846 円	4.5 個	5,846 円
柿の種	6.2 個	1,786 円	1 個	288 円
合計	32 個	15,612 円	17 個	8,024 円

(2) 「買い物コンシェルジュ」を経験して（拓殖大学政経学部 小林彩香）



図 50 第 10 回東京万引き防止官民合同会議における学生の活動報告

私たち学生は、「買い物コンシェルジュ」プロジェクトに際して、万引き防止というのではなく、あくまでもお客様の買い物サポートを第 1 に意識して活動しました。実際の活動では「こんにちは。いらっしゃいませ。」と声を出しながら店内を巡回し、とくに高齢の方を見かけた際には「何かお探しですか。」「お手伝いしましょうか。」と声をかけ、商品の場所へと案内しました。また、お客様の安全確保という面でも、転倒事故を防ぐために店内の整備やゴミ拾い、エスカレーター付近での補助活動も主

要な任務となりました。巡回していると野菜の葉くずや輪ゴム・ビニール袋等が落ちている場合が多くあり、目立たない小さなゴミでも足が滑って怪我をするお客様がいるということで、事前防止を心がけました。さらに、エスカレーターでの転倒事故が多いという話から、事前防止に努め、両手が荷物でふさがって手すりをつかめない方や杖をお持ちの方、買い物用キャリーバックをお持ちの方、特に、高齢の方が事故に遭いそうな危険な状況を目の当たりにしました。そこで、そのような方には荷物を持ってあげ、万が一に備えた体制もとりました。仲間の中にはタクシー売り場まで同行した者もいたようです。

コンシェルジュ活動を始めた頃は、不思議な目で見られ、声掛けしても断られましたが、何度か活動を重ねていくうちに、むしろお客様から声をかけていただき、「助かった。ありがとう。」「若い人たちと沢山お話しできて楽しかったわ。」「毎日いてくれたらいいのに。」という言葉まで頂けるようになりました。

コンシェルジュ活動は私の中にあった、買い物は普通の日常活動であり大したことではないという意識を覆し、買い物の際に若い世代や健常者には見えにくい、日常生活の中に潜む危険性や不便さを痛感し、逆に、この現場を体験して、視点や視野が大きく変わり、加えて、多くの方から感謝の言葉まで頂いて、とてもやりがいを感じられた活動になりました。

このような活動が結果的に万引きの防止に繋げられたことを大変嬉しく思います。万引き防止には「監視よりも声掛け」が本当に実感できた体験でしたし、コミュニケーションが人と人を繋ぎ、それが人々を犯罪のない世界に導くことを学びました。

日頃、大学では犯罪学を学んでいますが、今回、理論と実践の両面から高齢者問題を考えることができたことは大きな収穫でした。

5.3 まとめ・考察

(1) 本プロジェクトの意義

本プロジェクトの「声掛け」の万引き防止実証実験は、わが国では初の試みであると思われる。他の調査で「声掛け」効果がしばしば指摘されながらも、実証データによる裏付けはなく、店員等の体験や店員に対するアンケート結果に依拠しているにすぎなかった。

しかも、その効果に対する検証・評価でも、これを肯定する一定の証拠がみられた。その意味では、本プロジェクトは万引き対策にある程度の示唆を与えるものと考えられるし、実際、日頃万引き対策に悩む関係者には「声掛け」を推奨したい。まさしく万引き対策の要は、「監視から声掛けへ」という標語が示すところである。

さらに、プロジェクト参加者、とくに実際の「声掛け」活動を行ったのは 20 歳前後の学生であり、もともと万引き犯の多い世代である。その意味では、参加学生自身にとっても万引きに対する認識、とくに規範意識を高める副次的効果もあったようにも思われる。

(2) 今後の課題

しかしながら、本プロジェクトには固有の限界や課題も多い。第一に、先述したように、本プロジェクトでは対照群としての店舗を設定することができず、その成果に対するデータも限界があることである。なぜなら同一店舗における対策前と対策後の比較では、場合によっては季節的因素が混入している可能性があるからである。第二に、活動参加者が授業などの時間的制約の多い学生であることから、プロジェクト期間中の実施期間は 2 ヶ月、実施日は週 2 日、しかも時間が午後に制約されたことである。このため、同じ曜日では実施時間外の要因、さらには実施曜日以外の要因が排除できず、本プロジェクトの成果もその文脈で限定的に考えざるを得ない。

したがって、本プロジェクトはまさしく実験プロジェクトであり、今後は、これを契機に、同様の趣旨から、実施日、実施時間、実施店舗などの選定を慎重に行い「エビデンスに基づく」調査に耐えうることを目指したいし、他のプロジェクトにも万引きの実証データの蓄積という点で大いに期待したいと考える。

6. 今後に向けて

万引きが現代において深刻と思われる原因是、近年他の罪種、手口が急激に減少しているのに対して、万引きは横ばいか、やや減少と比較的高い水準を維持していることである。しかも、従来万引きは少年非行の問題ととらえられてきたが、現代では高齢者問題に推移している。したがって、これまでの対策では十分対応しきれない課題がみられる。たとえば、少年非行であれば学校などの教育機関で倫理向上などの諸策が考えられるが、高齢者に対しては、はたしてどうすればよいのか。

このような状況を背景として、本調査は企画された。上述したように、われわれ研究チームは、警視庁生活安全総務課の万引き対策班と連携し、各種意識調査、実験プロジェクトを実施し、既存のデータなども駆使しながら、万引きの実態がどのように社会的にみられているかを明らかにした。この調査結果では、種々の限界はあるものの、一般市民や店舗関係者、防犯責任者などのそれぞれの立場で万引きに対する意識が示され、一定程度、今後の防止対策の一端を示唆することができたと考えている。たとえば、万引きは犯罪であるという認識は広まっているものの、量刑についての知識は乏しく、広報としての課題がみられた。また、店舗側にもいつそうの努力が求められていると思われる。なぜなら、本調査では顧客満足度と万引き発生の関連が示唆されたからである。店舗側において、レジの位置やレイアウト、商品の陳列方法など、適切な万引き対策を実施しないで利益のみが優先された場合、万引を誘発し人々の倫理低下を招くことも認識されるべきである。さらに、本調査でも被疑者調査でも「声掛け」の有効性が指摘されているが、これについては「買い物コンシェルジュ」の成果が参考となろう。

万引き問題は、今後さらに深刻な社会問題となる可能性が高い。とりわけ、高齢者による万引き問題はより深刻化すると考えられる。なぜなら、高齢化が進行し、高齢者万引きが増えるか、その比率を高めることができると想定できるからである。上述の意識調査の結果からみても、一般市民は高齢万引き犯につき「社会的弱者」として位置づける傾向にあるが、果たして実態はどうか。われわれが行った店舗責任者に対するインタビューでは、その逆の意見も聞かれ、意識と実態の間に齟齬もあるように思われる。そのためには、現在の段階から対策、対応を考えておかねばならない。それもなるべく精緻なデータに根ざし、社会が一丸となって取り組むべきと思われる。

もっとも、万引き対策においては、包括的な問題も少なくない。万引き犯を扱う店舗側、通報を受けた警察側の間の意思疎通には各種障害がみられ、連携が必ずしも円滑に行われていない点も否定できない。さらに、高齢万引き犯は地元で犯行を行うケースが目立ち、今後は地域における高齢者対策と連動する可能性もある。いずれにせよ、万引きの社会的損失は甚大であり、これを放置することは社会正義に反するばかりでなく、秩序維持、倫理向上、さらには地域経済の発展という観点からも重大な問題である。このためには、店

舗・企業、警察関係機関、地域社会代表者、さらには研究者などの第三者などが関与して、最終的に万引きを防止するために、どのような方策が必要であるかを十分に検討することが求められるであろう。本調査から得られた知見は、その方向性を示しているものと思われる。

「万引きに関する意識調査」 調査票

● 対象：一般市民

第一次調査.....	資 1-1
第二次調査（郵送）	資 1-5
第二次調査（インターネット）	資 1-9

● 対象：店舗従業員

第一次調査.....	資 1-13
第二次調査.....	資 1-16

● 対象：店舗顧客

第一次調査・第二次調査（共通）	資 1-20
-----------------------	--------

● 対象：店舗責任者

第一次調査.....	資 1-21
第二次調査.....	資 1-23

万引きに関する意識調査

東京万引き防止官民合同会議

■ ご協力のお願い

本調査は、万引きに対する意識を調査分析することにより、より効果的な施策を検討するために行います。皆様方のご理解・ご協力ををお願いいたします。なお、本調査に関する個人情報につきましては、調査目的以外には使用せず個人に影響が及ぶことのないよう厳重に保護いたします。

■ 記入要領

- * 調査票は無記名です。ご記入日現在の状況をご記入ください。
- * ご記入は、解答欄の番号に直接○印をしてください。
- * 問1から問4まで順番に、ご記入もれのないようお答えください。

■ お問合せ先（事務局）

警視庁生活安全総務課 生活安全対策第三係 電話 (03) 3581-4321 (代表)

問 1 例にしたがって、それぞれの設問にお答えください。(○はそれぞれ一つ)

	そう 思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない
例) 万引き防止の取り組みをしている店が増えている	1	2	3	4	5
【悪質な犯罪か】					
1) 「振り込め詐欺」は、悪質な犯罪だ	1	2	3	4	5
2) 「ひったくり」は、悪質な犯罪だ	1	2	3	4	5
3) 「自転車泥棒」は、悪質な犯罪だ	1	2	3	4	5
4) 「無銭飲食」は、悪質な犯罪だ	1	2	3	4	5
5) 「万引き」は、悪質な犯罪だ	1	2	3	4	5
【万引きの罪の重さ】					
6) 万引きの罪は、被害額が大きいほど重い	1	2	3	4	5
7) 万引きの罪は、常習者ほど重い	1	2	3	4	5
8) 万引きの罪は、計画性があるほど重い	1	2	3	4	5
9) 生活に困って万引きをするのは、ある程度は仕方ない	1	2	3	4	5
10) 安価な品物の万引きの場合、買い取れば、警察に通報するまではしなくてよい	1	2	3	4	5
11) 初めての万引きで、反省していれば、警察に通報するまではしなくてよい	1	2	3	4	5
12) 被害額や計画性などに問わらず、万引きしたら逮捕されるべきだ	1	2	3	4	5

	そう 思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそ 思わない	そ う 思わない
【万引きと店舗】					
13) 万引きをされる店側にも問題がある	1	2	3	4	5
14) マイバッグやエコバッグが、万引きひきおこしている	1	2	3	4	5
15) 買い物中の不便さが、万引きをひきおこしている	1	2	3	4	5
16) レジの混雑が、万引きをひきおこしている	1	2	3	4	5
17) 店の対応の悪さが、万引きをひきおこしている	1	2	3	4	5
18) 店員の客に対する積極的な挨拶や声掛けは、万引き防止に効果がある	1	2	3	4	5
19) 警察への通報は、万引き防止に効果がある	1	2	3	4	5
【青少年の万引き】					
20) 万引きする青少年は、万引きに対する罪の意識が薄い	1	2	3	4	5
21) 万引きする青少年は、気の毒だ	1	2	3	4	5
22) 青少年が万引きした場合は、警察に通報するまでしなくてもよい	1	2	3	4	5
23) 青少年の万引きを防止する役割は、家族が担うべきだ	1	2	3	4	5
24) 青少年の万引きを防止する役割は、店舗が担うべきだ	1	2	3	4	5
25) 青少年の万引きを防止する役割は、学校が担うべきだ	1	2	3	4	5
26) 青少年の万引きを防止する役割は、警察が担うべきだ	1	2	3	4	5
27) 青少年の万引きを防止する役割は、自治体が担うべきだ	1	2	3	4	5
【高齢者の万引き】					
28) 万引きする高齢者は、万引きに対する罪の意識が薄い	1	2	3	4	5
29) 万引きする高齢者は、気の毒だ	1	2	3	4	5
30) 高齢者が万引きした場合は、警察に通報するまでしなくてもよい	1	2	3	4	5
31) 高齢者の万引きを防止する役割は、家族が担うべきだ	1	2	3	4	5
32) 高齢者の万引きを防止する役割は、店舗が担うべきだ	1	2	3	4	5
33) 高齢者の万引きを防止する役割は、地域が担うべきだ	1	2	3	4	5
34) 高齢者の万引きを防止する役割は、警察が担うべきだ	1	2	3	4	5
35) 高齢者の万引きを防止する役割は、自治体が担うべきだ	1	2	3	4	5

問 2 あなたは、以下についてどの程度ご存知ですか（○はそれぞれ一つ）

	知つて いる	だいたい は知つて いる	知らない
1) 万引きは、警察に全件届け出ことになっている	1	2	3
2) 万引きは、 ^{ちょうえき} 懲役刑のほか 50 万円以下の罰金刑が定められている	1	2	3
3) 被害品が売買されるのを防ぐため、18 歳未満の買取りにはルールがある	1	2	3
4) 万引きで検挙されている人数は少年より高齢者のはうが多い	1	2	3

問3 あなた自身、同居しているご家族、およびお住まいについて教えてください。

1) 性別 (○は一つ)	1. 男性 2. 女性
2) 年齢 (○は一つ)	1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70代 8. 80代以上
3) 職業 (○は一つ)	1. 会社員 2. 公務員・団体職員 3. 経営者・役員 4. 自営業 5. 自由業 6. 専業主婦 7. パート・アルバイト 8. 学生 9. 無職 10. その他 ()
4) 近所づきあいの程度 (○は一つ)	1. ほとんどつき合いはない 2. 顔が合えば挨拶をする 3. ときどき立ち話をする 4. 親しく話をする
5) 家族構成 (○は一つ)	1. 単身 2. 夫婦のみ 3. 親と子ども 4. 三世代 5. その他
6) 家族の年齢 (数字をご記入ください)	一番若い人は()歳、一番年上的人は()歳 *ご自身を含めてお答えください
7) 居住年数 (数字をご記入ください)	現在の地域に居住して 約()年
8) 住居の建て方 (○は一つ)	1. 戸建て 2. 集合住宅 3. その他
9) 住居の所有形態 (○は一つ)	1. 持ち家 (分譲マンションを含む) 2. 賃貸 3. 寄・社宅 4. その他 ()
10) 世帯合計年収 (○は一つ) *差支えなければ、ご回答をお願いします。	1. 200万未満 2. 200~400万円未満 3. 400~600万円未満 4. 600~800万円未満 5. 800~1000万円未満 6. 1000万円以上 * 税込の金額でお考えください。年金を含みます。

問4 以下の設問に、「はい」「いいえ」でお答えください。(○はそれぞれ一つ)

	はい	いいえ
1) 自治会に加入している	1	2
2) 防犯ボランティア活動に参加したことがある	1	2
3) 平日の日中は、自宅近くにいることが多い	1	2
4) 日常の買い物は、徒歩や自転車で行くことが多い	1	2
5) 日常の買い物は、自家用車で行くことが多い	1	2
6) 日常の買い物は、バスや電車を利用して行くことが多い	1	2
7) 現在、スーパー・マーケットやコンビニ等で働いている、または最近まで働いていた	1	2
8) 現在、商店を経営している、または最近まで経営していた	1	2
9) 「万引き」を見聞きしたことがある (現場を見た、被害者や加害者が身近にいたなど)	1	2
10) 趣味や生きがいがある	1	2
11) 経済的にゆとりがないと感じる	1	2
12) 日常で気兼ねなく話ができる人がいる	1	2
13) インターネットを利用している (パソコン、スマートフォン、タブレット等)	1	2

□ 万引き防止対策について、お考えのことがございましたら、ご自由にお書きください。

■ 青少年の万引き防止対策に関すること。

■ 高齢者の万引き防止対策に関すること。

■ その他万引き防止対策に関すること。

アンケートにご協力いただき、まことにありがとうございました。

万引きに関する意識調査

東京万引き防止官民合同会議

■ ご協力のお願い

本調査は、万引きに対する意識を調査分析することにより、より効果的な施策を検討するために行います。皆様方のご理解・ご協力ををお願いいたします。なお、本調査で得られたデータは、警視庁及び東京万引き防止官民合同会議における防犯対策の分析資料に活用し、他の目的に使用はいたしません。

■ 記入要領

- * 回答は、ご家族の20歳以上の方でお願いいたします。
- * 調査票は無記名です。ご記入日現在の状況をご記入ください。
- * ご記入は、解答欄の番号に直接○印をしてください。
- * 問1から問4まで順番に、ご記入もれのないようお答えください。

■ お問合せ先（事務局）

警視庁生活安全総務課 生活安全対策第三係 電話 (03) 3581-4321 (代表)

問 1 例にしたがって、それぞれの設問にお答えください。(○はそれぞれ一つ)

	そう 思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない
例) 万引き防止の取り組みをしている店が増えている	1	②	3	4	5
【悪質な犯罪か】					
1) 「振り込め詐欺」は、悪質な犯罪だ	1	2	3	4	5
2) 「ひったくり」は、悪質な犯罪だ	1	2	3	4	5
3) 「自転車泥棒」は、悪質な犯罪だ	1	2	3	4	5
4) 「無銭飲食」は、悪質な犯罪だ	1	2	3	4	5
5) 「万引き」は、悪質な犯罪だ	1	2	3	4	5
【万引きの罪の重さ】					
6) 万引きの罪は、被害額が大きいほど重い	1	2	3	4	5
7) 万引きの罪は、常習者ほど重い	1	2	3	4	5
8) 万引きの罪は、計画性があるほど重い	1	2	3	4	5
9) 生活に困って万引きをするのは、ある程度は仕方ない	1	2	3	4	5
10) 安価な品物の万引きの場合、買い取れば、警察に通報す るまではしなくてよい	1	2	3	4	5
11) 初めての万引きで、反省していれば、警察に通報するま ではしなくてよい	1	2	3	4	5
12) 被害額や計画性などに問わらず、万引きしたら逮捕され るべきだ	1	2	3	4	5

	そう 思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそ う思わない	そ う思 わない
【万引きと店舗】					
13) 万引きをされる店側にも問題がある	1	2	3	4	5
14) マイバッグやエコバッグが、万引きひきおこしている	1	2	3	4	5
15) 買い物中の不便さが、万引きをひきおこしている	1	2	3	4	5
16) レジの混雑が、万引きをひきおこしている	1	2	3	4	5
17) 店の対応の悪さが、万引きをひきおこしている	1	2	3	4	5
18) 店員の客に対する積極的な挨拶や声掛けは、万引き防止に効果がある	1	2	3	4	5
19) 警察への通報は、万引き防止に効果がある	1	2	3	4	5
【青少年の万引き】					
20) 万引きする青少年は、万引きに対する罪の意識が薄い	1	2	3	4	5
21) 万引きする青少年は、気の毒だ	1	2	3	4	5
22) 青少年が万引きした場合は、警察に通報するまでしなくてもよい	1	2	3	4	5
23) 青少年の万引きを防止する役割は、家族が担うべきだ	1	2	3	4	5
24) 青少年の万引きを防止する役割は、店舗が担うべきだ	1	2	3	4	5
25) 青少年の万引きを防止する役割は、学校が担うべきだ	1	2	3	4	5
26) 青少年の万引きを防止する役割は、警察が担うべきだ	1	2	3	4	5
27) 青少年の万引きを防止する役割は、自治体が担うべきだ	1	2	3	4	5
【高齢者の万引き】					
28) 万引きする高齢者は、万引きに対する罪の意識が薄い	1	2	3	4	5
29) 万引きする高齢者は、気の毒だ	1	2	3	4	5
30) 高齢者が万引きした場合は、警察に通報するまでしなくてもよい	1	2	3	4	5
31) 高齢者の万引きを防止する役割は、家族が担うべきだ	1	2	3	4	5
32) 高齢者の万引きを防止する役割は、店舗が担うべきだ	1	2	3	4	5
33) 高齢者の万引きを防止する役割は、地域が担うべきだ	1	2	3	4	5
34) 高齢者の万引きを防止する役割は、警察が担うべきだ	1	2	3	4	5
35) 高齢者の万引きを防止する役割は、自治体が担うべきだ	1	2	3	4	5

問2 あなたは、以下についてどの程度ご存知ですか（○はそれぞれ一つ）

	知っている	だいたい は知っている	知らない
1) 万引きは、警察に全件届け出ことになっている	1	2	3
2) 万引きは、 ^{ちようえき} 懲役刑のほか50万円以下の罰金刑が定められている	1	2	3
3) 被害品が売買されるのを防ぐため、18歳未満の買取りにはルールがある	1	2	3
4) 万引きで検挙されている人数は少年より高齢者の方が多い	1	2	3

問3 以下の設問に、「はい」「いいえ」でお答えください。（○はそれぞれ一つ）

	はい	いいえ
1) 東京23区内に現在居住している	1	2
2) 自治会に加入している	1	2
3) 防犯ボランティア活動に参加したことがある	1	2
4) 平日の日中は、自宅近くにいることが多い	1	2
5) 現在、スーパーマーケットやコンビニ等で働いている、または最近まで働いていた	1	2
6) 現在、商店を経営している、または最近まで経営していた	1	2
7) 「万引き」を見聞きしたことがある（現場を見た、被害者や加害者が身近にいたなど）	1	2
8) 趣味や生きがいがある	1	2
9) 経済的にゆとりがないと感じる	1	2
10) 日常で気兼ねなく話ができる人がいる	1	2

問4 あなたの生活についておうかがいします。次のそれぞれの設問についてあてはまるものに○をつけてください。（○はそれぞれ一つ）

1) 所得・収入の満足感

1. 満足している 2. まあ満足している 3. どちらともいえない 4. やや不満だ 5. 不満だ

2) 資産・貯蓄の満足感

1. 満足している 2. まあ満足している 3. どちらともいえない 4. やや不満だ 5. 不満だ

3) 生活の中で感じる充実感

1. 十分充実を感じている 2. まあ充実を感じている 3. どちらともいえない
4. あまり充実を感じていない 5. 充実を感じていない

4) 世間一般からみた生活の程度

1. 上 2. 中の上 3. 中の中 4. 中の下 5. 下

問5 あなた自身、同居しているご家族、およびお住まいについて教えてください。

1) 性別（○は一つ）	1. 男性 2. 女性
2) 年齢（○は一つ）	1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代 5. 60代 6. 70代 7. 80代以上
3) 職業（○は一つ）	1. 会社員 2. 公務員・団体職員 3. 経営者・役員 4. 自営業 5. 自由業 6. 専業主婦 7. パート・アルバイト 8. 学生 9. 無職 10. その他（ ）
4) 家族構成（○は一つ）	1. 単身 2. 夫婦のみ 3. 親と未婚の子ども 3. 二世代 4. 三世代 5. その他
5) 住居の建て方（○は一つ）	1. 戸建て 2. 集合住宅 3. その他
6) 住居の所有形態（○は一つ）	1. 持ち家（分譲マンションを含む） 2. 賃貸 3. 寄・社宅 4. その他（ ）
7) 世帯合計年収（○は一つ） *差支えなければ、ご回答をお願いします。	1. 200万未満 2. 200～400万円未満 3. 400～600万円未満 4. 600～800万円未満 5. 800～1000万円未満 6. 1000万円以上 * 税込の金額でお考えください。年金を含みます。

- 万引き防止対策について、お考えのことがございましたら、ご自由にお書きください。
 青少年の万引き防止対策に関すること。

- 高齢者の万引き防止対策に関すること。

- その他万引き防止対策に関する事。

アンケートにご協力いただき、まことにありがとうございました。

万引きに関する意識調査

東京万引き防止官民合同会議

■ ご協力のお願い

本調査は、万引きに対する意識を調査分析することにより、より効果的な施策を検討するために行います。皆様方のご理解・ご協力ををお願いいたします。なお、本調査で得られたデータは、警視庁及び東京万引き防止官民合同会議における防犯対策の分析資料に活用し、他の目的に使用はいたしません。

■ 記入要領

- * 回答は、ご家族の20歳以上の方でお願いいたします。
- * 調査票は無記名です。ご記入日現在の状況をご記入ください。
- * ご記入は、解答欄の番号に直接○印をしてください。
- * 問1から問4まで順番に、ご記入もれのないようお答えください。

■ お問合せ先（事務局）

警視庁生活安全総務課 生活安全対策第三係 電話 （03）3581-4321（代表）

問 1 例にしたがって、それぞれの設問にお答えください。（○はそれぞれ一つ）

	そう 思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない
例) 万引き防止の取り組みをしている店が増えている	1	2	3	4	5
【悪質な犯罪か】					
1) 「振り込め詐欺」は、悪質な犯罪だ	1	2	3	4	5
2) 「ひったくり」は、悪質な犯罪だ	1	2	3	4	5
3) 「自転車泥棒」は、悪質な犯罪だ	1	2	3	4	5
4) 「無銭飲食」は、悪質な犯罪だ	1	2	3	4	5
5) 「万引き」は、悪質な犯罪だ	1	2	3	4	5
【万引きの罪の重さ】					
6) 万引きの罪は、被害額が大きいほど重い	1	2	3	4	5
7) 万引きの罪は、常習者ほど重い	1	2	3	4	5
8) 万引きの罪は、計画性があるほど重い	1	2	3	4	5
9) 生活に困って万引きをするのは、ある程度は仕方ない	1	2	3	4	5
10) 安価な品物の万引きの場合、買い取れば、警察に通報す るまではしなくてよい	1	2	3	4	5
11) 初めての万引きで、反省していれば、警察に通報するま ではしなくてよい	1	2	3	4	5
12) 被害額や計画性などに問わらず、万引きしたら逮捕され るべきだ	1	2	3	4	5

	そう 思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそ う思わない	そ う思 わない
【万引きと店舗】					
13) 万引きをされる店側にも問題がある	1	2	3	4	5
14) マイバッグやエコバッグが、万引きひきおこしている	1	2	3	4	5
15) 買い物中の不便さが、万引きをひきおこしている	1	2	3	4	5
16) レジの混雑が、万引きをひきおこしている	1	2	3	4	5
17) 店の対応の悪さが、万引きをひきおこしている	1	2	3	4	5
18) 店員の客に対する積極的な挨拶や声掛けは、万引き防止に効果がある	1	2	3	4	5
19) 警察への通報は、万引き防止に効果がある	1	2	3	4	5
【青少年の万引き】					
20) 万引きする青少年は、万引きに対する罪の意識が薄い	1	2	3	4	5
21) 万引きする青少年は、気の毒だ	1	2	3	4	5
22) 青少年が万引きした場合は、警察に通報するまでしなくてもよい	1	2	3	4	5
23) 青少年の万引きを防止する役割は、家族が担うべきだ	1	2	3	4	5
24) 青少年の万引きを防止する役割は、店舗が担うべきだ	1	2	3	4	5
25) 青少年の万引きを防止する役割は、学校が担うべきだ	1	2	3	4	5
26) 青少年の万引きを防止する役割は、警察が担うべきだ	1	2	3	4	5
27) 青少年の万引きを防止する役割は、自治体が担うべきだ	1	2	3	4	5
【高齢者の万引き】					
28) 万引きする高齢者は、万引きに対する罪の意識が薄い	1	2	3	4	5
29) 万引きする高齢者は、気の毒だ	1	2	3	4	5
30) 高齢者が万引きした場合は、警察に通報するまでしなくてもよい	1	2	3	4	5
31) 高齢者の万引きを防止する役割は、家族が担うべきだ	1	2	3	4	5
32) 高齢者の万引きを防止する役割は、店舗が担うべきだ	1	2	3	4	5
33) 高齢者の万引きを防止する役割は、地域が担うべきだ	1	2	3	4	5
34) 高齢者の万引きを防止する役割は、警察が担うべきだ	1	2	3	4	5
35) 高齢者の万引きを防止する役割は、自治体が担うべきだ	1	2	3	4	5

問2 あなたは、以下についてどの程度ご存知ですか（○はそれぞれ一つ）

	知っている	だいたい は知っている	知らない
1) 万引きは、警察に全件届け出ことになっている	1	2	3
2) 万引きは、 ^{ちようえき} 懲役刑のほか50万円以下の罰金刑が定められている	1	2	3
3) 被害品が売買されるのを防ぐため、18歳未満の買取りにはルールがある	1	2	3
4) 万引きで検挙されている人数は少年より高齢者の方が多い	1	2	3

問3 以下の設問に、「はい」「いいえ」でお答えください。（○はそれぞれ一つ）

	はい	いいえ
1) 東京23区内に現在居住している	1	2
2) 自治会に加入している	1	2
3) 防犯ボランティア活動に参加したことがある	1	2
4) 平日の日中は、自宅近くにいることが多い	1	2
5) 現在、スーパーマーケットやコンビニ等で働いている、または最近まで働いていた	1	2
6) 現在、商店を経営している、または最近まで経営していた	1	2
7) 「万引き」を見聞きしたことがある（現場を見た、被害者や加害者が身近にいたなど）	1	2
8) 趣味や生きがいがある	1	2
9) 経済的にゆとりがないと感じる	1	2
10) 日常で気兼ねなく話ができる人がいる	1	2

問4 あなたの生活についておうかがいします。次のそれぞれの設問についてあてはまるものに○をつけてください。（○はそれぞれ一つ）

1) 所得・収入の満足感

1. 満足している 2. まあ満足している 3. どちらともいえない 4. やや不満だ 5. 不満だ

2) 資産・貯蓄の満足感

1. 満足している 2. まあ満足している 3. どちらともいえない 4. やや不満だ 5. 不満だ

3) 生活の中で感じる充実感

1. 十分充実を感じている 2. まあ充実を感じている 3. どちらともいえない
4. あまり充実を感じていない 5. 充実を感じていない

4) 世間一般からみた生活の程度

1. 上 2. 中の上 3. 中の中 4. 中の下 5. 下

5) ニュースや話題など、社会情勢を認識するのに最もよく活用するメディアは次のうちどれですか。

- | | | | | |
|-------|--------|--------|-------|----------------------|
| 1. 新聞 | 2. テレビ | 3. ラジオ | 4. 雑誌 | 5. インターネット(携帯電話等も含む) |
|-------|--------|--------|-------|----------------------|

6) 万引きに関するニュースやコラムに対してどれくらい関心がありますか。

- | | | |
|-------------|------------|--------------|
| 1. とても関心がある | 2. やや関心がある | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり関心がない | 5. 全く関心がない | |

問5 あなた自身、同居しているご家族、およびお住まいについて教えてください。

1) 性別（○は一つ）	1. 男性	2. 女性			
2) 年齢（○は一つ）	1. 20代	2. 30代	3. 40代	4. 50代	5. 60代
	6. 70代	7. 80代以上			
3) 職業（○は一つ）	1. 会社員	2. 公務員・団体職員	3. 経営者・役員	4. 自営業	
	5. 自由業	6. 専業主婦	7. パート・アルバイト	8. 学生	
	9. 無職	10. その他（ ）			
4) 家族構成（○は一つ）	1. 単身	2. 夫婦のみ	3. 親と未婚の子ども		
	3. 二世代	4. 三世代	5. その他		
5) 住居の建て方（○は一つ）	1. 戸建て	2. 集合住宅	3. その他		
6) 住居の所有形態（○は一つ）	1. 持ち家（分譲マンションを含む）	2. 賃貸			
	3. 寄・社宅	4. その他（ ）			
7) 世帯合計年収（○は一つ） *差支えなければ、ご回答をお願いします。	1. 200万未満	2. 200～400万円未満			
	3. 400～600万円未満	4. 600～800万円未満			
	5. 800～1000万円未満	6. 1000万円以上			
	* 税込の金額でお考えください。年金を含みます。				

□ 万引き防止対策について、お考えのことがございましたら、ご自由にお書きください。

■ 青少年の万引き防止対策に関すること。

--

■ 高齢者の万引き防止対策に関すること。

--

■ その他万引き防止対策に関すること。

--

アンケートにご協力いただき、まことにありがとうございました。

□□□□□□□□□□□
署コード【1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11】 店舗コード【A・B・C・D・E・F・G・H・I・J・K】

万引きに関する意識調査

東京万引き防止官民合同会議

■ ご協力のお願い

本調査は、万引きに対する意識を調査分析することにより、より効果的な施策を検討するために行います。皆様方のご理解・ご協力ををお願いいたします。なお、本調査に関する個人情報につきましては、調査目的以外には使用せず個人に影響が及ぶことのないよう厳重に保護いたします。

■ 記入要領

- * 調査票は無記名です。ご記入日現在の状況をご記入ください。
- * ご記入は、解答欄の番号に直接〇印をしてください。
- * 問1から問4まで順番に、ご記入もれのないようお答えください。

■ お問合せ先（事務局）

警視庁生活安全総務課 生活安全対策第三係 電話 （03）3581-4321（代表）

問1 例にしたがって、それぞれの設問にお答えください。（○はそれぞれ一つ）

	そう 思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそ う思わない	そ う思わない
例) 万引き防止の取り組みをしている店が増えている	1	2	3	4	5
【悪質な犯罪か】					
1) 「振り込め詐欺」は、悪質な犯罪だ	1	2	3	4	5
2) 「ひったくり」は、悪質な犯罪だ	1	2	3	4	5
3) 「自転車泥棒」は、悪質な犯罪だ	1	2	3	4	5
4) 「無銭飲食」は、悪質な犯罪だ	1	2	3	4	5
5) 「万引き」は、悪質な犯罪だ	1	2	3	4	5
【万引きの罪の重さ】					
6) 万引きの罪は、被害額が大きいほど重い	1	2	3	4	5
7) 万引きの罪は、常習者ほど重い	1	2	3	4	5
8) 万引きの罪は、計画性があるほど重い	1	2	3	4	5
9) 生活に困って万引きをするのは、ある程度は仕方ない	1	2	3	4	5
10) 安価な品物の万引きの場合、買い取れば、警察に通報す るまではしなくてよい	1	2	3	4	5
11) 初めての万引きで、反省していれば、警察に通報するま ではしなくてよい	1	2	3	4	5
12) 被害額や計画性などに関わらず、万引きしたら逮捕され るべきだ	1	2	3	4	5

	そう 思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそ う思わない	そ う思わない
【万引きと店舗】					
13) 万引きをされる店側にも問題がある	1	2	3	4	5
14) マイバッグやエコバッグが、万引きひきおこしている	1	2	3	4	5
15) 買い物中の不便さが、万引きをひきおこしている	1	2	3	4	5
16) レジの混雑が、万引きをひきおこしている	1	2	3	4	5
17) 店の対応の悪さが、万引きをひきおこしている	1	2	3	4	5
18) 店員の客に対する積極的な挨拶や声掛けは、万引き防止に効果がある	1	2	3	4	5
19) 警察への通報は、万引き防止に効果がある	1	2	3	4	5
【青少年の万引き】					
20) 万引きする青少年は、万引きに対する罪の意識が薄い	1	2	3	4	5
21) 万引きする青少年は、気の毒だ	1	2	3	4	5
22) 青少年が万引きした場合は、警察に通報するまでしなくてもよい	1	2	3	4	5
23) 青少年の万引きを防止する役割は、家族が担うべきだ	1	2	3	4	5
24) 青少年の万引きを防止する役割は、店舗が担うべきだ	1	2	3	4	5
25) 青少年の万引きを防止する役割は、学校が担うべきだ	1	2	3	4	5
26) 青少年の万引きを防止する役割は、警察が担うべきだ	1	2	3	4	5
27) 青少年の万引きを防止する役割は、自治体が担うべきだ	1	2	3	4	5
【高齢者の万引き】					
28) 万引きする高齢者は、万引きに対する罪の意識が薄い	1	2	3	4	5
29) 万引きする高齢者は、気の毒だ	1	2	3	4	5
30) 高齢者が万引きした場合は、警察に通報するまでしなくてもよい	1	2	3	4	5
31) 高齢者の万引きを防止する役割は、家族が担うべきだ	1	2	3	4	5
32) 高齢者の万引きを防止する役割は、店舗が担うべきだ	1	2	3	4	5
33) 高齢者の万引きを防止する役割は、地域が担うべきだ	1	2	3	4	5
34) 高齢者の万引きを防止する役割は、警察が担うべきだ	1	2	3	4	5
35) 高齢者の万引きを防止する役割は、自治体が担うべきだ	1	2	3	4	5

問2 あなたは、以下についてどの程度ご存知ですか（○はそれぞれ一つ）

	知つて いる	だいたい は知つて いる	知らな い
1) 万引きは、警察に全件届け出ことになっている	1	2	3
2) 万引きは、 ^{ちょうえき} 懲役刑のほか50万円以下の罰金刑が定められている	1	2	3
3) 被害品が売買されるのを防ぐため、18歳未満の買取りにはルールがある	1	2	3
4) 万引きで検挙されている人数は少年より高齢者の方が多い	1	2	3

問3 あなた自身、について教えてください。

1) 性別（○は一つ）	1. 男性 2. 女性
2) 年齢（○は一つ）	1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70代 8. 80代以上
3) 家族構成（○は一つ）	1. 単身 2. 夫婦のみ 3. 親と子ども 4. 三世代 5. その他
4) 現在の店舗での勤務期間	1. 1ヶ月未満 2. 1ヶ月以上3ヶ月未満 3. 3ヶ月以上6ヶ月未満 4. 6ヶ月以上1年未満 5. 1年以上3年未満 6. 3年以上
5) 店舗内での立場（役職） （○は一つ）	1. 経営者 2. 総括責任者（S V等） 3. 店舗責任者（店長・副店長） 4. 社員 5. パート・アルバイト 6. その他（ ）

問4 以下の設問に、「はい」「いいえ」でお答えください。（○はそれぞれ一つ）

	はい	いいえ
1) 自治会に加入している	1	2
2) 防犯ボランティア活動に参加したことがある	1	2
3) 平日の日中は、自宅近くにいることが多い	1	2
4) 日常の買い物は、徒歩や自転車で行くことが多い	1	2
5) 日常の買い物は、自家用車で行くことが多い	1	2
6) 「万引き」を見聞きしたことがある（現場を見た、被害者や加害者が身近にいたなど）	1	2
7) 店舗の店員として万引き犯人に対応したことがある	1	2
8) 趣味や生きがいがある	1	2
9) 経済的にゆとりがないと感じる	1	2
10) 日常で気兼ねなく話ができる人がいる	1	2

万引き防止対策についてご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

アンケートにご協力いただき、まことにありがとうございました。

万引きに関する意識調査

東京万引き防止官民合同会議

■ ご協力のお願い

本調査は、万引きに対する意識を調査分析することにより、より効果的な施策を検討するために行います。皆様方のご理解・ご協力をお願いいたします。なお、本調査で得られたデータは、警視庁及び東京万引き防止官民合同会議における防犯対策の分析資料に活用し、他の目的に使用はいたしません。

■ 記入要領

- * 調査票は無記名です。ご記入日現在の状況をご記入ください。
- * ご記入は、解答欄の番号に直接○印をしてください。
- * 問1から問4まで順番に、ご記入もれのないようお答えください。

■ お問合せ先（事務局）

警視庁生活安全総務課 生活安全対策第三係 電話 (03) 3581-4321 (代表)

問 1 例にしたがって、それぞれの設問にお答えください。(○はそれぞれ一つ)

	そう 思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそ う思わない	そ う思わない
例) 万引き防止の取り組みをしている店が増えている	1	2	3	4	5
【悪質な犯罪か】					
1) 「振り込め詐欺」は、悪質な犯罪だ	1	2	3	4	5
2) 「ひったくり」は、悪質な犯罪だ	1	2	3	4	5
3) 「自転車泥棒」は、悪質な犯罪だ	1	2	3	4	5
4) 「無銭飲食」は、悪質な犯罪だ	1	2	3	4	5
5) 「万引き」は、悪質な犯罪だ	1	2	3	4	5
【万引きの罪の重さ】					
6) 万引きの罪は、被害額が大きいほど重い	1	2	3	4	5
7) 万引きの罪は、常習者ほど重い	1	2	3	4	5
8) 万引きの罪は、計画性があるほど重い	1	2	3	4	5
9) 生活に困って万引きをするのは、ある程度は仕方ない	1	2	3	4	5
10) 安価な品物の万引きの場合、買い取れば、警察に通報す るまではしなくてよい	1	2	3	4	5
11) 初めての万引きで、反省していれば、警察に通報するま ではしなくてよい	1	2	3	4	5
12) 被害額や計画性などに問わらず、万引きしたら逮捕され るべきだ	1	2	3	4	5

	そう 思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそ 思わない	そ う 思わない
【万引きと店舗】					
13) 万引きをされる店側にも問題がある	1	2	3	4	5
14) マイバッグやエコバッグが、万引きひきおこしている	1	2	3	4	5
15) 買い物中の不便さが、万引きをひきおこしている	1	2	3	4	5
16) レジの混雑が、万引きをひきおこしている	1	2	3	4	5
17) 店の対応の悪さが、万引きをひきおこしている	1	2	3	4	5
18) 店員の客に対する積極的な挨拶や声掛けは、万引き防止に効果がある	1	2	3	4	5
19) 警察への通報は、万引き防止に効果がある	1	2	3	4	5
【青少年の万引き】					
20) 万引きする青少年は、万引きに対する罪の意識が薄い	1	2	3	4	5
21) 万引きする青少年は、気の毒だ	1	2	3	4	5
22) 青少年が万引きした場合は、警察に通報するまでしなくてもよい	1	2	3	4	5
23) 青少年の万引きを防止する役割は、家族が担うべきだ	1	2	3	4	5
24) 青少年の万引きを防止する役割は、店舗が担うべきだ	1	2	3	4	5
25) 青少年の万引きを防止する役割は、学校が担うべきだ	1	2	3	4	5
26) 青少年の万引きを防止する役割は、警察が担うべきだ	1	2	3	4	5
27) 青少年の万引きを防止する役割は、自治体が担うべきだ	1	2	3	4	5
【高齢者の万引き】					
28) 万引きする高齢者は、万引きに対する罪の意識が薄い	1	2	3	4	5
29) 万引きする高齢者は、気の毒だ	1	2	3	4	5
30) 高齢者が万引きした場合は、警察に通報するまでしなくてもよい	1	2	3	4	5
31) 高齢者の万引きを防止する役割は、家族が担うべきだ	1	2	3	4	5
32) 高齢者の万引きを防止する役割は、店舗が担うべきだ	1	2	3	4	5
33) 高齢者の万引きを防止する役割は、地域が担うべきだ	1	2	3	4	5
34) 高齢者の万引きを防止する役割は、警察が担うべきだ	1	2	3	4	5
35) 高齢者の万引きを防止する役割は、自治体が担うべきだ	1	2	3	4	5

問2 あなたは、以下についてどの程度ご存知ですか（○はそれぞれ一つ）

	知っている	だいたいは知っている	知らない
1) 万引きは、警察に全件届け出ことになっている	1	2	3
2) 万引きは、 ^{ちょうえき} 懲役刑のほか50万円以下の罰金刑が定められている	1	2	3
3) 被害品が売買されるのを防ぐため、18歳未満の買取りにはルールがある	1	2	3
4) 万引きで検挙されている人数は少年より高齢者のほうが多い	1	2	3

問3 以下の設問に、「はい」「いいえ」でお答えください。（○はそれぞれ一つ）

	はい	いいえ
1) 東京23区内に現在居住している	1	2
2) 自治会に加入している	1	2
3) 防犯ボランティア活動に参加したことがある	1	2
4) 平日の日中は、自宅近くにいることが多い	1	2
5) 現在、スーパーマーケットやコンビニ等で働いている、または最近まで働いていた	1	2
6) 現在、商店を経営している、または最近まで経営していた	1	2
7) 「万引き」を見聞きしたことがある（現場を見た、被害者や加害者が身近にいたなど）	1	2
8) 趣味や生きがいがある	1	2
9) 経済的にゆとりがないと感じる	1	2
10) 日常で気兼ねなく話ができる人がいる	1	2

問4 あなたの生活についておうかがいします。次のそれぞれの設問についてあてはまるものに○をつけてください。（○はそれぞれ一つ）

1) 所得・収入の満足感

1. 満足している 2. まあ満足している 3. どちらともいえない 4. やや不満だ 5. 不満だ

2) 資産・貯蓄の満足感

1. 満足している 2. まあ満足している 3. どちらともいえない 4. やや不満だ 5. 不満だ

3) 生活の中で感じる充実感

1. 十分充実感を感じている 2. まあ充実感を感じている 3. どちらともいえない
4. あまり充実感を感じていない 5. 充実感を感じていない

4) 世間一般からみた生活の程度

1. 上 2. 中の上 3. 中の中 4. 中の下 5. 下

問5 あなた自身、同居しているご家族、およびお住まいについて教えてください。

1) 性別（○は一つ）	1. 男性 2. 女性
2) 年齢（○は一つ）	1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70 8. 80代以上
3) 家族構成（○は一つ）	1. 単身 2. 夫婦のみ 3. 親と未婚の子ども 3. 二世代 4. 三世代 5. その他
4) 現在の店舗での勤務期間（○は一つ）	1. 1ヶ月未満 2. 1ヶ月以上3ヶ月未満 3. 3ヶ月以上6ヶ月未満 4. 6ヶ月以上1年未満 5. 1年以上3年未満 6. 3年以上
5) 店舗内での立場（役職）（○は一つ）	1. 経営者 2. 統括責任者（S V 等） 3. 店舗責任者（店長・副店長） 4. 社員 5. パート・アルバイト 6. その他（ ）

□ 万引き防止対策について、お考えのことがございましたら、ご自由にお書きください。

- 青少年の万引き防止対策に関すること。

- 高齢者の万引き防止対策に関すること。

- その他万引き防止対策に関すること。

アンケートにご協力いただき、まことにありがとうございました。

□□□□□□□□□□
署コード【1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11】 店舗コード【A・B・C・D・E・F・G・H・I・J・K】

店舗の防犯に関する意識調査

東京万引き防止官民合同会議

■ ご協力のお願い

本調査は、店舗の防犯について、より効果的な施策を検討するために行います。皆様方のご理解・ご協力ををお願いいたします。なお、本調査に関する個人情報につきましては、調査目的以外には使用せず個人に影響が及ぶことのないよう厳重に保護いたします。

* ご記入は、解答欄の番号に直接○印をしてください。

■ お問合せ先（事務局）

警視庁生活安全総務課 生活安全対策第三係 電話 (03) 3581-4321 (代表)

問1 現在ご来店中の店舗について、お答えください。(○はそれぞれ一つ)

	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満
1) 従業員の身だしなみ・態度について	1	2	3	4	5
2) 従業員のあいさつ・声掛けについて	1	2	3	4	5
3) 店内の歩きやすさ、分かりやすさについて	1	2	3	4	5
4) 商品の品揃えについて	1	2	3	4	5
5) 商品の探しやすさ、分かりやすさについて	1	2	3	4	5
6) 混雑時の対応について	1	2	3	4	5
7) 会計の待ち時間について	1	2	3	4	5
8) 店舗の総合的な満足度について	1	2	3	4	5

問2 万引についてあなたはどのようにお考えですか。一般論としてお答えください。(○はそれぞれ一つ)

	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
1) 万引きをされる店側にも問題がある	1	2	3	4	5
2) マイバッグやエコバッグが、万引きをひきおこしている	1	2	3	4	5
3) 買い物中の不便さが、万引きをひきおこしている	1	2	3	4	5
4) レジの混雑が、万引きをひきおこしている	1	2	3	4	5
5) 店の対応の悪さが、万引きをひきおこしている	1	2	3	4	5

問3 あなた自身について、教えてください。(○はそれぞれ一つ)

1) 性別	1. 男性	2. 女性								
2) 年齢	1. 10代	2. 20代	3. 30代	4. 40代	5. 50代					
3) 店舗の利用頻度	6. 60代	7. 70代	8. 80代以上	1. ほぼ毎日	2. 3日に1度程度	3. 週に1度程度	4. 月に1度程度	5. 3ヶ月に1度程度	6. 半年に1度程度	7. はじめて

アンケートにご協力いただき、まことにありがとうございました。

□□□□□□□□□□□
署コード【1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11】 店舗コード【A・B・C・D・E・F・G・H・I・J・K】

万引きに関する意識調査 店舗シート

東京万引き防止官民合同会議

■ ご協力のお願い

本調査は、万引きに対する意識を調査分析することにより、より効果的な施策を検討するために行います。皆様方のご理解・ご協力をお願いいたします。なお、本調査に関する個人情報につきましては、調査目的以外には使用せず個人に影響が及ぶことのないよう厳重に保護いたします。

* 調査票の回答は、店舗の責任者若しくはそれに準ずる方が記入ください。

■ お問合せ先（事務局）

警視庁生活安全総務課 生活安全対策第三係 電話 (03) 3581-4321 (代表)

問1 あなたの店舗における万引きの特徴や動向について、お答えください。（○はそれぞれ一つ）

	そう 思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそ 思わない	そ う思 わない	わから ない
1) 当店舗では、万引きの年間件数が多いと思う	1	2	3	4	5	6
2) 当店舗では、少年の万引きが多いと思う	1	2	3	4	5	6
3) 当店舗では、高齢者の万引きが多いと思う	1	2	3	4	5	6
4) 当店舗では、計画的な万引きが多いと思う	1	2	3	4	5	6
5) 当店舗では、転売目的の万引きが多いと思う	1	2	3	4	5	6
6) 当店舗では、全体的に万引き被害が多いと思う	1	2	3	4	5	6

問2 あなたの店舗の万引き防止対策などについて、お答えください。（○はそれぞれ一つ）

	はい	いいえ
1) 従業員によるお客様へのあいさつ・声掛けを積極的に行っている	1	2
2) 万引き防止のイベントやキャンペーンを実施している	1	2
3) 地域の商店会などに加入している	1	2
4) 防犯ボランティアの巡回を受け入れている	1	2
5) 警備員（保安員）を配置している	1	2
6) 店舗に万引き防止の掲示物（ポスター等）を貼付している	1	2
7) 店舗に万引き防止のための店内表示（P.O.P等）をしている	1	2
8) 店舗に防犯カメラを設置している	1	2
9) 店舗に商品管理システム（E.A.S）を設置している	1	2
10) 防犯カメラを活用して、万引き犯人を確保している	1	2
11) 日常的に万引き防止のための従業員教育を実施している	1	2
12) 万引き防止のため、店舗独自のルール（基準）を活用している	1	2
13) 近隣の店舗と防犯情報を共有している	1	2
14) 万引き被害の補填を、盗難保険などで対応している	1	2
15) 万引きの発生による損失は、店舗責任者が責任を負うことになっている	1	2

問3 店舗で万引き犯人を確保した場合、基本的にどのようになさっていますか（○はそれ一つ）
***「場合による」と回答された場合は（ ）内に具体例をご記入ください**

	はい	いいえ	場合による ()
1) 犯人が少年の場合は、家庭に連絡する	1	2	3 ()
2) 犯人が少年の場合は、学校に連絡する	1	2	3 ()
3) 犯人が少年の場合は、警察に通報する	1	2	3 ()
4) 犯人が高齢者の場合は、家庭に連絡する	1	2	3 ()
5) 犯人が高齢者の場合は、警察に通報する	1	2	3 ()
6) 犯人を確保した場合は、警察へ通報する	1	2	3 ()
7) 被害届は、必ず提出する	1	2	3 ()
8) 被害届は、被害金額の多寡を考慮して提出する	1	2	3 ()
9) 被害届は、犯人の常習性を考慮して提出する	1	2	3 ()

問4 あなた自身、および勤務先について教えてください。

1) 性別（○は一つ）	1. 男性 2. 女性
2) 年齢（○は一つ）	1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70代 8. 80代以上
3) 役職（○は一つ）	1. 経営者 2. 総括責任者（S V等） 3. 店舗責任者（店長・副店長） 4. 社員 5. パート・アルバイト 6. その他（ ）
4) 勤務年数	現在の店舗に勤務して 約（ ）年（数字をご記入ください）
5) 主な客層：性別（○は一つ）	1. 男性 2. 女性 3. 男女同じくらい 4. わからない
6) 主な客層：年代 (○はいくつでも)	1. 10代 2. 20代～30代 3. 40代～50代 4. 60代以上 5. 年代の差はない 6. わからない
7) 店舗の営業時間（○は一つ）	1. 24時間営業 2. 早朝から深夜まで営業 3. 概ね10時から22時までの間の営業 4. 不定 5. その他（ ）
8) 店舗全体の就労人員 (アルバイト等も含む) (○は一つ)	1. 1人～5人 2. 6人～10人 3. 10人～20人 4. 20人～50人 5. 50人～100人 6. 100人以上
9) 万引き犯人年間確保人数 (○は一つ)	1. 0人 2. 1人～3人 3. 4人～6人 4. 7人～9人 5. 10人～20人 6. 20人以上

アンケートにご協力いただき、まことにありがとうございました。

万引きに関する意識調査 店舗シート

29

東京万引き防止官民合同会議

■ ご協力のお願い

本調査は、万引きに対する意識を調査分析することにより、より効果的な施策を検討するために行います。皆様方のご理解・ご協力をお願いいたします。なお、本調査に関する個人情報につきましては、調査目的以外には使用せず個人に影響が及ぶことのないよう厳重に保護いたします。

* 調査票の回答は、店舗の責任者若しくはそれに準ずる方が記入ください。

■ お問合せ先（事務局）

警視庁生活安全総務課 生活安全対策第三係 電話 (03) 3581-4321 (代表)

問1 あなたの店舗における万引きの特徴や動向について、お答えください。（○はそれぞれ一つ）

	そう 思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそ う思わない	そ う思わない	わから ない
1) 当店舗では、万引きの年間件数が多いと思う	1	2	3	4	5	6
2) 当店舗では、少年の万引きが多いと思う	1	2	3	4	5	6
3) 当店舗では、高齢者の万引きが多いと思う	1	2	3	4	5	6
4) 当店舗では、計画的な万引きが多いと思う	1	2	3	4	5	6
5) 当店舗では、転売目的の万引きが多いと思う	1	2	3	4	5	6
6) 当店舗では、全体的に万引き被害が多いと思う	1	2	3	4	5	6

問2 あなたの店舗の万引き防止対策などについて、お答えください。（○はそれぞれ一つ）

	はい	いいえ
1) 従業員によるお客様へのあいさつ・声掛けを積極的に行っている	1	2
2) 万引き防止のイベントやキャンペーンを実施している	1	2
3) 地域の商店会などに加入している	1	2
4) 防犯ボランティアの巡回を受け入れている	1	2
5) 警備員（保安員）を配置している	1	2
6) 店舗に万引き防止の掲示物（ポスター等）を貼付している	1	2
7) 店舗に万引き防止のための店内表示（P O P 等）をしている	1	2
8) 店舗に防犯カメラを設置している	1	2
9) 店舗に商品管理システム（E A S）を設置している	1	2
10) 防犯カメラを活用して、万引き犯人を確保している	1	2
11) 日常的に万引き防止のための従業員教育を実施している	1	2
12) 万引き防止のため、店舗独自のルール（基準）を活用している	1	2
13) 近隣の店舗と防犯情報を共有している	1	2
14) 万引き被害の補填を、盗難保険などで対応している	1	2
15) 万引きの発生による損失は、店舗責任者が責任を負うことになっている	1	2

問3 店舗で万引き犯人を確保した場合、基本的にどのようになさっていますか（○はそれぞれ一つ）
***「場合による」と回答された場合は（ ）内に具体例をご記入ください**

	はい	いいえ	場合による ()
1) 犯人が少年の場合は、家庭に連絡する	1	2	3 ()
2) 犯人が少年の場合は、学校に連絡する	1	2	3 ()
3) 犯人が少年の場合は、警察に通報する	1	2	3 ()
4) 犯人が高齢者の場合は、家庭に連絡する	1	2	3 ()
5) 犯人が高齢者の場合は、警察に通報する	1	2	3 ()
6) 犯人を確保した場合は、警察へ通報する	1	2	3 ()
7) 被害届は、必ず提出する	1	2	3 ()
8) 被害届は、被害金額の多寡を考慮して提出する	1	2	3 ()
9) 被害届は、犯人の常習性を考慮して提出する	1	2	3 ()

問4 あなた自身、および勤務先について教えてください。

1) 性別（○は一つ）	1. 男性 2. 女性			
2) 年齢（○は一つ）	1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70代 8. 80代以上			
3) 役職（○は一つ）	1. 経営者 2. 統括責任者(SV等) 3. 店舗責任者(店長・副店長) 4. 社員 5. パート・アルバイト 6. その他 ()			
4) 勤務年数	現在の店舗に勤務して 約 () 年 (数字をご記入ください)			
5) 主な客層：性別（○は一つ）	1. 男性 2. 女性 3. 男女同じくらい 4. わからない			
6) 主な客層：年代 (○はいくつでも)	1. 10代 2. 20代～30代 3. 40代～50代 4. 60代以上 5. 年代の差はない 6. わからない			
7) 一日あたりの平均来客数 (○は一つ)	1. 200人以下 2. 201人～500人 3. 501人～1000人 4. 1001人～2000人 5. 2001人以上 6. わからない			
8) 店舗の営業時間（○は一つ）	1. 24時間営業 2. 早朝から深夜まで営業 3. 概ね10時から22時までの間の営業 4. 不定 5. その他 ()			
9) 店舗全体の就労人員 (パート等も含む)（○は一つ）	1. 1人～5人 2. 6人～10人 3. 10人～20人 4. 20人～50人 5. 50人～100人 6. 100人以上			
10) 万引き犯人年間確保人数 (○は一つ)	1. 0人 2. 1人～2人 3. 3人～4人 4. 5人～6人 5. 7人～8人 6. 9人～10人 7. 11人～14人 8. 15人以上			
11) 少年の万引き犯人年間 確保人数（○は一つ）	1. 0人 2. 1人～2人 3. 3人～4人 4. 5人～6人 5. 7人～8人 6. 9人～10人 7. 11人～14人 8. 15人以上			
12) 高齢者の万引き犯人年間 確保人数（○は一つ）	1. 0人 2. 1人～2人 3. 3人～4人 4. 5人～6人 5. 7人～8人 6. 9人～10人 7. 11人～14人 8. 15人以上			

アンケートにご協力いただき、まことにありがとうございました。

各調査結果一覧

1. 一般市民、店舗従業員対象の調査結果一覧..... 資 2-1
2. 店舗顧客対象の調査結果一覧..... 資 2-64
3. 店舗責任者対象の調査結果一覧..... 資 2-65

1. 一般市民、店舗従業員対象の調査結果一覧

* 問4以降の設問ナンバーは第二次調査に準じた(問3まではすべて共通)。

問1 例にしたがって、それぞれの設問にお答えください。

【悪質な犯罪か】

1)「振り込め詐欺」は、悪質な犯罪だ

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	547 96%	16 3%	1 0%	1 0%	2 0%	1 0%
防犯キャンペーン 参加者	18	18 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
防犯ボランティア	10	10 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
通行人	249	242 97%	6 2%	1 0%	0 0%	0 0%	0 0%
中学生保護者	85	80 94%	5 6%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
中学生	84	77 92%	5 6%	0 0%	1 1%	1 1%	0 0%
一般住民	122	120 98%	0 0%	0 0%	0 0%	1 1%	1 1%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	467 93%	27 5%	5 1%	1 0%	0 0%	0 0%
男	250	227 91%	19 8%	3 1%	1 0%	0 0%	0 0%
女	250	240 96%	8 3%	2 1%	0 0%	0 0%	0 0%
20代	82	73 89%	6 7%	3 4%	0 0%	0 0%	0 0%
30代	84	77 92%	5 6%	1 1%	1 1%	0 0%	0 0%
40代	84	77 92%	7 8%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
50代	84	82 98%	2 2%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
60代	84	78 93%	6 7%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
70代	82	80 98%	1 1%	1 1%	0 0%	0 0%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	356 98%	4 1%	1 0%	1 0%	1 0%	0 0%
D区	119	114 96%	3 3%	0 0%	1 1%	1 1%	0 0%
E区	102	100 98%	1 1%	1 1%	0 0%	0 0%	0 0%
F市	142	142 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	184 97%	3 2%	1 1%	0 0%	0 0%	2 1%
店舗従業員	566	549 97%	12 2%	1 0%	1 0%	1 0%	2 0%

2)「ひったくり」は、悪質な犯罪だ

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	545	20	1	0	2	0
		96%	4%	0%	0%	0%	0%
防犯キャンペー ン参加者	18	18	0	0	0	0	0
		100%	0%	0%	0%	0%	0%
防犯ボランティア	10	10	0	0	0	0	0
		100%	0%	0%	0%	0%	0%
通行人	249	242	6	1	0	0	0
		97%	2%	0%	0%	0%	0%
中学生保護者	85	80	5	0	0	0	0
		94%	6%	0%	0%	0%	0%
中学生	84	76	7	0	0	1	0
		90%	8%	0%	0%	1%	0%
一般住民	122	119	2	0	0	1	0
		98%	2%	0%	0%	1%	0%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	463	32	4	1	0	0
		93%	6%	1%	0%	0%	0%
男	250	224	22	3	1	0	0
		90%	9%	1%	0%	0%	0%
女	250	239	10	1	0	0	0
		96%	4%	0%	0%	0%	0%
20代	82	70	9	3	0	0	0
		85%	11%	4%	0%	0%	0%
30代	84	80	3	0	1	0	0
		95%	4%	0%	1%	0%	0%
40代	84	76	8	0	0	0	0
		90%	10%	0%	0%	0%	0%
50代	84	83	1	0	0	0	0
		99%	1%	0%	0%	0%	0%
60代	84	77	7	0	0	0	0
		92%	8%	0%	0%	0%	0%
70代	82	77	4	1	0	0	0
		94%	5%	1%	0%	0%	0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	353	9	0	0	1	0
		97%	2%	0%	0%	0%	0%
D区	119	114	4	0	0	1	0
		96%	3%	0%	0%	1%	0%
E区	102	100	2	0	0	0	0
		98%	2%	0%	0%	0%	0%
F市	142	139	3	0	0	0	0
		98%	2%	0%	0%	0%	0%
防犯責任者 【第一次】	190	185	4	0	0	0	1
		97%	2%	0%	0%	0%	1%
店舗従業員	566	556	6	1	1	1	1
		98%	1%	0%	0%	0%	0%

3)「自転車泥棒」は、悪質な犯罪だ

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	502	53	8	3	1	1
		88%	9%	1%	1%	0%	0%
防犯キャンペー ン参加者	18	13	5	0	0	0	0
		72%	28%	0%	0%	0%	0%
防犯ボランティア	10	7	2	1	0	0	0
		70%	20%	10%	0%	0%	0%
通行人	249	227	18	3	1	0	0
		91%	7%	1%	0%	0%	0%
中学生保護者	85	75	9	0	0	0	1
		88%	11%	0%	0%	0%	1%
中学生	84	69	10	4	1	0	0
		82%	12%	5%	1%	0%	0%
一般住民	122	111	9	0	1	1	0
		91%	7%	0%	1%	1%	0%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	411	78	9	2	0	0
		82%	16%	2%	0%	0%	0%
男	250	199	43	7	1	0	0
		80%	17%	3%	0%	0%	0%
女	250	212	35	2	1	0	0
		85%	14%	1%	0%	0%	0%
20代	82	66	12	4	0	0	0
		80%	15%	5%	0%	0%	0%
30代	84	71	11	0	2	0	0
		85%	13%	0%	2%	0%	0%
40代	84	70	13	1	0	0	0
		83%	15%	1%	0%	0%	0%
50代	84	70	14	0	0	0	0
		83%	17%	0%	0%	0%	0%
60代	84	62	20	2	0	0	0
		74%	24%	2%	0%	0%	0%
70代	82	72	8	2	0	0	0
		88%	10%	2%	0%	0%	0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	311	49	2	0	1	0
		86%	13%	1%	0%	0%	0%
D区	119	104	13	1	0	1	0
		87%	11%	1%	0%	1%	0%
E区	102	87	14	1	0	0	0
		85%	14%	1%	0%	0%	0%
F市	142	120	22	0	0	0	0
		85%	15%	0%	0%	0%	0%
防犯責任者 【第一次】	190	165	22	2	0	0	1
		87%	12%	1%	0%	0%	1%
店舗従業員	566	522	39	1	2	1	1
		92%	7%	0%	0%	0%	0%

4)「無銭飲食」は、悪質な犯罪だ

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	489	66	8	1	3	1
		86%	12%	1%	0%	1%	0%
防犯キャンペー ン参加者	18	16	2	0	0	0	0
		89%	11%	0%	0%	0%	0%
防犯ボランティア	10	8	2	0	0	0	0
		80%	20%	0%	0%	0%	0%
通行人	249	223	19	5	1	1	0
		90%	8%	2%	0%	0%	0%
中学生保護者	85	67	16	1	0	0	1
		79%	19%	1%	0%	0%	1%
中学生	84	73	10	0	0	1	0
		87%	12%	0%	0%	1%	0%
一般住民	122	102	17	2	0	1	0
		84%	14%	2%	0%	1%	0%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	369	114	14	2	1	0
		74%	23%	3%	0%	0%	0%
男	250	180	61	8	1	0	0
		72%	24%	3%	0%	0%	0%
女	250	189	53	6	1	1	0
		76%	21%	2%	0%	0%	0%
20代	82	61	16	5	0	0	0
		74%	20%	6%	0%	0%	0%
30代	84	65	16	1	2	0	0
		77%	19%	1%	2%	0%	0%
40代	84	68	13	3	0	0	0
		81%	15%	4%	0%	0%	0%
50代	84	62	21	1	0	0	0
		74%	25%	1%	0%	0%	0%
60代	84	50	32	1	0	1	0
		60%	38%	1%	0%	1%	0%
70代	82	63	16	3	0	0	0
		77%	20%	4%	0%	0%	0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	284	70	8	0	1	0
		78%	19%	2%	0%	0%	0%
D区	119	96	18	4	0	1	0
		81%	15%	3%	0%	1%	0%
E区	102	81	19	2	0	0	0
		79%	19%	2%	0%	0%	0%
F市	142	107	33	2	0	0	0
		75%	23%	1%	0%	0%	0%
防犯責任者 【第一次】	190	161	27	1	0	0	1
		85%	14%	1%	0%	0%	1%
店舗従業員	566	520	38	4	1	2	1
		92%	7%	1%	0%	0%	0%

5)「万引き」は、悪質な犯罪だ

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	516 91%	45 8%	2 0%	0 0%	2 0%	3 1%
防犯キャンペー ン参加者	18	15 83%	3 17%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
防犯ボランティア	10	8 80%	2 20%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
通行人	249	232 93%	14 6%	2 1%	0 0%	0 0%	1 0%
中学生保護者	85	72 85%	12 14%	0 0%	0 0%	0 0%	1 1%
中学生	84	75 89%	8 10%	0 0%	0 0%	1 1%	0 0%
一般住民	122	114 93%	6 5%	0 0%	0 0%	1 1%	1 1%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	422 84%	68 14%	5 1%	4 1%	1 0%	0 0%
男	250	209 84%	35 14%	4 2%	2 1%	0 0%	0 0%
女	250	213 85%	33 13%	1 0%	2 1%	1 0%	0 0%
20代	82	69 84%	10 12%	1 1%	1 1%	1 1%	0 0%
30代	84	73 87%	9 11%	0 0%	2 2%	0 0%	0 0%
40代	84	71 85%	12 14%	1 1%	0 0%	0 0%	0 0%
50代	84	71 85%	12 14%	1 1%	0 0%	0 0%	0 0%
60代	84	66 79%	16 19%	1 1%	1 1%	0 0%	0 0%
70代	82	72 88%	9 11%	1 1%	0 0%	0 0%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	327 90%	34 9%	1 0%	0 0%	1 0%	0 0%
D区	119	109 92%	9 8%	0 0%	0 0%	1 1%	0 0%
E区	102	91 89%	10 10%	1 1%	0 0%	0 0%	0 0%
F市	142	127 89%	15 11%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	174 92%	15 8%	0 0%	0 0%	0 0%	1 1%
店舗従業員	566	543 96%	18 3%	2 0%	1 0%	1 0%	1 0%

【万引きの罪の重さ】

6) 万引きの罪は、被害額が大きいほど重い

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	195 34%	106 19%	100 18%	51 9%	114 20%	2 0%
防犯キャンペー ン参加者	18	3 17%	5 28%	4 22%	1 6%	5 28%	0 0%
防犯ボランティア	10	1 10%	2 20%	1 10%	0 0%	6 60%	0 0%
通行人	249	99 40%	48 19%	43 17%	17 7%	42 17%	0 0%
中学生保護者	85	13 15%	22 26%	18 21%	13 15%	19 22%	0 0%
中学生	84	30 36%	11 13%	14 17%	11 13%	18 21%	0 0%
一般住民	122	49 40%	18 15%	20 16%	9 7%	24 20%	2 2%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	178 36%	121 24%	87 17%	59 12%	55 11%	0 0%
男	250	89 36%	65 26%	37 15%	29 12%	30 12%	0 0%
女	250	89 36%	56 22%	50 20%	30 12%	25 10%	0 0%
20代	82	30 37%	12 15%	18 22%	7 9%	15 18%	0 0%
30代	84	27 32%	15 18%	13 15%	12 14%	17 20%	0 0%
40代	84	21 25%	23 27%	20 24%	11 13%	9 11%	0 0%
50代	84	37 44%	25 30%	8 10%	9 11%	5 6%	0 0%
60代	84	29 35%	23 27%	12 14%	13 15%	7 8%	0 0%
70代	82	34 41%	23 28%	16 20%	7 9%	2 2%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	109 30%	62 17%	75 21%	37 10%	80 22%	0 0%
D区	119	30 25%	23 19%	28 24%	13 11%	25 21%	0 0%
E区	102	36 35%	10 10%	25 25%	9 9%	22 22%	0 0%
F市	142	43 30%	29 20%	22 15%	15 11%	33 23%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	54 28%	29 15%	28 15%	24 13%	52 27%	3 2%
店舗従業員	566	178 31%	71 13%	89 16%	48 8%	178 31%	2 0%

7) 万引きの罪は、常習者ほど重い

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	324 57%	100 18%	62 11%	22 4%	59 10%	1 0%
防犯キャンペー ン参加者	18	14 78%	1 6%	0 0%	0 0%	3 17%	0 0%
防犯ボランティア	10	5 50%	2 20%	1 10%	0 0%	2 20%	0 0%
通行人	249	139 56%	43 17%	27 11%	15 6%	25 10%	0 0%
中学生保護者	85	43 51%	23 27%	10 12%	2 2%	7 8%	0 0%
中学生	84	35 42%	14 17%	18 21%	3 4%	14 17%	0 0%
一般住民	122	88 72%	17 14%	6 5%	2 2%	8 7%	1 1%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	323 65%	105 21%	36 7%	12 2%	24 5%	0 0%
男	250	161 64%	53 21%	18 7%	4 2%	14 6%	0 0%
女	250	162 65%	52 21%	18 7%	8 3%	10 4%	0 0%
20代	82	46 56%	18 22%	9 11%	2 2%	7 9%	0 0%
30代	84	44 52%	20 24%	7 8%	2 2%	11 13%	0 0%
40代	84	47 56%	24 29%	8 10%	2 2%	3 4%	0 0%
50代	84	60 71%	16 19%	4 5%	3 4%	1 1%	0 0%
60代	84	62 74%	13 15%	7 8%	1 1%	1 1%	0 0%
70代	82	64 78%	14 17%	1 1%	2 2%	1 1%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	237 65%	64 18%	32 9%	10 3%	20 6%	0 0%
D区	119	74 62%	22 18%	12 10%	3 3%	8 7%	0 0%
E区	102	64 63%	19 19%	12 12%	1 1%	6 6%	0 0%
F市	142	99 70%	23 16%	8 6%	6 4%	6 4%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	130 68%	23 12%	13 7%	5 3%	18 9%	1 1%
店舗従業員	566	328 58%	67 12%	56 10%	29 5%	85 15%	1 0%

8) 万引きの罪は、計画性があるほど重い

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	293 52%	83 15%	88 15%	33 6%	69 12%	2 0%
防犯キャンペー ン参加者	18	7 39%	5 28%	2 11%	0 0%	4 22%	0 0%
防犯ボランティア	10	3 30%	0 0%	1 10%	2 20%	4 40%	0 0%
通行人	249	128 51%	34 14%	35 14%	19 8%	32 13%	1 0%
中学生保護者	85	44 52%	18 21%	13 15%	5 6%	5 6%	0 0%
中学生	84	22 26%	14 17%	28 33%	3 4%	17 20%	0 0%
一般住民	122	89 73%	12 10%	9 7%	4 3%	7 6%	1 1%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	302 60%	107 21%	58 12%	14 3%	19 4%	0 0%
男	250	144 58%	60 24%	29 12%	5 2%	12 5%	0 0%
女	250	158 63%	47 19%	29 12%	9 4%	7 3%	0 0%
20代	82	39 48%	16 20%	18 22%	4 5%	5 6%	0 0%
30代	84	36 43%	20 24%	17 20%	2 2%	9 11%	0 0%
40代	84	43 51%	24 29%	13 15%	1 1%	3 4%	0 0%
50代	84	59 70%	18 21%	5 6%	1 1%	1 1%	0 0%
60代	84	63 75%	16 19%	3 4%	1 1%	1 1%	0 0%
70代	82	62 76%	13 16%	2 2%	5 6%	0 0%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	232 64%	53 15%	37 10%	16 4%	23 6%	2 1%
D区	119	73 61%	15 13%	13 11%	8 7%	9 8%	1 1%
E区	102	65 64%	11 11%	15 15%	3 3%	8 8%	0 0%
F市	142	94 66%	27 19%	9 6%	5 4%	6 4%	1 1%
防犯責任者 【第一次】	190	122 64%	21 11%	18 9%	7 4%	21 11%	1 1%
店舗従業員	566	309 55%	71 13%	75 13%	25 4%	85 15%	1 0%

9)生活に困って万引きをするのは、ある程度は仕方ない

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	59 10%	76 13%	83 15%	94 17%	253 45%	3 1%
防犯キャンペー ン参加者	18	2 11%	2 11%	2 11%	3 17%	9 50%	0 0%
防犯ボランティア	10	1 10%	0 0%	1 10%	2 20%	6 60%	0 0%
通行人	249	31 12%	38 15%	34 14%	42 17%	103 41%	1 0%
中学生保護者	85	5 6%	13 15%	15 18%	14 16%	38 45%	0 0%
中学生	84	7 8%	10 12%	17 20%	19 23%	31 37%	0 0%
一般住民	122	13 11%	13 11%	14 11%	14 11%	66 54%	2 2%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	30 6%	55 11%	70 14%	131 26%	214 43%	0 0%
男	250	17 7%	28 11%	35 14%	65 26%	105 42%	0 0%
女	250	13 5%	27 11%	35 14%	66 26%	109 44%	0 0%
20代	82	4 5%	8 10%	15 18%	23 28%	32 39%	0 0%
30代	84	7 8%	7 8%	12 14%	25 30%	33 39%	0 0%
40代	84	5 6%	7 8%	13 15%	18 21%	41 49%	0 0%
50代	84	8 10%	6 7%	9 11%	23 27%	38 45%	0 0%
60代	84	2 2%	19 23%	10 12%	21 25%	32 38%	0 0%
70代	82	4 5%	8 10%	11 13%	21 26%	38 46%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	10 3%	45 12%	50 14%	67 18%	190 52%	1 0%
D区	119	3 3%	8 7%	19 16%	30 25%	59 50%	0 0%
E区	102	4 4%	12 12%	13 13%	16 16%	57 56%	0 0%
F市	142	3 2%	25 18%	18 13%	21 15%	74 52%	1 1%
防犯責任者 【第一次】	190	9 5%	18 9%	9 5%	28 15%	124 65%	2 1%
店舗従業員	566	19 3%	29 5%	46 8%	68 12%	402 71%	2 0%

10) 安価な品物の万引きの場合、買い取れば、警察に通報するまではしなくてよい

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	49 9%	44 8%	102 18%	92 16%	280 49%	1 0%
防犯キャンペー ン参加者	18	1 6%	2 11%	2 11%	2 11%	11 61%	0 0%
防犯ボランティア	10	0 0%	0 0%	1 10%	1 10%	8 80%	0 0%
通行人	249	29 12%	20 8%	47 19%	39 16%	113 45%	1 0%
中学生保護者	85	5 6%	8 9%	15 18%	15 18%	42 49%	0 0%
中学生	84	6 7%	4 5%	15 18%	12 14%	47 56%	0 0%
一般住民	122	8 7%	10 8%	22 18%	23 19%	59 48%	0 0%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	24 5%	35 7%	88 18%	127 25%	226 45%	0 0%
男	250	14 6%	15 6%	35 14%	65 26%	121 48%	0 0%
女	250	10 4%	20 8%	53 21%	62 25%	105 42%	0 0%
20代	82	5 6%	4 5%	14 17%	20 24%	39 48%	0 0%
30代	84	4 5%	4 5%	12 14%	17 20%	47 56%	0 0%
40代	84	3 4%	8 10%	17 20%	15 18%	41 49%	0 0%
50代	84	7 8%	3 4%	15 18%	25 30%	34 40%	0 0%
60代	84	1 1%	9 11%	19 23%	21 25%	34 40%	0 0%
70代	82	4 5%	7 9%	11 13%	29 35%	31 38%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	8 2%	31 9%	45 12%	70 19%	209 58%	0 0%
D区	119	2 2%	9 8%	12 10%	29 24%	67 56%	0 0%
E区	102	3 3%	8 8%	15 15%	21 21%	55 54%	0 0%
F市	142	3 2%	14 10%	18 13%	20 14%	87 61%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	2 1%	9 5%	23 12%	29 15%	126 66%	1 1%
店舗従業員	566	18 3%	14 2%	45 8%	88 16%	398 70%	3 1%

11)初めての万引きで、反省していれば、警察に通報するまではしなくてよい

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	61 11%	69 12%	124 22%	111 20%	201 35%	2 0%
防犯キャンペー ン参加者	18	2 11%	3 17%	2 11%	3 17%	8 44%	0 0%
防犯ボランティア	10	1 10%	0 0%	0 0%	3 30%	6 60%	0 0%
通行人	249	35 14%	31 12%	44 18%	59 24%	79 32%	1 0%
中学生保護者	85	5 6%	13 15%	27 32%	12 14%	28 33%	0 0%
中学生	84	6 7%	6 7%	22 26%	15 18%	35 42%	0 0%
一般住民	122	12 10%	16 13%	29 24%	19 16%	45 37%	1 1%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	31 6%	72 14%	118 24%	114 23%	165 33%	0 0%
男	250	15 6%	26 10%	57 23%	59 24%	93 37%	0 0%
女	250	16 6%	46 18%	61 24%	55 22%	72 29%	0 0%
20代	82	3 4%	12 15%	15 18%	17 21%	35 43%	0 0%
30代	84	7 8%	8 10%	15 18%	24 29%	30 36%	0 0%
40代	84	7 8%	8 10%	22 26%	14 17%	33 39%	0 0%
50代	84	8 10%	17 20%	17 20%	22 26%	20 24%	0 0%
60代	84	3 4%	18 21%	26 31%	15 18%	22 26%	0 0%
70代	82	3 4%	9 11%	23 28%	22 27%	25 30%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	17 5%	66 18%	66 18%	61 17%	153 42%	0 0%
D区	119	5 4%	22 18%	18 15%	18 15%	56 47%	0 0%
E区	102	6 6%	17 17%	21 21%	18 18%	40 39%	0 0%
F市	142	6 4%	27 19%	27 19%	25 18%	57 40%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	3 2%	16 8%	31 16%	29 15%	110 58%	1 1%
店舗従業員	566	16 3%	32 6%	88 16%	101 18%	328 58%	1 0%

12)被害額や計画性などに関わらず、万引きしたら逮捕されるべきだ

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	213 38%	113 20%	147 26%	47 8%	48 8%	0 0%
防犯キャンペー ン参加者	18	6 33%	3 17%	5 28%	3 17%	1 6%	0 0%
防犯ボランティア	10	4 40%	4 40%	1 10%	0 0%	1 10%	0 0%
通行人	249	98 39%	43 17%	64 26%	23 9%	21 8%	0 0%
中学生保護者	85	19 22%	19 22%	33 39%	9 11%	5 6%	0 0%
中学生	84	38 45%	17 20%	20 24%	4 5%	5 6%	0 0%
一般住民	122	48 39%	27 22%	24 20%	8 7%	15 12%	0 0%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	199 40%	118 24%	124 25%	33 7%	26 5%	0 0%
男	250	110 44%	56 22%	50 20%	19 8%	15 6%	0 0%
女	250	89 36%	62 25%	74 30%	14 6%	11 4%	0 0%
20代	82	40 49%	14 17%	22 27%	1 1%	5 6%	0 0%
30代	84	35 42%	21 25%	15 18%	7 8%	6 7%	0 0%
40代	84	32 38%	22 26%	21 25%	6 7%	3 4%	0 0%
50代	84	33 39%	16 19%	24 29%	5 6%	6 7%	0 0%
60代	84	26 31%	20 24%	29 35%	8 10%	1 1%	0 0%
70代	82	33 40%	25 30%	13 16%	6 7%	5 6%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	123 34%	84 23%	96 26%	29 8%	30 8%	1 0%
D区	119	40 34%	32 27%	28 24%	9 8%	9 8%	1 1%
E区	102	36 35%	21 21%	31 30%	10 10%	4 4%	0 0%
F市	142	47 33%	31 22%	37 26%	10 7%	17 12%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	74 39%	45 24%	35 18%	13 7%	22 12%	1 1%
店舗従業員	566	223 39%	95 17%	142 25%	37 7%	68 12%	1 0%

【万引きと店舗】

13) 万引きをされる店側にも問題がある

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	69 12%	155 27%	148 26%	75 13%	121 21%	0 0%
防犯キャンペー ン参加者	18	1 6%	8 44%	1 6%	0 0%	8 44%	0 0%
防犯ボランティア	10	1 10%	5 50%	1 10%	1 10%	2 20%	0 0%
通行人	249	35 14%	66 27%	71 29%	31 12%	46 18%	0 0%
中学生保護者	85	8 9%	16 19%	26 31%	17 20%	18 21%	0 0%
中学生	84	13 15%	21 25%	20 24%	13 15%	17 20%	0 0%
一般住民	122	11 9%	39 32%	29 24%	13 11%	30 25%	0 0%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	21 4%	83 17%	116 23%	160 32%	120 24%	0 0%
男	250	13 5%	44 18%	50 20%	77 31%	66 26%	0 0%
女	250	8 3%	39 16%	66 26%	83 33%	54 22%	0 0%
20代	82	2 2%	15 18%	16 20%	28 34%	21 26%	0 0%
30代	84	8 10%	11 13%	15 18%	26 31%	24 29%	0 0%
40代	84	3 4%	13 15%	18 21%	28 33%	22 26%	0 0%
50代	84	3 4%	8 10%	22 26%	29 35%	22 26%	0 0%
60代	84	2 2%	16 19%	22 26%	27 32%	17 20%	0 0%
70代	82	3 4%	20 24%	23 28%	22 27%	14 17%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	22 6%	80 22%	81 22%	72 20%	108 30%	0 0%
D区	119	4 3%	20 17%	30 25%	22 18%	43 36%	0 0%
E区	102	6 6%	27 26%	27 26%	20 20%	22 22%	0 0%
F市	142	12 8%	33 23%	24 17%	30 21%	43 30%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	55 29%	71 37%	27 14%	21 11%	15 8%	1 1%
店舗従業員	566	86 15%	173 31%	118 21%	65 11%	124 22%	0 0%

14)マイバッグやエコバッグが、万引きひきおこしている

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	38 7%	89 16%	178 31%	106 19%	153 27%	4 1%
防犯キャンペー ン参加者	18	1 6%	5 28%	4 22%	2 11%	6 33%	0 0%
防犯ボランティア	10	0 0%	2 20%	2 20%	3 30%	3 30%	0 0%
通行人	249	18 7%	36 14%	87 35%	50 20%	57 23%	1 0%
中学生保護者	85	4 5%	12 14%	21 25%	21 25%	27 32%	0 0%
中学生	84	5 6%	11 13%	27 32%	13 15%	28 33%	0 0%
一般住民	122	10 8%	23 19%	37 30%	17 14%	32 26%	3 2%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	27 5%	97 19%	140 28%	128 26%	108 22%	0 0%
男	250	18 7%	39 16%	68 27%	61 24%	64 26%	0 0%
女	250	9 4%	58 23%	72 29%	67 27%	44 18%	0 0%
20代	82	5 6%	15 18%	21 26%	19 23%	22 27%	0 0%
30代	84	7 8%	17 20%	16 19%	21 25%	23 27%	0 0%
40代	84	2 2%	15 18%	26 31%	24 29%	17 20%	0 0%
50代	84	7 8%	14 17%	22 26%	21 25%	20 24%	0 0%
60代	84	1 1%	15 18%	26 31%	31 37%	11 13%	0 0%
70代	82	5 6%	21 26%	29 35%	12 15%	15 18%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	22 6%	57 16%	97 27%	85 23%	102 28%	0 0%
D区	119	6 5%	20 17%	27 23%	30 25%	36 30%	0 0%
E区	102	5 5%	15 15%	31 30%	26 25%	25 25%	0 0%
F市	142	11 8%	22 15%	39 27%	29 20%	41 29%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	24 13%	53 28%	53 28%	23 12%	37 19%	0 0%
店舗従業員	566	59 10%	127 22%	150 27%	86 15%	141 25%	3 1%

15) 買い物中の不便さが、万引きをひきおこしている

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	23 4%	48 8%	128 23%	129 23%	232 41%	8 1%
防犯キャンペー ン参加者	18	1 6%	1 6%	1 6%	5 28%	10 56%	0 0%
防犯ボランティア	10	0 0%	1 10%	2 20%	1 10%	6 60%	0 0%
通行人	249	10 4%	26 10%	70 28%	57 23%	82 33%	4 2%
中学生保護者	85	2 2%	7 8%	15 18%	22 26%	38 45%	1 1%
中学生	84	4 5%	4 5%	18 21%	24 29%	34 40%	0 0%
一般住民	122	6 5%	9 7%	22 18%	20 16%	62 51%	3 2%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	11 2%	28 6%	95 19%	178 36%	188 38%	0 0%
男	250	8 3%	15 6%	45 18%	86 34%	96 38%	0 0%
女	250	3 1%	13 5%	50 20%	92 37%	92 37%	0 0%
20代	82	3 4%	5 6%	15 18%	25 30%	34 41%	0 0%
30代	84	4 5%	7 8%	10 12%	20 24%	43 51%	0 0%
40代	84	2 2%	3 4%	15 18%	27 32%	37 44%	0 0%
50代	84	2 2%	3 4%	16 19%	31 37%	32 38%	0 0%
60代	84	0 0%	5 6%	19 23%	37 44%	23 27%	0 0%
70代	82	0 0%	5 6%	20 24%	38 46%	19 23%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	6 2%	13 4%	36 10%	103 28%	203 56%	2 1%
D区	119	2 2%	7 6%	8 7%	34 29%	68 57%	0 0%
E区	102	2 2%	3 3%	17 17%	27 26%	53 52%	0 0%
F市	142	2 1%	3 2%	11 8%	42 30%	82 58%	2 1%
防犯責任者 【第一次】	190	12 6%	23 12%	49 26%	41 22%	64 34%	1 1%
店舗従業員	566	13 2%	38 7%	96 17%	136 24%	282 50%	1 0%

16)レジの混雑が、万引きをひきおこしている

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	31 5%	58 10%	108 19%	125 22%	243 43%	3 1%
防犯キャンペー ン参加者	18	0 0%	2 11%	1 6%	6 33%	9 50%	0 0%
防犯ボランティア	10	1 10%	0 0%	1 10%	3 30%	5 50%	0 0%
通行人	249	16 6%	29 12%	50 20%	64 26%	89 36%	1 0%
中学生保護者	85	1 1%	11 13%	12 14%	19 22%	42 49%	0 0%
中学生	84	7 8%	4 5%	20 24%	17 20%	36 43%	0 0%
一般住民	122	6 5%	12 10%	24 20%	16 13%	62 51%	2 2%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	12 2%	38 8%	83 17%	160 32%	207 41%	0 0%
男	250	8 3%	22 9%	40 16%	83 33%	97 39%	0 0%
女	250	4 2%	16 6%	43 17%	77 31%	110 44%	0 0%
20代	82	4 5%	5 6%	17 21%	22 27%	34 41%	0 0%
30代	84	3 4%	8 10%	11 13%	19 23%	43 51%	0 0%
40代	84	2 2%	6 7%	13 15%	22 26%	41 49%	0 0%
50代	84	2 2%	2 2%	16 19%	24 29%	40 48%	0 0%
60代	84	1 1%	6 7%	12 14%	39 46%	26 31%	0 0%
70代	82	0 0%	11 13%	14 17%	34 41%	23 28%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	3 1%	22 6%	27 7%	99 27%	212 58%	0 0%
D区	119	0 0%	6 5%	11 9%	33 28%	69 58%	0 0%
E区	102	2 2%	6 6%	8 8%	30 29%	56 55%	0 0%
F市	142	1 1%	10 7%	8 6%	36 25%	87 61%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	14 7%	40 21%	34 18%	43 23%	59 31%	0 0%
店舗従業員	566	16 3%	59 10%	89 16%	104 18%	296 52%	2 0%

17) 店の対応の悪さが、万引きをひきおこしている

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	41 7%	56 10%	120 21%	109 19%	235 41%	7 1%
防犯キャンペー ン参加者	18	1 6%	2 11%	0 0%	5 28%	10 56%	0 0%
防犯ボランティア	10	1 10%	2 20%	0 0%	2 20%	5 50%	0 0%
通行人	249	24 10%	27 11%	66 27%	48 19%	81 33%	3 1%
中学生保護者	85	4 5%	8 9%	14 16%	18 21%	41 48%	0 0%
中学生	84	9 11%	6 7%	18 21%	13 15%	37 44%	1 1%
一般住民	122	2 2%	11 9%	22 18%	23 19%	61 50%	3 2%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	11 2%	51 10%	114 23%	161 32%	163 33%	0 0%
男	250	7 3%	26 10%	61 24%	79 32%	77 31%	0 0%
女	250	4 2%	25 10%	53 21%	82 33%	86 34%	0 0%
20代	82	3 4%	9 11%	23 28%	20 24%	27 33%	0 0%
30代	84	5 6%	11 13%	17 20%	20 24%	31 37%	0 0%
40代	84	2 2%	9 11%	20 24%	22 26%	31 37%	0 0%
50代	84	0 0%	4 5%	18 21%	32 38%	30 36%	0 0%
60代	84	1 1%	8 10%	16 19%	36 43%	23 27%	0 0%
70代	82	0 0%	10 12%	20 24%	31 38%	21 26%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	4 1%	40 11%	47 13%	87 24%	184 51%	1 0%
D区	119	2 2%	11 9%	16 13%	27 23%	62 52%	1 1%
E区	102	0 0%	14 14%	16 16%	25 25%	47 46%	0 0%
F市	142	2 1%	15 11%	15 11%	35 25%	75 53%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	17 9%	58 31%	35 18%	32 17%	46 24%	2 1%
店舗従業員	566	21 4%	39 7%	100 18%	125 22%	275 49%	6 1%

18) 店員の客に対する積極的な挨拶や声掛けは、万引き防止に効果がある

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	279 49%	182 32%	74 13%	12 2%	19 3%	2 0%
防犯キャンペー ン参加者	18	12 67%	2 11%	2 11%	1 6%	1 6%	0 0%
防犯ボランティア	10	9 90%	0 0%	1 10%	0 0%	0 0%	0 0%
通行人	249	115 46%	86 35%	35 14%	5 2%	8 3%	0 0%
中学生保護者	85	43 51%	31 36%	8 9%	1 1%	2 2%	0 0%
中学生	84	27 32%	30 36%	16 19%	5 6%	6 7%	0 0%
一般住民	122	73 60%	33 27%	12 10%	0 0%	2 2%	2 2%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	142 28%	241 48%	76 15%	24 5%	17 3%	0 0%
男	250	67 27%	119 48%	40 16%	11 4%	13 5%	0 0%
女	250	75 30%	122 49%	36 14%	13 5%	4 2%	0 0%
20代	82	22 27%	46 56%	9 11%	4 5%	1 1%	0 0%
30代	84	34 40%	29 35%	13 15%	4 5%	4 5%	0 0%
40代	84	17 20%	39 46%	17 20%	3 4%	8 10%	0 0%
50代	84	25 30%	41 49%	12 14%	4 5%	2 2%	0 0%
60代	84	25 30%	37 44%	14 17%	6 7%	2 2%	0 0%
70代	82	19 23%	49 60%	11 13%	3 4%	0 0%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	184 51%	120 33%	33 9%	7 2%	18 5%	1 0%
D区	119	58 49%	42 35%	9 8%	2 2%	8 7%	0 0%
E区	102	43 42%	40 39%	10 10%	3 3%	5 5%	1 1%
F市	142	83 58%	38 27%	14 10%	2 1%	5 4%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	157 83%	28 15%	3 2%	1 1%	1 1%	0 0%
店舗従業員	566	341 60%	164 29%	30 5%	14 2%	14 2%	3 1%

19)警察への通報は、万引き防止に効果がある

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	276 49%	154 27%	111 20%	12 2%	13 2%	2 0%
防犯キャンペー ン参加者	18	11 61%	6 33%	0 0%	0 0%	0 0%	1 6%
防犯ボランティア	10	6 60%	2 20%	2 20%	0 0%	0 0%	0 0%
通行人	249	125 50%	66 27%	44 18%	6 2%	7 3%	1 0%
中学生保護者	85	38 45%	30 35%	16 19%	0 0%	1 1%	0 0%
中学生	84	32 38%	18 21%	27 32%	4 5%	3 4%	0 0%
一般住民	122	64 52%	32 26%	22 18%	2 2%	2 2%	0 0%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	214 43%	200 40%	63 13%	14 3%	9 2%	0 0%
男	250	115 46%	87 35%	31 12%	11 4%	6 2%	0 0%
女	250	99 40%	113 45%	32 13%	3 1%	3 1%	0 0%
20代	82	36 44%	33 40%	10 12%	3 4%	0 0%	0 0%
30代	84	42 50%	32 38%	7 8%	0 0%	3 4%	0 0%
40代	84	31 37%	33 39%	14 17%	1 1%	5 6%	0 0%
50代	84	37 44%	33 39%	10 12%	3 4%	1 1%	0 0%
60代	84	27 32%	38 45%	14 17%	5 6%	0 0%	0 0%
70代	82	41 50%	31 38%	8 10%	2 2%	0 0%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	207 57%	102 28%	38 10%	9 2%	6 2%	1 0%
D区	119	69 58%	35 29%	7 6%	6 5%	2 2%	0 0%
E区	102	55 54%	28 27%	14 14%	2 2%	2 2%	1 1%
F市	142	83 58%	39 27%	17 12%	1 1%	2 1%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	135 71%	40 21%	8 4%	2 1%	4 2%	1 1%
店舗従業員	566	329 58%	136 24%	57 10%	21 4%	21 4%	2 0%

【青少年の万引き】

20) 万引きする青少年は、万引きに対する罪の意識が薄い

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	351 62%	147 26%	47 8%	14 2%	8 1%	1 0%
防犯キャンペーン 参加者	18	10 56%	6 33%	1 6%	1 6%	0 0%	0 0%
防犯ボランティア	10	6 60%	2 20%	1 10%	1 10%	0 0%	0 0%
通行人	249	156 63%	59 24%	19 8%	9 4%	5 2%	1 0%
中学生保護者	85	46 54%	27 32%	10 12%	2 2%	0 0%	0 0%
中学生	84	46 55%	25 30%	11 13%	1 1%	1 1%	0 0%
一般住民	122	87 71%	28 23%	5 4%	0 0%	2 2%	0 0%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	268 54%	182 36%	38 8%	8 2%	4 1%	0 0%
男	250	130 52%	86 34%	27 11%	5 2%	2 1%	0 0%
女	250	138 55%	96 38%	11 4%	3 1%	2 1%	0 0%
20代	82	36 44%	34 41%	9 11%	2 2%	1 1%	0 0%
30代	84	51 61%	26 31%	5 6%	1 1%	1 1%	0 0%
40代	84	48 57%	27 32%	9 11%	0 0%	0 0%	0 0%
50代	84	46 55%	31 37%	5 6%	1 1%	1 1%	0 0%
60代	84	46 55%	28 33%	8 10%	2 2%	0 0%	0 0%
70代	82	41 50%	36 44%	2 2%	2 2%	1 1%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	245 67%	76 21%	26 7%	7 2%	8 2%	1 0%
D区	119	85 71%	22 18%	7 6%	4 3%	1 1%	0 0%
E区	102	65 64%	26 25%	5 5%	2 2%	4 4%	0 0%
F市	142	95 67%	28 20%	14 10%	1 1%	3 2%	1 1%
防犯責任者 【第一次】	190	136 72%	40 21%	9 5%	3 2%	2 1%	0 0%
店舗従業員	566	356 63%	140 25%	31 5%	13 2%	26 5%	0 0%

21) 万引きする青少年は、気の毒だ

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	102 18%	70 12%	128 23%	75 13%	192 34%	1 0%
防犯キャンペー ン参加者	18	2 11%	1 6%	3 17%	3 17%	9 50%	0 0%
防犯ボランティア	10	0 0%	0 0%	2 20%	1 10%	7 70%	0 0%
通行人	249	57 23%	32 13%	58 23%	37 15%	64 26%	1 0%
中学生保護者	85	9 11%	19 22%	21 25%	11 13%	25 29%	0 0%
中学生	84	22 26%	8 10%	29 35%	6 7%	19 23%	0 0%
一般住民	122	12 10%	10 8%	15 12%	17 14%	68 56%	0 0%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	22 4%	60 12%	81 16%	132 26%	205 41%	0 0%
男	250	19 8%	21 8%	41 16%	68 27%	101 40%	0 0%
女	250	3 1%	39 16%	40 16%	64 26%	104 42%	0 0%
20代	82	10 12%	17 21%	21 26%	15 18%	19 23%	0 0%
30代	84	3 4%	14 17%	15 18%	15 18%	37 44%	0 0%
40代	84	3 4%	10 12%	15 18%	17 20%	39 46%	0 0%
50代	84	2 2%	9 11%	15 18%	21 25%	37 44%	0 0%
60代	84	2 2%	5 6%	8 10%	34 40%	35 42%	0 0%
70代	82	2 2%	5 6%	7 9%	30 37%	38 46%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	35 10%	36 10%	42 12%	65 18%	185 51%	0 0%
D区	119	12 10%	14 12%	14 12%	23 19%	56 47%	0 0%
E区	102	13 13%	10 10%	14 14%	16 16%	49 48%	0 0%
F市	142	10 7%	12 8%	14 10%	26 18%	80 56%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	21 11%	19 10%	26 14%	21 11%	102 54%	1 1%
店舗従業員	566	60 11%	57 10%	79 14%	92 16%	277 49%	1 0%

22) 青少年が万引きした場合は、警察に通報するまでしなくてもよい

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	29 5%	54 10%	130 23%	132 23%	215 38%	8 1%
防犯キャンペー ン参加者	18	2 11%	1 6%	1 6%	5 28%	9 50%	0 0%
防犯ボランティア	10	1 10%	0 0%	2 20%	1 10%	6 60%	0 0%
通行人	249	18 7%	30 12%	51 20%	74 30%	74 30%	2 1%
中学生保護者	85	1 1%	9 11%	24 28%	16 19%	35 41%	0 0%
中学生	84	4 5%	2 2%	26 31%	16 19%	36 43%	0 0%
一般住民	122	3 2%	12 10%	26 21%	20 16%	55 45%	6 5%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	7 1%	24 5%	101 20%	144 29%	224 45%	0 0%
男	250	4 2%	10 4%	55 22%	69 28%	112 45%	0 0%
女	250	3 1%	14 6%	46 18%	75 30%	112 45%	0 0%
20代	82	1 1%	6 7%	17 21%	19 23%	39 48%	0 0%
30代	84	2 2%	4 5%	14 17%	22 26%	42 50%	0 0%
40代	84	1 1%	4 5%	20 24%	18 21%	41 49%	0 0%
50代	84	2 2%	6 7%	13 15%	29 35%	34 40%	0 0%
60代	84	1 1%	3 4%	25 30%	25 30%	30 36%	0 0%
70代	82	0 0%	1 1%	12 15%	31 38%	38 46%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	3 1%	14 4%	67 18%	70 19%	205 56%	4 1%
D区	119	0 0%	6 5%	17 14%	28 24%	67 56%	1 1%
E区	102	1 1%	2 2%	22 22%	17 17%	60 59%	0 0%
F市	142	2 1%	6 4%	28 20%	25 18%	78 55%	3 2%
防犯責任者 【第一次】	190	3 2%	5 3%	17 9%	35 18%	128 67%	2 1%
店舗従業員	566	10 2%	17 3%	73 13%	115 20%	349 62%	2 0%

23)青少年の万引きを防止する役割は、家族が担うべきだ

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	229 40%	139 24%	134 24%	30 5%	33 6%	3 1%
防犯キャンペー ン参加者	18	9 50%	7 39%	1 6%	0 0%	0 0%	1 6%
防犯ボランティア	10	3 30%	4 40%	2 20%	1 10%	0 0%	0 0%
通行人	249	82 33%	58 23%	67 27%	21 8%	21 8%	0 0%
中学生保護者	85	47 55%	21 25%	14 16%	3 4%	0 0%	0 0%
中学生	84	35 42%	18 21%	24 29%	3 4%	4 5%	0 0%
一般住民	122	53 43%	31 25%	26 21%	2 2%	8 7%	2 2%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	164 33%	201 40%	84 17%	30 6%	21 4%	0 0%
男	250	85 34%	94 38%	42 17%	19 8%	10 4%	0 0%
女	250	79 32%	107 43%	42 17%	11 4%	11 4%	0 0%
20代	82	26 32%	33 40%	15 18%	5 6%	3 4%	0 0%
30代	84	36 43%	27 32%	13 15%	3 4%	5 6%	0 0%
40代	84	31 37%	33 39%	12 14%	3 4%	5 6%	0 0%
50代	84	31 37%	34 40%	11 13%	3 4%	5 6%	0 0%
60代	84	22 26%	36 43%	15 18%	9 11%	2 2%	0 0%
70代	82	18 22%	38 46%	18 22%	7 9%	1 1%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	168 46%	105 29%	57 16%	17 5%	16 4%	0 0%
D区	119	59 50%	33 28%	17 14%	6 5%	4 3%	0 0%
E区	102	37 36%	34 33%	19 19%	4 4%	8 8%	0 0%
F市	142	72 51%	38 27%	21 15%	7 5%	4 3%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	94 49%	49 26%	21 11%	11 6%	14 7%	1 1%
店舗従業員	566	268 47%	155 27%	91 16%	23 4%	28 5%	1 0%

24) 青少年の万引きを防止する役割は、店舗が担うべきだ

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	76 13%	92 16%	179 32%	90 16%	128 23%	3 1%
防犯キャンペー ン参加者	18	1 6%	3 17%	4 22%	4 22%	5 28%	1 6%
防犯ボランティア	10	2 20%	4 40%	3 30%	1 10%	0 0%	0 0%
通行人	249	36 14%	34 14%	79 32%	40 16%	60 24%	0 0%
中学生保護者	85	15 18%	18 21%	26 31%	13 15%	13 15%	0 0%
中学生	84	13 15%	14 17%	31 37%	11 13%	15 18%	0 0%
一般住民	122	9 7%	19 16%	36 30%	21 17%	35 29%	2 2%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	22 4%	87 17%	157 31%	123 25%	111 22%	0 0%
男	250	13 5%	42 17%	74 30%	65 26%	56 22%	0 0%
女	250	9 4%	45 18%	83 33%	58 23%	55 22%	0 0%
20代	82	6 7%	18 22%	23 28%	21 26%	14 17%	0 0%
30代	84	8 10%	15 18%	22 26%	19 23%	20 24%	0 0%
40代	84	3 4%	13 15%	31 37%	14 17%	23 27%	0 0%
50代	84	2 2%	13 15%	28 33%	22 26%	19 23%	0 0%
60代	84	1 1%	17 20%	25 30%	21 25%	20 24%	0 0%
70代	82	2 2%	11 13%	28 34%	26 32%	15 18%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	26 7%	69 19%	106 29%	68 19%	94 26%	0 0%
D区	119	8 7%	30 25%	28 24%	25 21%	28 24%	0 0%
E区	102	4 4%	16 16%	36 35%	16 16%	30 29%	0 0%
F市	142	14 10%	23 16%	42 30%	27 19%	36 25%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	24 13%	48 25%	49 26%	21 11%	47 25%	1 1%
店舗従業員	566	55 10%	67 12%	136 24%	108 19%	200 35%	0 0%

25)青少年の万引きを防止する役割は、学校が担うべきだ

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	93 16%	121 21%	168 30%	76 13%	107 19%	3 1%
防犯キャンペー ン参加者	18	3 17%	8 44%	2 11%	2 11%	2 11%	1 6%
防犯ボランティア	10	4 40%	5 50%	1 10%	0 0%	0 0%	0 0%
通行人	249	47 19%	35 14%	79 32%	38 15%	50 20%	0 0%
中学生保護者	85	11 13%	23 27%	25 29%	13 15%	13 15%	0 0%
中学生	84	21 25%	22 26%	24 29%	9 11%	8 10%	0 0%
一般住民	122	7 6%	28 23%	37 30%	14 11%	34 28%	2 2%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	31 6%	127 25%	140 28%	106 21%	96 19%	0 0%
男	250	20 8%	63 25%	74 30%	52 21%	41 16%	0 0%
女	250	11 4%	64 26%	66 26%	54 22%	55 22%	0 0%
20代	82	12 15%	28 34%	20 24%	10 12%	12 15%	0 0%
30代	84	10 12%	21 25%	24 29%	11 13%	18 21%	0 0%
40代	84	3 4%	24 29%	23 27%	20 24%	14 17%	0 0%
50代	84	4 5%	18 21%	23 27%	24 29%	15 18%	0 0%
60代	84	0 0%	21 25%	22 26%	22 26%	19 23%	0 0%
70代	82	2 2%	15 18%	28 34%	19 23%	18 22%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	40 11%	89 25%	101 28%	56 15%	77 21%	0 0%
D区	119	14 12%	32 27%	37 31%	16 13%	20 17%	0 0%
E区	102	7 7%	25 25%	30 29%	11 11%	29 28%	0 0%
F市	142	19 13%	32 23%	34 24%	29 20%	28 20%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	44 23%	59 31%	42 22%	17 9%	27 14%	1 1%
店舗従業員	566	122 22%	138 24%	136 24%	68 12%	102 18%	0 0%

26) 青少年の万引きを防止する役割は、警察が担うべきだ

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	98 17%	119 21%	172 30%	70 12%	107 19%	2 0%
防犯キャンペー ン参加者	18	4 22%	6 33%	2 11%	1 6%	4 22%	1 6%
防犯ボランティア	10	4 40%	4 40%	1 10%	1 10%	0 0%	0 0%
通行人	249	45 18%	42 17%	84 34%	35 14%	43 17%	0 0%
中学生保護者	85	12 14%	25 29%	25 29%	8 9%	15 18%	0 0%
中学生	84	20 24%	16 19%	28 33%	9 11%	11 13%	0 0%
一般住民	122	13 11%	26 21%	32 26%	16 13%	34 28%	1 1%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	47 9%	127 25%	158 32%	94 19%	74 15%	0 0%
男	250	29 12%	53 21%	75 30%	56 22%	37 15%	0 0%
女	250	18 7%	74 30%	83 33%	38 15%	37 15%	0 0%
20代	82	13 16%	25 30%	24 29%	14 17%	6 7%	0 0%
30代	84	12 14%	24 29%	24 29%	7 8%	17 20%	0 0%
40代	84	6 7%	25 30%	32 38%	10 12%	11 13%	0 0%
50代	84	9 11%	20 24%	25 30%	18 21%	12 14%	0 0%
60代	84	1 1%	16 19%	30 36%	23 27%	14 17%	0 0%
70代	82	6 7%	17 21%	23 28%	22 27%	14 17%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	43 12%	78 21%	110 30%	47 13%	84 23%	1 0%
D区	119	14 12%	33 28%	37 31%	12 10%	23 19%	0 0%
E区	102	7 7%	19 19%	38 37%	8 8%	30 29%	0 0%
F市	142	22 15%	26 18%	35 25%	27 19%	31 22%	1 1%
防犯責任者 【第一次】	190	35 18%	52 27%	56 29%	16 8%	30 16%	1 1%
店舗従業員	566	79 14%	104 18%	167 30%	93 16%	123 22%	0 0%

27) 青少年の万引きを防止する役割は、自治体が担うべきだ

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	74 13%	82 14%	184 32%	93 16%	133 23%	2 0%
防犯キャンペー ン参加者	18	2 11%	5 28%	1 6%	4 22%	5 28%	1 6%
防犯ボランティア	10	3 30%	3 30%	1 10%	3 30%	0 0%	0 0%
通行人	249	37 15%	31 12%	78 31%	41 16%	62 25%	0 0%
中学生保護者	85	8 9%	19 22%	28 33%	15 18%	15 18%	0 0%
中学生	84	17 20%	16 19%	33 39%	8 10%	10 12%	0 0%
一般住民	122	7 6%	8 7%	43 35%	22 18%	41 34%	1 1%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	27 5%	81 16%	155 31%	127 25%	110 22%	0 0%
男	250	19 8%	26 10%	79 32%	72 29%	54 22%	0 0%
女	250	8 3%	55 22%	76 30%	55 22%	56 22%	0 0%
20代	82	7 9%	20 24%	27 33%	14 17%	14 17%	0 0%
30代	84	11 13%	12 14%	24 29%	19 23%	18 21%	0 0%
40代	84	2 2%	13 15%	29 35%	21 25%	19 23%	0 0%
50代	84	6 7%	14 17%	27 32%	21 25%	16 19%	0 0%
60代	84	0 0%	14 17%	22 26%	29 35%	19 23%	0 0%
70代	82	1 1%	8 10%	26 32%	23 28%	24 29%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	19 5%	53 15%	117 32%	66 18%	107 29%	1 0%
D区	119	6 5%	23 19%	41 34%	21 18%	28 24%	0 0%
E区	102	3 3%	14 14%	36 35%	12 12%	37 36%	0 0%
F市	142	10 7%	16 11%	40 28%	33 23%	42 30%	1 1%
防犯責任者 【第一次】	190	23 12%	50 26%	57 30%	23 12%	36 19%	1 1%
店舗従業員	566	60 11%	80 14%	174 31%	103 18%	149 26%	0 0%

【高齢者の万引き】

28) 万引きする高齢者は、万引きに対する罪の意識が薄い

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	547	16	1	1	2	1
		96%	3%	0%	0%	0%	0%
防犯キャンペー ン参加者	18	18	0	0	0	0	0
		100%	0%	0%	0%	0%	0%
防犯ボランティア	10	10	0	0	0	0	0
		100%	0%	0%	0%	0%	0%
通行人	249	242	6	1	0	0	0
		97%	2%	0%	0%	0%	0%
中学生保護者	85	80	5	0	0	0	0
		94%	6%	0%	0%	0%	0%
中学生	84	77	5	0	1	1	0
		92%	6%	0%	1%	1%	0%
一般住民	122	120	0	0	0	1	1
		98%	0%	0%	0%	1%	1%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	163	160	93	58	26	0
		33%	32%	19%	12%	5%	0%
男	250	83	69	52	30	16	0
		33%	28%	21%	12%	6%	0%
女	250	80	91	41	28	10	0
		32%	36%	16%	11%	4%	0%
20代	82	32	27	12	8	3	0
		39%	33%	15%	10%	4%	0%
30代	84	33	23	16	6	6	0
		39%	27%	19%	7%	7%	0%
40代	84	31	27	15	7	4	0
		37%	32%	18%	8%	5%	0%
50代	84	29	24	17	12	2	0
		35%	29%	20%	14%	2%	0%
60代	84	22	22	25	10	5	0
		26%	26%	30%	12%	6%	0%
70代	82	16	37	8	15	6	0
		20%	45%	10%	18%	7%	0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	130	90	68	37	37	1
		36%	25%	19%	10%	10%	0%
D区	119	44	34	20	10	11	0
		37%	29%	17%	8%	9%	0%
E区	102	31	29	20	11	11	0
		30%	28%	20%	11%	11%	0%
F市	142	55	27	28	16	15	1
		39%	19%	20%	11%	11%	1%
防犯責任者 【第一次】	190	184	3	1	0	0	2
		97%	2%	1%	0%	0%	1%
店舗従業員	566	221	123	87	44	88	3
		39%	22%	15%	8%	16%	1%

29) 万引きする高齢者は、気の毒だ

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	95 17%	119 21%	130 23%	64 11%	160 28%	0 0%
防犯キャンペー ン参加者	18	3 17%	2 11%	3 17%	5 28%	5 28%	0 0%
防犯ボランティア	10	0 0%	1 10%	4 40%	1 10%	4 40%	0 0%
通行人	249	50 20%	47 19%	63 25%	26 10%	63 25%	0 0%
中学生保護者	85	9 11%	27 32%	16 19%	10 12%	23 27%	0 0%
中学生	84	19 23%	14 17%	24 29%	6 7%	21 25%	0 0%
一般住民	122	14 11%	28 23%	20 16%	16 13%	44 36%	0 0%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	37 7%	102 20%	92 18%	112 22%	157 31%	0 0%
男	250	22 9%	46 18%	42 17%	60 24%	80 32%	0 0%
女	250	15 6%	56 22%	50 20%	52 21%	77 31%	0 0%
20代	82	12 15%	22 27%	15 18%	13 16%	20 24%	0 0%
30代	84	7 8%	20 24%	10 12%	18 21%	29 35%	0 0%
40代	84	5 6%	18 21%	17 20%	10 12%	34 40%	0 0%
50代	84	5 6%	15 18%	15 18%	22 26%	27 32%	0 0%
60代	84	6 7%	17 20%	17 20%	27 32%	17 20%	0 0%
70代	82	2 2%	10 12%	18 22%	22 27%	30 37%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	53 15%	45 12%	65 18%	55 15%	145 40%	0 0%
D区	119	19 16%	18 15%	10 8%	23 19%	49 41%	0 0%
E区	102	16 16%	11 11%	23 23%	15 15%	37 36%	0 0%
F市	142	18 13%	16 11%	32 23%	17 12%	59 42%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	23 12%	32 17%	29 15%	23 12%	83 44%	0 0%
店舗従業員	566	80 14%	81 14%	94 17%	72 13%	238 42%	1 0%

30)高齢者が万引きした場合は、警察に通報するまでしなくてもよい

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	30 5%	49 9%	123 22%	115 20%	249 44%	2 0%
防犯キャンペー ン参加者	18	1 6%	2 11%	0 0%	4 22%	11 61%	0 0%
防犯ボランティア	10	1 10%	0 0%	1 10%	2 20%	6 60%	0 0%
通行人	249	21 8%	27 11%	54 22%	60 24%	87 35%	0 0%
中学生保護者	85	1 1%	8 9%	22 26%	17 20%	36 42%	1 1%
中学生	84	3 4%	3 4%	20 24%	12 14%	46 55%	0 0%
一般住民	122	3 2%	9 7%	26 21%	20 16%	63 52%	1 1%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	7 1%	21 4%	91 18%	143 29%	238 48%	0 0%
男	250	4 2%	12 5%	39 16%	71 28%	124 50%	0 0%
女	250	3 1%	9 4%	52 21%	72 29%	114 46%	0 0%
20代	82	1 1%	6 7%	13 16%	16 20%	46 56%	0 0%
30代	84	1 1%	3 4%	12 14%	22 26%	46 55%	0 0%
40代	84	2 2%	4 5%	14 17%	18 21%	46 55%	0 0%
50代	84	2 2%	3 4%	15 18%	26 31%	38 45%	0 0%
60代	84	1 1%	2 2%	25 30%	29 35%	27 32%	0 0%
70代	82	0 0%	3 4%	12 15%	32 39%	35 43%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	6 2%	11 3%	57 16%	72 20%	216 60%	1 0%
D区	119	1 1%	5 4%	16 13%	22 18%	75 63%	0 0%
E区	102	2 2%	4 4%	14 14%	24 24%	58 57%	0 0%
F市	142	3 2%	2 1%	27 19%	26 18%	83 58%	1 1%
防犯責任者 【第一次】	190	1 1%	2 1%	14 7%	41 22%	130 68%	2 1%
店舗従業員	566	12 2%	12 2%	48 8%	108 19%	382 67%	4 1%

31)高齢者の万引きを防止する役割は、家族が担うべきだ

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	206 36%	126 22%	138 24%	37 7%	58 10%	3 1%
防犯キャンペー ン参加者	18	10 56%	4 22%	0 0%	1 6%	2 11%	1 6%
防犯ボランティア	10	5 50%	2 20%	1 10%	1 10%	1 10%	0 0%
通行人	249	83 33%	49 20%	67 27%	19 8%	30 12%	1 0%
中学生保護者	85	30 35%	27 32%	21 25%	4 5%	3 4%	0 0%
中学生	84	33 39%	13 15%	23 27%	6 7%	9 11%	0 0%
一般住民	122	45 37%	31 25%	26 21%	6 5%	13 11%	1 1%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	114 23%	170 34%	124 25%	46 9%	46 9%	0 0%
男	250	63 25%	72 29%	64 26%	21 8%	30 12%	0 0%
女	250	51 20%	98 39%	60 24%	25 10%	16 6%	0 0%
20代	82	22 27%	29 35%	18 22%	7 9%	6 7%	0 0%
30代	84	27 32%	23 27%	16 19%	7 8%	11 13%	0 0%
40代	84	20 24%	28 33%	20 24%	8 10%	8 10%	0 0%
50代	84	13 15%	35 42%	24 29%	4 5%	8 10%	0 0%
60代	84	16 19%	24 29%	27 32%	11 13%	6 7%	0 0%
70代	82	16 20%	31 38%	19 23%	9 11%	7 9%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	144 40%	85 23%	71 20%	26 7%	35 10%	2 1%
D区	119	53 45%	22 18%	24 20%	14 12%	6 5%	0 0%
E区	102	34 33%	25 25%	24 24%	5 5%	14 14%	0 0%
F市	142	57 40%	38 27%	23 16%	7 5%	15 11%	2 1%
防犯責任者 【第一次】	190	81 43%	39 21%	31 16%	18 9%	20 11%	1 1%
店舗従業員	566	248 44%	152 27%	91 16%	26 5%	48 8%	1 0%

32)高齢者の万引きを防止する役割は、店舗が担うべきだ

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	87 15%	82 14%	166 29%	79 14%	150 26%	4 1%
防犯キャンペー ン参加者	18	0 0%	3 17%	3 17%	3 17%	8 44%	1 6%
防犯ボランティア	10	2 20%	5 50%	2 20%	0 0%	1 10%	0 0%
通行人	249	43 17%	29 12%	70 28%	41 16%	64 26%	2 1%
中学生保護者	85	15 18%	15 18%	30 35%	11 13%	14 16%	0 0%
中学生	84	17 20%	13 15%	28 33%	10 12%	16 19%	0 0%
一般住民	122	10 8%	17 14%	33 27%	14 11%	47 39%	1 1%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	29 6%	84 17%	176 35%	101 20%	110 22%	0 0%
男	250	20 8%	40 16%	88 35%	46 18%	56 22%	0 0%
女	250	9 4%	44 18%	88 35%	55 22%	54 22%	0 0%
20代	82	11 13%	16 20%	29 35%	9 11%	17 21%	0 0%
30代	84	9 11%	15 18%	26 31%	12 14%	22 26%	0 0%
40代	84	3 4%	10 12%	35 42%	16 19%	20 24%	0 0%
50代	84	4 5%	15 18%	25 30%	22 26%	18 21%	0 0%
60代	84	1 1%	16 19%	32 38%	21 25%	14 17%	0 0%
70代	82	1 1%	12 15%	29 35%	21 26%	19 23%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	26 7%	61 17%	110 30%	51 14%	114 31%	1 0%
D区	119	6 5%	27 23%	28 24%	18 15%	40 34%	0 0%
E区	102	7 7%	13 13%	38 37%	12 12%	32 31%	0 0%
F市	142	13 9%	21 15%	44 31%	21 15%	42 30%	1 1%
防犯責任者 【第一次】	190	23 12%	41 22%	49 26%	26 14%	50 26%	1 1%
店舗従業員	566	57 10%	53 9%	150 27%	90 16%	215 38%	1 0%

33)高齢者の万引きを防止する役割は、地域が担うべきだ

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	105 18%	99 17%	168 30%	74 13%	116 20%	6 1%
防犯キャンペー ン参加者	18	1 6%	4 22%	3 17%	4 22%	5 28%	1 6%
防犯ボランティア	10	6 60%	2 20%	1 10%	0 0%	1 10%	0 0%
通行人	249	54 22%	35 14%	71 29%	41 16%	47 19%	1 0%
中学生保護者	85	13 15%	25 29%	30 35%	6 7%	11 13%	0 0%
中学生	84	23 27%	13 15%	27 32%	7 8%	14 17%	0 0%
一般住民	122	8 7%	20 16%	36 30%	16 13%	38 31%	4 3%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	36 7%	108 22%	159 32%	98 20%	99 20%	0 0%
男	250	25 10%	40 16%	77 31%	54 22%	54 22%	0 0%
女	250	11 4%	68 27%	82 33%	44 18%	45 18%	0 0%
20代	82	13 16%	25 30%	21 26%	10 12%	13 16%	0 0%
30代	84	10 12%	19 23%	23 27%	10 12%	22 26%	0 0%
40代	84	6 7%	21 25%	27 32%	13 15%	17 20%	0 0%
50代	84	6 7%	20 24%	25 30%	20 24%	13 15%	0 0%
60代	84	0 0%	18 21%	32 38%	21 25%	13 15%	0 0%
70代	82	1 1%	5 6%	31 38%	24 29%	21 26%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	31 9%	79 22%	108 30%	46 13%	98 27%	1 0%
D区	119	12 10%	29 24%	32 27%	18 15%	28 24%	0 0%
E区	102	8 8%	21 21%	36 35%	9 9%	28 27%	0 0%
F市	142	11 8%	29 20%	40 28%	19 13%	42 30%	1 1%
防犯責任者 【第一次】	190	36 19%	45 24%	46 24%	29 15%	32 17%	2 1%
店舗従業員	566	99 17%	118 21%	149 26%	71 13%	128 23%	1 0%

34)高齢者の万引きを防止する役割は、警察が担うべきだ

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	104 18%	110 19%	164 29%	66 12%	121 21%	3 1%
防犯キャンペー ン参加者	18	4 22%	6 33%	0 0%	1 6%	6 33%	1 6%
防犯ボランティア	10	5 50%	2 20%	1 10%	1 10%	1 10%	0 0%
通行人	249	48 19%	37 15%	78 31%	36 14%	49 20%	1 0%
中学生保護者	85	14 16%	25 29%	28 33%	7 8%	11 13%	0 0%
中学生	84	22 26%	19 23%	22 26%	7 8%	14 17%	0 0%
一般住民	122	11 9%	21 17%	35 29%	14 11%	40 33%	1 1%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	52 10%	116 23%	156 31%	85 17%	91 18%	0 0%
男	250	33 13%	47 19%	76 30%	47 19%	47 19%	0 0%
女	250	19 8%	69 28%	80 32%	38 15%	44 18%	0 0%
20代	82	13 16%	26 32%	23 28%	8 10%	12 15%	0 0%
30代	84	14 17%	24 29%	21 25%	5 6%	20 24%	0 0%
40代	84	6 7%	27 32%	28 33%	9 11%	14 17%	0 0%
50代	84	10 12%	14 17%	29 35%	19 23%	12 14%	0 0%
60代	84	3 4%	15 18%	27 32%	26 31%	13 15%	0 0%
70代	82	6 7%	10 12%	28 34%	18 22%	20 24%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	43 12%	62 17%	112 31%	52 14%	93 26%	1 0%
D区	119	18 15%	24 20%	35 29%	16 13%	26 22%	0 0%
E区	102	8 8%	16 16%	38 37%	12 12%	28 27%	0 0%
F市	142	17 12%	22 15%	39 27%	24 17%	39 27%	1 1%
防犯責任者 【第一次】	190	32 17%	47 25%	53 28%	23 12%	34 18%	1 1%
店舗従業員	566	85 15%	87 15%	171 30%	78 14%	143 25%	2 0%

35)高齢者の万引きを防止する役割は、自治体が担うべきだ

	計	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	95 17%	80 14%	180 32%	83 15%	127 22%	568 100%
防犯キャンペー ン参加者	18	3 17%	7 39%	0 0%	2 11%	5 28%	1 6%
防犯ボランティア	10	5 50%	2 20%	1 10%	1 10%	1 10%	0 0%
通行人	249	52 21%	22 9%	78 31%	45 18%	51 20%	1 0%
中学生保護者	85	9 11%	20 24%	35 41%	9 11%	12 14%	0 0%
中学生	84	19 23%	17 20%	27 32%	7 8%	14 17%	0 0%
一般住民	122	7 6%	12 10%	39 32%	19 16%	44 36%	1 1%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	39 8%	97 19%	154 31%	100 20%	110 22%	0 0%
男	250	23 9%	37 15%	79 32%	56 22%	55 22%	0 0%
女	250	16 6%	60 24%	75 30%	44 18%	55 22%	0 0%
20代	82	11 13%	23 28%	21 26%	11 13%	16 20%	0 0%
30代	84	16 19%	18 21%	22 26%	7 8%	21 25%	0 0%
40代	84	3 4%	17 20%	34 40%	12 14%	18 21%	0 0%
50代	84	7 8%	18 21%	25 30%	22 26%	12 14%	0 0%
60代	84	1 1%	14 17%	24 29%	29 35%	16 19%	0 0%
70代	82	1 1%	7 9%	28 34%	19 23%	27 33%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	29 8%	67 18%	112 31%	58 16%	96 26%	1 0%
D区	119	11 9%	27 23%	36 30%	17 14%	28 24%	0 0%
E区	102	7 7%	19 19%	40 39%	9 9%	27 26%	0 0%
F市	142	11 8%	21 15%	36 25%	32 23%	41 29%	1 1%
防犯責任者 【第一次】	190	30 16%	45 24%	49 26%	31 16%	34 18%	1 1%
店舗従業員	566	89 16%	105 19%	154 27%	82 14%	133 23%	3 1%

問2 あなたは、以下についてどの程度ご存知ですか（○はそれぞれ一つ）

1) 万引きは、警察に全件届け出ことになっている

	計	知つて いる	だいたい は知つて いる	知らない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	192 34%	180 32%	194 34%	2 0%
防犯キャンペーン 参加者	18	14 78%	3 17%	1 6%	0 0%
防犯ボランティア	10	5 50%	2 20%	3 30%	0 0%
通行人	249	74 30%	76 31%	98 39%	1 0%
中学生保護者	85	38 45%	24 28%	23 27%	0 0%
中学生	84	21 25%	26 31%	37 44%	0 0%
一般住民	122	40 33%	49 40%	32 26%	1 1%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	169 34%	143 29%	188 38%	0 0%
男	250	99 40%	62 25%	89 36%	0 0%
女	250	70 28%	81 32%	99 40%	0 0%
20代	82	36 44%	18 22%	28 34%	0 0%
30代	84	30 36%	22 26%	32 38%	0 0%
40代	84	29 35%	24 29%	31 37%	0 0%
50代	84	27 32%	26 31%	31 37%	0 0%
60代	84	28 33%	23 27%	33 39%	0 0%
70代	82	19 23%	30 37%	33 40%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	114 31%	100 28%	149 41%	0 0%
D区	119	44 37%	25 21%	50 42%	0 0%
E区	102	27 26%	33 32%	42 41%	0 0%
F市	142	43 30%	42 30%	57 40%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	134 71%	37 19%	19 10%	0 0%
店舗従業員	566	286 51%	145 26%	134 24%	1 0%

2) 万引きは、懲役(ちょうえき)刑のほか50万円以下の罰金刑が定められている

	計	知つて いる	だいたい は知つて いる	知らない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	95 17%	163 29%	307 54%	3 1%
防犯キャンペー ン参加者	18	7 39%	4 22%	7 39%	0 0%
防犯ボランティア	10	3 30%	4 40%	3 30%	0 0%
通行人	249	34 14%	61 24%	153 61%	1 0%
中学生保護者	85	16 19%	30 35%	39 46%	0 0%
中学生	84	13 15%	21 25%	50 60%	0 0%
一般住民	122	22 18%	43 35%	55 45%	2 2%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	89 18%	146 29%	265 53%	0 0%
男	250	61 24%	77 31%	112 45%	0 0%
女	250	28 11%	69 28%	153 61%	0 0%
20代	82	16 20%	28 34%	38 46%	0 0%
30代	84	19 23%	21 25%	44 52%	0 0%
40代	84	14 17%	30 36%	40 48%	0 0%
50代	84	17 20%	21 25%	46 55%	0 0%
60代	84	12 14%	24 29%	48 57%	0 0%
70代	82	11 13%	22 27%	49 60%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	58 16%	106 29%	199 55%	0 0%
D区	119	22 18%	34 29%	63 53%	0 0%
E区	102	14 14%	32 31%	56 55%	0 0%
F市	142	22 15%	40 28%	80 56%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	111 58%	53 28%	24 13%	2 1%
店舗従業員	566	140 25%	177 31%	248 44%	1 0%

3)被害品が売買されるのを防ぐため、18歳未満の買取りにはルールがある

	計	知つて いる	だいたい は知つて いる	知らない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	129 23%	108 19%	328 58%	3 1%
防犯キャンペー ン参加者	18	8 44%	6 33%	4 22%	0 0%
防犯ボランティア	10	4 40%	3 30%	3 30%	0 0%
通行人	249	50 20%	46 18%	151 61%	2 1%
中学生保護者	85	23 27%	18 21%	44 52%	0 0%
中学生	84	14 17%	12 14%	58 69%	0 0%
一般住民	122	30 25%	23 19%	68 56%	1 1%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	107 21%	125 25%	268 54%	0 0%
男	250	66 26%	70 28%	114 46%	0 0%
女	250	41 16%	55 22%	154 62%	0 0%
20代	82	17 21%	19 23%	46 56%	0 0%
30代	84	23 27%	20 24%	41 49%	0 0%
40代	84	16 19%	24 29%	44 52%	0 0%
50代	84	22 26%	21 25%	41 49%	0 0%
60代	84	17 20%	17 20%	50 60%	0 0%
70代	82	12 15%	24 29%	46 56%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	91 25%	73 20%	198 55%	1 0%
D区	119	31 26%	24 20%	63 53%	1 1%
E区	102	25 25%	19 19%	58 57%	0 0%
F市	142	35 25%	30 21%	77 54%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	80 42%	46 24%	64 34%	0 0%
店舗従業員	566	152 27%	117 21%	296 52%	1 0%

4) 万引きで検挙されている人数は少年より高齢者のほうが多い

	計	知っている	だいたい は知っている	知らない	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	144 25%	114 20%	307 54%	3 1%
防犯キャンペー ン参加者	18	6 33%	6 33%	6 33%	0 0%
防犯ボランティア	10	6 60%	2 20%	2 20%	0 0%
通行人	249	61 24%	40 16%	147 59%	1 0%
中学生保護者	85	23 27%	21 25%	41 48%	0 0%
中学生	84	28 33%	11 13%	44 52%	1 1%
一般住民	122	20 16%	34 28%	67 55%	1 1%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	129 26%	144 29%	227 45%	0 0%
男	250	69 28%	73 29%	108 43%	0 0%
女	250	60 24%	71 28%	119 48%	0 0%
20代	82	33 40%	18 22%	31 38%	0 0%
30代	84	20 24%	28 33%	36 43%	0 0%
40代	84	17 20%	23 27%	44 52%	0 0%
50代	84	20 24%	23 27%	41 49%	0 0%
60代	84	20 24%	24 29%	40 48%	0 0%
70代	82	19 23%	28 34%	35 43%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	83 23%	96 26%	184 51%	0 0%
D区	119	25 21%	35 29%	59 50%	0 0%
E区	102	25 25%	28 27%	49 48%	0 0%
F市	142	33 23%	33 23%	76 54%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	114 60%	51 27%	25 13%	0 0%
店舗従業員	566	184 33%	152 27%	229 40%	1 0%

問3 以下の設問に、「はい」「いいえ」でお答えください。

2)自治会に加入している

	計	はい	いいえ	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	245 43%	304 54%	19 3%
防犯キャンペーン 参加者	18	12 67%	6 33%	0 0%
防犯ボランティア	10	2 20%	8 80%	0 0%
通行人	249	75 30%	167 67%	7 3%
中学生保護者	85	66 78%	18 21%	1 1%
中学生	84	14 17%	63 75%	7 8%
一般住民	122	76 62%	42 34%	4 3%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	212 42%	288 58%	0 0%
男	250	106 42%	144 58%	0 0%
女	250	106 42%	144 58%	0 0%
20代	82	13 16%	69 84%	0 0%
30代	84	21 25%	63 75%	0 0%
40代	84	32 38%	52 62%	0 0%
50代	84	40 48%	44 52%	0 0%
60代	84	49 58%	35 42%	0 0%
70代	82	57 70%	25 30%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	192 53%	171 47%	0 0%
D区	119	43 36%	76 64%	0 0%
E区	102	57 56%	45 44%	0 0%
F市	142	92 65%	50 35%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	105 55%	82 43%	3 2%
店舗従業員	566	169 30%	389 69%	8 1%

3) 防犯ボランティア活動に参加したことがある

	計	はい	いいえ	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	201 35%	358 63%	9 2%
防犯キャンペー ン参加者	18	6 33%	12 67%	0 0%
防犯ボランティア	10	10 100%	0 0%	0 0%
通行人	249	56 22%	188 76%	5 2%
中学生保護者	85	47 55%	37 44%	1 1%
中学生	84	26 31%	56 67%	2 2%
一般住民	122	56 46%	65 53%	1 1%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	42 8%	458 92%	0 0%
男	250	19 8%	231 92%	0 0%
女	250	23 9%	227 91%	0 0%
20代	82	4 5%	78 95%	0 0%
30代	84	2 2%	82 98%	0 0%
40代	84	5 6%	79 94%	0 0%
50代	84	9 11%	75 89%	0 0%
60代	84	8 10%	76 90%	0 0%
70代	82	14 17%	68 83%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	49 13%	314 87%	0 0%
D区	119	10 8%	109 92%	0 0%
E区	102	8 8%	94 92%	0 0%
F市	142	31 22%	111 78%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	68 36%	119 63%	3 2%
店舗従業員	566	72 13%	491 87%	3 1%

4) 平日の日中は、自宅近くにいることが多い

	計	はい	いいえ	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	300 53%	259 46%	9 2%
防犯キャンペーン 参加者	18	9 50%	9 50%	0 0%
防犯ボランティア	10	4 40%	6 60%	0 0%
通行人	249	123 49%	120 48%	6 2%
中学生保護者	85	49 58%	36 42%	0 0%
中学生	84	43 51%	39 46%	2 2%
一般住民	122	72 59%	49 40%	1 1%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	257 51%	243 49%	0 0%
男	250	101 40%	149 60%	0 0%
女	250	156 62%	94 38%	0 0%
20代	82	27 33%	55 67%	0 0%
30代	84	28 33%	56 67%	0 0%
40代	84	37 44%	47 56%	0 0%
50代	84	37 44%	47 56%	0 0%
60代	84	58 69%	26 31%	0 0%
70代	82	70 85%	12 15%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	173 48%	189 52%	1 0%
D区	119	41 34%	78 66%	0 0%
E区	102	51 50%	50 49%	1 1%
F市	142	81 57%	61 43%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	82 43%	106 56%	2 1%
店舗従業員	566	291 51%	272 48%	3 1%

5)現在、スーパーマーケットやコンビニ等で働いている、または最近まで働いていた

	計	はい	いいえ	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	84 15%	475 84%	9 2%
防犯キャンペーン 参加者	18	1 6%	17 94%	0 0%
防犯ボランティア	10	4 40%	6 60%	0 0%
通行人	249	43 17%	201 81%	5 2%
中学生保護者	85	5 6%	80 94%	0 0%
中学生	84	1 1%	80 95%	3 4%
一般住民	122	30 25%	91 75%	1 1%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	15 3%	485 97%	0 0%
男	250	6 2%	244 98%	0 0%
女	250	9 4%	241 96%	0 0%
20代	82	5 6%	77 94%	0 0%
30代	84	2 2%	82 98%	0 0%
40代	84	3 4%	81 96%	0 0%
50代	84	1 1%	83 99%	0 0%
60代	84	4 5%	80 95%	0 0%
70代	82	0 0%	82 100%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	8 2%	355 98%	0 0%
D区	119	2 2%	117 98%	0 0%
E区	102	3 3%	99 97%	0 0%
F市	142	3 2%	139 98%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	76 40%	112 59%	2 1%

6)現在、商店を経営している、または最近まで経営していた

	計	はい	いいえ	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	36 6%	522 92%	10 2%
防犯キャンペーン 参加者	18	0 0%	18 100%	0 0%
防犯ボランティア	10	0 0%	10 100%	0 0%
通行人	249	14 6%	230 92%	5 2%
中学生保護者	85	3 4%	82 96%	0 0%
中学生	84	8 10%	73 87%	3 4%
一般住民	122	11 9%	109 89%	2 2%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	11 2%	489 98%	0 0%
男	250	6 2%	244 98%	0 0%
女	250	5 2%	245 98%	0 0%
20代	82	0 0%	82 100%	0 0%
30代	84	2 2%	82 98%	0 0%
40代	84	1 1%	83 99%	0 0%
50代	84	2 2%	82 98%	0 0%
60代	84	3 4%	81 96%	0 0%
70代	82	3 4%	79 96%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	19 5%	343 94%	1 0%
D区	119	4 3%	115 97%	0 0%
E区	102	8 8%	94 92%	0 0%
F市	142	7 5%	134 94%	1 1%
防犯責任者 【第一次】	190	34 18%	152 80%	4 2%

7)「万引き」を見聞きしたことがある(現場を見た、被害者や加害者が身近にいたなど)

	計	はい	いいえ	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	217 38%	341 60%	10 2%
防犯キャンペーン 参加者	18	6 33%	12 67%	0 0%
防犯ボランティア	10	7 70%	3 30%	0 0%
通行人	249	108 43%	136 55%	5 2%
中学生保護者	85	36 42%	49 58%	0 0%
中学生	84	17 20%	64 76%	3 4%
一般住民	122	43 35%	77 63%	2 2%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	119 24%	381 76%	0 0%
男	250	60 24%	190 76%	0 0%
女	250	59 24%	191 76%	0 0%
20代	82	20 24%	62 76%	0 0%
30代	84	25 30%	59 70%	0 0%
40代	84	15 18%	69 82%	0 0%
50代	84	20 24%	64 76%	0 0%
60代	84	21 25%	63 75%	0 0%
70代	82	18 22%	64 78%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	130 36%	233 64%	0 0%
D区	119	45 38%	74 62%	0 0%
E区	102	41 40%	61 60%	0 0%
F市	142	44 31%	98 69%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	145 76%	42 22%	3 2%
店舗従業員	566	388 69%	174 31%	4 1%

8) 趣味や生きがいがある

	計	はい	いいえ	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	482	75	11
		85%	13%	2%
防犯キャンペーン 参加者	18	16	2	0
		89%	11%	0%
防犯ボランティア	10	10	0	0
		100%	0%	0%
通行人	249	208	36	5
		84%	14%	2%
中学生保護者	85	75	9	1
		88%	11%	1%
中学生	84	72	10	2
		86%	12%	2%
一般住民	122	101	18	3
		83%	15%	2%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	407	93	0
		81%	19%	0%
男	250	201	49	0
		80%	20%	0%
女	250	206	44	0
		82%	18%	0%
20代	82	65	17	0
		79%	21%	0%
30代	84	62	22	0
		74%	26%	0%
40代	84	61	23	0
		73%	27%	0%
50代	84	68	16	0
		81%	19%	0%
60代	84	75	9	0
		89%	11%	0%
70代	82	76	6	0
		93%	7%	0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	328	34	1
		90%	9%	0%
D区	119	110	9	0
		92%	8%	0%
E区	102	98	3	1
		96%	3%	1%
F市	142	120	22	0
		85%	15%	0%
防犯責任者 【第一次】	190	166	21	3
		87%	11%	2%
店舗従業員	566	483	76	7
		85%	13%	1%

9) 経済的にゆとりがないと感じる

	計	はい	いいえ	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	192 34%	360 63%	16 3%
防犯キャンペーン 参加者	18	5 28%	13 72%	0 0%
防犯ボランティア	10	1 10%	9 90%	0 0%
通行人	249	78 31%	166 67%	5 2%
中学生保護者	85	40 47%	43 51%	2 2%
中学生	84	18 21%	62 74%	4 5%
一般住民	122	50 41%	67 55%	5 4%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	205 41%	295 59%	0 0%
男	250	121 48%	129 52%	0 0%
女	250	84 34%	166 66%	0 0%
20代	82	33 40%	49 60%	0 0%
30代	84	38 45%	46 55%	0 0%
40代	84	39 46%	45 54%	0 0%
50代	84	37 44%	47 56%	0 0%
60代	84	34 40%	50 60%	0 0%
70代	82	24 29%	58 71%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	83 23%	278 77%	2 1%
D区	119	26 22%	92 77%	1 1%
E区	102	31 30%	71 70%	0 0%
F市	142	26 18%	115 81%	1 1%
防犯責任者 【第一次】	190	57 30%	130 68%	3 2%
店舗従業員	566	252 45%	307 54%	7 1%

10) 日常で気兼ねなく話ができる人がいる

	計	はい	いいえ	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	509	46	13
		90%	8%	2%
防犯キャンペーン 参加者	18	17	1	0
		94%	6%	0%
防犯ボランティア	10	10	0	0
		100%	0%	0%
通行人	249	218	26	5
		88%	10%	2%
中学生保護者	85	80	4	1
		94%	5%	1%
中学生	84	73	7	4
		87%	8%	5%
一般住民	122	111	8	3
		91%	7%	2%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	423	77	0
		85%	15%	0%
男	250	201	49	0
		80%	20%	0%
女	250	222	28	0
		89%	11%	0%
20代	82	65	17	0
		79%	21%	0%
30代	84	62	22	0
		74%	26%	0%
40代	84	66	18	0
		79%	21%	0%
50代	84	72	12	0
		86%	14%	0%
60代	84	80	4	0
		95%	5%	0%
70代	82	78	4	0
		95%	5%	0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	332	30	1
		91%	8%	0%
D区	119	112	7	0
		94%	6%	0%
E区	102	90	12	0
		88%	12%	0%
F市	142	130	11	1
		92%	8%	1%
防犯責任者 【第一次】	190	175	12	3
		92%	6%	2%
店舗従業員	566	524	37	5
		93%	7%	1%

1) 東京23区内に現在居住している

	計	はい	いいえ	無回答
一般市民(ネット) 【第二次】	500	371	129	0
		74%	26%	0%
男	250	180	70	0
		72%	28%	0%
女	250	191	59	0
		76%	24%	0%
20代	82	63	19	0
		77%	23%	0%
30代	84	67	17	0
		80%	20%	0%
40代	84	65	19	0
		77%	23%	0%
50代	84	65	19	0
		77%	23%	0%
60代	84	54	30	0
		64%	36%	0%
70代	82	57	25	0
		70%	30%	0%

● 日常の買い物は、徒歩や自転車で行くことが多い【第一次調査】

	計	はい	いいえ	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	434	124	10
		76%	22%	2%
防犯キャンペーン 参加者	18	14	4	0
		78%	22%	0%
防犯ボランティア	10	10	0	0
		100%	0%	0%
通行人	249	183	61	5
		73%	24%	2%
中学生保護者	85	51	34	0
		60%	40%	0%
中学生	84	64	17	3
		76%	20%	4%
一般住民	122	112	8	2
		92%	7%	2%
防犯責任者 【第一次】	190	128	59	3
		67%	31%	2%
店舗従業員	566	330	116	120
		58%	20%	21%

●日常の買い物は、自家用車で行くことが多い【第一次調査】

	計	はい	いいえ	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	143 25%	413 73%	12 2%
防犯キャンペー ン参加者	18	6 33%	12 67%	0 0%
防犯ボランティア	10	2 20%	8 80%	0 0%
通行人	249	70 28%	173 69%	6 2%
中学生保護者	85	38 45%	47 55%	0 0%
中学生	84	15 18%	66 79%	3 4%
一般住民	122	12 10%	107 88%	3 2%
防犯責任者 【第一次】	190	65 34%	123 65%	2 1%
店舗従業員	566	112 20%	332 59%	122 22%

●日常の買い物は、バスや電車を利用して行くことが多い【第一次調査】

	計	はい	いいえ	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	133 23%	424 75%	11 2%
防犯キャンペー ン参加者	18	4 22%	14 78%	0 0%
防犯ボランティア	10	5 50%	5 50%	0 0%
通行人	249	73 29%	171 69%	5 2%
中学生保護者	85	14 16%	71 84%	0 0%
中学生	84	24 29%	57 68%	3 4%
一般住民	122	13 11%	106 87%	3 2%
防犯責任者 【第一次】	190	27 14%	158 83%	5 3%

問4 あなたの生活についておうかがいします。次のそれぞれの設問についてあてはまるものに○をつけてください。

1)所得・収入の満足感

	計	満足している	まあ満足している	どちらともいえない	やや不満だ	不満だ	無回答
一般市民(ネット) 【第二次】	500	21 4%	172 34%	127 25%	102 20%	78 16%	0 0%
男	250	8 3%	81 32%	63 25%	50 20%	48 19%	0 0%
女	250	13 5%	91 36%	64 26%	52 21%	30 12%	0 0%
20代	82	6 7%	22 27%	24 29%	14 17%	16 20%	0 0%
30代	84	4 5%	25 30%	23 27%	17 20%	15 18%	0 0%
40代	84	2 2%	28 33%	20 24%	21 25%	13 15%	0 0%
50代	84	1 1%	29 35%	15 18%	23 27%	16 19%	0 0%
60代	84	4 5%	31 37%	22 26%	16 19%	11 13%	0 0%
70代	82	4 5%	37 45%	23 28%	11 13%	7 9%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	46 13%	173 48%	71 20%	50 14%	23 6%	0 0%
D区	119	15 13%	63 53%	18 15%	13 11%	10 8%	0 0%
E区	102	12 12%	45 44%	21 21%	17 17%	7 7%	0 0%
F市	142	19 13%	65 46%	32 23%	20 14%	6 4%	0 0%
店舗従業員 【第二次】	115	6 5%	39 34%	37 32%	14 12%	19 17%	0 0%

2)資産・貯蓄の満足感

	計	満足している	まあ満足している	どちらともいえない	やや不満だ	不満だ	無回答
一般市民(ネット) 【第二次】	500	19 4%	140 28%	139 28%	95 19%	107 21%	0 0%
男	250	9 4%	65 26%	71 28%	49 20%	56 22%	0 0%
女	250	10 4%	75 30%	68 27%	46 18%	51 20%	0 0%
20代	82	4 5%	18 22%	19 23%	19 23%	22 27%	0 0%
30代	84	5 6%	20 24%	24 29%	13 15%	22 26%	0 0%
40代	84	1 1%	21 25%	27 32%	17 20%	18 21%	0 0%
50代	84	1 1%	20 24%	18 21%	21 25%	24 29%	0 0%
60代	84	5 6%	26 31%	27 32%	14 17%	12 14%	0 0%
70代	82	3 4%	35 43%	24 29%	11 13%	9 11%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	40 11%	132 36%	91 25%	69 19%	31 9%	0 0%
D区	119	12 10%	47 39%	26 22%	21 18%	13 11%	0 0%
E区	102	11 11%	33 32%	26 25%	22 22%	10 10%	0 0%
F市	142	17 12%	52 37%	39 27%	26 18%	8 6%	0 0%
店舗従業員 【第二次】	115	2 2%	18 16%	50 43%	21 18%	24 21%	0 0%

3)生活の中で感じる充実感

	計	十分 充実感を 感じて いる	まあ 充実感を 感じて いる	どちら とも いえない	あまり 充実感を 感じて いない	充実感を 感じて いない	無回答
一般市民(ネット) 【第二次】	500	44 9%	242 48%	113 23%	69 14%	32 6%	0 0%
男	250	16 6%	116 46%	60 24%	30 12%	28 11%	0 0%
女	250	28 11%	126 50%	53 21%	39 16%	4 2%	0 0%
20代	82	11 13%	34 41%	15 18%	12 15%	10 12%	0 0%
30代	84	7 8%	33 39%	22 26%	14 17%	8 10%	0 0%
40代	84	3 4%	35 42%	22 26%	21 25%	3 4%	0 0%
50代	84	5 6%	42 50%	16 19%	15 18%	6 7%	0 0%
60代	84	11 13%	42 50%	25 30%	3 4%	3 4%	0 0%
70代	82	7 9%	56 68%	13 16%	4 5%	2 2%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	64 18%	210 58%	66 18%	19 5%	4 1%	0 0%
D区	119	24 20%	70 59%	18 15%	6 5%	1 1%	0 0%
E区	102	16 16%	57 56%	26 25%	3 3%	0 0%	0 0%
F市	142	24 17%	83 58%	22 15%	10 7%	3 2%	0 0%
店舗従業員 【第二次】	115	9 8%	67 58%	24 21%	4 3%	11 10%	0 0%

4)世間一般からみた生活の程度

	計	上	中の上	中の中	中の下	下	無回答
一般市民(ネット) 【第二次】	500	5 1%	94 19%	214 43%	144 29%	43 9%	0 0%
男	250	1 0%	44 18%	97 39%	81 32%	27 11%	0 0%
女	250	4 2%	50 20%	117 47%	63 25%	16 6%	0 0%
20代	82	1 1%	16 20%	35 43%	17 21%	13 16%	0 0%
30代	84	2 2%	16 19%	33 39%	30 36%	3 4%	0 0%
40代	84	0 0%	15 18%	40 48%	20 24%	9 11%	0 0%
50代	84	0 0%	13 15%	41 49%	21 25%	9 11%	0 0%
60代	84	1 1%	15 18%	35 42%	27 32%	6 7%	0 0%
70代	82	1 1%	19 23%	30 37%	29 35%	3 4%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	8 2%	105 29%	194 53%	47 13%	9 2%	0 0%
D区	119	3 3%	36 30%	65 55%	12 10%	3 3%	0 0%
E区	102	3 3%	31 30%	50 49%	15 15%	3 3%	0 0%
F市	142	2 1%	38 27%	79 56%	20 14%	3 2%	0 0%
店舗従業員 【第二次】	115	0 0%	6 5%	67 58%	28 24%	14 12%	0 0%

5) ニュースや話題など、社会情勢を認識するのに最もよく活用するメディアは次のうちどれですか。

	計	新聞	テレビ	ラジオ	雑誌	インターネット (携帯等 含む)	無回答
一般市民(ネット) 【第二次】	500	85 17%	231 46%	10 2%	1 0%	173 35%	0 0%
男	250	48 19%	102 41%	6 2%	0 0%	94 38%	0 0%
女	250	37 15%	129 52%	4 2%	1 0%	79 32%	0 0%
20代	82	8 10%	35 43%	1 1%	1 1%	37 45%	0 0%
30代	84	8 10%	29 35%	2 2%	0 0%	45 54%	0 0%
40代	84	9 11%	36 43%	2 2%	0 0%	37 44%	0 0%
50代	84	12 14%	44 52%	1 1%	0 0%	27 32%	0 0%
60代	84	22 26%	41 49%	1 1%	0 0%	20 24%	0 0%
70代	82	26 32%	46 56%	3 4%	0 0%	7 9%	0 0%

6) 万引きに関するニュースやコラムに対してどれくらいの関心がありますか。

	計	とても 関心が ある	やや 関心が ある	どちら とも いえない	あまり 関心が ない	全く 関心が ない	無回答
一般市民(ネット) 【第二次】	500	35 7%	191 38%	147 29%	108 22%	19 4%	0 0%
男	250	20 8%	82 33%	77 31%	57 23%	14 6%	0 0%
女	250	15 6%	109 44%	70 28%	51 20%	5 2%	0 0%
20代	82	5 6%	29 35%	24 29%	19 23%	5 6%	0 0%
30代	84	7 8%	24 29%	30 36%	20 24%	3 4%	0 0%
40代	84	5 6%	23 27%	30 36%	22 26%	4 5%	0 0%
50代	84	5 6%	38 45%	18 21%	19 23%	4 5%	0 0%
60代	84	3 4%	39 46%	25 30%	14 17%	3 4%	0 0%
70代	82	10 12%	38 46%	20 24%	14 17%	0 0%	0 0%

問5 あなた自身、同居しているご家族、およびお住まいについて教えてください。

1)性別

	計	男性	女性	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	198 35%	366 64%	4 1%
防犯キャンペーン 参加者	18	8 44%	9 50%	1 6%
防犯ボランティア	10	5 50%	5 50%	0 0%
通行人	249	80 32%	166 67%	3 1%
中学生保護者	85	23 27%	62 73%	0 0%
中学生	84	37 44%	47 56%	0 0%
一般住民	122	45 37%	77 63%	0 0%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	250 50%	250 50%	0 0%
男	250	250 100%	0 0%	0 0%
女	250	0 0%	250 100%	0 0%
20代	82	41 50%	41 50%	0 0%
30代	84	42 50%	42 50%	0 0%
40代	84	42 50%	42 50%	0 0%
50代	84	42 50%	42 50%	0 0%
60代	84	42 50%	42 50%	0 0%
70代	82	41 50%	41 50%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	164 45%	199 55%	0 0%
D区	119	55 46%	64 54%	0 0%
E区	102	42 41%	60 59%	0 0%
F市	142	67 47%	75 53%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	149 78%	40 21%	1 1%
店舗従業員	566	249 44%	316 56%	1 0%

2)年齢

	計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	234 41%	55 10%	40 7%	92 16%	53 9%	34 6%	51 9%	7 1%	2 0%
防犯キャンペーン 参加者	18	0 0%	2 11%	4 22%	6 33%	3 17%	2 11%	0 0%	0 0%	1 6%
防犯ボランティア	10	2 20%	7 70%	1 10%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
通行人	249	138 55%	33 13%	14 6%	22 9%	11 4%	13 5%	15 6%	3 1%	0 0%
中学生保護者	85	1 1%	1 1%	11 13%	47 55%	20 24%	3 4%	0 0%	1 1%	1 1%
中学生	84	84 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
一般住民	122	9 7%	12 10%	10 8%	17 14%	19 16%	16 13%	36 30%	3 2%	0 0%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	0 0%	82 16%	84 17%	84 17%	84 17%	84 17%	82 16%	0 0%	0 0%
男	250	0 0%	41 16%	42 17%	42 17%	42 17%	42 17%	41 16%	0 0%	0 0%
女	250	0 0%	41 16%	42 17%	42 17%	42 17%	42 17%	41 16%	0 0%	0 0%
20代	82	0 0%	82 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
30代	84	0 0%	0 0%	84 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
40代	84	0 0%	0 0%	0 0%	84 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
50代	84	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	84 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
60代	84	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	84 100%	0 0%	0 0%	0 0%
70代	82	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	82 100%	0 0%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	0 0%	32 9%	57 16%	74 20%	61 17%	57 16%	61 17%	20 6%	1 0%
D区	119	0 0%	21 18%	22 18%	24 20%	21 18%	9 8%	18 15%	3 3%	1 1%
E区	102	0 0%	6 6%	16 16%	20 20%	20 20%	19 19%	15 15%	6 6%	0 0%
F市	142	0 0%	5 4%	19 13%	30 21%	20 14%	29 20%	28 20%	11 8%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	1 1%	17 9%	42 22%	35 18%	42 22%	41 22%	9 5%	2 1%	1 1%
店舗従業員	566	9 2%	153 27%	165 29%	137 24%	77 14%	24 4%	1 0%	0 0%	0 0%

3)職業

	計	会社員など	専業主婦	パート・アルバイト	学生	無職	その他	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	117 21%	66 12%	86 15%	250 44%	41 7%	7 1%	1 0%
防犯キャンペー ン参加者	18	16 89%	1 6%	1 6%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
防犯ボランティア	10	1 10%	0 0%	1 10%	8 80%	0 0%	0 0%	0 0%
通行人	249	37 15%	18 7%	25 10%	143 57%	21 8%	4 2%	1 0%
中学生保護者	85	32 38%	28 33%	21 25%	2 2%	0 0%	2 2%	0 0%
中学生	84	0 0%	0 0%	0 0%	84 100%	0 0%	0 0%	0 0%
一般住民	122	31 25%	19 16%	38 31%	13 11%	20 16%	1 1%	0 0%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	240 48%	108 22%	59 12%	14 3%	71 14%	8 2%	0 0%
男	250	165 66%	4 2%	16 6%	9 4%	52 21%	4 2%	0 0%
女	250	75 30%	104 42%	43 17%	5 2%	19 8%	4 2%	0 0%
20代	82	54 66%	5 6%	12 15%	5 6%	5 6%	1 1%	0 0%
30代	84	55 65%	18 21%	9 11%	1 1%	0 0%	1 1%	0 0%
40代	84	51 61%	19 23%	11 13%	0 0%	1 1%	2 2%	0 0%
50代	84	39 46%	18 21%	10 12%	0 0%	15 18%	2 2%	0 0%
60代	84	21 25%	20 24%	14 17%	0 0%	28 33%	1 1%	0 0%
70代	82	20 24%	28 34%	3 4%	8 10%	22 27%	1 1%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	207 57%	48 13%	31 9%	3 1%	66 18%	7 2%	1 0%
D区	119	93 78%	7 6%	4 3%	0 0%	12 10%	2 2%	1 1%
E区	102	49 48%	17 17%	12 12%	3 3%	19 19%	2 2%	0 0%
F市	142	65 46%	24 17%	15 11%	0 0%	35 25%	3 2%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	165 87%	6 3%	8 4%	0 0%	7 4%	4 2%	0 0%

●現在の店舗での勤務期間【店舗従業員】

	計	1ヶ月未満	1ヶ月以上 上3ヶ月未満	3ヶ月以上 上6ヶ月未満	6ヶ月以上 上1年未満	1年以上 3年未満	3年以上	無回答
店舗従業員	566	16 3%	21 4%	29 5%	67 12%	162 29%	268 47%	3 1%

●店舗内での立場(役職)【店舗従業員】

	計	経営者	統括責任者(SV等)	店舗責任者	社員	パート・アルバイト	その他	無回答
店舗従業員	566	9 2%	4 1%	59 10%	167 30%	318 56%	5 1%	4 1%

●近所づきあいの程度【第一次調査】

	計	ほとんどつき合いはない	顔が合えば挨拶をする	ときどき立ち話をする	親しく話をする	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	63 11%	277 49%	128 23%	93 16%	7 1%
防犯キャンペーントーク 参加者	18	3 17%	7 39%	6 33%	2 11%	0 0%
防犯ボランティア	10	1 10%	7 70%	1 10%	1 10%	0 0%
通行人	249	36 14%	140 56%	38 15%	32 13%	3 1%
中学生保護者	85	0 0%	30 35%	37 44%	18 21%	0 0%
中学生	84	10 12%	48 57%	17 20%	6 7%	3 4%
一般住民	122	13 11%	45 37%	29 24%	34 28%	1 1%
防犯責任者 【第一次】	190	18 9%	104 55%	40 21%	27 14%	1 1%

4) 家族構成

	計	単身	夫婦のみ	親と子ども	三世代	その他	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	55 10%	48 8%	364 64%	60 11%	30 5%	11 2%
防犯キャンペーント ン参加者	18	5 28%	3 17%	9 50%	1 6%	0 0%	0 0%
防犯ボランティア	10	3 30%	0 0%	3 30%	3 30%	1 10%	0 0%
通行人	249	23 9%	22 9%	171 69%	18 7%	11 4%	4 2%
中学生保護者	85	0 0%	1 1%	70 82%	11 13%	1 1%	2 2%
中学生	84	0 0%	0 0%	63 75%	16 19%	1 1%	4 5%
一般住民	122	24 20%	22 18%	48 39%	11 9%	16 13%	1 1%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	124 25%	133 27%	196 39%	19 4%	28 6%	0 0%
男	250	70 28%	66 26%	95 38%	10 4%	9 4%	0 0%
女	250	54 22%	67 27%	101 40%	9 4%	19 8%	0 0%
20代	82	29 35%	5 6%	33 40%	4 5%	11 13%	0 0%
30代	84	27 32%	13 15%	37 44%	2 2%	5 6%	0 0%
40代	84	22 26%	18 21%	40 48%	1 1%	3 4%	0 0%
50代	84	17 20%	18 21%	38 45%	7 8%	4 5%	0 0%
60代	84	12 14%	33 39%	34 40%	2 2%	3 4%	0 0%
70代	82	17 21%	46 56%	14 17%	3 4%	2 2%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	106 29%	80 22%	143 39%	11 3%	22 6%	1 0%
D区	119	55 46%	17 14%	39 33%	3 3%	4 3%	1 1%
E区	102	30 29%	21 21%	40 39%	2 2%	9 9%	0 0%
F市	142	21 15%	42 30%	64 45%	6 4%	9 6%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	24 13%	49 26%	84 44%	18 9%	13 7%	2 1%
店舗従業員	566	167 30%	95 17%	238 42%	18 3%	44 8%	4 1%

5)住居の建て方

	計	戸建て	集合住宅	その他	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	268 47%	260 46%	30 5%	10 2%
防犯キャンペーント 参加者	18	8 44%	9 50%	0 0%	1 6%
防犯ボランティア	10	4 40%	5 50%	1 10%	0 0%
通行人	249	122 49%	110 44%	16 6%	1 0%
中学生保護者	85	43 51%	39 46%	2 2%	1 1%
中学生	84	28 33%	43 51%	9 11%	4 5%
一般住民	122	63 52%	54 44%	2 2%	3 2%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	180 49%	303 49%	17 3%	0 0%
男	250	90 36%	153 61%	7 3%	0 0%
女	250	90 36%	150 60%	10 4%	0 0%
20代	82	20 24%	55 67%	7 9%	0 0%
30代	84	23 27%	57 68%	4 5%	0 0%
40代	84	26 31%	55 65%	3 4%	0 0%
50代	84	29 35%	53 63%	2 2%	0 0%
60代	84	38 45%	45 54%	1 1%	0 0%
70代	82	44 54%	38 46%	0 0%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	197 54%	153 42%	11 3%	2 1%
D区	119	37 31%	79 66%	3 3%	0 0%
E区	102	53 52%	41 40%	7 7%	1 1%
F市	142	107 75%	33 23%	1 1%	1 1%
防犯責任者 【第一次】	190	96 51%	90 47%	4 2%	0 0%

6)住居の所有形態

	計	持ち家	賃貸	寮・社宅	その他	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	372 65%	152 27%	17 3%	4 1%	23 4%
防犯キャンペーント ン参加者	18	12 67%	4 22%	1 6%	0 0%	1 6%
防犯ボランティア	10	5 50%	4 40%	1 10%	0 0%	0 0%
通行人	249	167 67%	62 25%	8 3%	2 1%	10 4%
中学生保護者	85	59 69%	23 27%	2 2%	0 0%	1 1%
中学生	84	46 55%	25 30%	2 2%	1 1%	10 12%
一般住民	122	83 68%	34 28%	3 2%	1 1%	1 1%
一般市民(ネット) 【第二次】	500	295 59%	188 38%	10 2%	7 1%	0 0%
男	250	154 62%	89 36%	3 1%	4 2%	0 0%
女	250	141 56%	99 40%	7 3%	3 1%	0 0%
20代	82	28 34%	47 57%	4 5%	3 4%	0 0%
30代	84	33 39%	47 56%	3 4%	1 1%	0 0%
40代	84	51 61%	30 36%	3 4%	0 0%	0 0%
50代	84	59 70%	23 27%	0 0%	2 2%	0 0%
60代	84	60 71%	23 27%	0 0%	1 1%	0 0%
70代	82	64 78%	18 22%	0 0%	0 0%	0 0%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	217 60%	134 37%	10 3%	2 1%	0 0%
D区	119	54 45%	61 51%	4 3%	0 0%	0 0%
E区	102	56 55%	39 38%	5 5%	2 2%	0 0%
F市	142	107 75%	34 24%	1 1%	0 0%	0 0%
防犯責任者 【第一次】	190	137 72%	42 22%	7 4%	0 0%	3 2%

7)世帯合計年収(税込、年収込)

	計	200万未満	200~400万円未満	400~600万円未満	600~800万円未満	800~1000万円未満	1000万円以上	無回答
一般市民合計 【第一次】	568	33 6%	64 11%	47 8%	68 12%	31 5%	53 9%	272 48%
防犯キャンペーント 参加者	18	1 6%	4 22%	2 11%	5 28%	1 6%	2 11%	3 17%
防犯ボランティア	10	3 30%	2 20%	1 10%	2 20%	0 0%	0 0%	2 20%
通行人	249	15 6%	29 12%	20 8%	24 10%	5 2%	21 8%	135 54%
中学生保護者	85	0 0%	5 6%	10 12%	23 27%	10 12%	8 9%	29 34%
中学生	84	1 1%	1 1%	2 2%	4 5%	2 2%	9 11%	65 77%
一般住民	122	13 11%	23 19%	12 10%	10 8%	13 11%	13 11%	38 31%
一般市民(郵送) 【第二次】	363	24 7%	75 21%	91 25%	42 12%	36 10%	51 14%	44 12%
D区	119	8 7%	23 19%	40 34%	12 10%	9 8%	18 15%	9 8%
E区	102	9 9%	22 22%	21 21%	11 11%	6 6%	15 15%	18 18%
F市	142	7 5%	30 21%	30 21%	19 13%	21 15%	18 13%	17 12%
防犯責任者 【第一次】	190	6 3%	35 18%	51 27%	37 19%	18 9%	20 11%	23 12%

7)世帯合計年収(インターネット調査登録モニター情報)

	計	300万未満	300~500万円未満	500~700万円未満	700~1000万円未満	1000~1500万円未満	1500万円以上	不明
一般市民(ネット) 【第二次】	500	103 21%	122 24%	99 20%	93 19%	53 11%	18 4%	12 2%
男	250	53 21%	62 25%	50 20%	39 16%	29 12%	12 5%	5 2%
女	250	50 20%	60 24%	49 20%	54 22%	24 10%	6 2%	7 3%
20代	82	24 29%	20 24%	8 10%	8 10%	6 7%	4 5%	12 15%
30代	84	15 18%	24 29%	20 24%	16 19%	6 7%	3 4%	0 0%
40代	84	10 12%	13 15%	20 24%	24 29%	13 15%	4 5%	0 0%
50代	84	13 15%	13 15%	13 15%	27 32%	15 18%	3 4%	0 0%
60代	84	19 23%	20 24%	21 25%	14 17%	8 10%	2 2%	0 0%
70代	82	22 27%	32 39%	17 21%	4 5%	5 6%	2 2%	0 0%

2. 店舗顧客対象の調査結果一覧

* 第一次調査と第二次調査の合計。店舗別ではなく対象者全員の集計結果。

問1 現在ご来店中の店舗について、お答えください。

(計:580)	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	無回答
1) 従業員の身だしなみ・態度について	241 42%	205 35%	102 18%	21 4%	1 0%	10 2%
2) 従業員のあいさつ・声掛けについて	219 38%	194 33%	106 18%	44 8%	6 1%	11 2%
3) 店内の歩きやすさ、分かりやすさについて	186 32%	219 38%	103 18%	55 9%	5 1%	12 2%
4) 商品の品揃えについて	183 32%	205 35%	112 19%	65 11%	5 1%	10 2%
5) 商品の探しやすさ、分かりやすさについて	140 24%	231 40%	136 23%	61 11%	1 0%	11 2%
6) 混雑時の対応について	101 17%	179 31%	218 38%	61 11%	9 2%	12 2%
7) 会計の待ち時間について	158 27%	191 33%	166 29%	42 7%	11 2%	12 2%
8) 店舗の総合的な満足度について	146 25%	269 46%	113 19%	40 7%	0 0%	12 2%

問2 万引についてあなたはどのようにお考えですか。一般論としてお答えください。

(計:580)	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
1) 万引きをされる店側にも問題がある	55 9%	165 28%	139 24%	112 19%	98 17%	11 2%
2) マイバッグやエコバッグが、万引きをひきおこしている	50 9%	121 21%	163 28%	144 25%	90 16%	12 2%
3) 買い物中の不便さが、万引きをひきおこしている	14 2%	61 11%	159 27%	168 29%	166 29%	12 2%
4) レジの混雑が、万引きをひきおこしている	31 5%	77 13%	133 23%	169 29%	157 27%	13 2%
5) 店の対応の悪さが、万引きをひきおこしている	28 5%	74 13%	152 26%	161 28%	153 26%	12 2%

問3 あなた自身について、教えてください。

(計:580)	男性	女性	無回答
1) 性別	55 9.5%	165 28.4%	11 1.9%

(計:580)	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	無回答
2) 年齢	26 4.5%	88 15.2%	88 15.2%	112 19.3%	93 16.0%	98 16.9%	50 8.6%	13 2.2%	12 2.1%

(計:580)	ほぼ毎日	3日に1度程度	週に1度程度	月に1度程度	3ヶ月に1度程度	半年に1度程度	はじめて	無回答
2) 年齢	26 4.5%	26 4.5%	43 7.4%	93 16.0%	140 24.1%	143 24.7%	96 16.6%	13 2.2%

3. 店舗責任者対象の調査結果一覧

問1あなたの店舗における万引きの特徴や動向について、お答えください。

(計:135)	そう思う	やや そう思う	どちら とも いえない	あまり 思わない	そう 思わない	わから ない	無回答
1) 当店舗では、万引きの年間件数が多いと思う	42 31%	50 37%	13 10%	10 7%	5 4%	4 3%	11 8%
2) 当店舗では、少年の万引きが多いと思う	11 8%	27 20%	29 21%	32 24%	21 16%	5 4%	10 7%
3) 当店舗では、高齢者の万引きが多いと思う	41 30%	37 27%	21 16%	15 11%	6 4%	5 4%	10 7%
4) 当店舗では、計画的な万引きが多いと思う	29 21%	34 25%	36 27%	16 12%	5 4%	5 4%	10 7%
5) 当店舗では、転売目的の万引きが多いと思う	13 10%	18 13%	25 19%	20 15%	37 27%	12 9%	10 7%
6) 当店舗では、全体的に万引き被害が多いと思う	41 30%	44 33%	16 12%	13 10%	5 4%	6 4%	10 7%

問2 あなたの店舗の万引き防止対策などについて、お答えください。

(計:135)	はい	いいえ	無回答
1) 従業員によるお客様へのあいさつ・声掛けを積極的に行っている	122 90%	2 1%	11 8%
2) 万引き防止のイベントやキャンペーンを実施している	26 19%	99 73%	10 7%
3) 地域の商店会などに加入している	78 58%	47 35%	10 7%
4) 防犯ボランティアの巡回を受け入れている	29 21%	95 70%	11 8%
5) 警備員(保安員)を配置している	55 41%	70 52%	10 7%
6) 店舗に万引き防止の掲示物(ポスター等)を貼付している	81 60%	44 33%	10 7%
7) 店舗に万引き防止のための店内表示(POP等)をしている	90 67%	35 26%	10 7%
8) 店舗に防犯カメラを設置している	114 84%	11 8%	10 7%
9) 店舗に商品管理システム(EAS)を設置している	42 31%	82 61%	11 8%
10) 防犯カメラを活用して、万引き犯人を確保している	60 44%	64 47%	11 8%
11) 日常的に万引き防止のための従業員教育を実施している	100 74%	25 19%	10 7%
12) 万引き防止のため、店舗独自のルール(基準)を活用している	73 54%	52 39%	10 7%
13) 近隣の店舗と防犯情報を共有している	64 47%	60 44%	11 8%
14) 万引き被害の補填を、盗難保険などで対応している	31 23%	93 69%	11 8%
15) 万引きの発生による損失は、店舗責任者が責任を負うことになっている	32 24%	92 68%	11 8%

問3 店舗で万引き犯人を確保した場合、基本的にどのようになさっていますか。

(計:135)	はい	いいえ	場合 による	無回答
1) 犯人が少年の場合は、家庭に連絡する	56 41%	51 38%	14 10%	14 10%
2) 犯人が少年の場合は、学校に連絡する	21 16%	81 60%	17 13%	16 12%
3) 犯人が少年の場合は、警察に通報する	99 73%	4 3%	19 14%	13 10%
4) 犯人が高齢者の場合は、家庭に連絡する	44 33%	63 47%	11 8%	17 13%
5) 犯人が高齢者の場合は、警察に通報する	101 75%	7 5%	14 10%	13 10%
6) 犯人を確保した場合は、警察へ通報する	110 81%	0 0%	12 9%	13 10%
7) 被害届は、必ず提出する	59 44%	44 33%	19 14%	13 10%
8) 被害届は、被害金額の多寡を考慮して提出する	48 36%	60 44%	12 9%	15 11%
9) 被害届は、犯人の常習性を考慮して提出する	62 46%	50 37%	8 6%	15 11%

問4 あなた自身、および勤務先について教えてください。

(計:135)	男性	女性	無回答				
1) 性別	114 84.4%	10 7.4%	11 8.1%				
(計:135)	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
2) 年齢	9 6.7%	28 20.7%	41 30.4%	35 25.9%	9 6.7%	2 1.5%	11 8.1%
(計:135)	統括責 任者(SV 等)	店舗 責任者	社員	パート・ アルバイト	その他	無回答	
3) 役職	24 17.8%	2 1.5%	94 69.6%	2 1.5%	0 0.0%	2 1.5%	11 8.1%
(計:135)	0年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 勤務年数	2 1.5%	33 24.4%	13 9.6%	14 10.4%	4 3.0%	4 3.0%	5 3.7%
*無回答 12(8.9%)	7 5.2%	9 1.5%	10年 5.2%	12年 0.7%	13年 0.7%	14年 2.2%	15年 3.7%
	7 5.2%	2 1.5%	7 5.2%	1 0.7%	1 0.7%	3 2.2%	5 3.7%
	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年
	3 2.2%	1 0.7%	1 0.7%	1 0.7%	5 3.7%	1 0.7%	1 0.7%
	25年	26年	28年	30年	36年	37年	40年
	3 2.2%	1 0.7%	1 0.7%	1 0.7%	1 0.7%	1 0.7%	1 0.7%

(計:135)	男性	女性	男女同じ くらい	わからな い	無回答
5) 主な客層:性別	15 11.1%	64 47.4%	44 32.6%	1 0.7%	11 8.1%

(計:135)	10代	20~30代	40~50代	60代~	年代差なし	わから ない
6) 主な客層:年代(複数回答可)	14 10.4%	67 49.6%	84 62.2%	54 40.0%	12 8.9%	0 0.0%

(計:135)	200人 以下	201人~ 500人	501人~ 1000人	1001人 ~2000 人	2001人 以上	わから ない	無回答
7) 一日あたりの平均来客数 【第二次調査のみ】	4 3.0%	9 6.7%	10 7.4%	16 11.9%	45 33.3%	0 0.0%	51 37.8%

(計:135)	24時間	早朝から 深夜まで	概ね10 時~ 22時	不定	その他	無回答
8) 店舗の営業時間	39 28.9%	17 12.6%	68 50.4%	0 0.0%	0 0.0%	11 8.1%

(計:135)	1~5人	6~10人	10~20 人	20~50 人	50~100 人	100人 以上	無回答
9) 店舗全体の就労人員(パート等も含む)	4 3.0%	12 8.9%	20 14.8%	26 19.3%	28 20.7%	34 25.2%	11 8.1%

(計:135) *無回答46(34.1%)	0人	1~2人	3~4人	5~6人	7~8人	9~10人	11~14 人	15人 以上
10) 万引き犯人年間確保人数	25 18.5%	12 8.9%	8 5.9%	5 3.7%	3 2.2%	10 7.4%	6 4.4%	20 14.8%

(計:135) *無回答51(37.8%)	0人	1~2人	3~4人	5~6人	7~8人	9~10人	11~14 人	15人 以上
11) 少年の万引き犯人年間確保人数	42 31.1%	17 12.6%	15 11.1%	5 3.7%	1 0.7%	2 1.5%	0 0.0%	2 1.5%

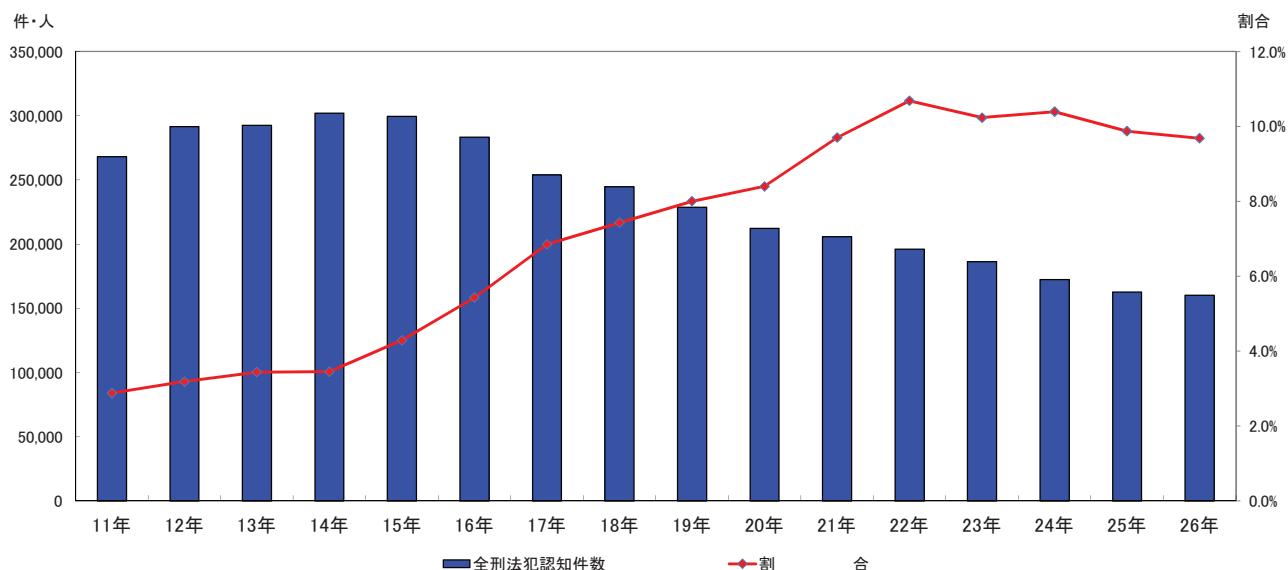
(計:135) *無回答51(37.8%)	0人	1~2人	3~4人	5~6人	7~8人	9~10人	11~14 人	15人 以上
12) 高齢者の万引き犯人年間確保人数	31 23.0%	13 9.6%	11 8.1%	7 5.2%	3 2.2%	8 5.9%	3 2.2%	8 5.9%

全刑法犯認知件数と万引きの認知・検挙件数の推移等について

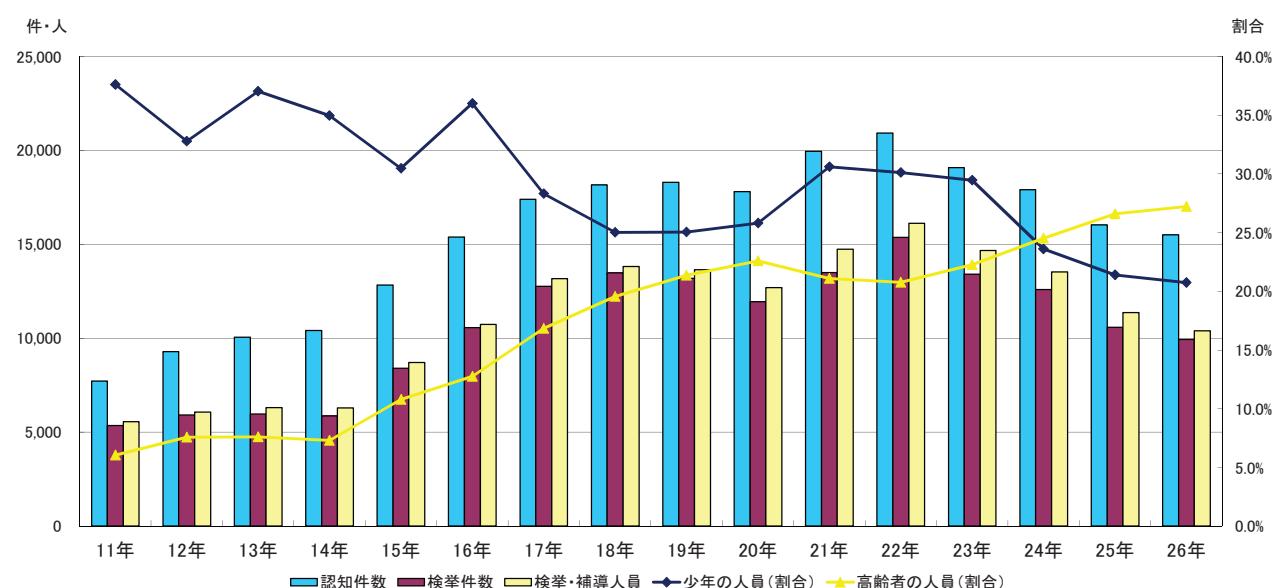
警視庁生活安全部

全刑法犯認知件数と万引きの認知・検挙件数の推移等について

○ 全刑法犯認知件数と万引き認知件数の割合



○ 都内の万引き認知と検挙・補導人員の推移



	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年
認 知 件 数	7,718	9,283	10,063	10,423	12,842	15,386	17,395	18,166	18,297	17,816	19,955	20,929	19,079	17,915	16,043	15,506
検 挙 件 数	5,352	5,912	5,974	5,867	8,397	10,572	12,773	13,475	13,197	11,953	13,495	15,373	13,406	12,589	10,582	9,931
検挙・補導人員	5,564	6,078	6,310	6,296	8,706	10,738	13,173	13,826	13,656	12,695	14,738	16,128	14,668	13,533	11,374	10,391
成 人	3,136	3,625	3,493	3,635	5,115	5,502	7,227	7,662	7,317	6,551	7,119	7,923	7,080	7,017	5,915	5,406
少 年	2,092	1,993	2,337	2,201	2,652	3,866	3,729	3,459	3,421	3,276	4,509	4,857	4,322	3,195	2,434	2,155
少年の人員(割合)	37.6%	32.8%	37.0%	35.0%	30.5%	36.0%	28.3%	25.0%	25.1%	25.8%	30.6%	30.1%	29.5%	23.6%	21.4%	20.7%
高 齢 者	336	460	480	460	939	1,370	2,217	2,705	2,918	2,868	3,110	3,348	3,266	3,321	3,025	2,830
高齢者の人員(割合)	6.0%	7.6%	7.6%	7.3%	10.8%	12.8%	16.8%	19.6%	21.4%	22.6%	21.1%	20.8%	22.3%	24.5%	26.6%	27.2%

「万引き被疑者に関する実態調査」 平成 24 年度結果
 警視庁生活安全部

第1 調査の概要

1. 調査の目的.....	資 4-1
2. 万引き事案の現況.....	資 4-1
3. 調査の方法.....	資 4-2
4. 調査期間	資 4-2
5. 調査対象被疑者.....	資 4-2
(1) 年代別	
(2) 男女別	
(3) 万引きの再犯者	

第2 調査の現状

1. 生活状況	資 4-3
(1) 同居者	
(2) 配偶者	
(3) 就労・雇用形態等	
(4) 生活保護	
2. 犯行（行為）の態様	資 4-8
(1) 店舗を選んだ理由	
(2) 被害品	
(3) 被害額	
(4) 万引きした被害品の隠匿場所	
(5) 万引きした被害品の処分予定	
(6) 犯行を決意した時期	
3. 被疑者の意識.....	資 4-22
(1) 犯行の動機・原因	
(2) 罪の意識	
(3) 生き甲斐	
(4) 交友関係	
(5) 相談できる者	
(6) 万引きをしたが捕まらなかった経験	
(7) 万引きをして発見されたが警察に通報されなかった経験	
(8) 万引きが犯罪であることを教えてもらったか	
(9) 何があったら諦めたか	
(10) 万引きを全件届出としていることを知っているか	
(11) 万引きに罰金刑があることを知っているか	
(12) 保護者に望むこと	
(13) 時間帯別	
(14) 曜日別	

平成25年6月28日
警視庁生活安全部

万引き被疑者に関する実態調査結果

第1 調査の概要

1 調査の目的

警視庁では、平成24年4月2日から万引き被疑者等調査システムの運用を開始しており、平成25年3月末までの1年間のデータを調査・分析した。

これは、万引き被疑者及び触法少年（以下「万引き被疑者等」という。）の犯行の動機、生活状態、犯罪傾向等を恒常に把握して調査・分析することにより、万引き被疑者等を取り巻く社会環境等と犯行の関係、犯行を思いとどまる要因等について明らかにし、今後の万引き防止対策に資することを目的とする。

2 万引き事案の現況

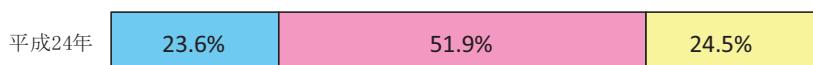
ア 万引き認知・検挙件数及び検挙・補導人員（平成24年12月末）

前年に比べ、認知・検挙件数は減少しているが、高齢者は1.7%増加している。

	H24年	H23年	増減	増減率	占有率 (H24年)	占有率 (H23年)
認 知 件 数	17,915	19,079	-1,164	-6.1%		
検 挙 件 数	12,589	13,406	-817	-6.1%		
検挙・補導人員	13,533	14,668	-1,135	-7.7%		
少 年	3,195	4,322	-1,127	-26.1%	23.6%	29.5%
小 学 生	452	507	-55	-10.8%	3.3%	3.5%
中 学 生	1,241	1,782	-541	-30.4%	9.2%	12.1%
高 校 生	1,058	1,439	-381	-26.5%	7.8%	9.8%
大 学 生	104	121	-17	-14.0%	0.8%	0.8%
そ の 他	76	79	-3	-3.8%	0.6%	0.5%
有 職 少 年	64	92	-28	-30.4%	0.5%	0.6%
無 職 少 年	200	302	-102	-33.8%	1.5%	2.1%
成 人	7,017	7,080	-63	-0.9%	51.9%	48.3%
高 齢 者	3,321	3,266	55	1.7%	24.5%	22.3%

イ 検挙・補導人員（平成24年12月末）

検挙・補導人員の割合は、少年(23.6%)、成人(51.9%)、高齢者(24.5%)となって いる。



3 調査の方法

平成24年4月2日から運用を開始した「万引き被疑者等調査システム」に入力されたデータによる。

4 調査期間

平成24年4月2日から平成25年3月31日までの1年間
(前回調査 平成22年4月21日から同10月20日までの6ヶ月間)

5 調査対象被疑者

※ 前期期間中に、検挙・補導した万引き被疑者のうち、「万引き被疑者等調査システム」に入力された2,204件を対象

(1) 年代別

少年	成人	高齢者	計
948	777	479	2204

※ 少年20歳未満、成人は20歳以上65歳未満、高齢者は65歳以上

(2) 男女別

男性の人数及び各年代に占める割合は、少年660人(69.6%)、成人445人(57.3%)、高齢者256人(53.4%)である。

※前回調査

男性の割合、少年(68.1%)、成人(58.2%)、高齢者(56.3%)



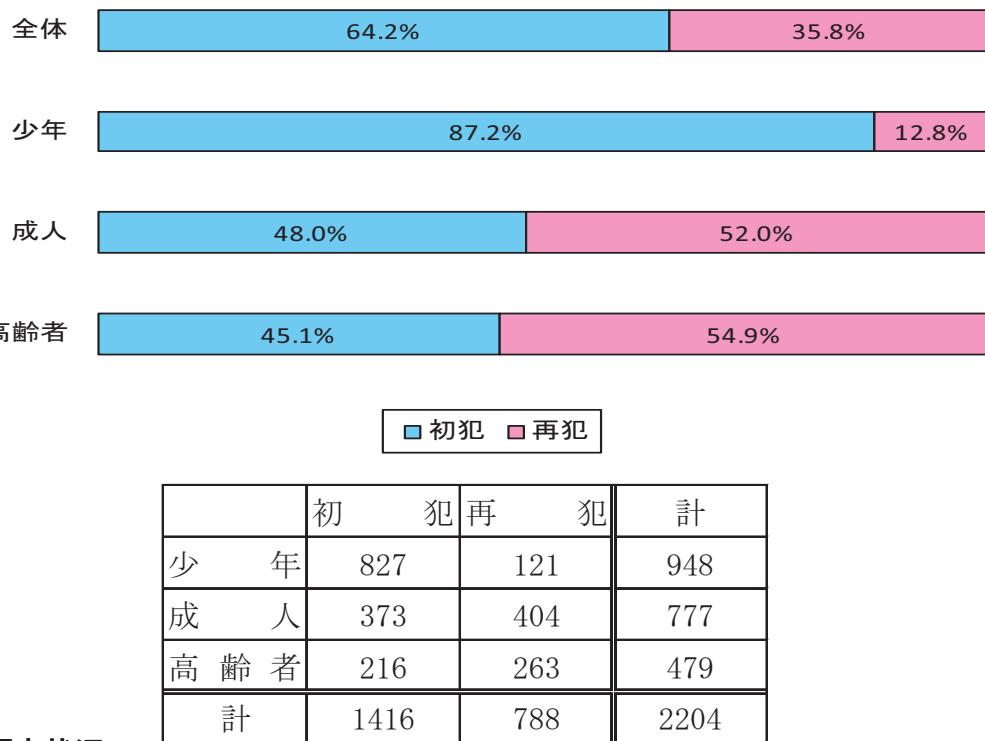
	男	女	計
少 年	660	288	948
成 人	445	332	777
高 齢 者	256	223	479
計	1361	843	2204

(3) 万引きの再犯者

今回の調査対象者のうち、万引きの再犯者(過去に万引きで検挙・補導された者)の人数及び各年代に占める割合は、少年121人(12.8%)、成人404人(52.0%)、高齢者263人(54.9%)であるが、前回調査より、成人、高齢者が増えている。

※前回調査

「再犯」少年(12.1%)、成人(42.6%)、高齢者(48.7%)



第2 調査状況

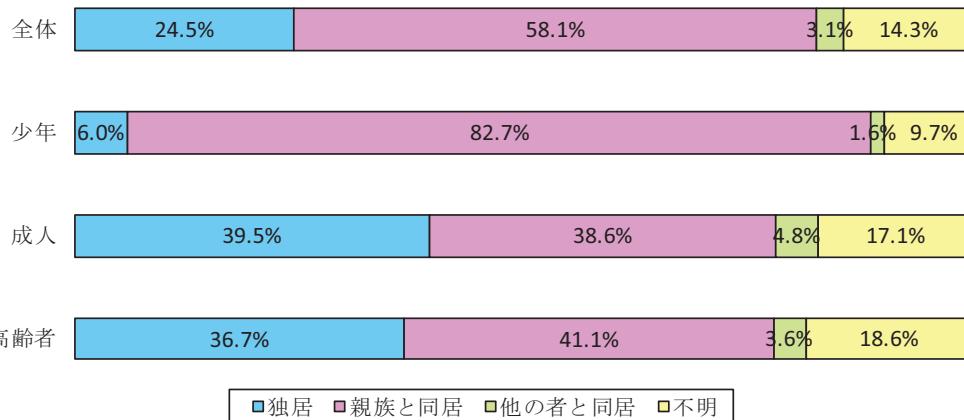
1 生活状況

(1) 同居者

成人(39.5%)、高齢者(36.7%)は独居の割合が高い。

※前回調査

「独居」成人(44.6%)、高齢者(44.5%)



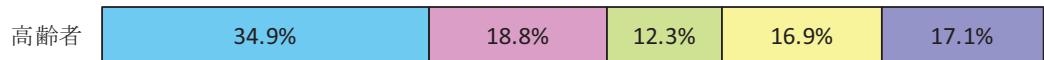
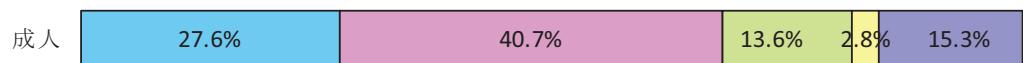
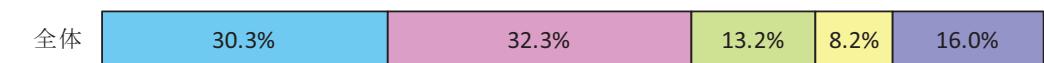
	少 年	成 人	高 齢 者	計
独 居	57	307	176	540
親 族 と 同 居	784	300	197	1281
他 の 者 と 同 居	15	37	17	69
不 明	92	133	89	314
計	948	777	479	2204

(2) 配偶者

成人214人(27.5%)、高齢者167人(34.9%)に配偶者があるが、前回調査に比べ高齢者の無(未婚)率が高くなっている。

※前回調査

「無(未婚)」成人(60.6%)、高齢者(17.6%)



■有(含同棲) ■無(未婚) □無(離婚) ▨無(死別) □不明

	成 人	高 齢 者	計
有 (含同棲)	214	167	381
無 (未婚)	316	90	406
無 (離婚)	106	59	165
無 (死別)	22	81	103
不 明	119	82	201
計	777	479	1256

(3) 就労・雇用形態等

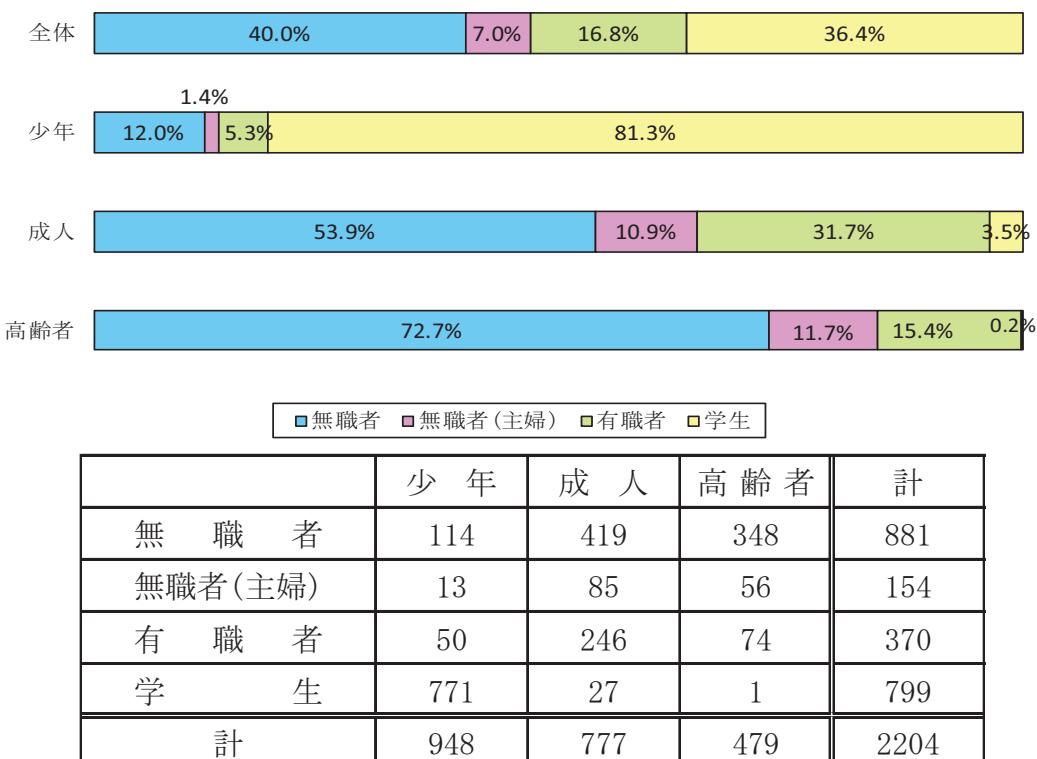
ア 就労

成人419人(53.9%)、高齢者348人(72.7%)が無職である。なお、無職(主婦)は成人85人(10.9%)、高齢者56人(11.7%)である。

※前回調査

「無職」成人(55.4%)、高齢者(84.0%)

「無職(主婦)」成人(2.0%)、高齢者(4.2%)



■無職者 ■無職者(主婦) ■有職者 ■学生

	少 年	成 人	高 齢 者	計
無 職 者	114	419	348	881
無職者(主婦)	13	85	56	154
有 職 者	50	246	74	370
学 生	771	27	1	799
計	948	777	479	2204

イ 雇用形態

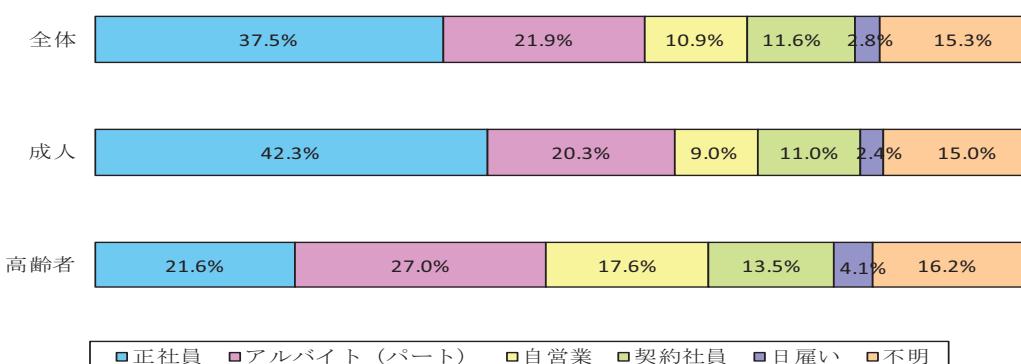
成人は正社員(42.3%)の割合が高い。

高齢者はアルバイト(パート)(27.0%)の割合が高い。

※前回調査

「正社員」成人(44.7%)、高齢者(35.7%)

「アルバイト(パート)」成人(34.1%)、高齢者(28.6%)



■正社員 ■アルバイト(パート) ■自営業 ■契約社員 ■日雇い ■不明

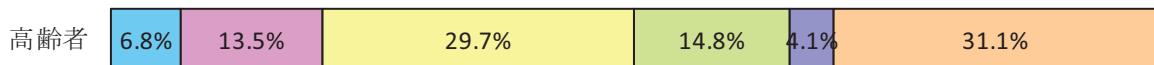
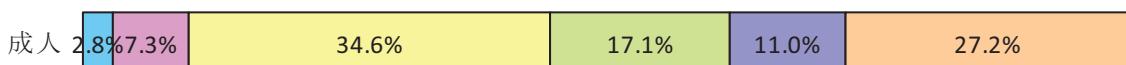
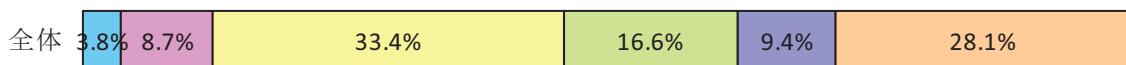
	成 人	高 齢 者	計
正社員	104	16	120
アルバイト(パート)	50	20	70
自営業	22	13	35
契約社員	27	10	37
日雇い	6	3	9
不明	37	12	49
計	246	74	320

ウ 収入（月収）

成人では85人(34.6%)、高齢者では22人(29.7%)と、100,001～200,000円の収入が最も多くなっている。

※前回調査

「100,001～200,000円」 成人(36.5%)、高齢者(50.0%)



■50,000円以下	■50,001円から100,000円	■100,001円から200,000円
□200,001円から300,000円	■300,001円以上	□不明

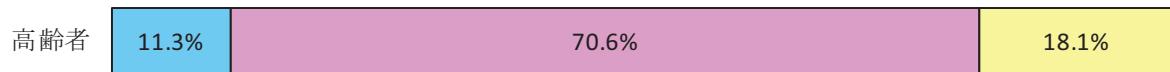
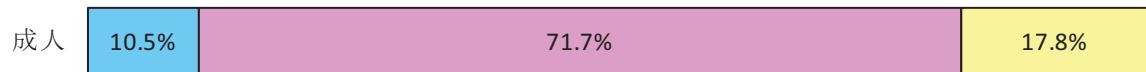
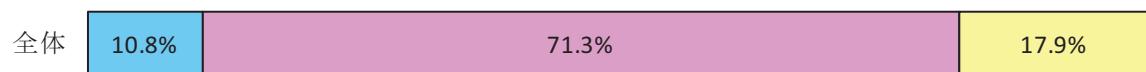
	成 人	高 齢 者	計
50,000円以下	7	5	12
50,001円から100,000円	18	10	28
100,001円から200,000円	85	22	107
200,001円から300,000円	42	11	53
300,001円以上	27	3	30
不明	67	23	90
計	246	74	320

(4) 生活保護

成人82人（10.6%）、高齢者54人（11.3%）が生活保護を受けているが、成人、高齢者ともに前回調査に比べ生活保護を受けている割合は減少している。

※前回調査

「生活保護(有)」成人(14.5%)、高齢者(14.3%)



■有 ■無 ■不明

	成 人	高 齡 者	計
有	82	54	136
無	557	338	895
不明	138	87	225
計	777	479	1256

2 犯行(行為)の態様

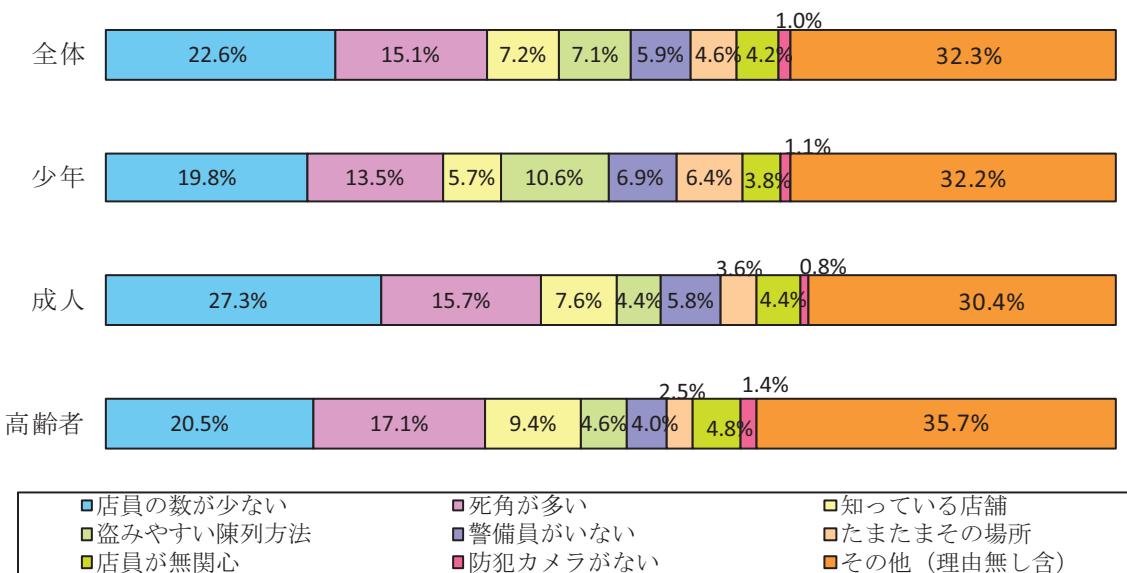
(1) 店舗を選んだ理由

「店員の数が少ない」498人(22.6%)、「死角が多い」332人(15.1%)、「知っている店舗」158人(7.2%)の順となっている。

また、「その他」の大半は「特に理由なし」であるが、少年の中には「友人・先輩に指示された」と回答した者が8人いた。

※前回調査

「店員の数が少ない」15.1%、「死角が多い」7.3%、「知っている店舗」24.5%



- 店員の数が少ない
- 死角が多い
- 知っている店舗
- 盗みやすい陳列方法
- 警備員がいない
- たまたまその場所
- 店員が無関心
- 防犯カメラがない
- その他 (理由無し含)

	少 年	成 人	高 齡 者	計
店員の数が少ない	188	212	98	498
死角が多い	128	122	82	332
知っている店舗	54	59	45	158
盗み易い陳列方法	101	34	22	157
警備員がいない	65	45	19	129
たまたまその場所	61	28	12	101
店員が無関心	36	34	23	93
防犯カメラがない	10	6	7	23
その他 (理由無し含)	305	237	171	713
計	948	777	479	2204

(2) 被害品

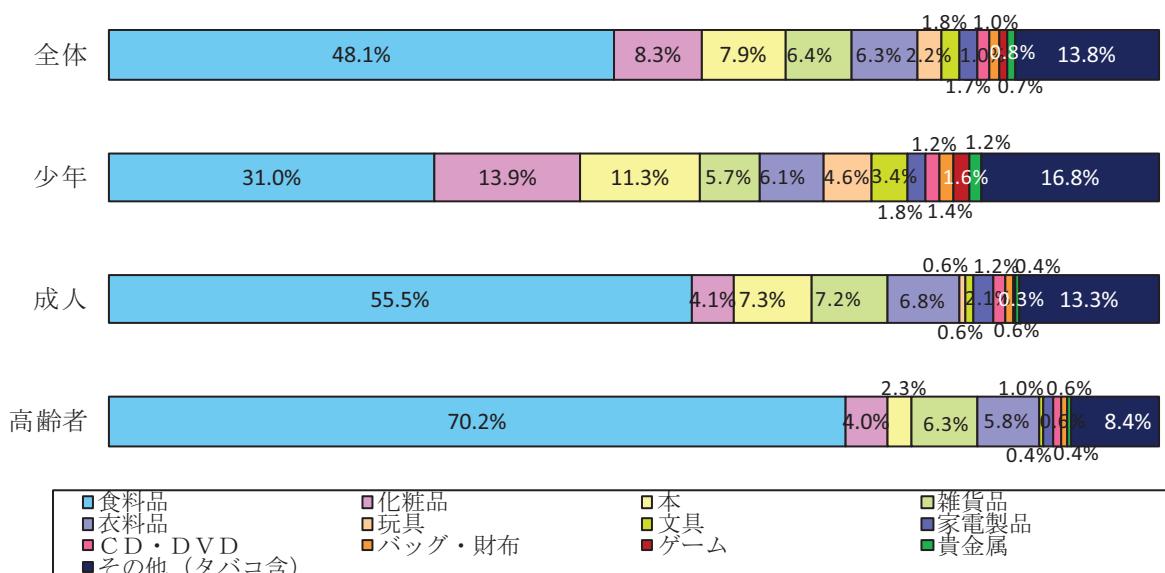
ア 全調査対象者

各年代とも食料品が多く、特に高齢者(70.1%)が顕著である。

また、「その他」の回答の中ではタバコが全体で44人、少年25人、成人18人、高齢者1人であった。

※前回調査

「食料品」(39.5%)が最も多く、高齢者は(78.9%)



	少 年	成 人	高 齢 者	計
食料品	294	431	336	1061
化粧品	132	32	19	183
本	107	57	11	175
雑貨品	54	56	30	140
衣料品	58	53	28	139
玩具	44	5	0	49
文具	32	5	2	39
家電製品	17	16	5	38
CD・DVD	11	9	3	23
バッグ・財布	13	5	3	21
ゲーム	15	2	0	17
貴金属	11	3	2	16
その他 (タバコ含)	160	103	40	303
計	948	777	479	2204

イ 男女別

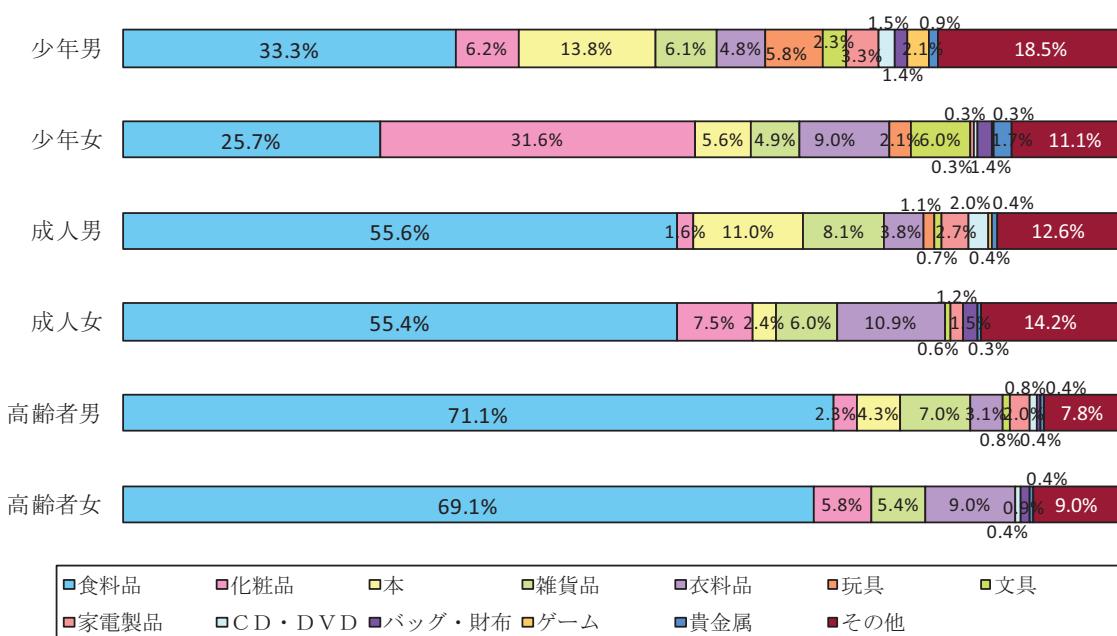
「化粧品」、「衣料品」は各年代とも男性より女性が多く、「本」は各年代とも女性より男性が多い。

※前回調査

「化粧品」少年女30.6%、成人女16.7%、高齢者女13.1%

「衣料品」少年女10.3%、成人女14.2%、高齢者女3.3%

「本」少年男13.8%、成人男11.5%、高齢者男1.5%



	少年		成人		高齢者		計
	男	女	男	女	男	女	
食料品	220	74	247	184	182	154	1061
化粧品	41	91	7	25	6	13	183
本	91	16	49	8	11	0	175
雑貨品	40	14	36	20	18	12	140
衣料品	32	26	17	36	8	20	139
玩具	38	6	5	0	0	0	49
文具	15	17	3	2	2	0	39
家電製品	22	1	12	4	5	0	44
CD・DVD	10	1	9	0	2	1	23
バッグ・財布	9	4	0	5	1	2	21
ゲーム	14	1	2	0	0	0	17
貴金属	6	5	2	1	1	1	16
その他	122	32	56	47	20	20	297
計	660	288	445	332	256	223	2204

ウ 少年学識別

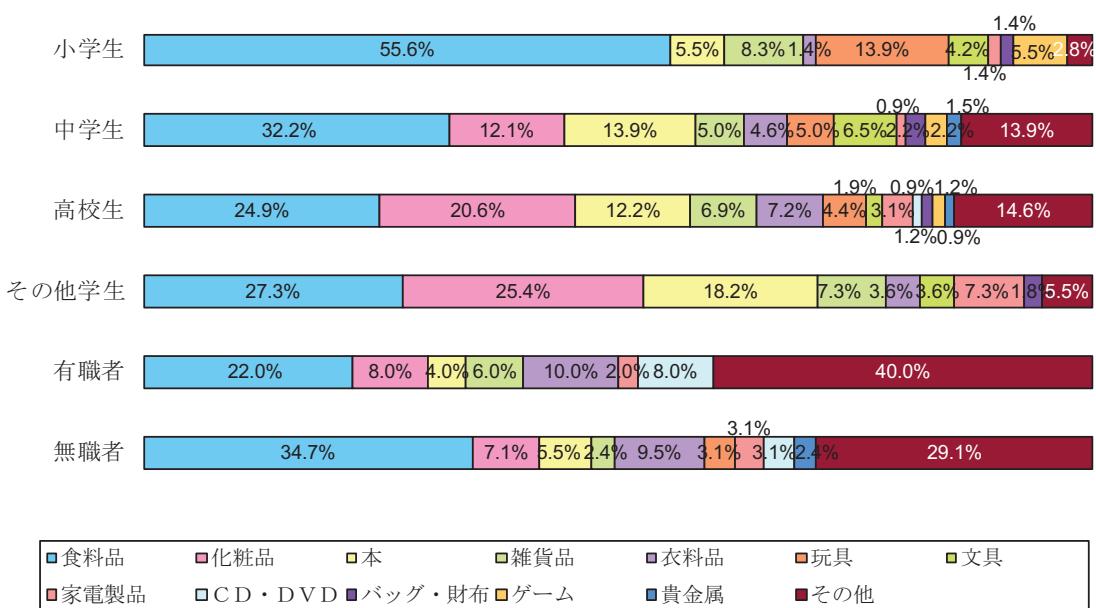
小学生は「食料品」が40人(55.6%)と半数以上を占める。また、「玩具」は高校生14人(4.4%)、中学生16人(5.0%)、小学生10人(13.9%)で、「ゲーム類」は高校生4人(1.2%)、中学生7人(2.2%)、小学生4人(5.6%)と学年が下がるにつれて割合が高くなっている。

※前回調査

「食料品」 小学生43.8%

「玩具」 小学生22.9%、中学生6.2%、高校生5.2%

「ゲーム類」 小学生4.8%、中学生2.4%、高校生0.3%



■ 食料品 ■ 化粧品 ■ 本 ■ 雑貨品 ■ 衣料品 ■ 玩具 ■ 文具
 ■ 家電製品 ■ CD・DVD ■ バッグ・財布 ■ ゲーム ■ 貵金属 ■ その他

	小学生	中学生	高校生	その他学生	有職者	無職者	計
食料品	40	104	80	15	11	44	294
化粧品	0	39	66	14	4	9	132
本	4	45	39	10	2	7	107
雑貨品	6	16	22	4	3	3	54
衣料品	1	15	23	2	5	12	58
玩具	10	16	14	0	0	4	44
文具	3	21	6	2	0	0	32
家電製品	1	3	10	4	1	4	23
CD・DVD	0	0	3	0	4	4	11
バッグ・財布	1	7	4	1	0	0	13
ゲーム	4	7	4	0	0	0	15
貴金属	0	5	3	0	0	3	11
その他	2	45	47	3	20	37	154
計	72	323	321	55	50	127	948

(3) 被害額

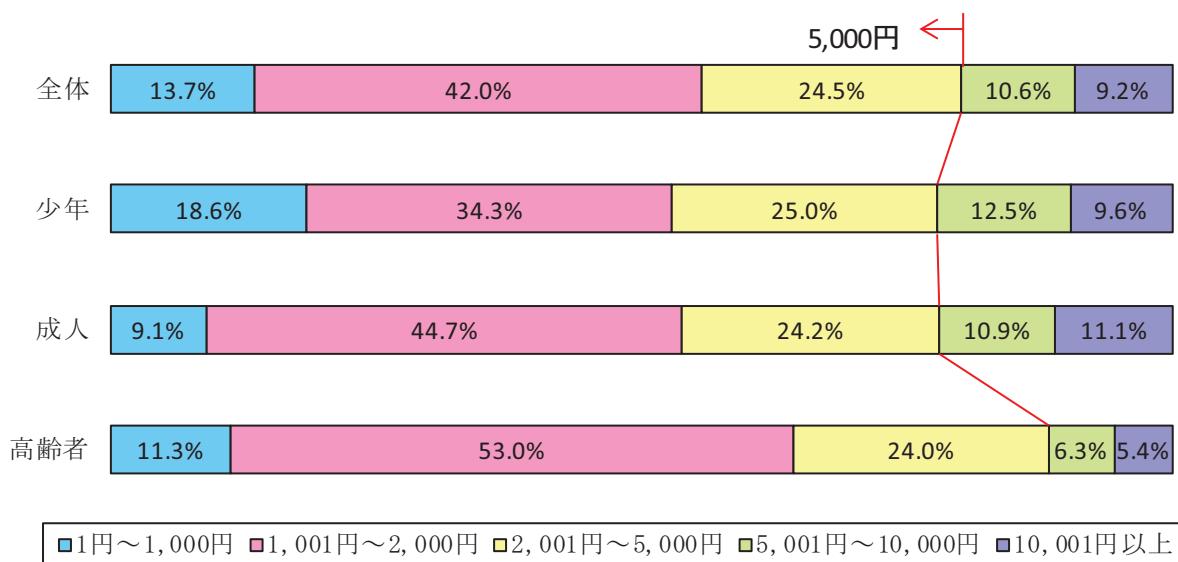
ア 全調査対象者

「1,000円以下」が301件(13.7%)、「1,001円～2,000円」が926人(42.0%)で「5,000円以下」が1,767人(80.2%)となっている。

※前回調査

「1,000円以下」 42.2%、 「1,001円～2,000円」 17.1%

「5,000円以下」 79.0%



■1円～1,000円 ■1,001円～2,000円 ■2,001円～5,000円 ■5,001円～10,000円 ■10,001円以上

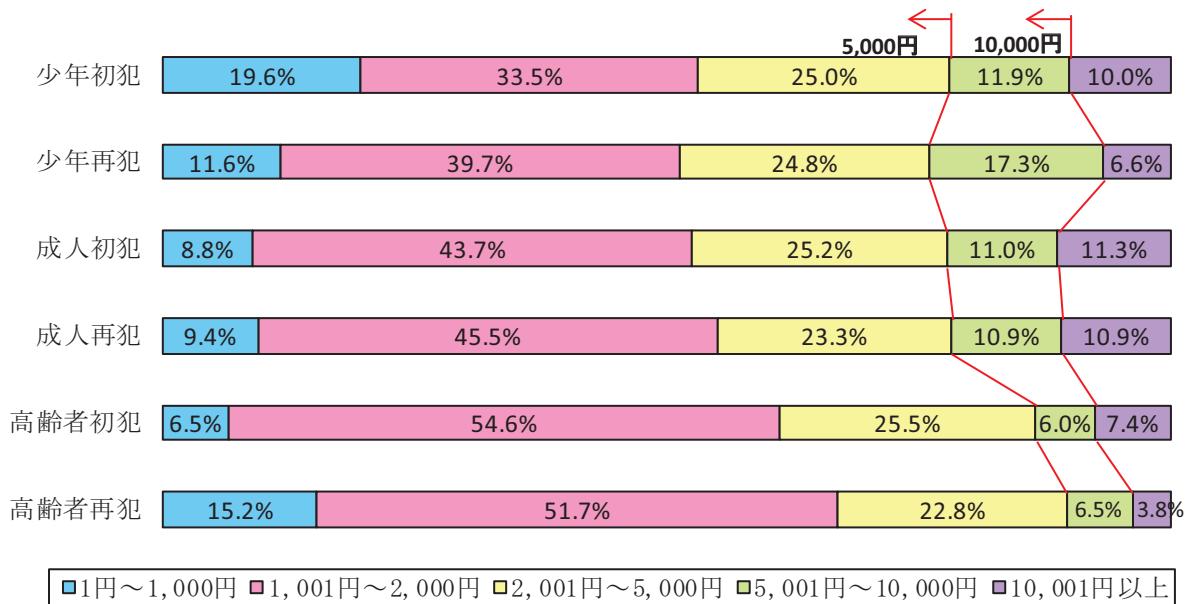
	少 年	成 人	高 齡 者	計
1～1,000円	176	71	54	301
1,001～2,000円	325	347	254	926
2,001～5,000円	237	188	115	540
5,001～10,000円	119	85	30	234
10,001円以上	91	86	26	203
計	948	777	479	2204

イ 初犯者と再犯者の比較

少年は「5,001円～10,000円」の割合が、初犯者(11.9%)より再犯者(17.4%)の方が高くなっている。

※前回調査

「5,001円～10,000円」少年再犯(12.9%)



	少 年		成 人		高 齢 者		計
	初 犯	再 犯	初 犯	再 犯	初 犯	再 犯	
1～1,000円	162	14	33	38	14	40	301
1,001～2,000円	277	48	163	184	118	136	926
2,001～5,000円	207	30	94	94	55	60	540
5,001～10,000円	98	21	41	44	13	17	234
10,001円以上	83	8	42	44	16	10	203
計	827	121	373	404	216	263	2204

(4) 万引きした被害品の隠匿場所

ア 全調査対象者

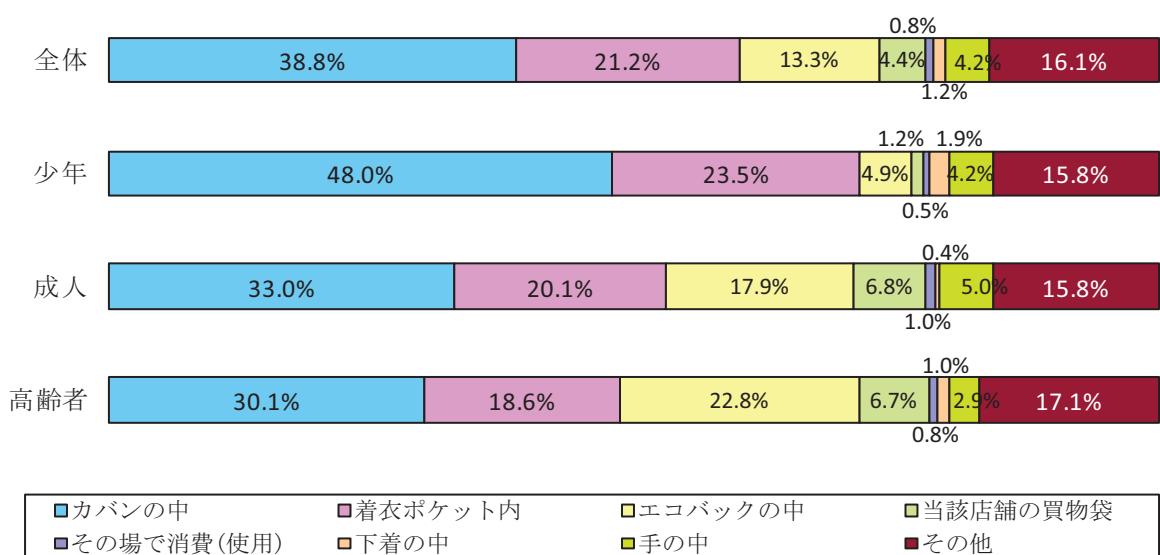
各年代とも「カバンの中」、「着衣ポケット内」に隠す手口の割合が高くなっている。

また、高齢者では「エコバックの中」(22.8%)に隠す割合が前回調査と同様に高くなっている。

※前回調査

「カバンの中」全体(49.3%)、「着衣ポケット内」全体(20.7%)

「エコバックの中」高齢者(15.1%)



■カバンの中 ■着衣ポケット内 ■エコバックの中 ■当該店舗の買物袋
■その場で消費(使用) ■下着の中 ■手の中 ■その他

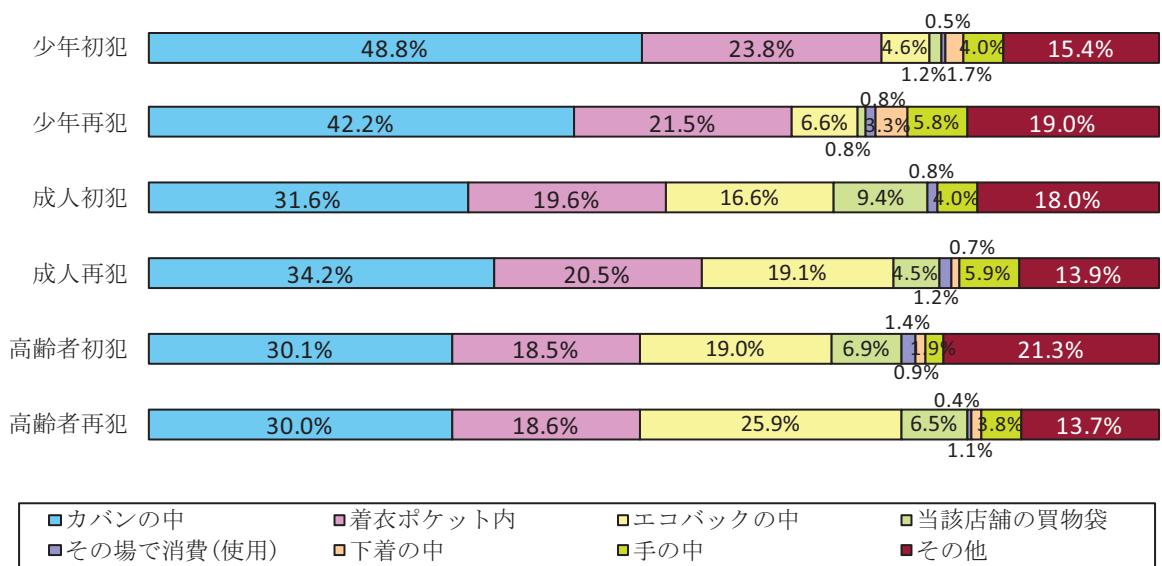
	少 年	成 人	高 齡 者	計
カバンの中	455	256	144	855
着衣ポケット内	223	156	89	468
エコバックの中	46	139	109	294
当該店舗の買物袋	11	53	32	96
手の中	40	39	14	93
下着の中	18	3	5	26
その場で消費(消費)	5	8	4	17
その他	150	123	82	355
計	948	777	479	2204

イ 初犯者と再犯者の比較

各年代とも再犯者は「エコバックの中」に隠す割合が高い。特に高齢者の再犯者は「エコバックの中」(25.9%)に隠す割合が高くなっている。

※前回調査

「エコバックの中」高齢者再犯(13.8%)



	少 年		成 人		高 齡 者		計
	初 犯	再 犯	初 犯	再 犯	初 犯	再 犯	
カバンの中	404	51	118	138	65	79	855
着衣ポケット内	197	26	73	83	40	49	468
エコバックの中	38	8	62	77	41	68	294
当該店舗の買物袋	10	1	35	18	15	17	96
手の中	33	7	15	24	4	10	93
下着の中	14	4	0	3	2	3	26
その場で消費(消費)	4	1	3	5	3	1	17
その他	127	23	67	56	46	36	355
計	827	121	373	404	216	263	2204

ウ 男女別

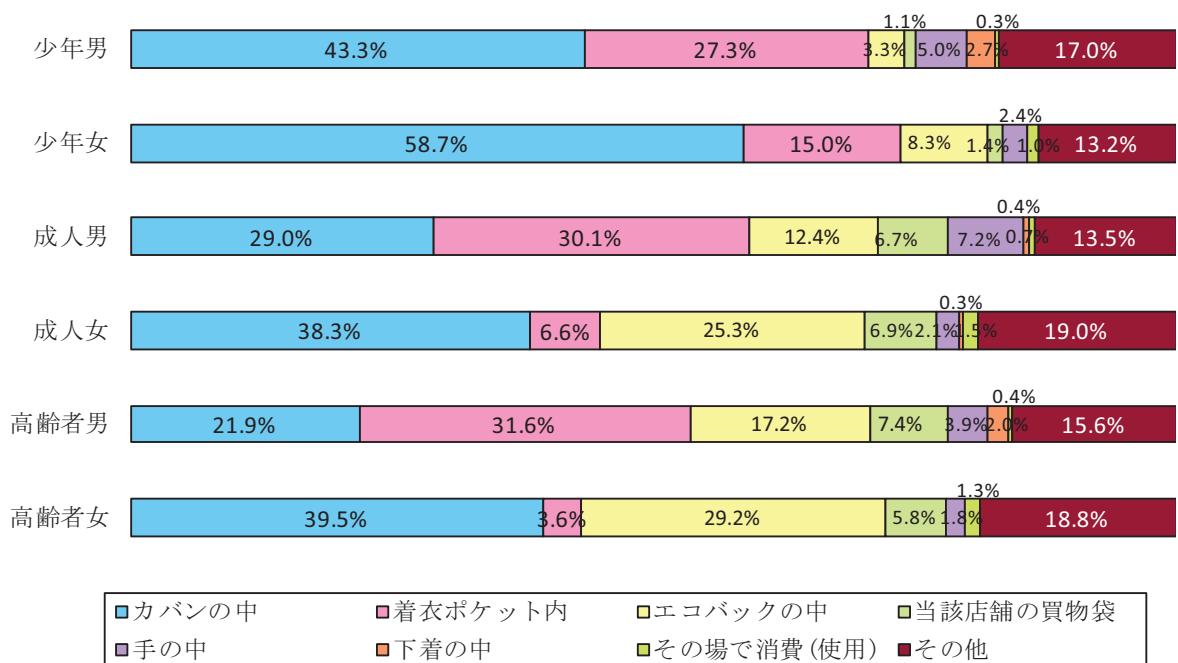
男性に比べ女性は「カバンの中」や「エコバックの中」に隠す割合が高く、

男性は女性に比べ「着衣ポケット内」や「手の中」に隠す割合が高い。

また、前回調査に比べ各年代とも女性が「エコバックの中」に隠す割合が高くなつた。

※前回調査

「エコバックの中」少年女(2.7%)、成人女(7.7%)、高齢者女(19.2%)



■カバンの中 ■着衣ポケット内 ■エコバックの中 ■当該店舗の買物袋
■手の中 ■下着の中 ■その場で消費(使用) ■その他

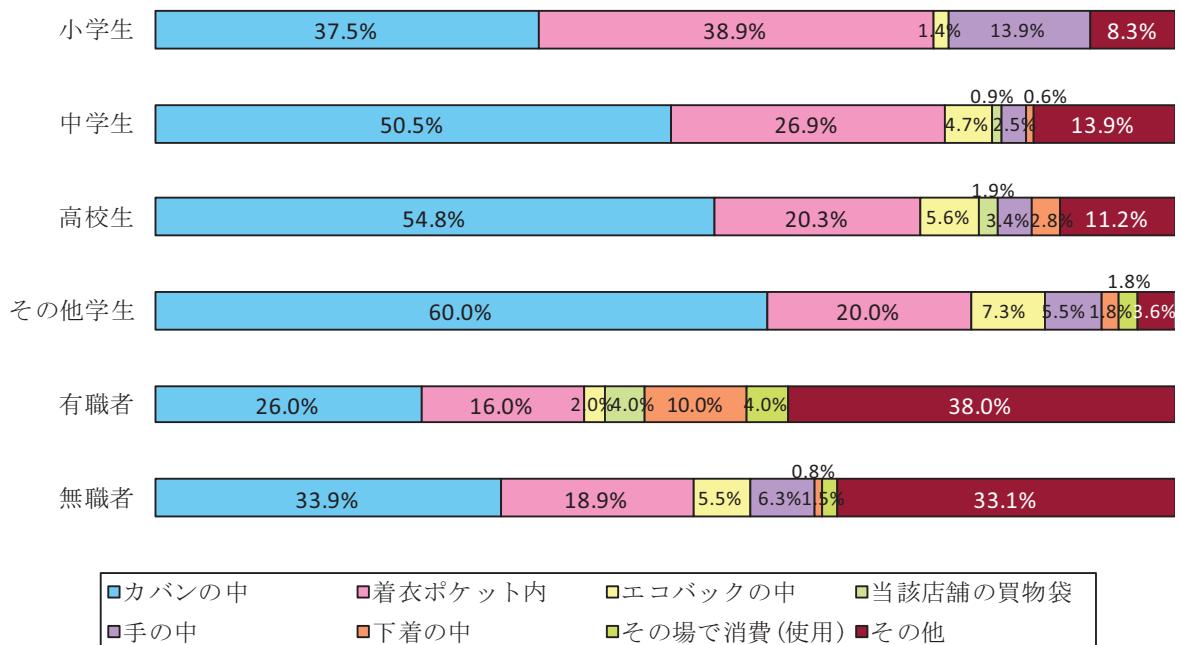
	少年		成人		高齢者		計
	男	女	男	女	男	女	
カバンの中	286	169	129	127	56	88	855
着衣ポケット内	180	43	134	22	81	8	468
エコバックの中	22	24	55	84	44	65	294
当該店舗の買物袋	7	4	30	23	19	13	96
手の中	33	7	32	7	10	4	93
下着の中	18	0	2	1	5	0	26
その場で消費(使用)	2	3	3	5	1	3	17
その他	112	38	60	63	40	42	355
計	660	288	445	332	256	223	2204

エ 少年の学識別

「着衣ポケット内」、「手の中」に隠す割合は学年が下がるほど高くなっている。

※前回調査

「着衣ポケット内」小学生(30.5%)、中学生(23.6%)



■カバンの中 ■着衣ポケット内 ■エコバックの中 ■当該店舗の買物袋
 ■手の中 ■下着の中 ■その場で消費(使用) ■その他

	小学生	中学生	高校生	その他学生	有職者	無職者	計
カバンの中	27	163	176	33	13	43	455
着衣ポケット内	28	87	65	11	8	24	223
エコバックの中	1	15	18	4	1	7	46
当該店舗の買物袋	0	3	6	0	2	0	11
手の中	10	8	11	3	0	8	40
下着の中	0	2	9	1	5	1	18
その場で消費(使用)	0	0	0	1	2	2	5
その他	6	45	36	2	19	42	150
計	72	323	321	55	50	127	948

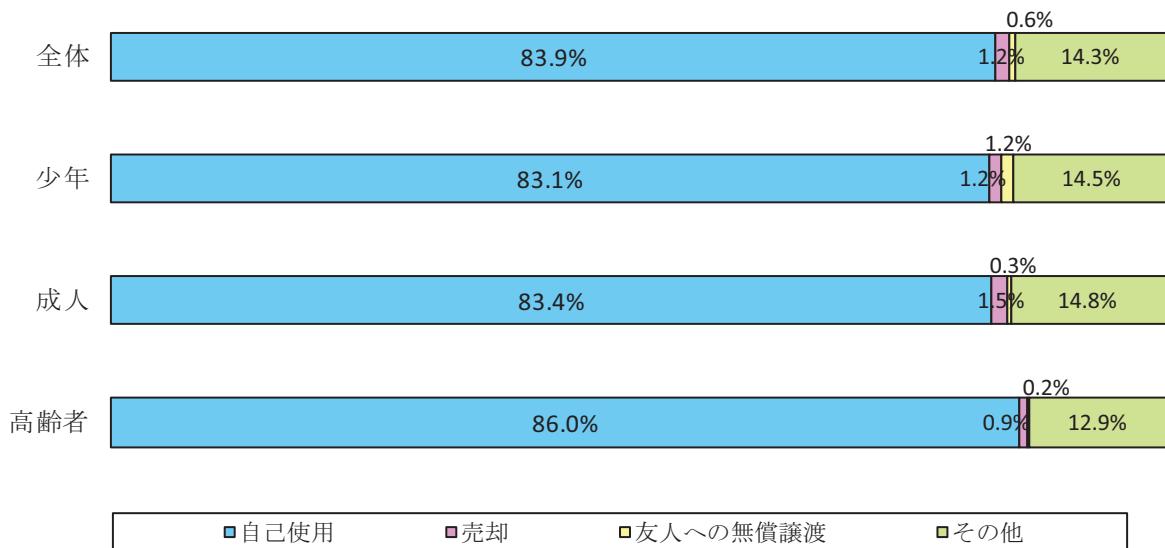
(5) 万引きした被害品の処分予定

ア 全調査対象者

各年代とも、「自己使用」(83.8%)が多いが、「売却」(1.2%)や「友人への無償譲渡」(0.6%)の者もいる。

※前回調査

「売却」(0.7%)、「友人への無償譲渡」(0.3%)



■自己使用

■売却

■友人への無償譲渡

■その他

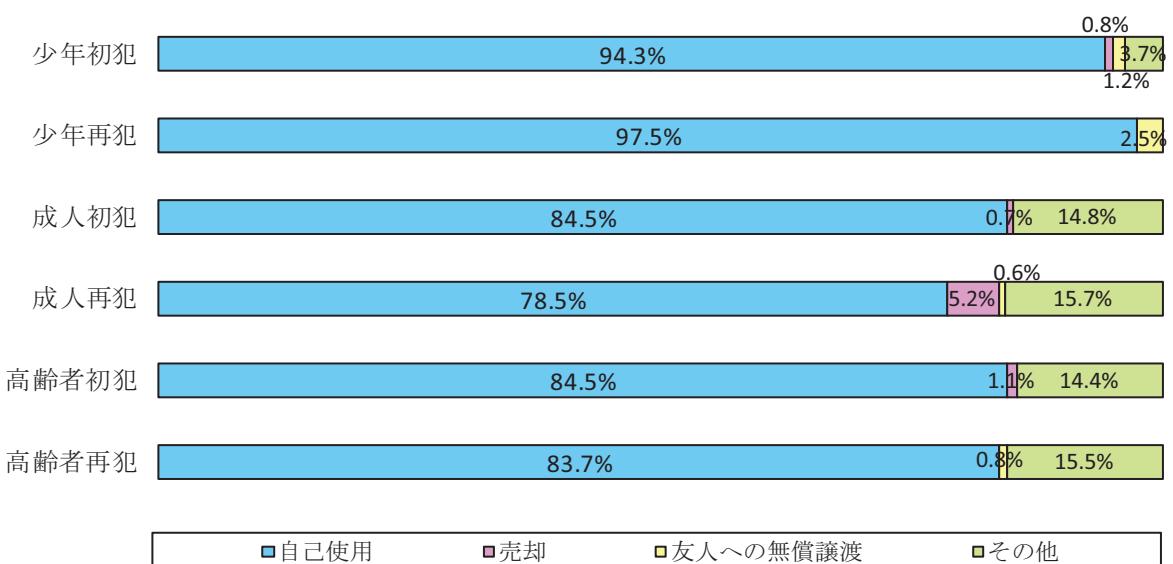
	少 年	成 人	高 齡 者	計
自己使用	788	648	412	1848
売却	11	12	4	27
友人への無償譲渡	11	2	1	14
その他	138	115	62	315
計	948	777	479	2204

イ 初犯者と再犯者の比較

前回調査と同様に成人の再犯者で「売却」が5.2%と他の年代より高くなっている。また、「友人への無償譲渡」は少年の初犯、再犯とも他の年代より高くなっている。

※前回調査

「売却」成人再犯(2.8%)、「友人への無償譲渡」少年再犯(68.1%)



	少 年		成 人		高 齢 者		計
	初 犯	再 犯	初 犯	再 犯	初 犯	再 犯	
自己使用	698	90	321	327	184	228	1848
売却	5	6	1	11	3	1	27
友人への無償譲渡	8	3	0	2	0	1	14
その他	116	22	51	64	29	33	315
計	827	121	373	404	216	263	2204

(6) 犯行を決意した時期

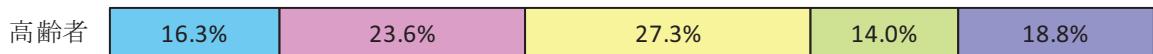
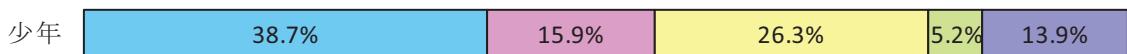
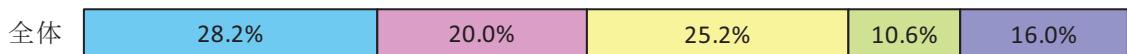
ア 全調査対象者

少年は他の年代に比べ「店舗に入る前」(38.7%)の割合が高い。

高齢者は「品物を見ているうち」(27.3%)の割合が高い。

※前回調査

「店舗に入る前」少年(30.6%)、 「品物を見ているうち」高齢者(24.4%)



■店舗に入る前 ■店舗に入ってから □品物を見ているうち □品物を手に取ってから ■その他

	少 年	成 人	高 齢 者	計
店舗に入る前から	367	176	78	621
店舗に入ってから	151	176	113	440
品物を見ているうちに	249	175	131	555
品物を手に取ってから	49	119	67	235
その他	132	131	90	353
計	948	777	479	2204

イ 初犯者と再犯者の比較

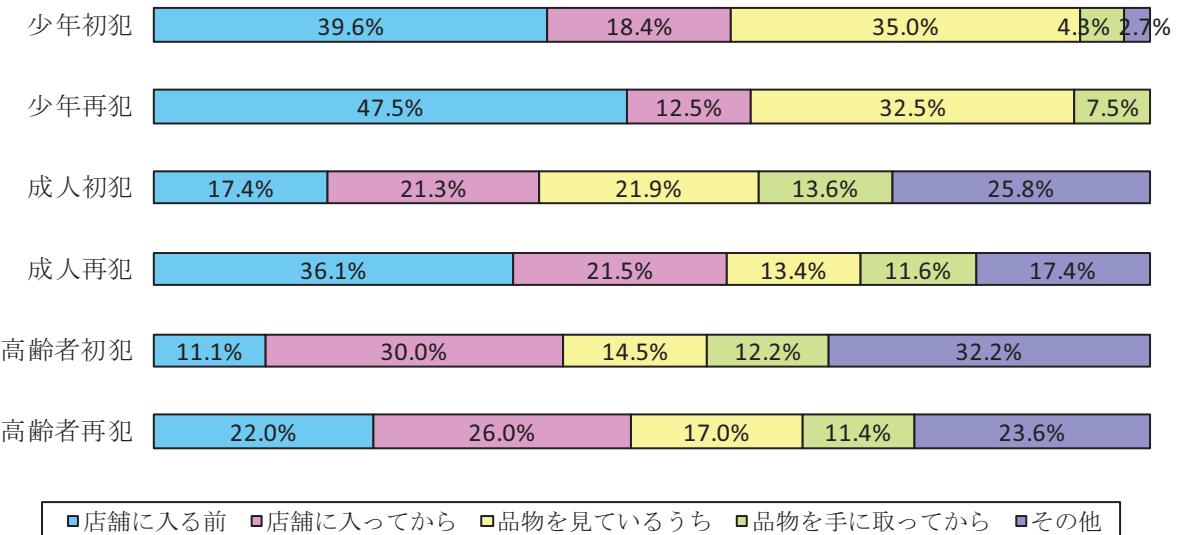
各年代とも「店舗に入る前」が初犯者よりも再犯者の割合が高い。

少年では「品物を見ているうち」が再犯者(32.5%)よりも初犯者(35.0%)の割合が高い。前回調査では再犯者の割合が高かった。

※前回調査

「店舗に入る前」少年再犯(25.9%)、成人再犯(19.8%)、高齢者再犯(19.0%)

「品物を見ているうち」少年再犯(41.2%)、少年初犯(27.6%)



	少 年		成 人		高 齢 者		計
	初 犯	再 犯	初 犯	再 犯	初 犯	再 犯	
店舗に入る前から	305	62	59	117	24	54	621
店舗に入ってから	143	8	94	82	50	63	440
品物を見ているうちに	230	19	95	80	64	67	555
品物を手に取ってから	39	10	53	66	29	38	235
その他	110	22	72	59	49	41	353
計	827	121	373	404	216	263	2204

3 被疑者の意識

(1) 犯行の動機・原因

ア 全調査対象者

各年代とも「生活困窮」の割合が高い。少年では「ゲーム感覚」4.7%と「お金を払うのが馬鹿らしい」25.2%が他の年代に比べ割合が高い。

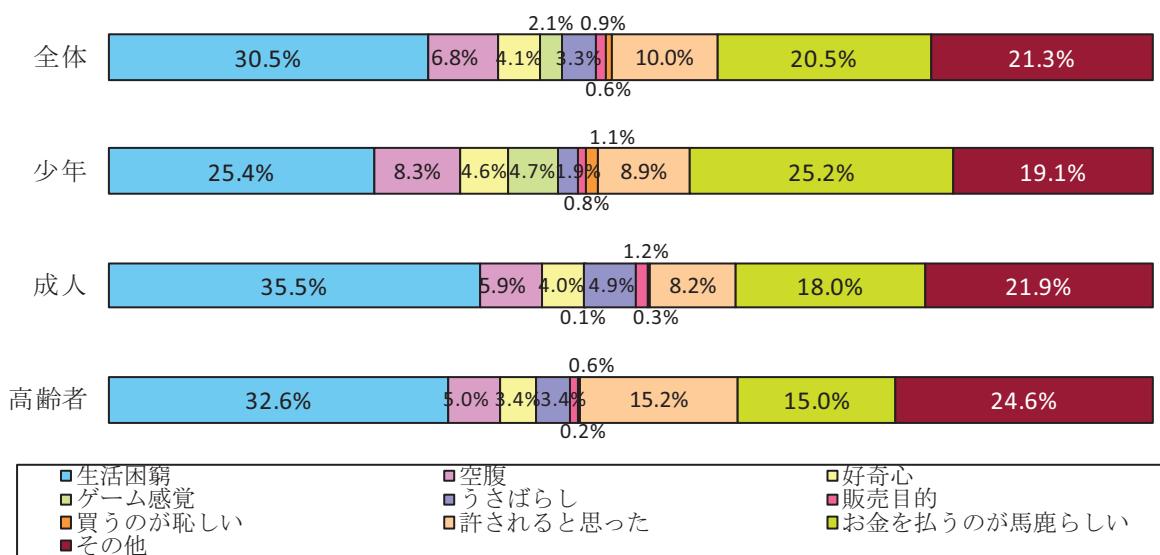
高齢者では「許されると思った」が15.2%と他の年代よりも割合が高い。

※少年の「生活困窮」は「自分の小遣いで買えない」という理由である。

※前回調査

「生活困窮」少年(3.4%)、成人(25.3%)、高齢者(18.5%)

「ゲーム感覚」少年(12.0%)



	少 年	成 人	高 齡 者	計
生活困窮	241	276	156	673
空腹	79	46	24	149
好奇心	43	31	16	90
ゲーム感覚	45	1	0	46
うさばらし	18	38	16	72
販売目的	8	9	3	20
買うのが恥ずかしい	10	2	1	13
許されると思った	84	64	73	221
お金を払うのが馬鹿らしい	239	140	72	451
その他	181	170	118	469
計	948	777	479	2204

イ 初犯者と再犯者の比較

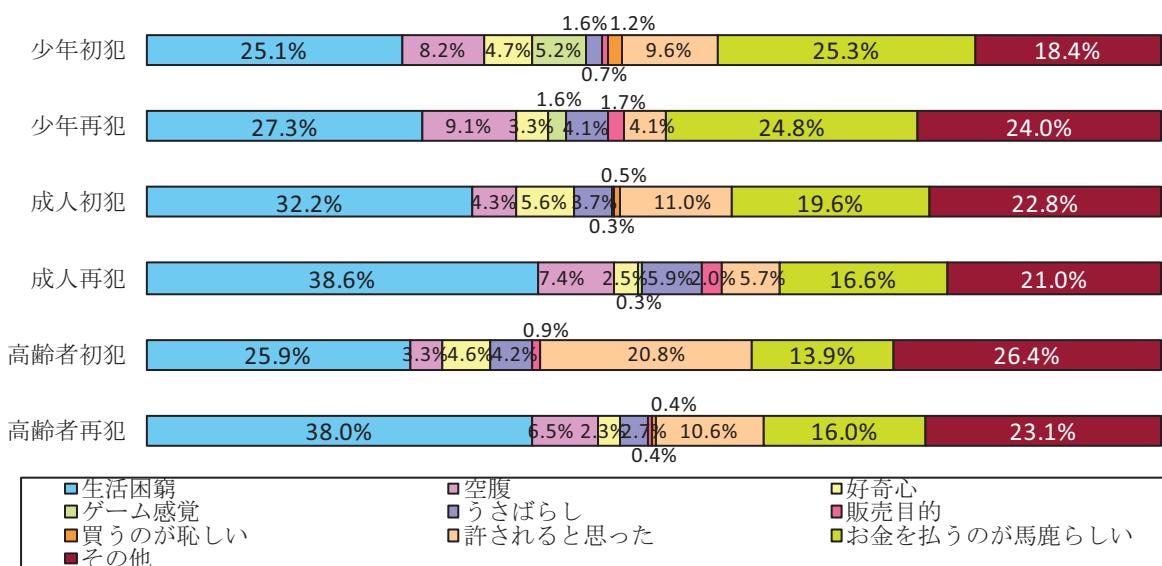
各年代とも再犯者に比べ初犯者の方が「許されると思った」の割合が高かった。

「販売目的」では、少年再犯(1.7%)と成人再犯(2.0%)の割合が高かった。

「お金を払うのが馬鹿らしい」では、少年初犯(25.3%)と少年再犯(24.8%)の割合が高かった。

※前回調査

「販売目的」少年再犯(0.0%)、成人再犯(3.8%)



	少 年		成 人		高 齡 者		計
	初 犯	再 犯	初 犯	再 犯	初 犯	再 犯	
生活困窮	208	33	120	156	56	100	673
空腹	68	11	16	30	7	17	149
好奇心	39	4	21	10	10	6	90
ゲーム感覚	43	2	0	1	0	0	46
うきばらし	13	5	14	24	9	7	72
販売目的	6	2	1	8	2	1	20
買うのが恥ずかしい	10	0	2	0	0	1	13
許されると思った	79	5	41	23	45	28	221
お金を払うのが馬鹿らしい	209	30	73	67	30	42	451
その他	152	29	85	85	57	61	469
計	827	121	373	404	216	263	2204

(2) 罪の意識

ア 全調査対象者

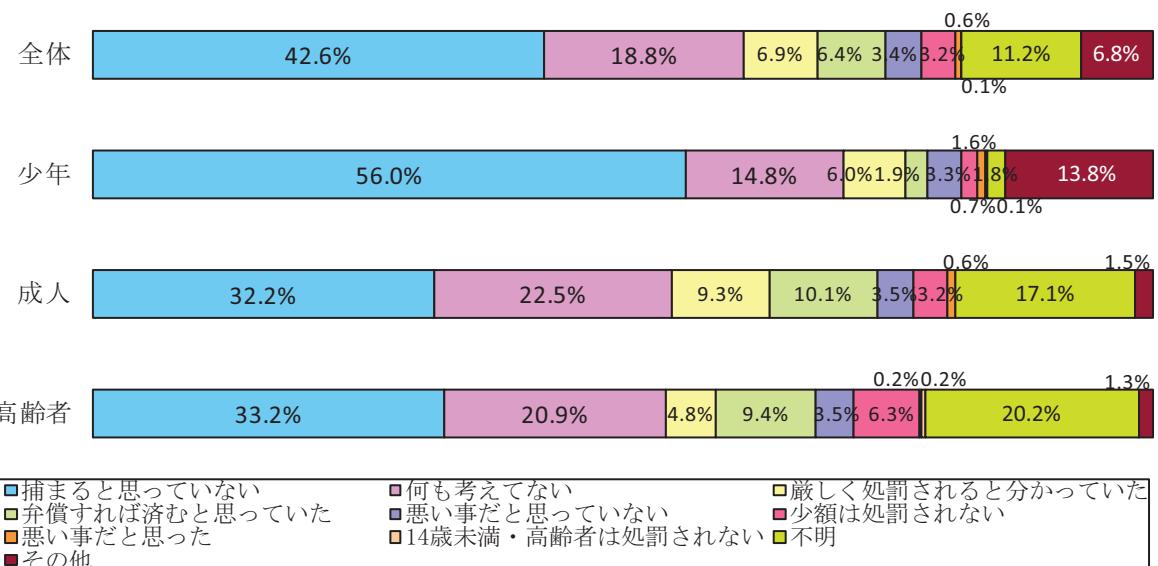
少年は「捕まると思っていない」(56.0%)割合が半数以上を占めている。

「弁償すれば済むと思っていた」は少年に比べ成人(10.0%)、高齢者(9.4%)の割合が高かった。

※前回調査

「捕まると思っていない」少年(47.6%)

「弁償すれば済むと思っていた」成人(4.0%)、高齢者(4.2%)



	少 年	成 人	高 齡 者	計
捕まると思っていない	531	250	159	940
何も考えていない	140	175	100	415
厳しく処罰されると分かっていた	57	72	23	152
弁償すれば済むと思っていた	18	78	45	141
悪い事だと思っていない	31	27	17	75
少額は処罰されない	15	25	30	70
悪い事だと思った	7	5	1	13
14歳未満・高齢者だから許されると思った	1	0	1	2
不明	17	133	97	247
その他	131	12	6	149
計	948	777	479	2204

イ 初犯者と再犯者の比較

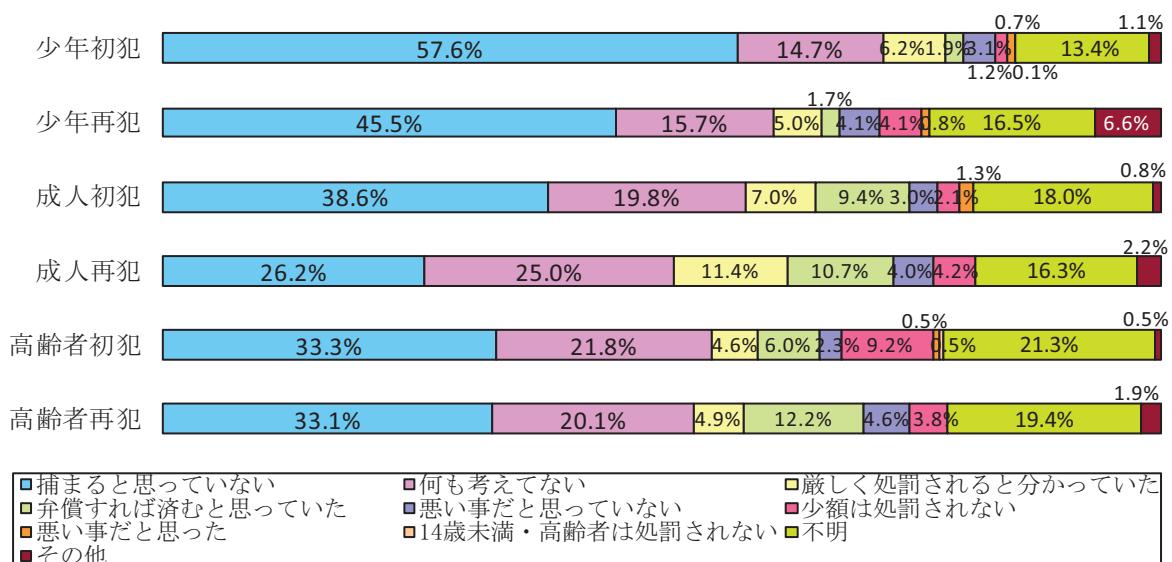
各年代とも「捕まると思っていない」が再犯者よりも初犯者の割合が高かつた。「弁償すれば済むと思っていた」は高齢者再犯(12.2%)の割合が高かつた。

※前回調査

「捕まると思っていない」少年初犯(47.3%)、成人初犯(33.6%)、

高齢者初犯(29.5%)

「弁償すれば済むと思っていた」高齢者再犯(5.2%)



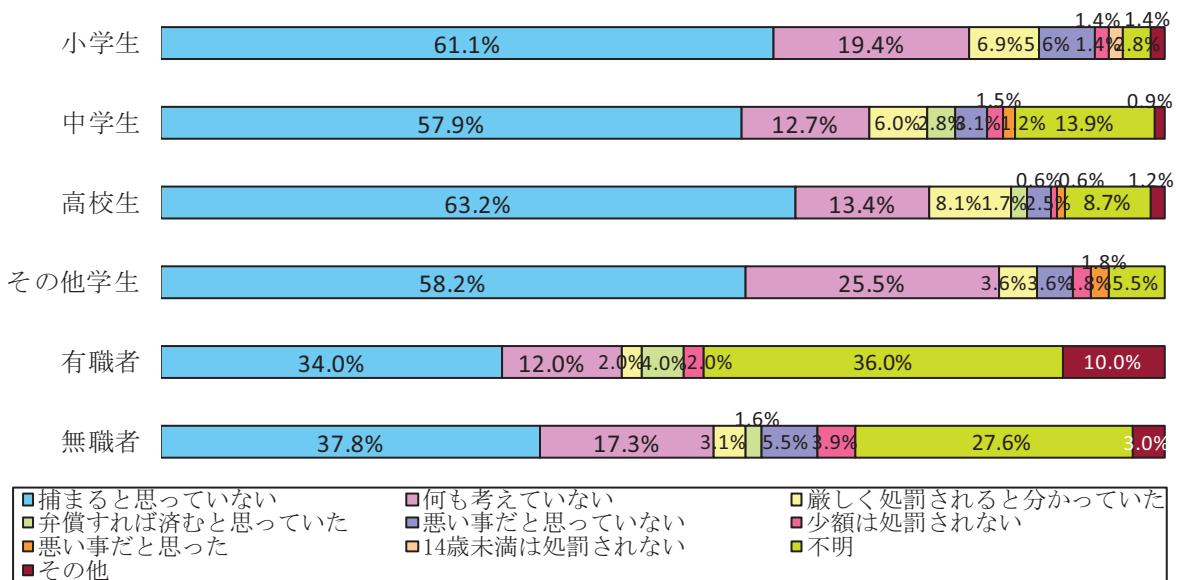
	少 年		成 人		高 齡 者		計
	初 犯	再 犯	初 犯	再 犯	初 犯	再 犯	
捕まると思っていない	476	55	144	106	72	87	940
何も考えていない	121	19	74	101	47	53	415
厳しく処罰されると分かっていた	51	6	26	46	10	13	152
弁償すれば済むと思っていた	16	2	35	43	13	32	141
悪い事だと思っていない	26	5	11	16	5	12	75
少額は処罰されない	10	5	8	17	20	10	70
悪い事だと思った	6	1	5	0	1	0	13
14歳未満・高齢者だから許されると思った	1	0	0	0	1	0	2
不明	111	20	67	66	46	51	361
その他	9	8	3	9	1	5	35
計	827	121	373	404	216	263	2204

ウ 少年の学識別

万引きを「悪い事だと思っていない」割合は、小学生(5.6%)、中学生(3.1%)、高校生(2.5%)となっている。

※前回調査

「悪い事だと思っていない」小学生(4.2%)、中学生(3.3%)、高校生(2.2%)



	小学生	中学生	高校生	その他学生	有職者	無職者	計
捕まると思っていない	44	187	203	32	17	48	531
何も考えていない	14	41	43	14	6	22	140
厳しく処罰されると分かっていた	5	19	26	2	1	4	57
弁償すれば済むと思っていた	0	9	5	0	2	2	18
悪い事だと思っていない	4	10	8	2	0	7	31
少額は処罰されない	1	5	2	1	1	5	15
悪い事だと思った	0	4	2	1	0	0	7
14歳未満は処罰されない	1	0	0	0	0	0	1
不明	2	45	28	3	18	35	131
その他	1	3	4	0	5	4	17
計	72	323	321	55	50	127	948

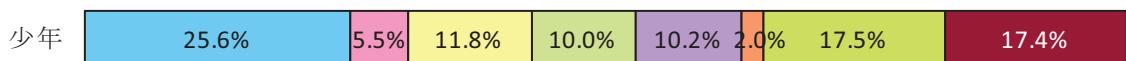
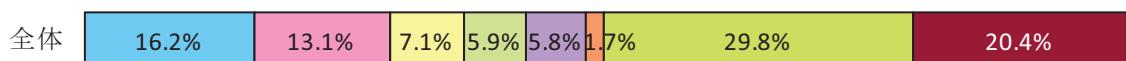
(3) 生き甲斐

ア 全調査対象者

少年は、生き甲斐が「趣味」(25.5%)と答えた割合が最も高いのに対し、成人・高齢者は生き甲斐が「無し」成人(39.8%)、高齢者(38.0%)と答えた割合が最も高い。

※前回調査

「無し」成人(38.2%)、高齢者(52.9%)、「趣味」少年(24.5%)



■趣味 ■家族 ■仕事・勉学 ■人とのふれあい ■将来への希望 ■その他 ■無し ■不明

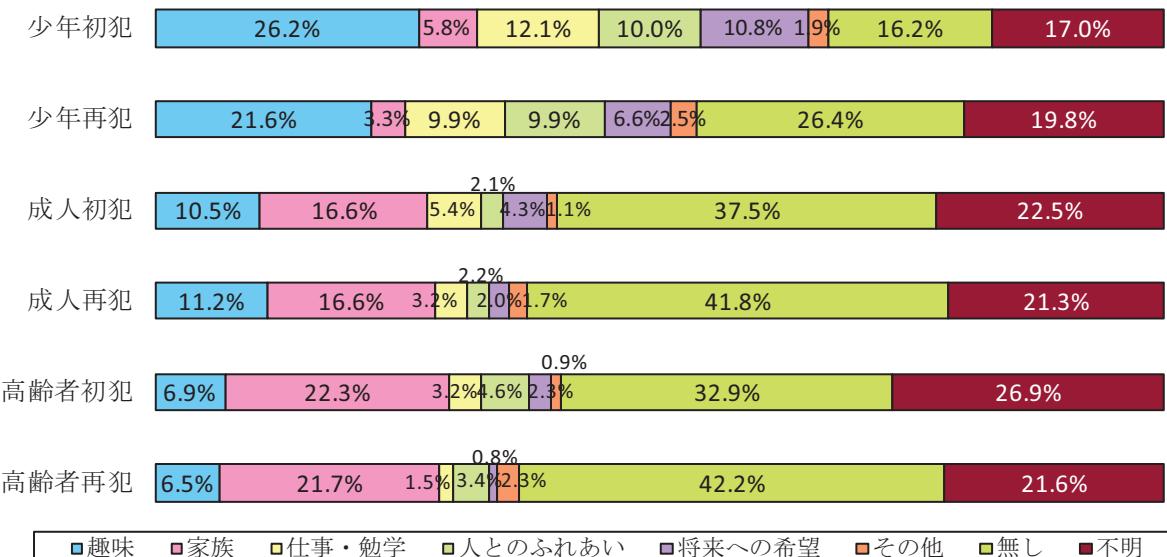
	少年	成人	高齢者	全体
趣味	242	84	32	358
家族	52	129	105	286
仕事・勉学	112	33	11	156
人とのふれあい	95	17	19	131
将来への希望	97	24	7	128
その他	19	11	8	38
無し	166	309	182	657
不明	165	170	115	450
計	948	777	479	2204

イ 初犯者と再犯者の比較

各年代ともに、生き甲斐が「無し」とした割合は再犯者の方が高い。

※前回調査

「無し」少年再犯(23.5%)、成人再犯(45.3%)、高齢者再犯(67.2%)



■趣味 ■家族 ■仕事・勉学 ■人とのふれあい ■将来への希望 ■その他 ■無し ■不明

	少 年		成 人		高 齢 者		計
	初 犯	再 犯	初 犯	再 犯	初 犯	再 犯	
趣味	216	26	39	45	15	17	358
家族	48	4	62	67	48	57	286
仕事・勉学	100	12	20	13	7	4	156
人とのふれあい	83	12	8	9	10	9	131
将来への希望	89	8	16	8	5	2	128
その他	16	3	4	7	2	6	38
無し	134	32	140	169	71	111	657
不明	141	24	84	86	58	57	450
計	827	121	373	404	216	263	2204

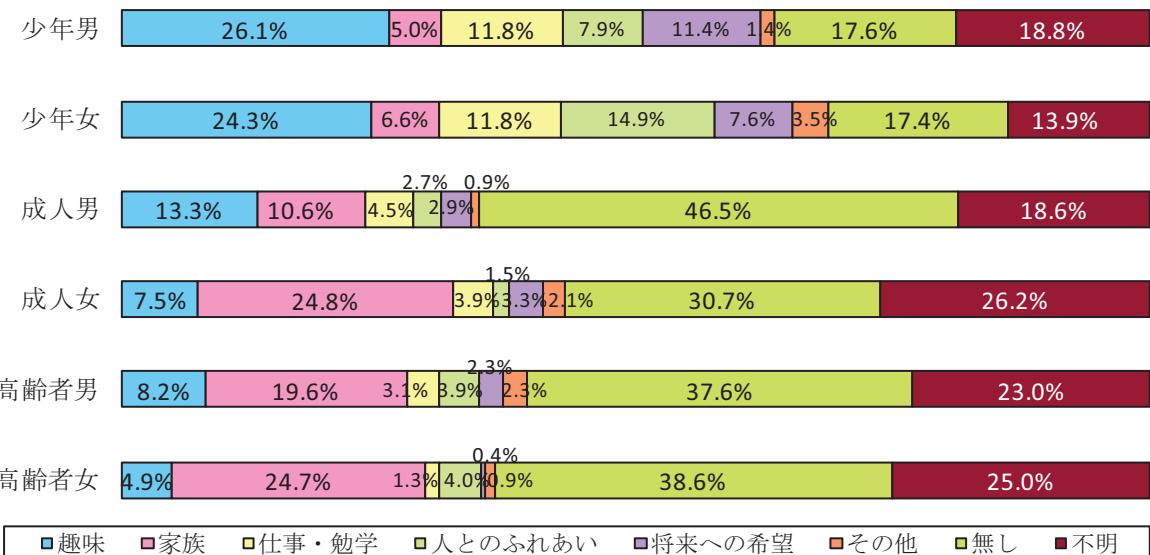
ウ 男女別

各年代とも女性は男性に比べて「家族」が生き甲斐とする割合が高い。生き甲斐が「無し」の割合は、成人男性が最も高くなっている。

※前回調査

「家族」少年女(9.8%)、成人女(21.2%)、高齢者女(17.3%)

「無し」成人男(41.4%)、高齢者男(53.7%)、高齢者女(51.9%)



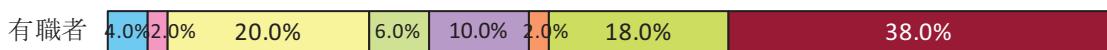
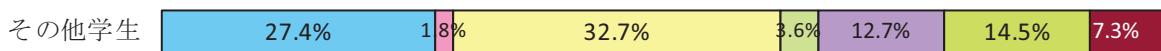
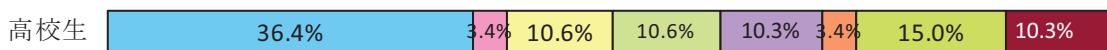
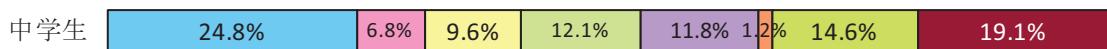
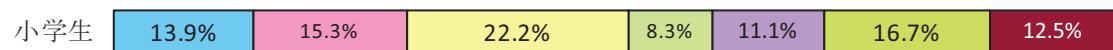
	少 年		成 人		高 齢 者		計
	男	女	男	女	男	女	
趣味	172	70	59	25	21	11	358
家族	33	19	47	82	50	55	286
仕事・勉学	78	34	20	13	8	3	156
人とのふれあい	52	43	12	5	10	9	131
将来への希望	75	22	13	11	6	1	128
その他	9	10	4	7	6	2	38
無し	116	50	207	102	96	86	657
不明	125	40	83	87	59	56	450
計	660	288	445	332	256	223	2204

エ 少年の学識別

「趣味」が生き甲斐とする割合は高校生(36.4%)が最も高い。生き甲斐が「無し」の割合は無職者(33.1%)が最も高い。

※前回調査

「趣味」高校生(26.5%)、 「無し」無職者(23.1%)



■趣味 ■家族 ■仕事・勉学 ■人とのふれあい ■将来への希望 ■その他 ■無し ■不明

	小学生	中学生	高校生	その他学生	有職者	無職者	計
趣味	10	80	117	15	2	18	242
家族	11	22	11	1	1	6	52
仕事・勉学	16	31	34	18	10	3	112
人とのふれあい	6	39	34	2	3	11	95
将来への希望	8	38	33	7	5	6	97
その他	0	4	11	0	1	3	19
無し	12	47	48	8	9	42	166
不明	9	62	33	4	19	38	165
計	72	323	321	55	50	127	948

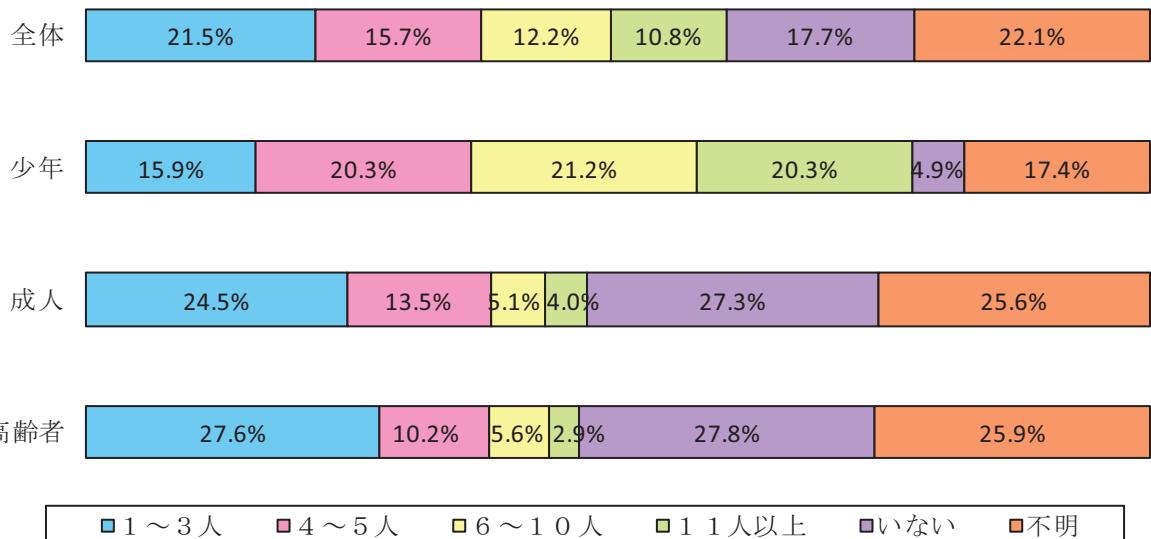
(4) 交友関係

ア 全調査対象者

成人・高齢者は少年に比べ友人が「いない」割合が高い。

※前回調査

「いない」成人(34.5%)、高齢者(41.2%)



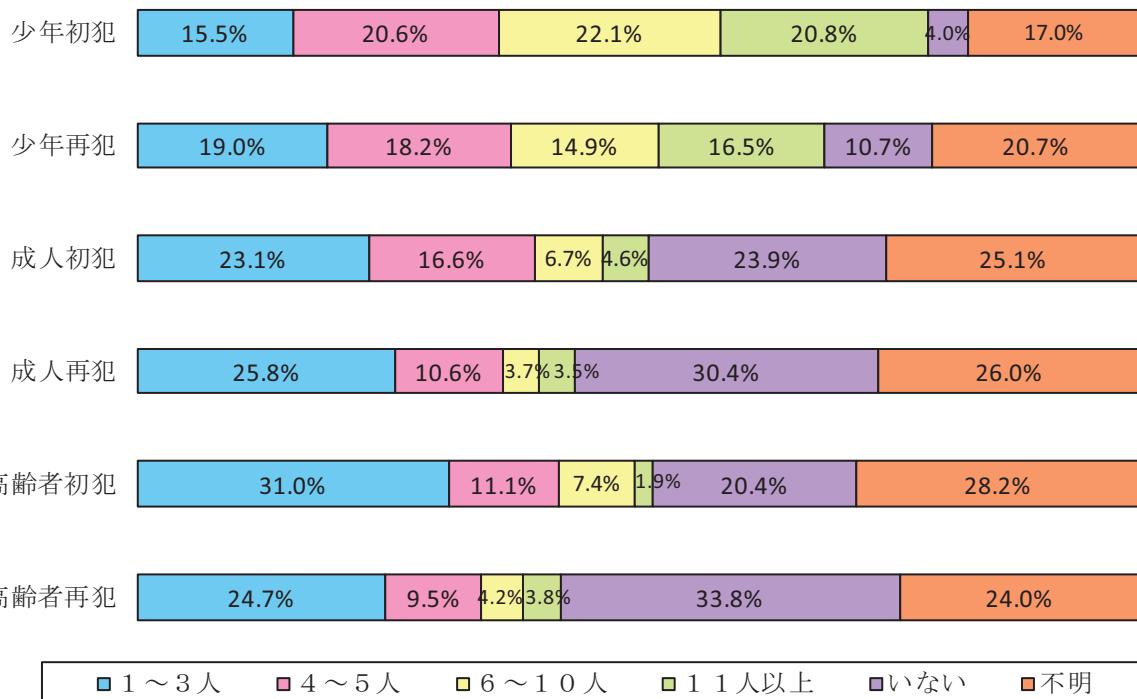
	少年	成人	高齢者	全体
1～3人	151	190	132	473
4～5人	192	105	49	346
6～10人	201	40	27	268
11人以上	192	31	14	237
ない	46	212	133	391
不明	166	199	124	489
計	948	777	479	2204

イ 初犯者と再犯者の比較

各年代とも初犯者に比べ再犯者の方が、友人が「いない」割合が高い。

※前回調査

「いない」少年再犯(12.9%)、成人再犯(40.6%)、高齢者再犯(48.3%)



	少 年		成 人		高 齡 者		計
	初 犯	再 犯	初 犯	再 犯	初 犯	再 犯	
1 ~ 3 人	128	23	86	104	67	65	473
4 ~ 5 人	170	22	62	43	24	25	346
6 ~ 10 人	183	18	25	15	16	11	268
11 人以上	172	20	17	14	4	10	237
いない	33	13	89	123	44	89	391
不明	141	25	94	105	61	63	489
計	827	121	373	404	216	263	2204

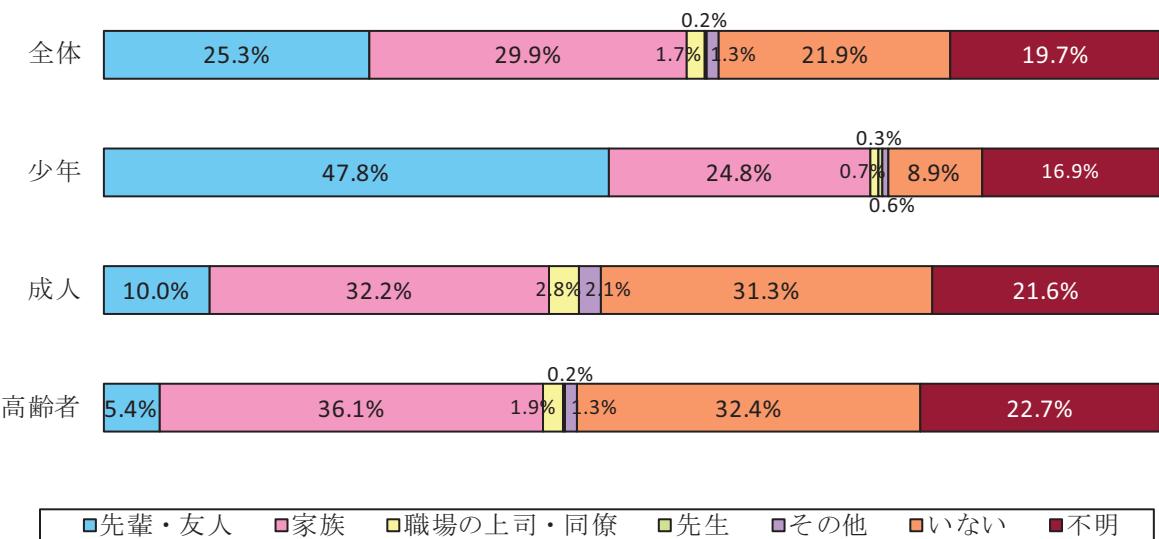
(5) 相談できる者

ア 全調査対象者

少年は相談できる者として「先輩・友人」(47.8%)の割合が高く、成人(32.2%)、高齢者(36.1%)は「家族」の割合が高い。「いない」と回答したのは少年に比べ成人(31.3%)、高齢者(32.4%)の割合が高い。

※前回調査

「先輩・友人」(少年45.4%)、 「家族」成人(32.5%)、 高齢者(35.3%)
「いない」 成人(36.9%)、 高齢者(40.3%)



■先輩・友人 ■家族 ■職場の上司・同僚 ■先生 ■その他 ■いない ■不明

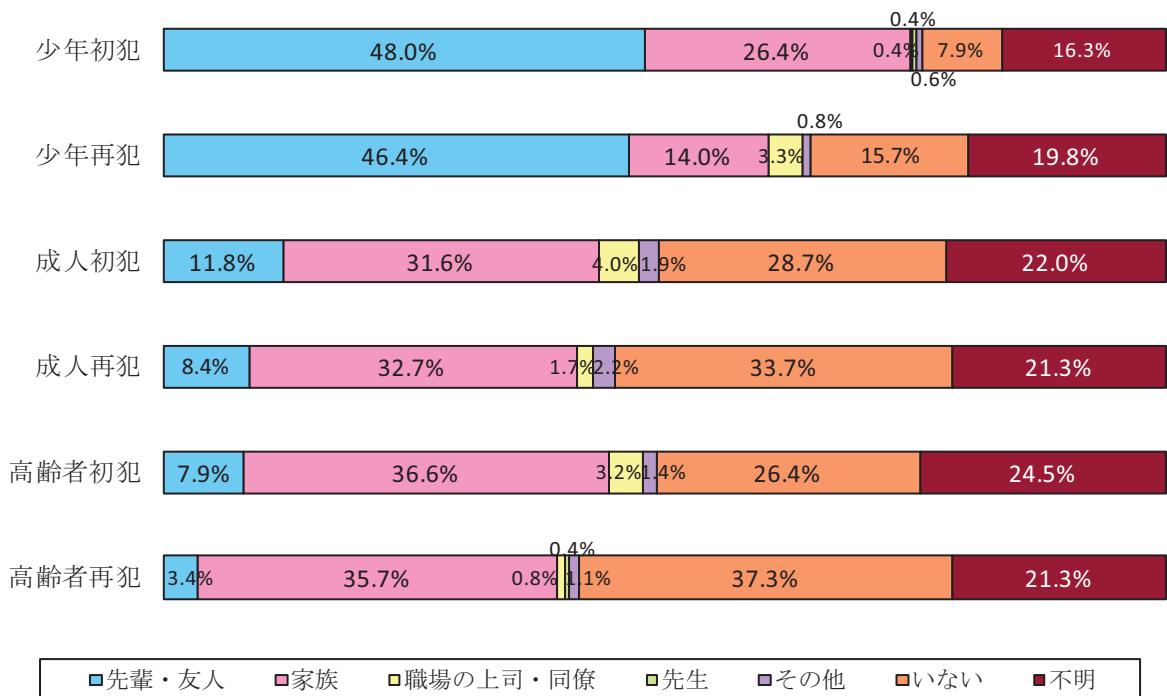
	少年	成人	高齢者	全体
先輩・友人	453	78	26	557
家族	235	250	173	658
職場の上司・同僚	7	22	9	38
先生	3	0	1	4
その他	6	16	6	28
いない	84	243	155	482
不明	160	168	109	437
計	948	777	479	2204

イ 初犯者と再犯者の比較

各年代とも初犯者に比べ再犯者に相談できる者が「いない」割合が高い。少年の再犯者では相談できる者が「家族」(14.0%)と答えた割合は最も低い。

※前回調査

「いない」少年再犯(18.8%)、成人再犯(41.5%)、高齢者再犯(55.2%)
「家族」少年再犯(18.8%)



	少 年		成 人		高 齡 者		計
	初 犯	再 犯	初 犯	再 犯	初 犯	再 犯	
先輩・友人	397	56	44	34	17	9	557
家族	218	17	118	132	79	94	658
職場の上司・同僚	3	4	15	7	7	2	38
先生	3	0	0	0	0	1	4
その他	5	1	7	9	3	3	28
いない	65	19	107	136	57	98	482
不明	136	24	82	86	53	56	437
計	827	121	373	404	216	263	2204

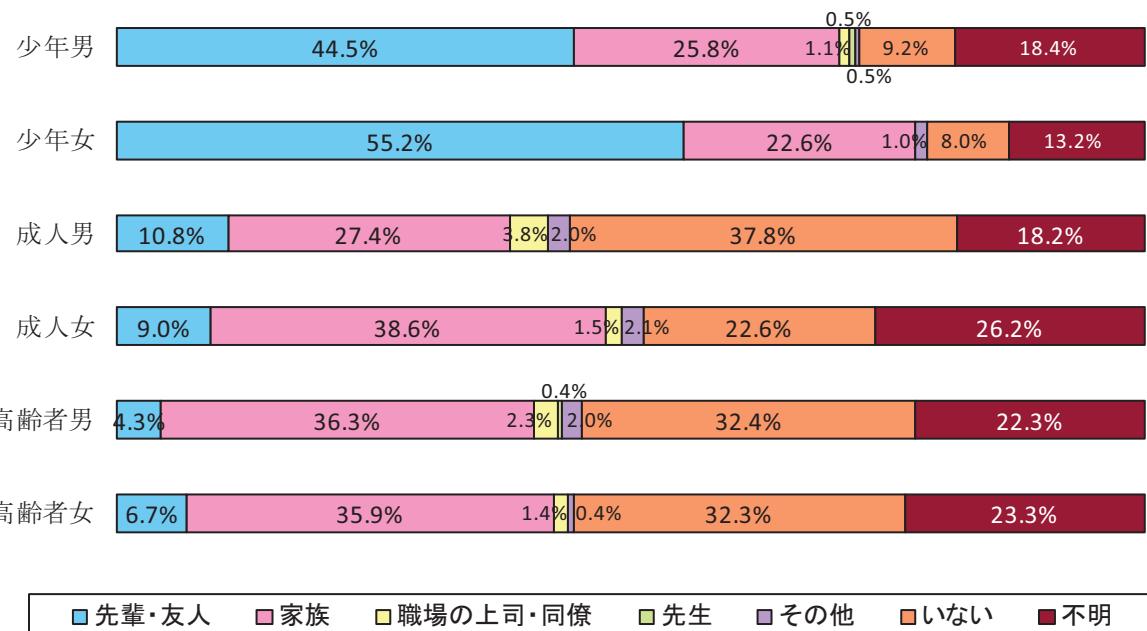
ウ 男女別

各年代とも女性に比べ男性の方が相談できる者が「いない」割合が高い。
相談できる者が「家族」とした者は、成人女性(38.6%)が最も多い。

※前回調査

「いない」少年男13.8%、成人男45.5%、高齢者男40.3%

「家族」成人女48.1%



■先輩・友人 ■家族 ■職場の上司・同僚 ■先生 ■その他 ■いない ■不明

	少 年		成 人		高 齡 者		計
	男	女	男	女	男	女	
先輩・友人	294	159	48	30	11	15	557
家族	170	65	122	128	93	80	658
職場の上司・同僚	7	0	17	5	6	3	38
先生	3	0	0	0	1	0	4
その他	3	3	9	7	5	1	28
いない	61	23	168	75	83	72	482
不明	122	38	81	87	57	52	437
計	660	288	445	332	256	223	2204

(6) 万引きをしたが捕まらなかった経験

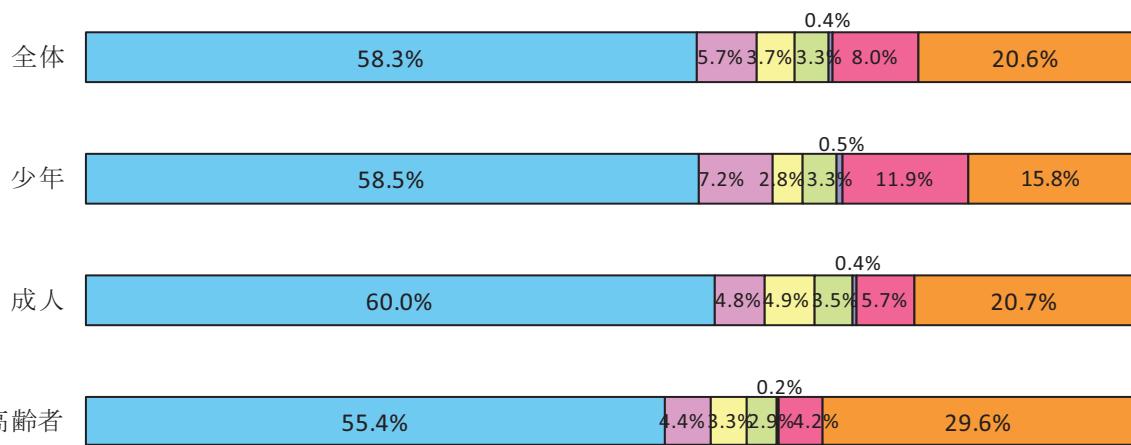
ア 全調査対象者

「万引きをしたが発見されなかつた経験」の有る者が、465人(41.7%)いる。中でも「5件以上」有る者が少年では113人(11.9%)と最も高い。

※前回調査

「万引きをしたが発見されなかつた経験(有)」 256人(23.9%)

「5件以上(有)」 少年58人(8.3%)



■無 ■有(1件) ■有(2件) ■有(3件) ■有(4件) ■有(5件以上) ■不明

	全体	少年	成人	高齢者
無	1285	554	466	265
有	465	244	149	72
1件	126	68	37	21
2件	81	27	38	16
3件	72	31	27	14
4件	9	5	3	1
5件以上	177	113	44	20
不明	454	150	162	142
計	2204	948	777	479

イ 初犯者と再犯者の比較

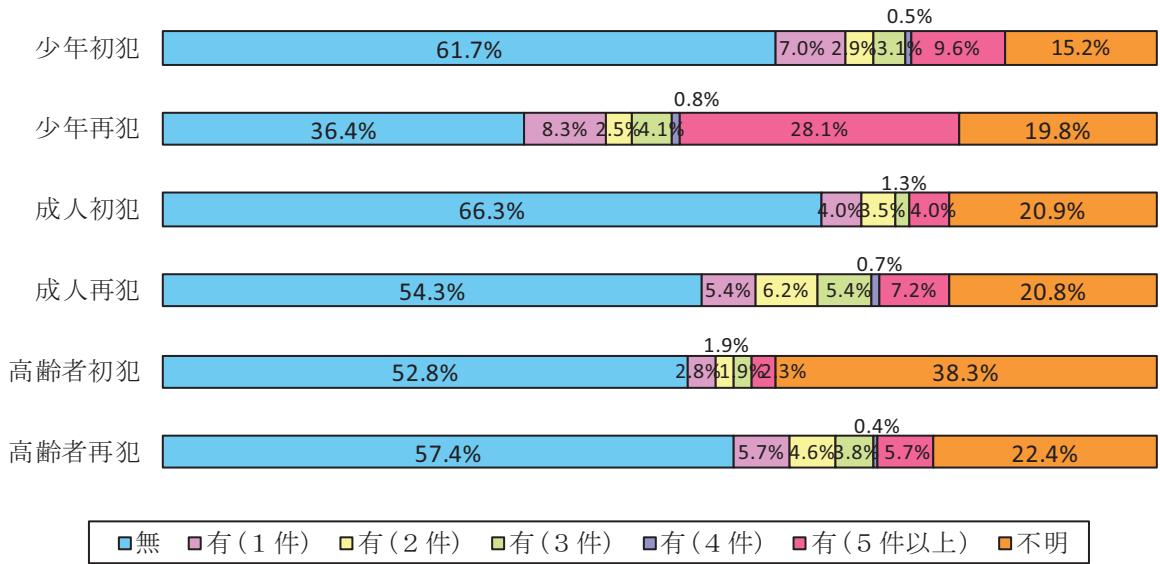
「万引きをしたが発見されなかった経験」の有る者は各年代とも初犯者に対し再犯者の割合が高い。

そのうち、「5件以上」有る者は少年の再犯者(28.1%)が最も高い。

※前回調査

「万引きをしたが発見されなかった経験(有)」少年再犯(49.4%)、成人再犯(33.0%)、高齢者再犯(27.5%)

「5件以上(有)」少年再犯(15.2%)



	少年		成人		高齢者		計
	初犯	再犯	初犯	再犯	初犯	再犯	
無	510	44	247	219	114	151	1285
有	191	53	48	101	19	53	465
1件	58	10	15	22	6	15	126
2件	24	3	13	25	4	12	81
3件	26	5	5	22	4	10	72
4件	4	1	0	3	0	1	9
5件以上	79	34	15	29	5	15	177
不明	126	24	78	84	83	59	454
計	827	121	373	404	216	263	2204

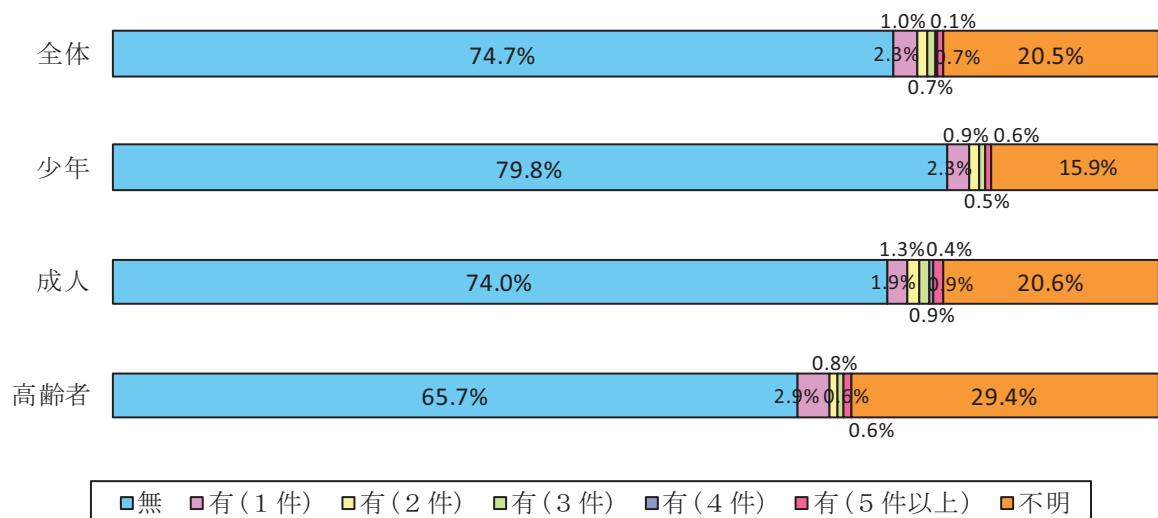
(7) 万引きをして発見されたが警察に通報されなかった経験

ア 全調査対象者

「万引きをして発見されたが警察に通報されなかった経験」の有る者が107人(4.8%)いる。

※前回調査

「万引きをして発見されたが通報されなかった経験(有)」 (7.3%)



■無 ■有(1件) ■有(2件) ■有(3件) ■有(4件) ■有(5件以上) ■不明

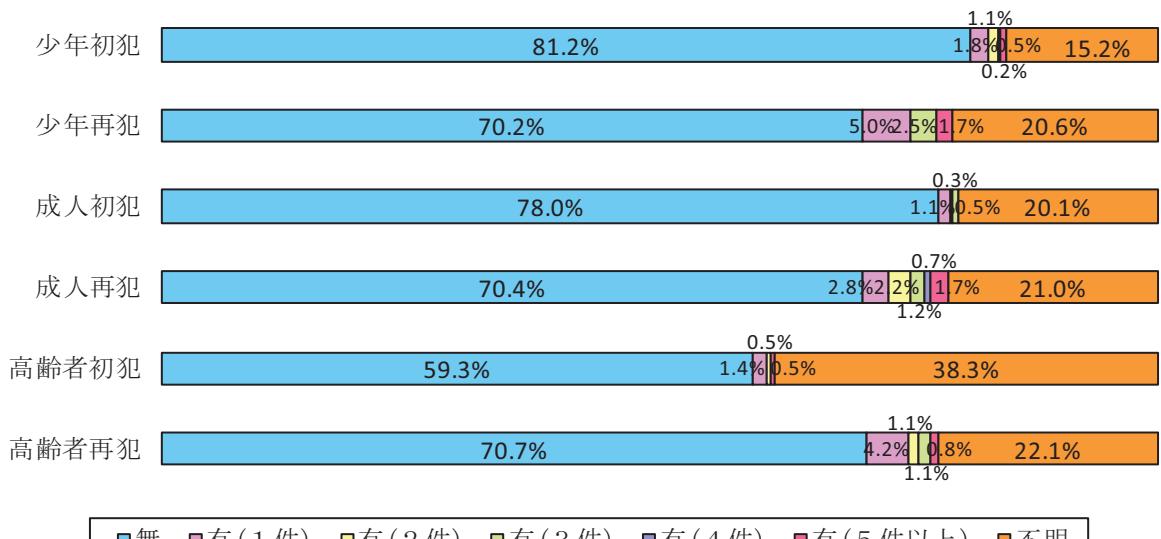
	全体	少年	成人	高齢者
無	1645	756	575	314
有	107	41	42	24
1件	50	21	15	14
2件	23	9	10	4
3件	15	5	7	3
4件	3	0	3	0
5件以上	16	6	7	3
不明	452	151	160	141
計	2204	948	777	479

イ 初犯者と再犯者の比較

「万引きをして発見されたが通報されなかった経験」の有る者が各年代とも初犯者に比べ再犯者の割合が高くなっている。

※前回調査

「万引きをして発見されたが通報されなかった経験(有)」少年再犯(49.4%)
成人再犯(33.1%)、高齢者再犯(27.6%)



	少年		成人		高齢者		計
	初犯	再犯	初犯	再犯	初犯	再犯	
無	671	85	291	284	128	186	1645
有	30	11	7	35	5	19	107
1件	15	6	4	11	3	11	50
2件	9	0	1	9	1	3	23
3件	2	3	2	5	0	3	15
4件	0	0	0	3	0	0	3
5件以上	4	2	0	7	1	2	16
不明	126	25	75	85	83	58	452
計	827	121	373	404	216	263	2204

(8) 万引きが犯罪であることを教えてもらったか

ア 全調査対象者

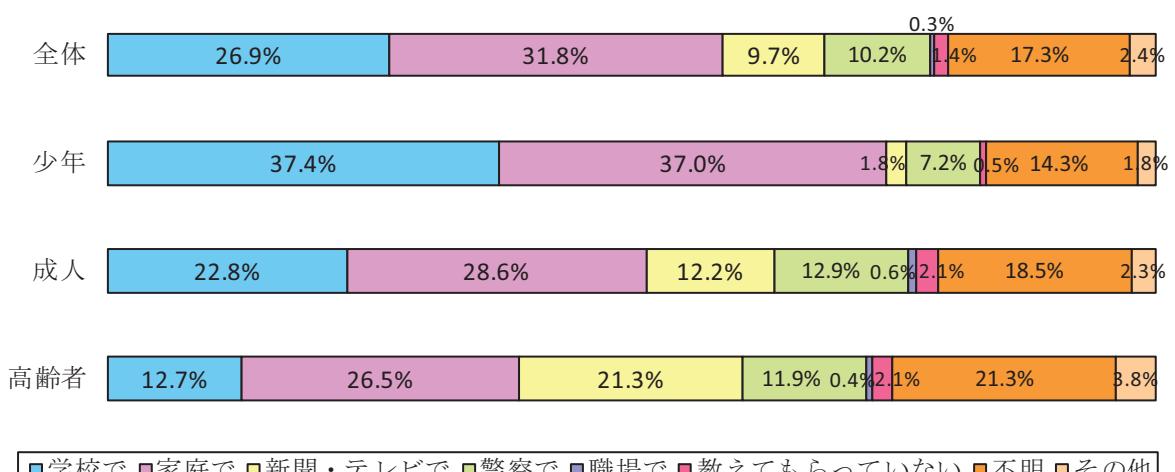
少年は、「学校で」、「家庭で」の割合が74.3%を占めている。

成人・高齢者では「新聞・テレビで」、「警察で」の割合（成人25.1%、高齢者33.2%）が少年に比べて高い。

※前回調査

「学校で」、「家庭で」少年(78.9%)

「新聞・テレビで」、「警察で」成人(26.9%)、高齢者(33.6%)



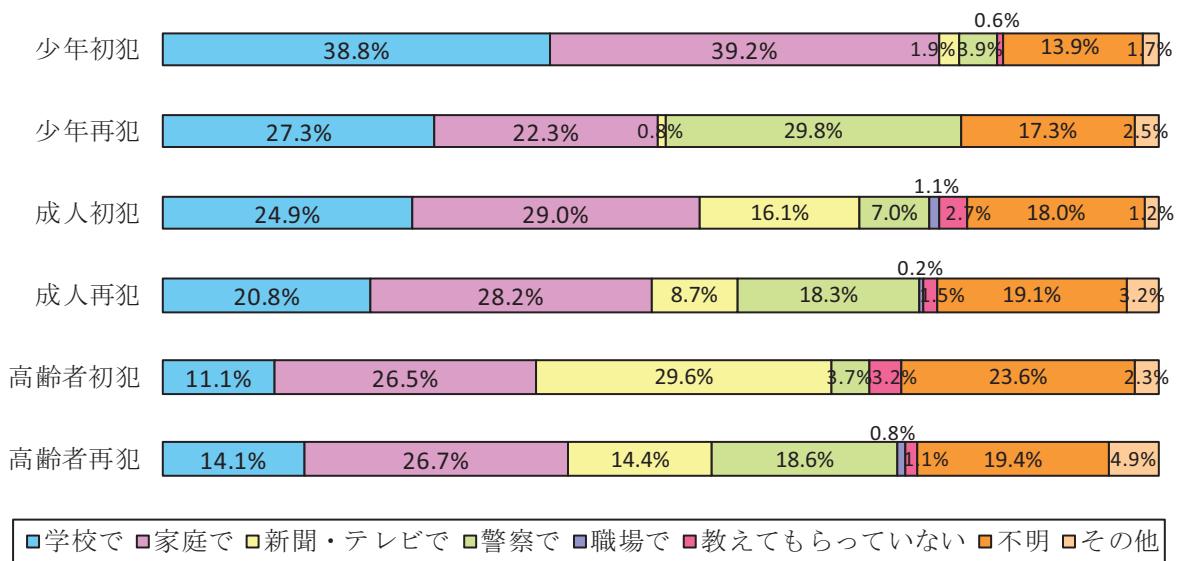
	少年	成人	高齢者	全体
学校で	354	177	61	592
家庭で	351	222	127	700
新聞・テレビで	17	95	102	214
警察で	68	100	57	225
職場で	0	5	2	7
教えてもらっていない	5	16	10	31
不明	136	144	102	382
その他	17	18	18	53
計	948	777	479	2204

イ 初犯者と再犯者の比較

各年代とも、再犯者は初犯者に比べて「警察で」の割合が高い。

※前回調査

「警察で」少年再犯(16.5%)、成人再犯(24.5%)、高齢者再犯(27.6%)



	少年		成人		高齢者		計
	初犯	再犯	初犯	再犯	初犯	再犯	
学校で	321	33	93	84	24	37	592
家庭で	324	27	108	114	57	70	700
新聞・テレビで	16	1	60	35	64	38	214
警察で	32	36	26	74	8	49	225
職場で	0	0	4	1	0	2	7
教えてもらっていない	5	0	10	6	7	3	31
不明	115	21	67	77	51	51	382
その他	14	3	5	13	5	13	53
計	827	121	373	404	216	263	2204

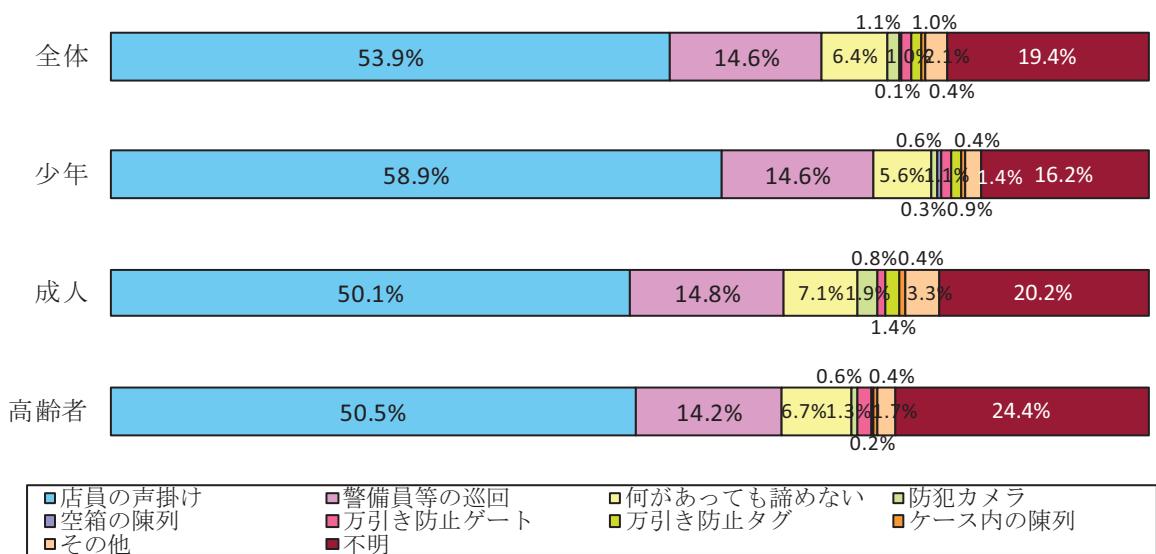
(9) 何があつたら諦めたか

ア 全調査対象者

各年代とも、「店員の声かけ」、「警備員の巡回」の割合が高い。

※前回調査

「店員の声かけ」(33.6%)、「警備員の巡回」(23.8%)



	少年	成人	高齢者	全体
店員の声かけ	558	389	242	1189
警備員等の巡回	138	115	68	321
何があつても諦めない	53	55	32	140
防犯カメラ	6	15	3	24
空箱の陳列	3	0	0	3
万引き防止ゲート	10	6	6	22
万引き防止タグ	9	11	1	21
ケース内の陳列	4	3	2	9
その他	13	26	8	47
不明	154	157	117	428
計	948	777	479	2204

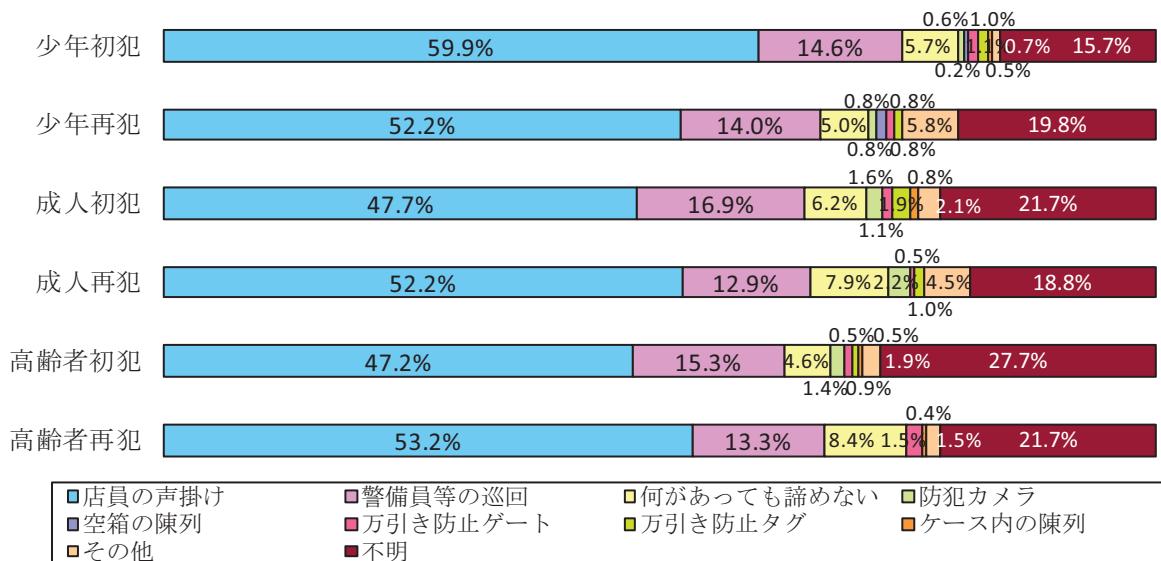
イ 初犯者と再犯者の比較

成人・高齢者では「店員の声かけ」が初犯者より再犯者の割合が高く、少年では再犯者より初犯者の割合が高い。

また、「何があっても諦めない」は成人・高齢者の初犯者より再犯者の割合が高い。

※前回調査

「店員の声かけ」少年初犯(34.7%)、成人再犯(32.8%)、高齢者再犯(37.0%)
 「何があっても諦めない」成人再犯(4.1%)、高齢者再犯(2.5%)

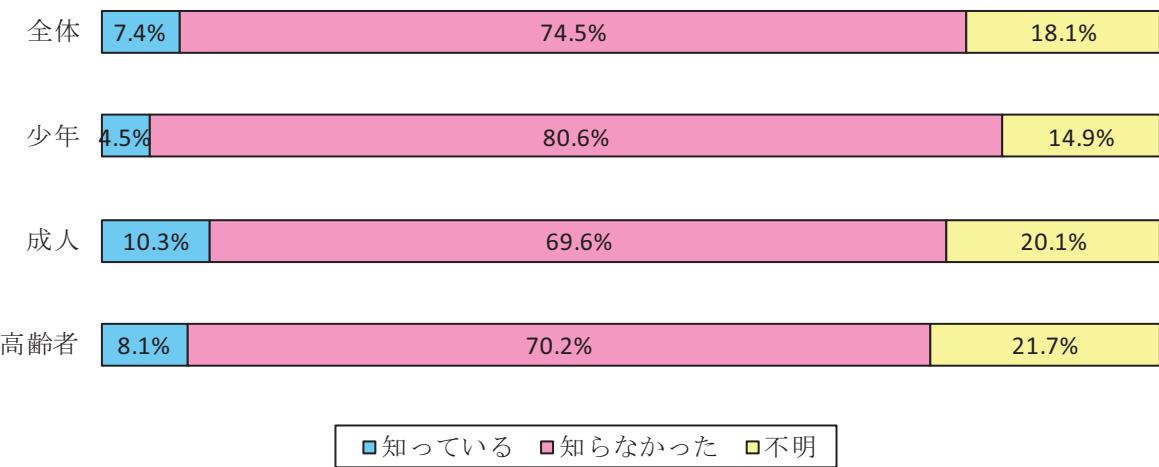


	少年		成人		高齢者		計
	初犯	再犯	初犯	再犯	初犯	再犯	
店員の声かけ	495	63	178	211	102	140	1189
警備員等の巡回	121	17	63	52	33	35	321
何があっても諦めない	47	6	23	32	10	22	140
防犯カメラ	5	1	6	9	3	0	24
空箱の陳列	2	1	0	0	0	0	3
万引き防止ゲート	9	1	4	2	2	4	22
万引き防止タグ	8	1	7	4	1	0	21
ケース内の陳列	4	0	3	0	1	1	9
その他	6	7	8	18	4	4	47
不明	130	24	81	76	60	57	428
計	827	121	373	404	216	263	2204

(10) 万引きを全件届出としていることを知っているか

ア 全調査対象者

各年代とも、万引きは「全件届出することになっている」ことを知らない割合が高い。

※前回調査「知らない」少年(85.8%)、成人(73.5%)、高齢者(76.5%)

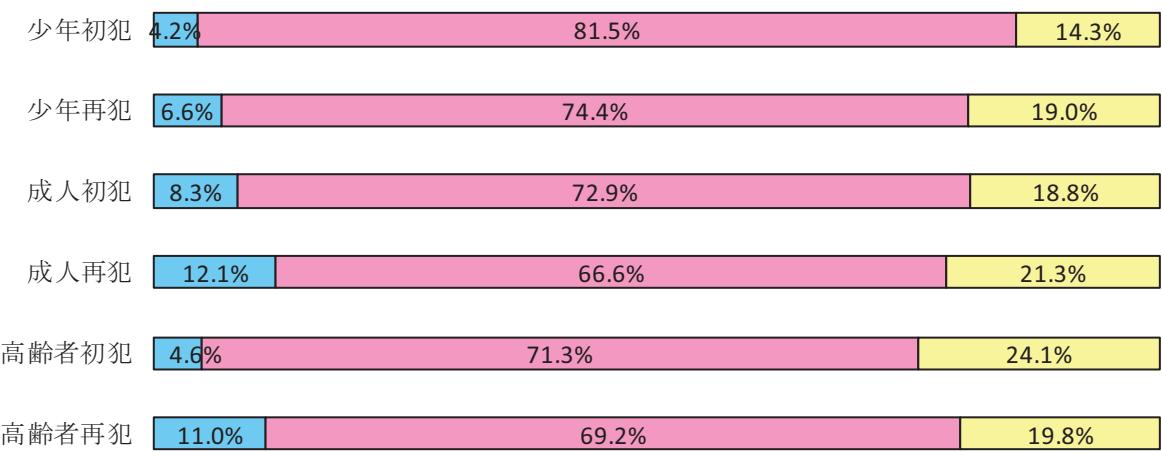
	少年	成人	高齢者	全体
知っている	43	80	39	162
知らなかつた	764	541	336	1641
不明	141	156	104	401
計	948	777	479	2204

イ 初犯者と再犯者の比較

各年代とも、初犯者に比べ再犯者の方が「知っている」とした割合が高い。

※前回調査

「知っている」少年再犯(21.2%)、成人再犯(23.6%)、高齢者再犯(20.7%)



■ 知っている ■ 知らなかつた ■ 不明

	少年		成人		高齢者		計
	初犯	再犯	初犯	再犯	初犯	再犯	
知っている	35	8	31	49	10	29	162
知らなかつた	674	90	272	269	154	182	1641
不明	118	23	70	86	52	52	401
計	827	121	373	404	216	263	2204

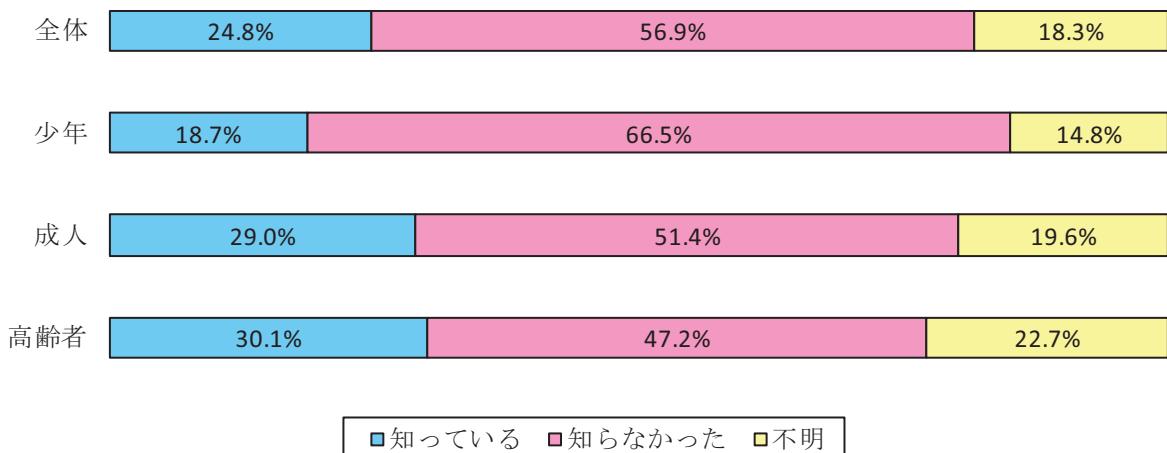
(11) 万引きに罰金刑があることを知っているか

ア 全調査対象者

各年代とも「万引きに罰金刑があることを知らない」割合が高い。特に少年は「万引きに罰金刑があることを知らない」(66.5%)割合が高い。

※前回調査

「知っている」少年(22.2%)、成人(42.2%)、高齢者(38.7%)



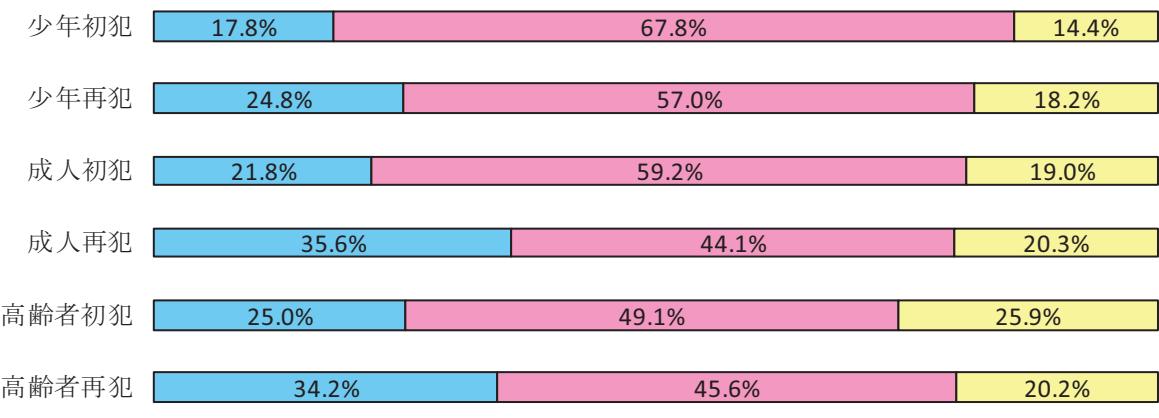
	少年	成人	高齢者	全体
知っている	177	225	144	546
知らなかつた	630	399	226	1255
不明	141	153	109	403
計	948	777	479	2204

イ 初犯者と再犯者の比較

各年代とも、初犯者に比べ再犯者の方が「万引きに罰金刑があることを知っている」割合が高い。

※前回調査

「知っている」少年再犯(30.6%)、成人再犯(48.1%)、高齢者再犯(41.4%)



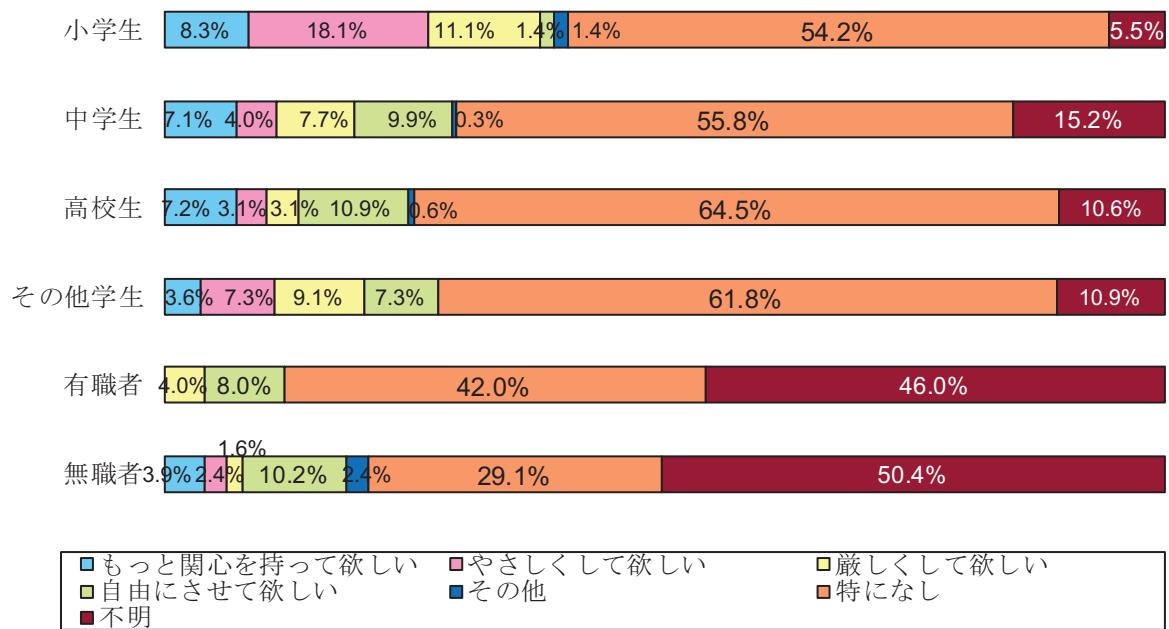
■ 知っている ■ 知らなかつた ■ 不明

	少年		成人		高齢者		計
	初犯	再犯	初犯	再犯	初犯	再犯	
知っている	147	30	81	144	54	90	546
知らなかつた	561	69	221	178	106	120	1255
不明	119	22	71	82	56	53	403
計	827	121	373	404	216	263	2204

(12) 保護者に望むこと

少年の学識別

小学生は、保護者に「やさしくして欲しい」(18.1%)、「厳しくして欲しい」(11.1%)、「もっと関心を持って欲しい」(8.3%)と要望を持っているが、高校生になると「特になし」(64.5%)の割合が高い。



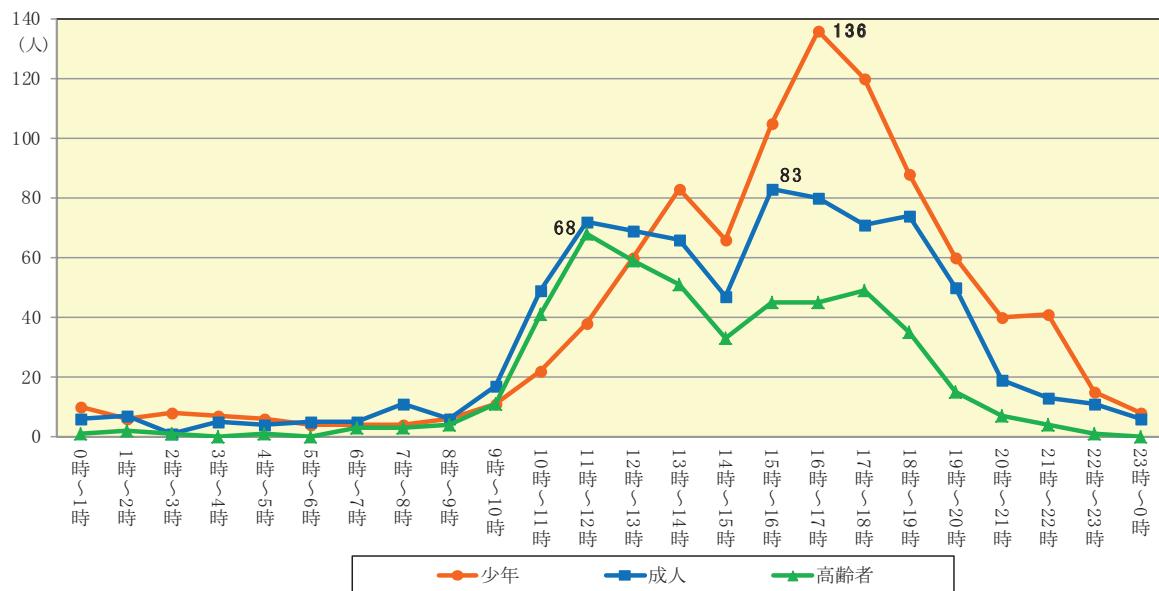
	小学生	中学生	高校生	その他学生	有職者	無職者	全体
もっと関心を持って欲しい	6	23	23	2	0	5	59
やさしくして欲しい	13	13	10	4	0	3	43
厳しくして欲しい	8	25	10	5	2	2	52
自由にさせて欲しい	1	32	35	4	4	13	89
その他	1	1	2	0	0	3	7
特になし	39	180	207	34	21	37	518
不明	4	49	34	6	23	64	180
計	72	323	321	55	50	127	948

(13) 時間帯別

全調査対象者

少年では帰宅時間である「15時～18時」が多い。

成人は午後が比較的多く、最も多い時間が「15時～16時」であり、高齢者は比較的午前中に多く、最も多い時間が「11時～12時」である。

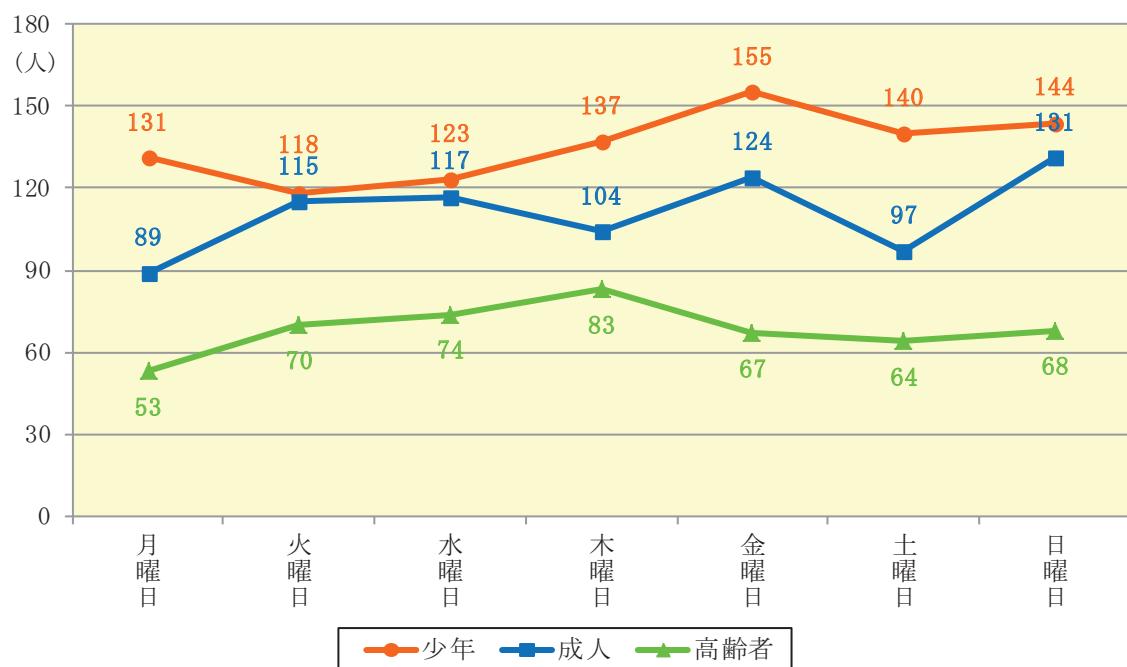


	少 年	成 人	高 齡 者	計
0 時 ～ 1 時	10	6	1	17
1 時 ～ 2 時	6	7	2	15
2 時 ～ 3 時	8	1	1	10
3 時 ～ 4 時	7	5	0	12
4 時 ～ 5 時	6	4	1	11
5 時 ～ 6 時	4	5	0	9
6 時 ～ 7 時	4	5	3	12
7 時 ～ 8 時	4	11	3	18
8 時 ～ 9 時	6	6	4	16
9 時 ～ 10 時	11	17	11	39
10 時 ～ 11 時	22	49	41	112
11 時 ～ 12 時	38	72	68	178
12 時 ～ 13 時	60	69	59	188
13 時 ～ 14 時	83	66	51	200
14 時 ～ 15 時	66	47	33	146
15 時 ～ 16 時	105	83	45	233
16 時 ～ 17 時	136	80	45	261
17 時 ～ 18 時	120	71	49	240
18 時 ～ 19 時	88	74	35	197
19 時 ～ 20 時	60	50	15	125
20 時 ～ 21 時	40	19	7	66
21 時 ～ 22 時	41	13	4	58
22 時 ～ 23 時	15	11	1	27
23 時 ～ 0 時	8	6	0	14
	948	777	479	2204

(14) 曜日別

全調査対象者

少年は「金曜日」、成人は「日曜日」が最も多い。高齢者は比較的曜日に差はないが、最も「木曜日」が多い。



	少年	成人	高齢者	計
月曜日	131	89	53	273
火曜日	118	115	70	303
水曜日	123	117	74	314
木曜日	137	104	83	324
金曜日	155	124	67	346
土曜日	140	97	64	301
日曜日	144	131	68	343
計	948	777	479	2204

「万引き被疑者に関する実態調査」 平成 25 年度結果

警視庁生活安全部

第1 調査の概要

1. 調査の目的.....	資 5-1
2. 調査の方法.....	資 5-1
3. 調査期間.....	資 5-1
4. 調査対象被疑者.....	資 5-1
○ 世代別回答者数	
○ 男女比	

第2 調査結果

1. 生活状況	資 5-2
(1) 同居者の有無	
(2) 就労・雇用形態等	
(3) 交友関係	
(4) 相談できる人	
(5) 雇用形態	
(6) 収入	
(7) 生活保護受給者	
(8) 生き甲斐	
○ 同居者の有無と生き甲斐	
2. 犯行態様	資 5-7
(1) 犯行を決意した時	
(2) 犯行地域選定理由	
(3) 犯行場所（店舗）選定理由	
(4) 被害品	
(5) 被害額	
(6) 被害品の隠匿場所	
(7) 支払能力の有無	
3. 被疑者の意識	資 5-11
(1) 犯行の動機・原因	
○ 生活環境属性別の犯行の動機・原因	
(2) 罪の意識	
○ 生活環境属性別の罪の意識	
(3) 万引きを諦める原因	
○ 犯行決意の時期と犯行を諦める原因の関係	
4. 被疑者の万引きに対する知識	資 5-16
(1) 万引き全件届出の知識の有無	
(2) 万引きの刑罰の知識の有無	

第1 調査の概要

1 調査の目的

警視庁では、平成24年4月2日から万引き被疑者等調査システムの運用を開始しており、当システムに入力されたデータを調査分析し、万引き被疑者及び触法少年（以下「万引き被疑者等」という。）の犯行動機、生活状態、犯罪傾向等を恒常的に把握し、万引き被疑者等を取り巻く社会環境等と犯行の関係、犯行を思いとどまる要因等について明らかにし、今後の万引き防止対策に資することを目的とする。

2 調査の方法

「万引き被疑者等調査システム」入力データ

3 調査期間

平成25年4月1日から平成26年3月31日までの1年間

4 調査対象被疑者

前記期間中に、当庁管内で検挙・補導した万引き被疑者のうち、警察署において「万引き被疑者等調査システム」に入力された2,367件を対象とした。

※ 各調査項目については有効回答数のみを集計した。

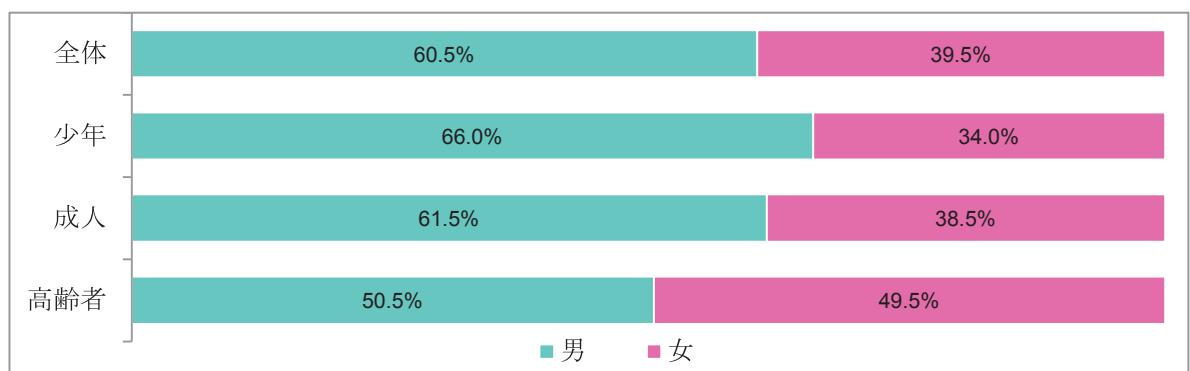
□ 世代別回答者数

全集計数2,367件中、少年896件（男591、女305）、成人903件（男555、女348）、高齢者568件（男287、女281）であった。

（・少年_20歳未満 ・成人_20歳から64歳 ・高齢者_65歳以上）



□ 男女比



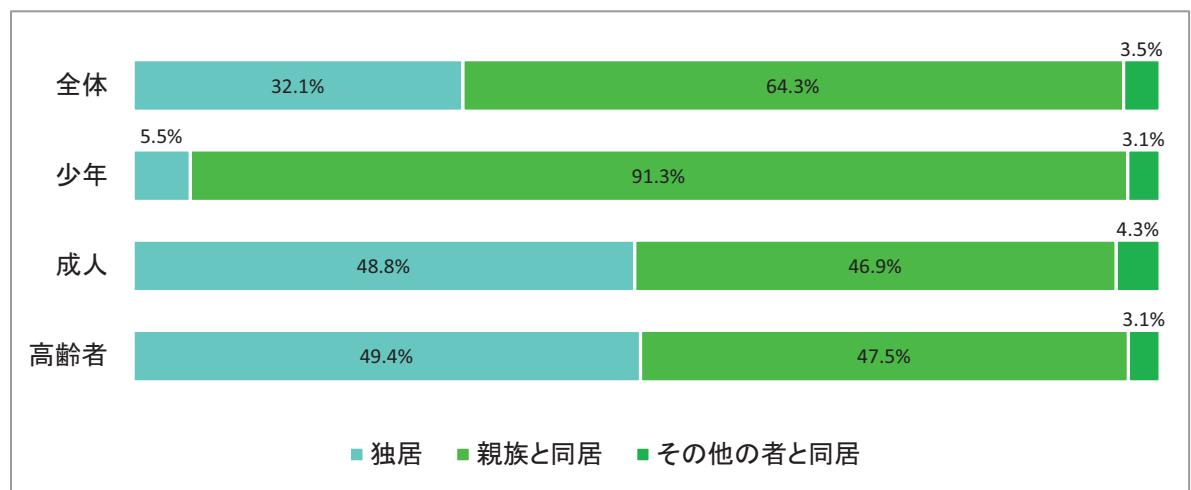
第2 調査結果

1 生活状況

(1) 同居者の有無

成人・高齢者は「独居」、「同居」に大きな差はみられない。
少年は「同居」の割合が高い。

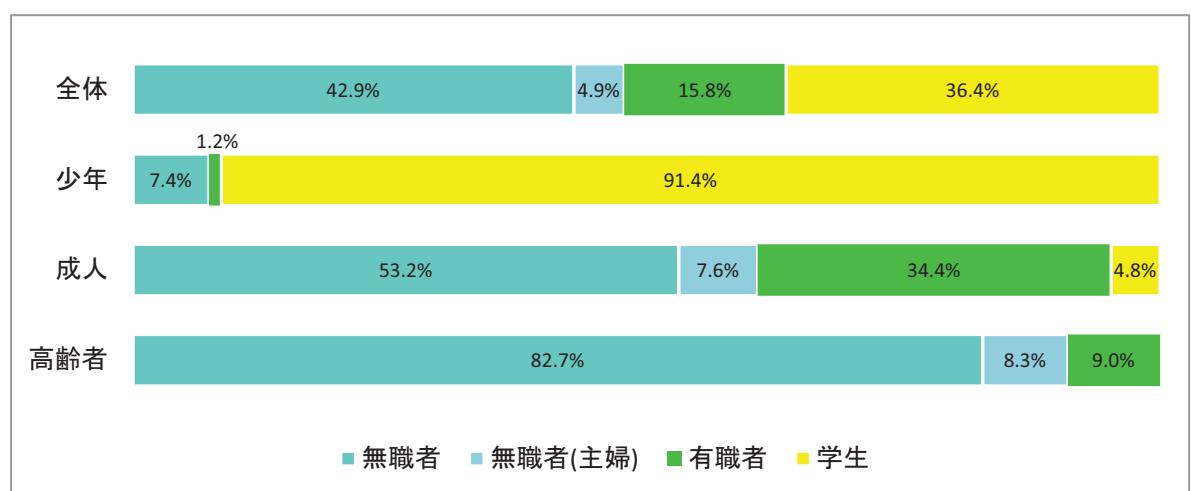
(有効回答数、少年 703 件、成人 682 件、高齢者 421 件)



(2) 就労・雇用形態等

高齢者は「主婦」を含めた無職者の割合が高い。

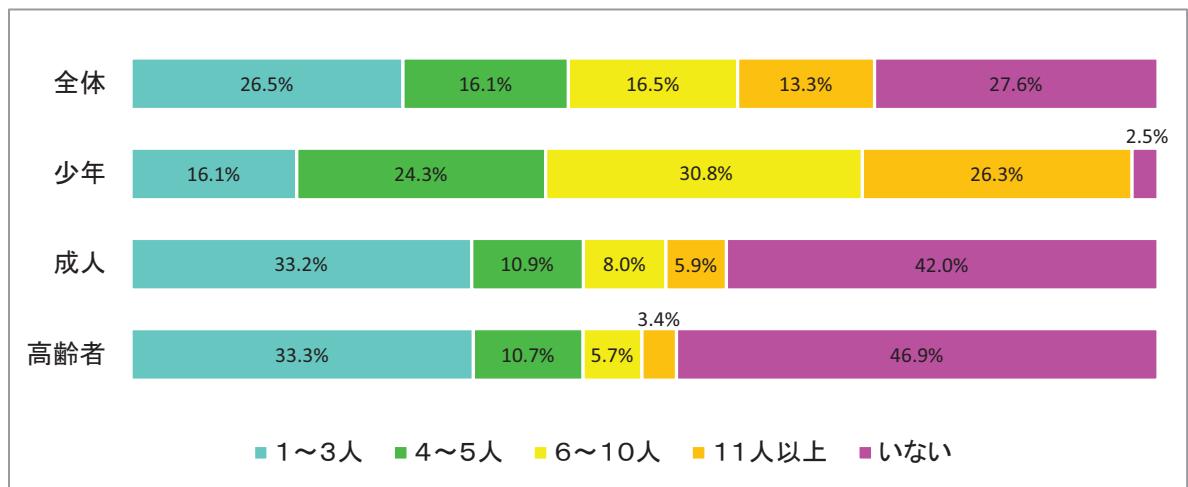
(有効回答数、少年 703 件、成人 682 件、高齢者 421 件)



(3) 交友関係

少年は、交友関係が「ある」割合が高く、成人、高齢者は、交友関係が「いない」割合が高い。

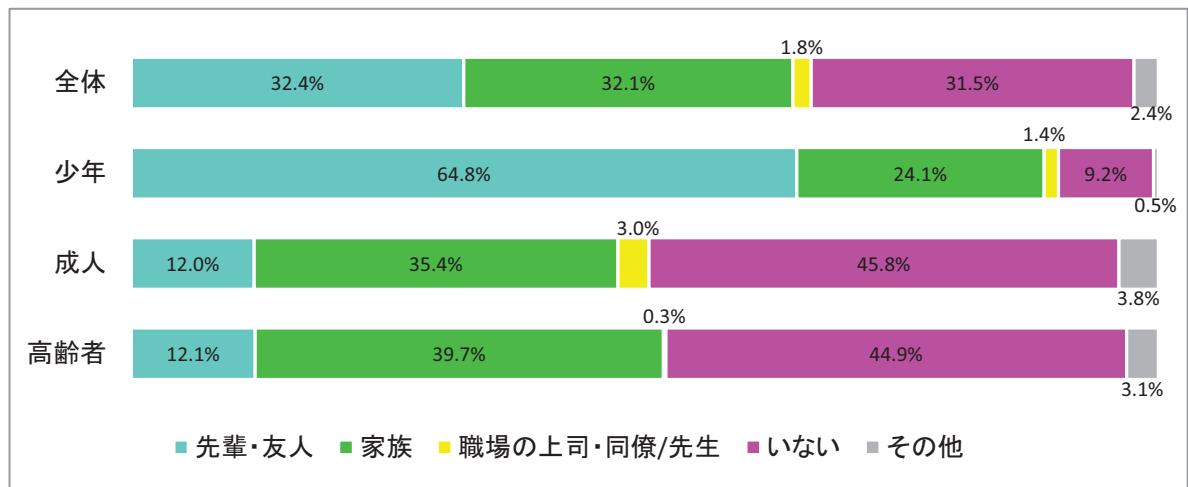
(有効回答数、少年 639 件、成人 597 件、高齢者 384 件)



(4) 相談できる人

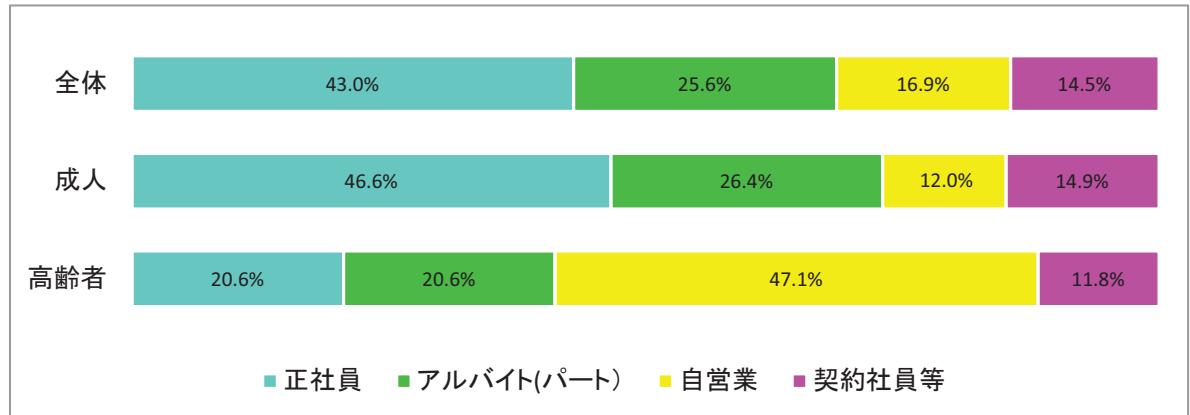
少年は、「先輩・友人」の割合が高く、成人、高齢者は「いない」割合が高い。

(有効回答数、少年 639 件、成人 627 件、高齢者 390 件)



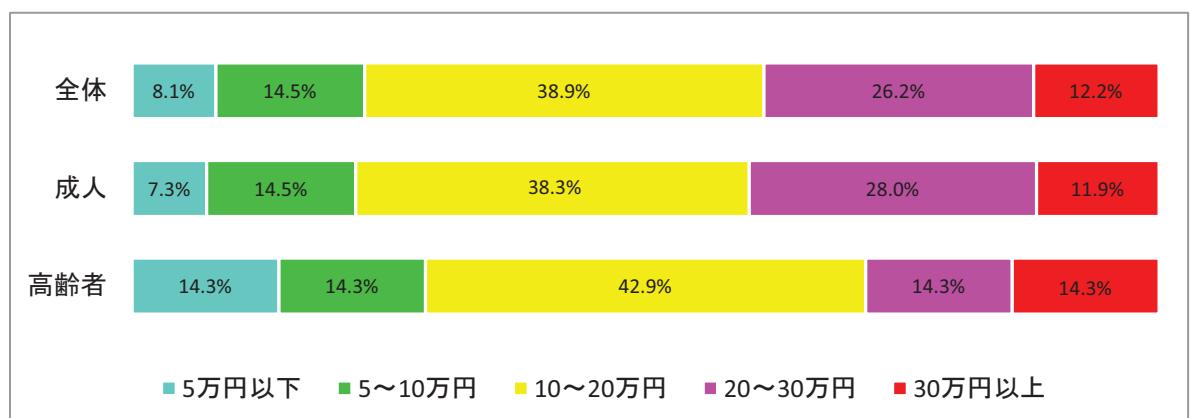
(5) 雇用形態

成人は「正社員」の割合が高く、高齢者は「自営業」の割合が高い。
 (有効回答数、成人 208 件、高齢者 34 件)



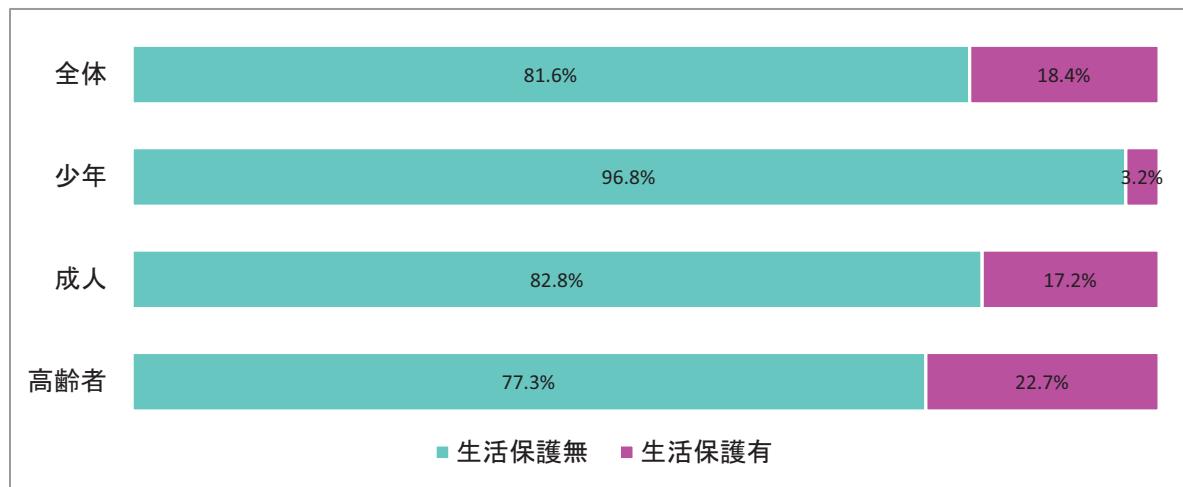
(6) 収入

各世代ともに収入が「10万円～20万円」の割合が高い。
 (有効回答数、成人 193 件、高齢者 28 件)



(7) 生活保護受給者

(有効回答数、少年 62 件、成人 650 件、高齢者 405 件)

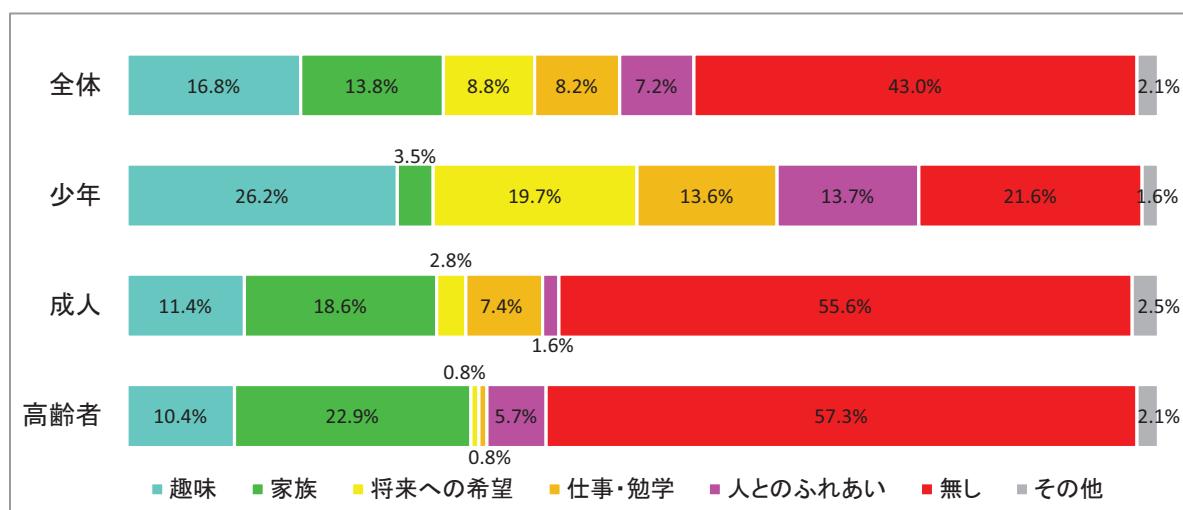


(8) 生き甲斐

成人、高齢者は生き甲斐が「無し」の割合が高い。

少年は、「趣味」の割合が高く、成人、高齢者は「家族」の割合が比較的高い。

(有効回答数、少年 633 件、成人 633 件、高齢者 384 件)

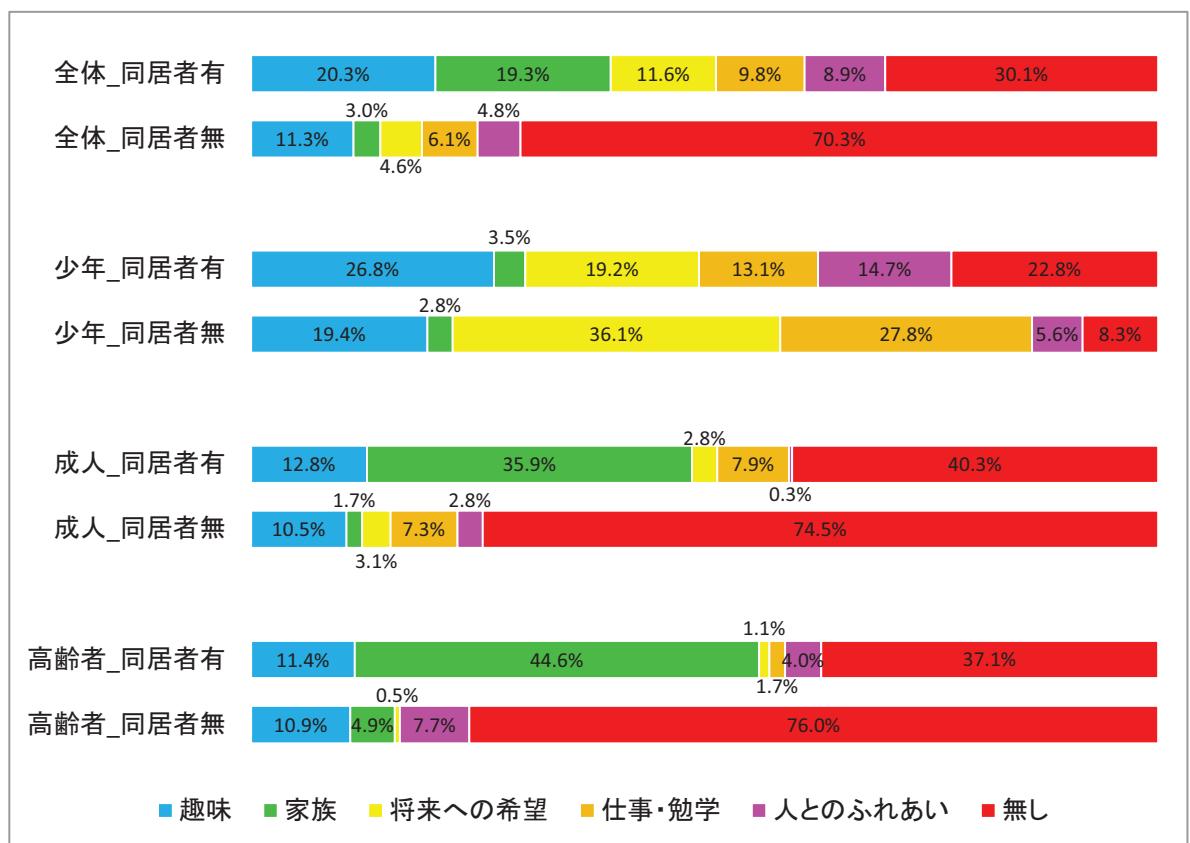


□ 同居者の有無と生き甲斐

「同居者有」の高齢者は「家族」の割合が最も高い。

「同居者無」の少年は「将来への希望」の割合が最も高い。

「同居者無」の成人・高齢者は「無し」の割合が最も高い。

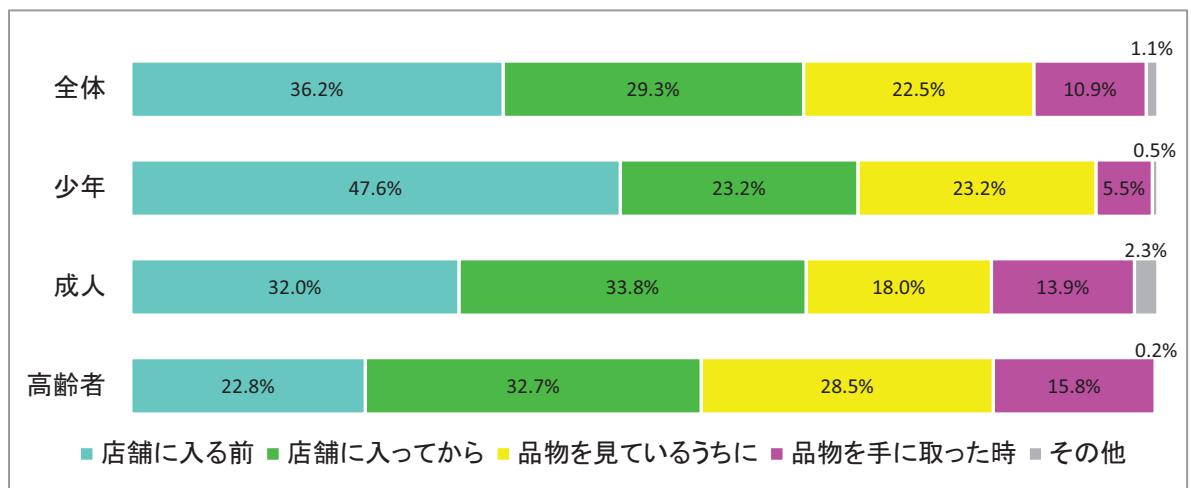


2 犯行態様

(1) 犯行を決意した時

少年は、「**店舗に入る前**」の割合が高く、成人、高齢者は「**店舗に入ってから**」の割合が高い。

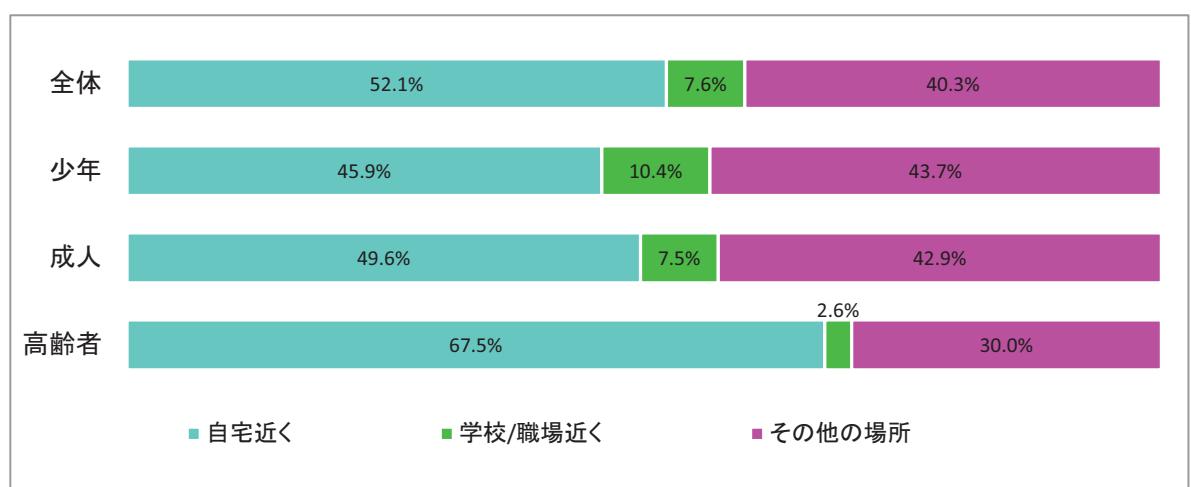
(有効回答数、少年 764 件、成人 704 件、高齢者 425 件)



(2) 犯行地域選定理由

各世代とも「**自宅近く**」の割合が高く、高齢者にはその傾向が顕著である。

(有効回答数、少年 756 件、成人 707 件、高齢者 424 件)

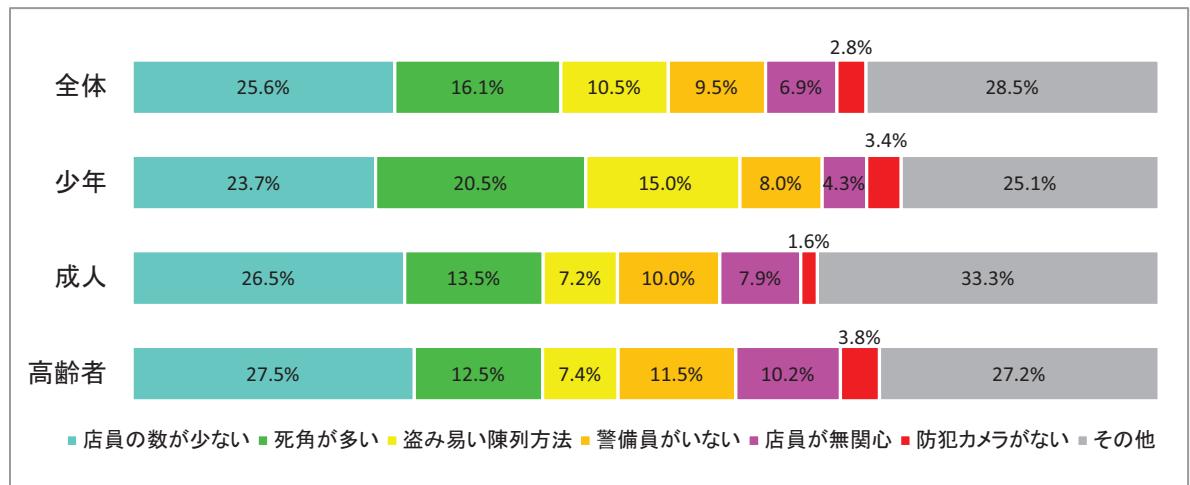


(3) 犯行場所(店舗)選定理由

各世代とも「店員の数が少ない」を選定理由にしている割合が高い。

少年は、ハード面の施策(死角、陳列方法)、成人、高齢者はソフト面の施策(店員の数や対応、警備員)を選定理由にしている割合が高い。

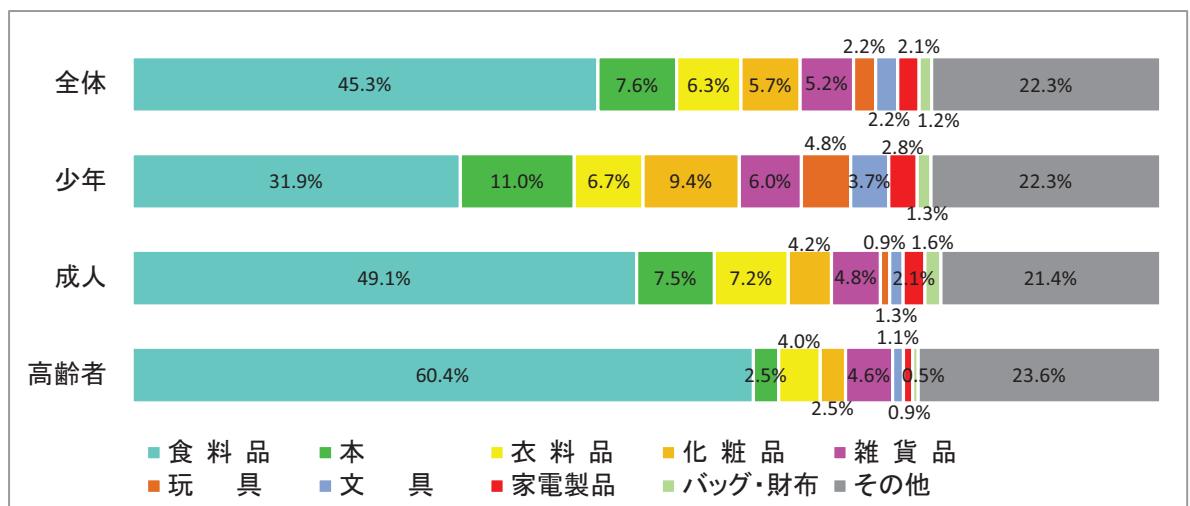
(有効回答数、少年 713 件、成人 707 件、高齢者 424 件)



(4) 被害品

各世代とも「食料品」の割合が高く、中でも高齢者はその傾向が顕著である。

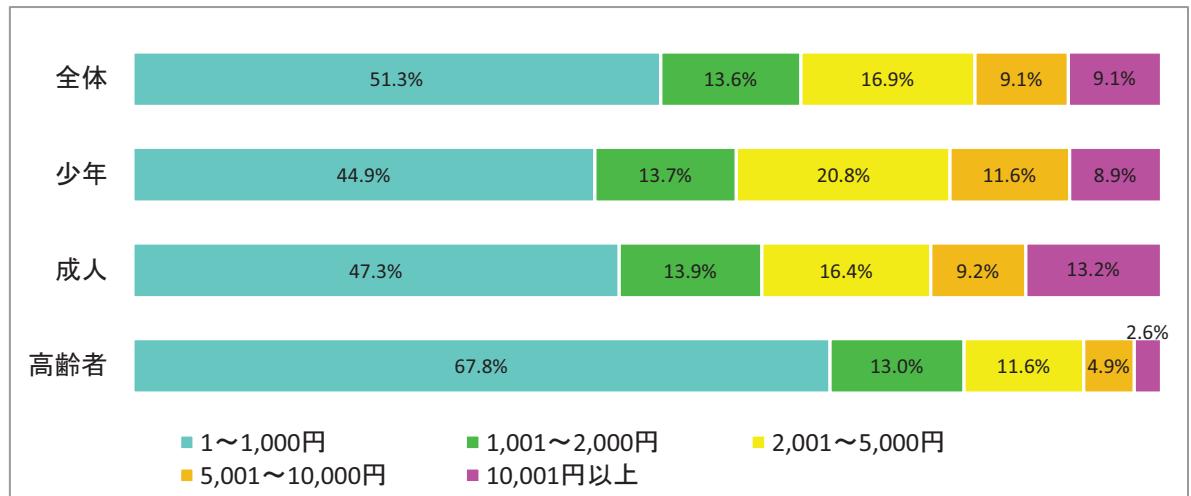
(有効回答数、少年 779 件、成人 765 件、高齢者 458 件)



(5) 被害額

各世代とも「1,000 円以下」の割合が高く、高齢者はその傾向が顕著である。

(有効回答数、少年 895 件、成人 901 件、高齢者 568 件)

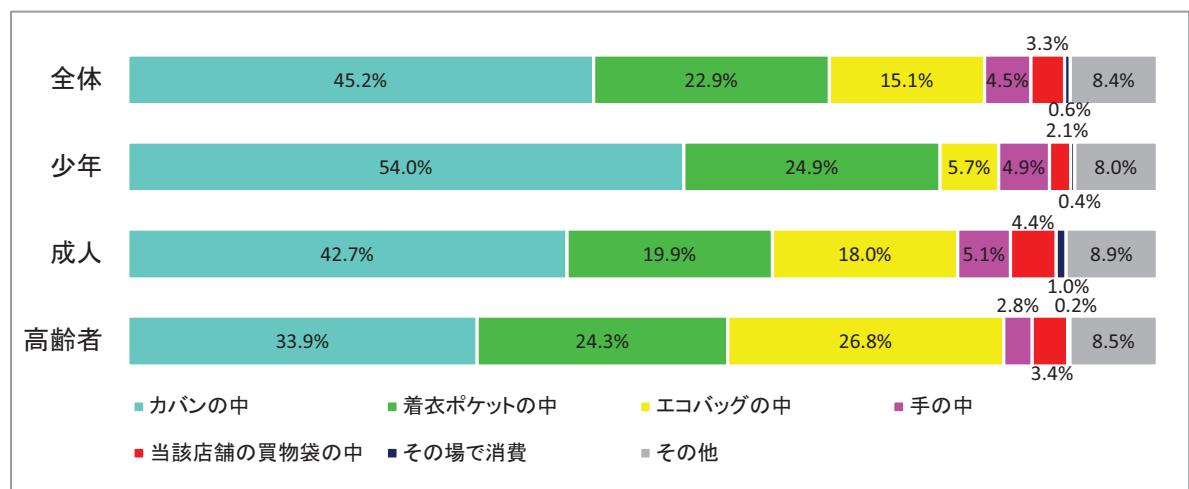


(6) 被害品の隠匿場所

各世代とも「カバンの中」の割合が高い。

高齢者は、「カバンの中」へ次いで「エコバッグ」の割合が高い。

(有効回答数、少年 772 件、成人 722 件、高齢者 436 件)

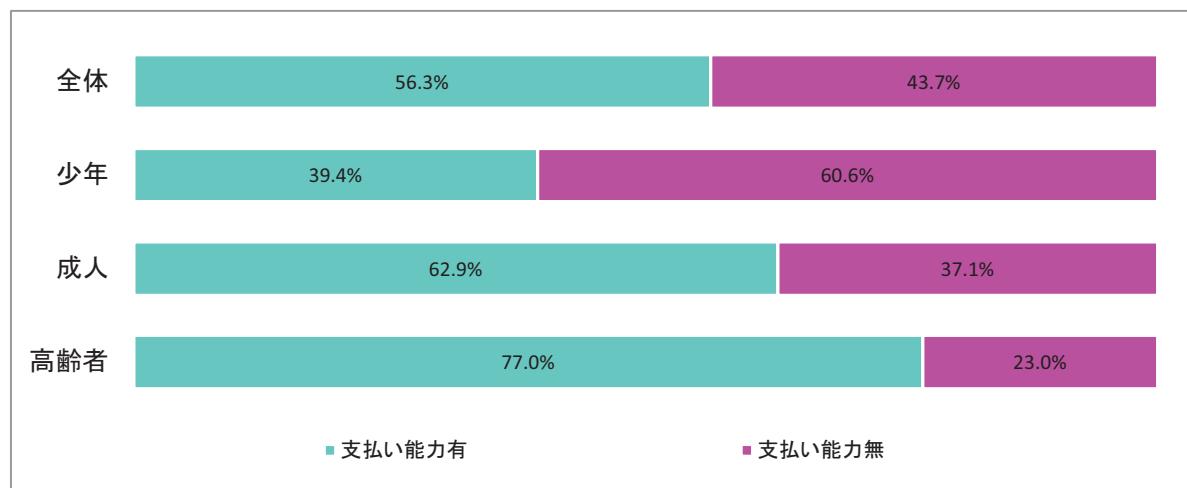


(7) 支払い能力の有無（検挙時の所持金と被害額を基準とした。）

少年は、「支払い能力無」の割合が高い。

成人、高齢者は、「支払い能力有」の割合が高い。

(有効回答数、少年 728 件、成人 636 件、高齢者 392 件)

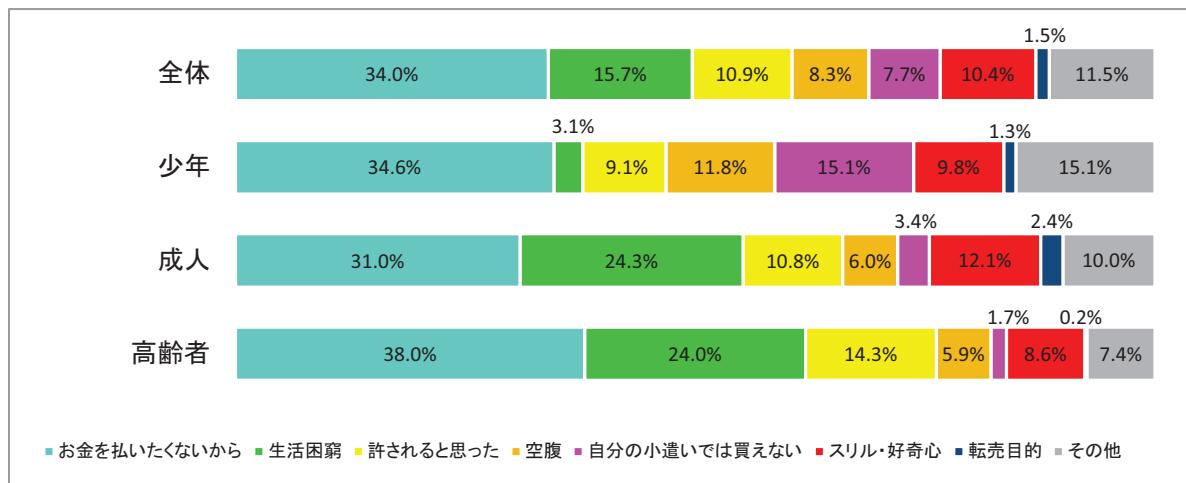


3 被疑者の意識

(1) 犯行動機・原因

各世代とも「お金を払いたくないから」の割合が高い。

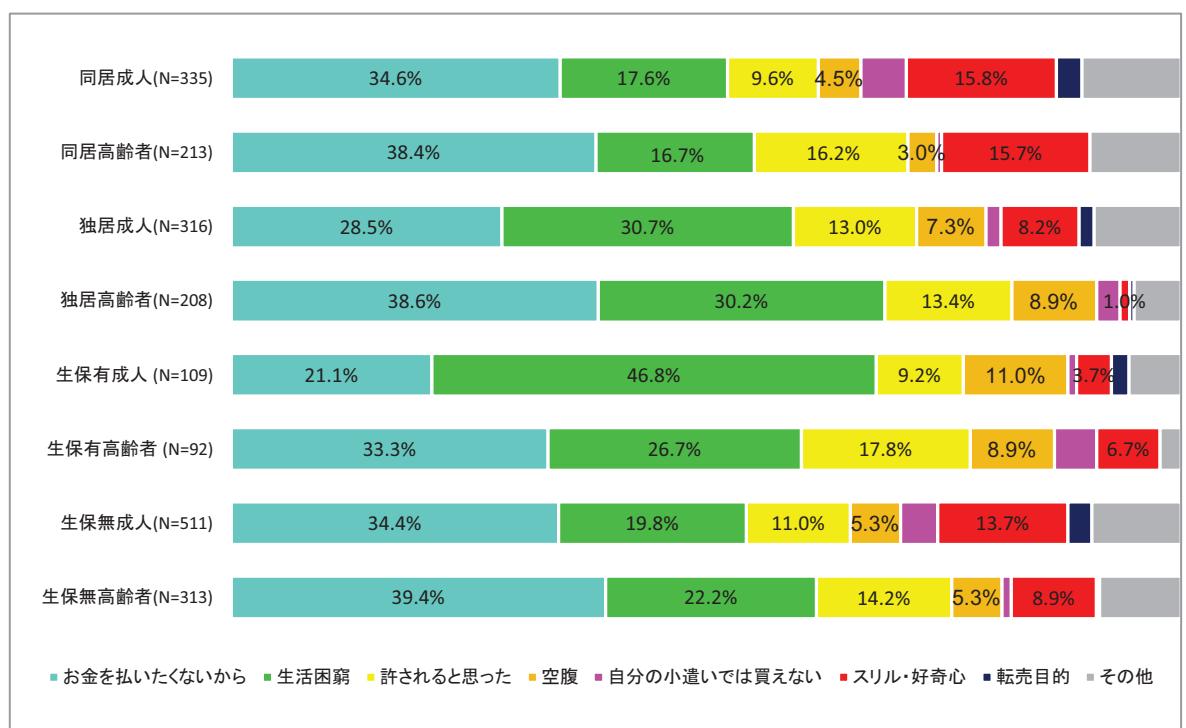
(有効回答数、少年 762 件、成人 701 件、高齢者 421 件)



□ 生活環境属性別の犯行動機・原因

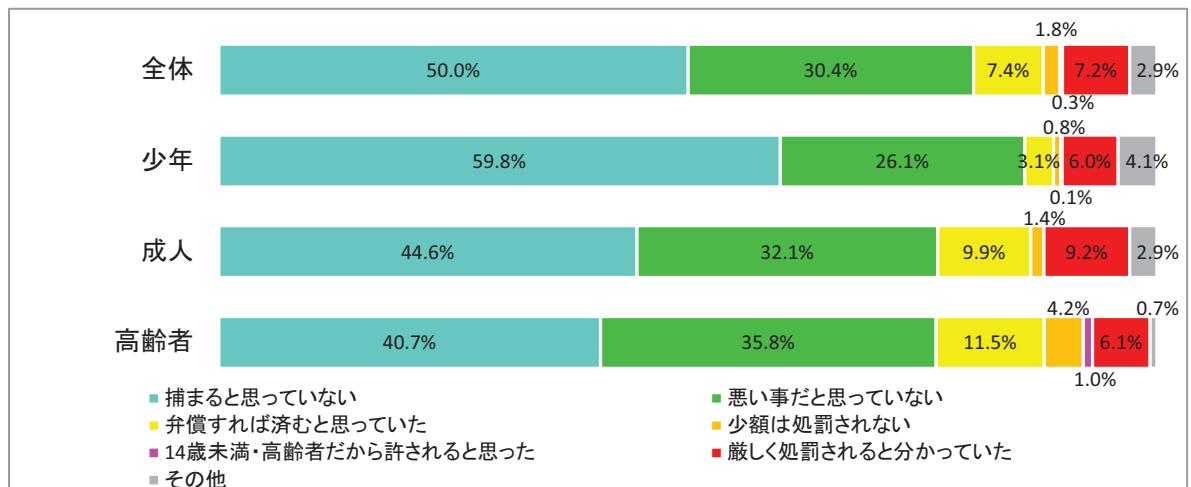
同居・別居別の環境差において、「同居環境」にある成人・高齢者ともに「スリル・好奇心」の比率が高く、「独居環境」にある成人・高齢者ともに「生活困窮」の比率が高い。

生活保護の有無による差では、「有」成人は「生活困窮」の比率が高く、「無」成人は、「スリル・好奇心」が高い。高齢者においては、差異はみられない。



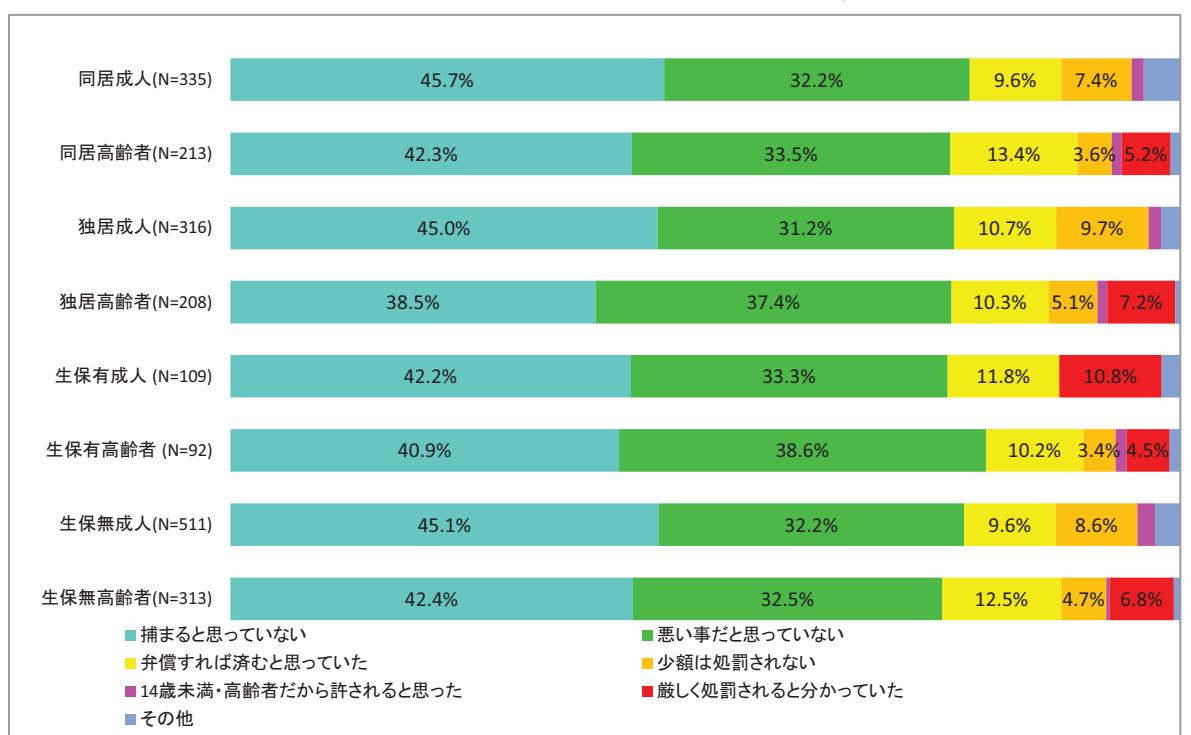
(2) 罪の意識

少年は、他の世代に比べて「捕まると思っていない」割合が高く、成人、高齢者は少年に比べて「悪い事だと思っていない」割合が高い。
 (有効回答数、少年 752 件、成人 655 件、高齢者 408 件)



□ 生活環境属性別の罪の意識

生活環境属性別において、大きな差異はみられない。

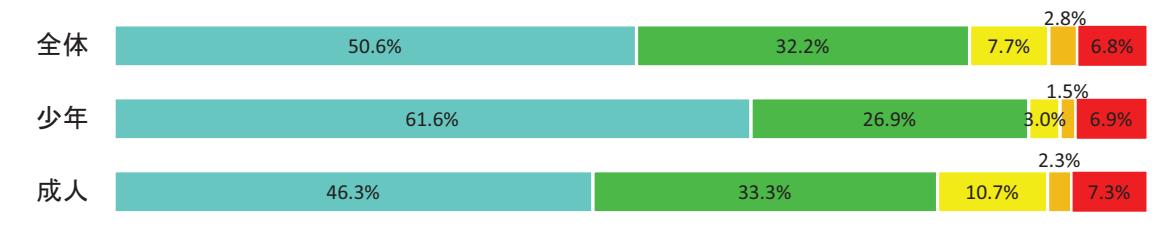


□ 被害額別の罪の意識

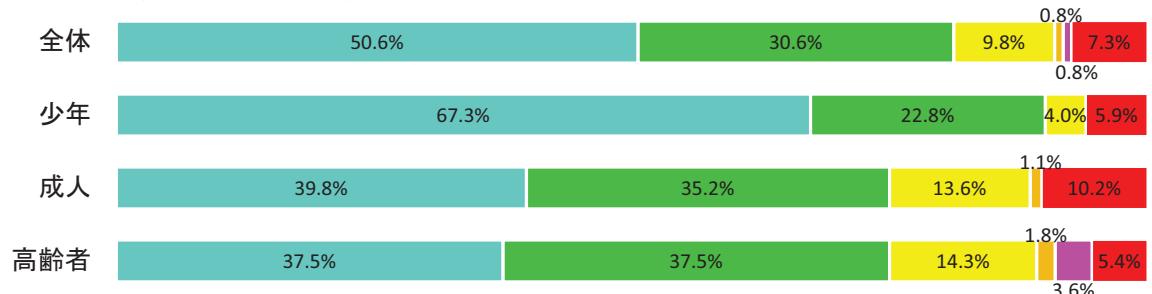
各世代とも被害額「1,000 円以下」で「厳しく処罰されると分かっていた」者は少ない。

高齢者は被害額「5,001 円以上」になると、「14歳未満・高齢者だから許されると思った」と答えた者はいない。

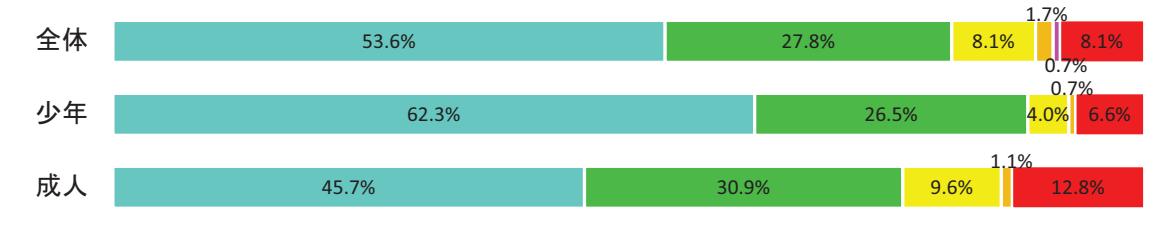
- 「1,000 円以下」



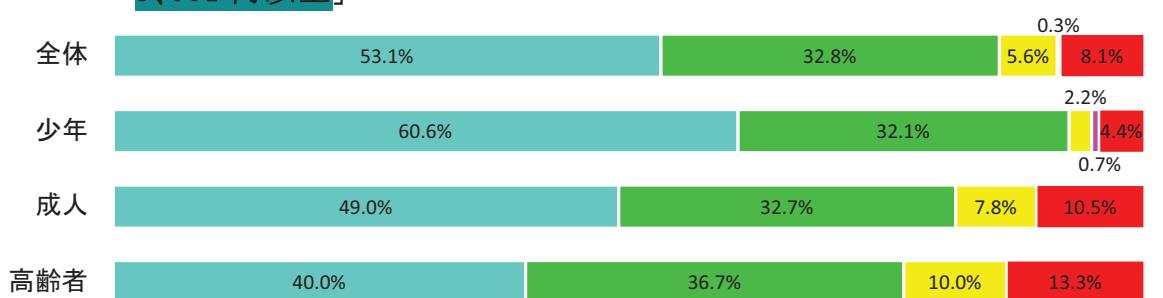
- 「1,000 円以上 2,000 円以下」



- 「2,001 円以上 5,000 円以下」



- 「5,001 円以上」



■ 捕まると思っていない

■ 弁償すれば済むと思っていた

■ 14歳未満・高齢者だから許されると思った

■ 悪い事だと思っていない

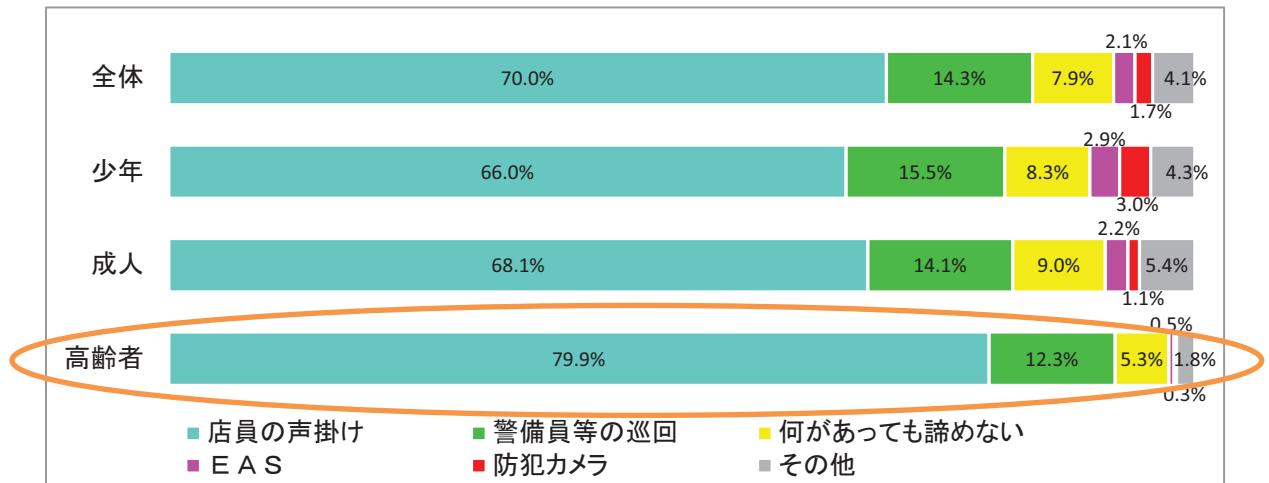
■ 少額は処罰されない

■ 厳しく処罰されると分かっていた

(3) 万引きを諦める原因

各世代とも「店員の声掛け」の割合が高く、特に高齢者にその傾向が顕著である。

(有効回答数、少年 724 件、成人 631 件、高齢者 399 件)

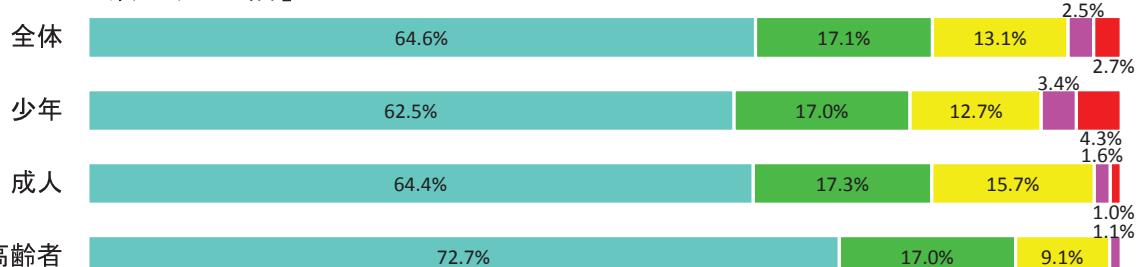


□ 犯行決意の時期と犯行を諦める原因の関係

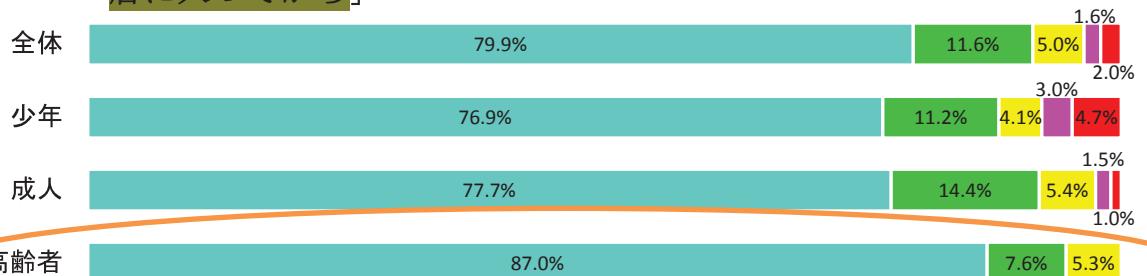
全ての決意時において「店員の声掛け」で諦める割合が高い。

高齢者で「店に入ってから」、「品物を手に取ったとき」に犯行を決意した者は、「E A S」、「防犯カメラ」で犯行を諦めた者はいない。

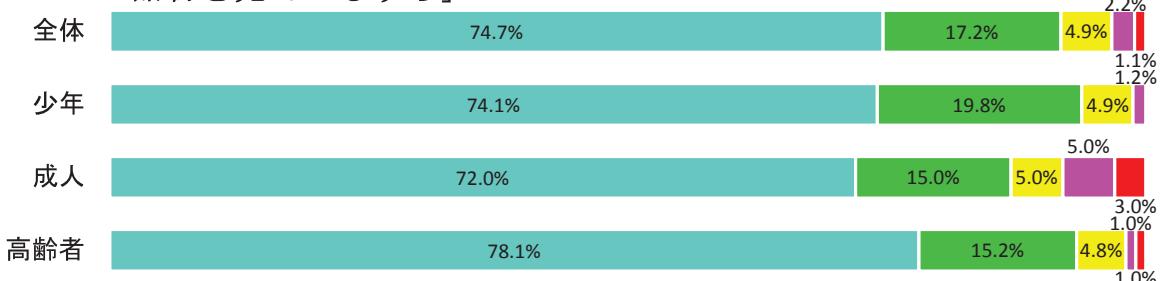
・ 「店に入る前」



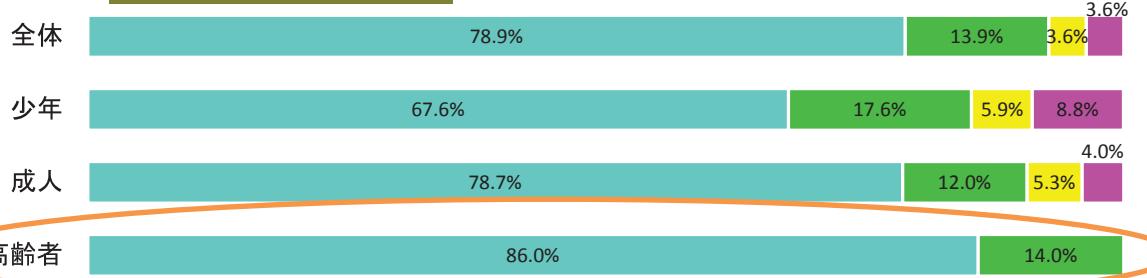
・ 「店に入ってから」



・ 「品物を見ているうち」



・ 「品物を手に取ったとき」



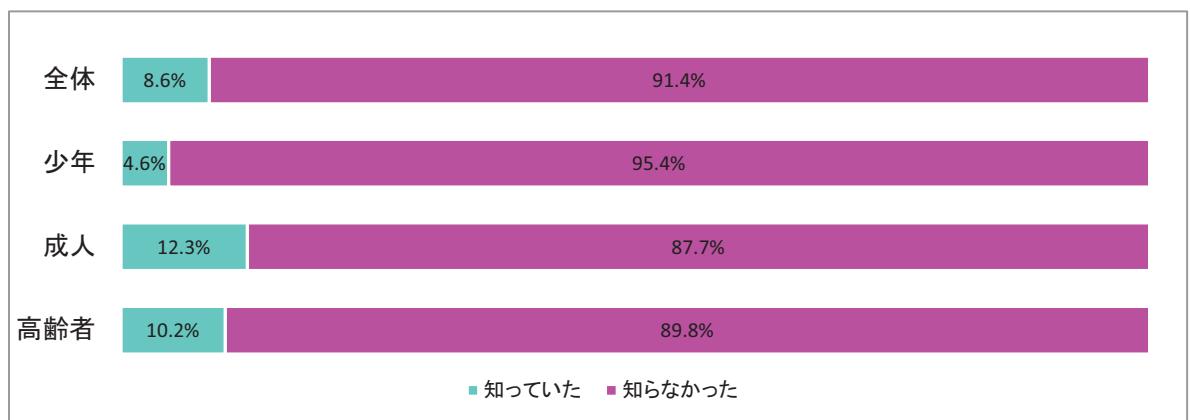
■ 店員の声掛け ■ 警備員等の巡回 ■ 何があっても諦めない ■ E A S ■ 防犯カメラ

4 被疑者の万引きに対する知識

(1) 万引き全件届出の知識の有無

各世代とも「全件届出」の知識に乏しく、特に少年にその傾向が顕著である。

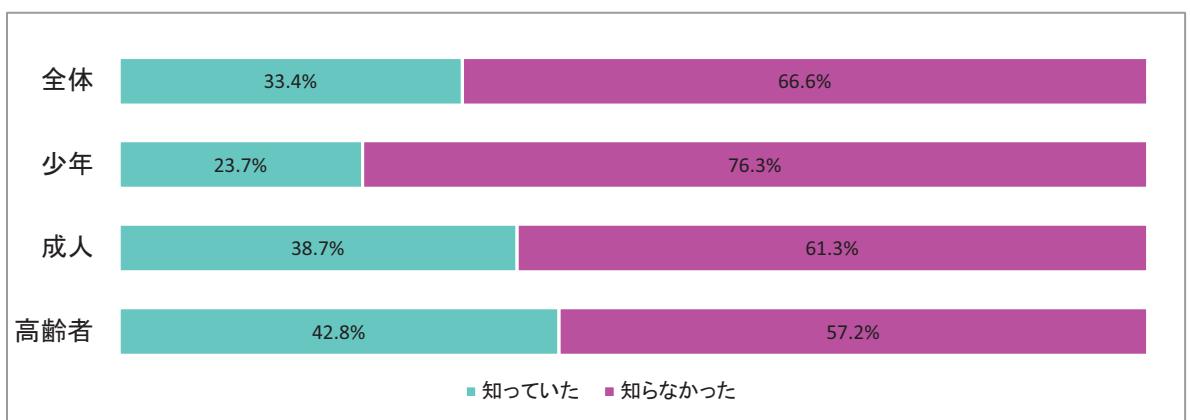
(有効回答数、少年 732 件、成人 619 件、高齢者 394 件)



(2) 万引きの刑罰の知識の有無

各世代とも万引きの「刑罰」に関する知識について「知らない」割合が高く、特に少年にその傾向が顕著である。

(有効回答数、少年 735 件、成人 633 件、高齢者 402 件)



万引きに関する調査研究報告書

～高齢者の万引きに着目して～

平成 27 年 7 月

「東京万引き防止官民合同会議」事務局

〒100-8929

東京都千代田区霞が関二丁目 1 番 1 号

警視庁生活安全部 生活安全総務課 生活安全対策第三係

電話 03-3581-4321 (警視庁代表)

警視庁 HP <http://www.keishicho.metro.tokyo.jp/> 街とともに。人とともに。
FOR MORE COMMUNICATION

けいしちょう



